The Liberal Arts

2005～2006年度基盤研究報告書

慶應義塾大学の教育カリキュラム研究
――改革への処方箋――

慶應義塾大学教養研究センター
Keio Research Center for the Liberal Arts

ごあいさつ

教養研究センター所長　横山千晶

基盤研究は教養研究センターの主幹となる研究プロジェクトです。そのひとつ、基盤研究「慶應義塾大学の教育カリキュラム研究」の目的は、慶應義塾大学での教育の実態を知り、現行の、あるいは想定されるほかのシステムと比較・対照しながらよりよい知の伝達法を提言し、研究の発信と教育法のモデルを考えていくきっかけとすることです。

2003 年度から 2004 年度にかけての研究では、日吉設置学部共通総合教育科目の現状を調べ、問題点を見据えました。慶應義塾大学は学部縦割りの構造の中で、各学部が理想的なカリキュラム作りを目指しています。教養研究センターの基盤研究は、この新たな動きを学部を超えて共有し、今までのカリキュラムのあり方を見直す場として機能しています。

大学は常に社会の動きに対応した教育を視座に入れなくてはなりません。同時に新しいものを作り上げていくということは、今までのシステムを整理し、見直すことでもあります。もちろん、さらに未来を見通した上で、適切なものを残していくことも大切です。2005 ～ 2006 年度の「カリキュラム研究」では、徹底的にその見直しに時間をかけました。具体的には前回の研究から明らかになった問題の背景を探り、解決の可能性を考察することを課題にすえたのです。

各学部で取り組みはじめているセメスター制度の導入や副専攻制などの背景を探り、これらのシステムのモデルであるアメリカの例をケース・スタディとして提示するだけでなく、今回はより一歩踏み込んだ議論展開のよすがとして、当事者である教員と学生を対象としたアンケート調査を行いました。具体的には成績評価の方法とカリキュラム編成について教師に対するアンケート調査を行い、学部のカリキュラムに対する学生の生の声をアンケート調査の中で拾っていったのです。教員と学生は、ともに真摯かつ真剣な意見を提供してくれました。教員も学生も慶應義塾の知を構成するメンバーとして大学のあり方を真っ向から考えています。同時に学部を超えた、いや、学部の中ですら共有が難しい問題もあるという現状がこれらのアンケート調査を通して見えてきます。

基盤研究「カリキュラム研究」がそれらの生の声を引き出す場であったとすれば、今度はこれらの声に応える動きが義塾全体で展開されなくてはなりません。この報告書がそのための小さな、しかし重要な一歩となることを願ってやみません。

はじめに

教養研究センター 2005 ～ 2006 年基盤研究
「慶應義塾大学の教育カリキュラム研究」
座長　伊藤 行雄

1991 年の大学設置基準の大綱化以来，教養学部の解体，再編成が全国の大学で行われてきたことは周知の通りだが，慶應義塾大学でも「大学教育問題検討委員会」が設置され，大綱化を視野に入れた議論が重ねられてきた。慶應義塾では幸か不幸か，新制大学への変革以降，教養学部を持たずに，教員はすべて学部所属となっていたため，当時の国立大学で行われた教養学部または一般教育課程の教員の再編などは行われなかった。その意味では新しい大学への衣替えは比較的実現しやすい立場にあったにもかかわらず，教養と専門の区別をなくし，各学部間共通科目の抜本的な見直しなどの多くの課題は解決されないまま現在に至っている。

もちろん各学部とも新しい時代を視野に入れた改革を繰り返し行って来たことは事実である。しかし，こうした改革は各学部間の協力体制が確立しないかぎり学生たち（特に日吉の）にとって必ずしも有効に機能しているとは言えない。

日吉における総合教育科目には，共通科目が多く存在するにもかかわらず，各学部によって，分類などの扱い方の相違点があり，さらにカリキュラム編成の際，「各学部決定待ち」といった状況がいまだに続いている。こうした状況は，カリキュラム編成への責任の母体の不明確さからきていることは否定できない。日吉主任会議や拡大学習指導連絡会議などカリキュラム編成上の話し合いが行われてきてはいるが，カリキュラムの内容の検討までは行われていないのが現状である。

学部自治は学部独自の教育・研究理念を発揮できるという特色を生かすことはできるが，総合教育科目のような共通科目は，学部の枠を超えてカリキュラムの内容を検討する必要があり，そうした新たな組織の設置が急務である。

本研究ではこうした状況を視野に入れながら，2004 年度基盤研究「日吉設置学部共通総合教育科目の現状と問題点―将来への提言を含めて―」の成果をさらに具体化できるよう，セメスター制度の検討，総合教育科目や語学の評価をめぐる調査，副専攻制を視野に入れた共通科目の変革の可能性などを，さまざまな角度から 2 年間にわたって研究会，シンポジウムなどを通して議論を重ねてきた。

特に今回は，学生サイドからみた諸問題を視野に入れて検討するという，今までに行われたことがない手法を採用した。ここでは学事的な問題，評価問題を，全キャンパス，全学年の学生を対象としたアンケート調査を行うことによって，学生側からみたカリキュラム，授業内容，副専攻制　セメスター制などについての意見を問うという試みが行われている。この調査の結果は，本研究で詳しく紹介されており，アンケートの分析結果は，本研究にとって重要な資料のひとつとなっている。

法学部では副専攻制が設置され，経済学部では PCP や研究プロジェクトが立ち上げられている。また商学部でも強化プログラムが昨年より発足して，日吉時代の勉強の成果を積み上げるカリキュラムなどが各学部で編成され始めている。自然科学系の分野でも三田に実験を伴う科目を設置できるよう提言がまとめられている。こうした動きをさらに発展さ

せ，加速化させるためにも，先に述べたように，「日吉共通科目等カリキュラム（人事）委員会」（仮称）の設置を急がなければならない。

なお，本報告書作成にあたっては，いくつかの大規模な調査を実施した。学部カリキュラムの比較分析は萩原眞一，坂本光（第 3 章 1），成績評価方法に関する実態調査は村山光義（第 3 章 2），米国のリベラル・アーツ・カレッジのカリキュラム調査報告は石井明（第 3 章 3），慶應義塾大学における学部カリキュラムに関するアンケートは佐藤望（第 3 章 4）が中心となり，それぞれ研究会メンバーからなるチームを編成して実施していった。第 1 章の提言と第 2 章のその背景については，それぞれ関連調査担当者が原案を作成した後，幹事会全員で構成や内容取捨選択の議論をし，研究会メンバー全員に提示してさらに精査する，という作業を繰り返して作成したものである。

上記に述べたアンケート調査やその他のさまざまな調査実施にあたっては，多くの方々の協力をいただいた。西村太良常任理事を始め，全学部学部長，全学事センターと藤沢事務室，教養研究センター・スタッフの皆様，それに 59 項目に及ぶアンケート調査表に細かく答えてくださった塾生諸氏，慶應義塾大学出版会の小磯勝人氏，安井元規氏，文学研究科博士課程大学院生の佐々木尚氏，（株）マーケティングスペース花傳舎の服部洋子氏，その他一人ひとり名を上げることはできないが各学部・研究所の教員諸氏が，多大な時間と労力を惜しまず情報提供や作業などの点でわれわれを側面から支えてくださった。これらの方々の協力がなければ，本研究は決して日の目を見ることはなかったことを思い，ここに記して，深く感謝いたしたいと思う。

目　次

ごあいさつ　1

はじめに　2

第Ⅰ部　研究報告編…… 7

序　……9

第1章　提言　…… 16
1. 成績評価方法の厳格化に向けて
2．セメスター制度，シラバス，履修登録制度
3．日吉設置学部共通科目（総合教育科目）の新しいあり方
4．外国語科目における習熟度別クラス編成の導入と整備
5．副専攻制度の全学的導入
6．カリキュラムの国際化対応
7．人事とカリキュラムの編成組織

第2章　提言の背景　…… 28
1. カリキュラム目標に対応した成績評価方法のあり方
2．セメスター制度，履修登録，シラバス問題
3．日吉設置学部共通科目（総合教育科目）の問題点
4．外国語科目における目的別・習熟度別クラス編成と客観的成績評価方法の導入
5．副専攻制度
6．カリキュラムの国際化対応
7．共通カリキュラム調整組織と人事

第3章　調査およびデータ分析の報告　…… 52
1. 学部カリキュラムの比較分析
2．成績評価方法に関する実態調査
3．米国のリベラル・アーツ・カレッジのカリキュラム調査報告
4．「慶應義塾大学における学部カリキュラムに関するアンケート」の分析と考察

第Ⅱ部　資料編…… 75

資料１．学部カリキュラムの比較分析
資料２．成績評価に関する実態調査
資料３．米国のリベラル・アーツ・カレッジの理念調査報告および調査資料カリキュラム比較分析
資料４．「慶應義塾大学における学部カリキュラムに関するアンケート」調査結果報告

活動記録　198

研究会メンバー　201

第Ⅰ部

研究報告編

序

「少子化が進み大学全入学時代が到来していて，慶応はそのようなこととは関係ないブランド性を持っている。が，1生徒として思うのは，大学入学後はあまり勉強せず他大学生と変らない生活をしていても単位を取って普通に卒業できる，いわば典型的な日本の大学の体制に疑問を感じている。ブランドやネームバリューを維持するためにも，他大学と違う生徒を世に送り出すためにも，もう少し厳しい規制を検討してはどうか。私自身毎日授業に出席しているものの，授業に出てない人と同じ成績Aがきたり，真面目にやっている自分が馬鹿なのかと思わずにいられない。テストだけのその場しのぎの要領の良さを大学側が求めているなら仕方ないが・・・」

（学生アンケート調査回答より）[1)]

本研究の目的

教養研究センター基盤研究「慶應義塾大学の教育カリキュラム研究」では，2005年度から2年間に渡って，現状のカリキュラムに関する問題整理と課題分析を行ってきた。本報告書は，その研究に基づく，今後の各学部におけるカリキュラム，カリキュラム制度，成績評価制度，カリキュラムを構成する人的組織に関する提言である。

本研究は，慶應義塾の現状を真摯に見据え，学生の声にしっかりと耳を傾け，学生と社会の将来に責任をもった大学教育づくりをするには，どうすればよいかという基本的な問いに挑んでいる。

上記に引用した学生の声にも現れるように，また今回行ったアンケート調査に寄せた他の多くの学生の声にも現れるように，大学生活を一種の通過儀礼とし，とにかく楽に単位を取得して自由に過ごしたいとする第二次世界大戦後を支配した学生の気質は，やがて過去のものとなりつつあるように思える。

また，社会の大学に対する目も厳しくなってきているし，国の政策の変化も著しい。競争原理導入というここ10年来進められてきた政策によって，現在の大学教育は，厳格な評価制度，FD（ファカルティ・デヴェロープメント）の導入，セメスター制などの制度を否応なしに受け容れざるを得ない方向に向かっているように見える。

しかし，単に制度を導入すれば，教育が良くなるというものでは決してない。本研究は，今後移行するだろう制度の方向性を視野に入れつつ，そうしたカリキュラム制度の改革を表面的なものに終わらせたり，現在行われている良いものをも壊してしまわないようにするためには，どうするかということを常に問いながら進められていった。

大学のカリキュラムは，教員だけの思いによって構築されるべきものではない。本研究は，学生の声やカリキュラムの現状の分析をふまえて現実を見据えながら，具体的で実現可能なカリキュラムとそれに関する基本的な考えを提示し，それを実行するための組織体制について提言を行うことを目的としている。

1)「慶應義塾大学における学部カリキュラムに関するアンケート」調査（2006年6～7月実施），問59（自由記述）商学部3年生の回答より。引用は原文のまま。この調査に関する詳細は，第3章4（71～74頁）および第Ⅱ部4（118～197頁）を参照。

慶應義塾大学では，多くの教員によってそれぞれの場所においてさまざまな新しい成功事例が生み出されている。三田での研究会，司法，会計等の専門職を視野に入れた専門授業群，経済学部の研究プロジェクトやPCP（Professional Career Programme），商学部の強化プログラム，総合教育セミナー，アカデミック・スキルズ，自然科学教育，身体知関連授業など，他大学に勝るとも決して劣らない先進的教育事例がすでに現在も数多く展開されている。近年大学の教育力を向上させるための努力は加速度的に強化されており，教養研究センター設立当初に理念の基盤を作り上げた『教養教育グランド・デザイン』[2)]で掲げられている高い理想・理念は，一部であっても現実のものとなっている。

こうした良き事例を一部のものとしてとどめず，大学のもつ人的・知的リソースを最大限に生かし，総合大学の特徴と強みを十分に生かしながら学部間での総合協力体制を確立したうえで組織的にこれらの先進的教育事例を敷衍させていくことが，未来の慶應義塾大学にどうしても必要であると考えられる。

本研究が目指すのは，高邁とも思える理想でも現実問題の対症的対策でもない，少し勇気をもって踏み出せば実現可能なカリキュラムを提示することである。

背景

大綱化以後

1991年（平成3年）文部省（現，文部科学省）の省令「大学設置基準」が改正され，専門科目・一般教育科目・外国語科目等の単位数の基準が大幅に規制緩和された（いわゆる「大学設置基準の大綱化」）。これをきっかけに，我が国の大学はそれぞれの教育目標に応じて，自由に取得単位の規定とカリキュラムの編成ができるようになった。

大綱化から，15年たった今ふり返れば，あらゆる意味で我が国の大学教育の大きな転機であったということができるであろう。ひとつには，国立大学を中心に旧教養部を解体する動きが加速した。旧教養部は，他の専門学部に分属させる方式（大阪大学），新学部を設置する方式（京都大学），教員組織を全学的に改組する方式（九州大学）など，さまざまなやり方で組織的改変が行われ，それがカリキュラム全体にも影響を及ぼしている。私立大学においても，新しい理念に基づく学部を新設したり，学部や学科の設置とともに全学的な組織改定を行う動きなど，極めて多様な動きがこの間に勢いを増して起こっている。

大綱化以降，多くの大学が，その教育カリキュラムの中心を専門教育に移していった。一般教養教育や外国語教育の単位数は減らされ，全学的な一般教育を担う組織も解体され，主に1～2年次における一般教育や教養教育の責任母体がなくなるケースも相次いだ。しかし，その一方で90年代後半以降，大学生の著しい学力低下が叫ばれるようになった。それを具体的に裏付けるデータは実際のところ存在しないが，多くの教員が実感としてこのことを訴えていた。また1998年以降は，就職協定の廃止[3)]に伴い，就職活動の開始が実質的に大学第3学年後半にまで繰り上がった。学生はその間，就職活動を理由に授業を休みがちになり，さらに4年次の前半までに就職を決めた学生たちの多くはほとんど学校に来なくなる，という実態も生じるようになっている。つまり，一般教育が崩壊すると同時に，専門教育の空洞化も進んでいったということが言える。

少子化・国際化・情報化

大綱化による法的枠組みの変更とは別に，日本社会あるいは国際社会が抱える問題の進行により対応を余儀なくされている面も大きい。大きな要因としては，1）少子化の進行による18歳人口の急激な減少，2）国際化・グローバル化による社会の変化，3）情報化が挙げられる。

少子化は，否応なしに大学を斜陽産業に向かわせる要因となっており，以前であれば大学は学生を選抜する立場にあったが，学生に選抜される側へと立

場が逆転した。学生の選抜の目は次第に，教育の質に向き始めている。

国際化・グローバル化は，例えば入学試験の偏差値といった旧来のローカル・ルールだけで大学が競争をする時代の終焉を意味する。さまざまな変革のなかで，より優秀な学生の選択肢は大きく広がりつつある。優れた教育体制を求めて外国の大学を選ぶということも，必ずしも稀なことではなくなってきている。大学はその教育と研究の質において海外からの留学生にも選んでもらえるようにならなければならない。

情報化社会は，知の伝承という営為を大学が特権的に占有するものでなくなったことを意味する。すなわち，大学教育の目的の重点が，既存の知を伝授するということから，氾濫する情報を判断する能力をいかに培うかということに次第にシフトしつつある。それのみならず，大学の教育内容，さらにはそのさまざまなレベルにおける評価内容――認証機関の公式の評価から学生の無責任な掲示板への落書きに至るまで――が，即座にかつ簡便に世界中に配信されるようになった。それに対応して見せかけに終わらない内実を整える必要がますます高まるとともに，責任ある教育を行っている姿を外に向かって積極的に公表しなければならなくなっている。

時代の変化

以上に述べた変化により，現在対応を迫られている問題は以下の3つに集約することができるだろう。

① 事前規制から事後評価への転換
② 学生を選ぶ大学から学生に選ばれる大学への変化の対応
③ グローバルな基準での評価に耐えうる大学づくり

第1の事後評価への対応はすでに進行し，大学に大きな影響を及ぼしつつある。旧文部省の護送船団的政策運営の時代は終わりを告げ，大学は淘汰の時代へと突入した。これに伴い，2002年（平成14年）の学校教育法改正により，2004年（平成16年）より，大学は文部科学大臣の認可する評価機関によって評価を受けることが義務づけられた。これによりカリキュラムづくりにおいても，法律で定められた基準を満たして事足れりとするのではなく，大学のミッションと各学部・学科・専攻等の教育目標を明らかにし，それに対応した教育体制を確立することが必要となった。

第2の選ぶ大学から選ばれる大学への変化の対応についてであるが，少子化の進行もあり大学の受験者数は減少の一途をたどっている。慶應義塾大学を含む一部の大学，一部の学部では，志願者数はここ数年で安定かやや増の傾向は見られるものの，この傾向が続くかどうかは予断を許さない。学生や社会のニーズに対応した大学の教育体制の確立と教育の質の一層の充実が求められている。

第3のグローバルな基準への対応に関しては，慶應義塾大学を始めとする日本の大学がまだまだ立ち後れた分野であると言えるかもしれない。米国の大学が世界のなかで強力な競争力を保つ一方で，ヨーロッパの大学は，ボローニャ・プロセスによって欧州高等教育圏を確立し，高等教育学位認証基準の統一化，単位制度導入と，学生のモビリティーの確保を打ち出し，各国とも強力な体制でこの動きを支援している。アジアの大学においても，急速な近代化のなかで米国の大学を規範とする改革が進行している。各国の大学間での単位互換やコンソーシアムなどの動きが加速するなか，日本の大学の教育水準は，こうした世界の目から見ても透明で説明可能なものになっていかなければならない。

2）教養教育研究会編『教養教育グランド・デザイン　新たな知の創造――高等教育における教養教育モデル』，文部科学省委託研究「教養教育研究会」報告書，横浜：教養教育研究会，2002年。（インターネット版：http://www.keio－up.co.jp/edu/la/）

3）「大学及び高等専門学校卒業予定者の就職・採用活動について」，2007年（平成9年）1月20日，就職協定協議会文書，文部科学省報道発表資料，2007年（平成9）1月21日，http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/09/01/970101.htm。（閲覧日：2006/09/21）

慶應義塾大学の改革への対応

大綱後――「大学教育問題検討委員会」

慶應義塾大学では，大学基準の大綱化を受けて，各学部とも早い時期よりカリキュラムの見直しの機運が高まっていた。1992 年 1 月，塾長，担当理事，全学部長および日吉主任を中心とした「大学教育問題検討委員会」が設置され，翌年 3 月まで 11 回にわたり会合を開いて，カリキュラムの抜本的な見直しについての議論が重ねられた。同委員会は，一般教育課程と専門教育課程の区分が撤廃されたことを受けて，三田，日吉の科目の担当者，科目の設置場所など各学部がその教育目標に照らし自由に判断してカリキュラム編成の論議を進めることを要請した。またその一方で，各学部が設置する授業科目のなかには，他学部と重複する科目も生じてくるので，できるだけ学部間で共通化をはかり，カリキュラムの共通化を促進する方向で検討していくという，学部間の協力の必要性も強調されていた。学部の独自性と同時にカリキュラムの共通化をどのように考えていくべきか，現在のカリキュラムの状況に直結する問題について真剣な議論が重ねられていたが，当時は各学部とも大綱化を前提にそれぞれ独自のカリキュラム編成に追われていくことになる。

一般教育科目は学部によっては従来の人文，社会，自然の 3 分割を前提とした編成の一部手直しが行われ，また学部によっては 7 系列に細分化して分類されたり，また時期こそずれていたが，別の学部では，学部独自の総合教育科目（当初は他学部には開放せず，自学部生にとって有効な総合教育科目）を設置するなど，「大学教育問題検討委員会」の議論と並行して，共通化とは逆に学部がそれぞれ独自路線を歩むことになっていく。また語学も少人数授業の導入，語種の多様化，セミナー制の導入などによってコマ数の急速な増加の問題も生じた。「大学教育検討委員会」ではこうした混乱を早くより察知して当時日吉に存在していた「一般教育委員会」に，語学も含めた一般教育科目の有り様，設置コマ数，設置時限などの調整を依頼している。こうした意味で「一般教育委員会」はカリキュラム調整機関としての役割を果すべきとして，その名称を「カリキュラム調整委員会」に変更するべきとの議論も行われたようだ。しかしこの名称の委員会は実際には発足せずに，学部の教育理念・目標の徹底および教育課程の各学部間の連絡調整を図る目的とした「大学教育委員会」が設置されることになり，「一般教育委員会」はその役割を終えることになる。

その後 1993 年 12 月には「大学教育委員会」のひとつの委員会として「日吉カリキュラム等調整部会」が理事の要請により設置され，同委員会では，日吉キャンパスにおけるカリキュラムを中心として諸問題の検討および学部間の併設科目の点検，外国語の共通化の問題が検討された。しかし，総合教育科目の全体の洗い出しなどほとんどの問題は解決できないまま，1994 年 6 月以降，開催されていない。しかしながら，「日吉カリキュラム等調整委員会」はその後の教養研究センターが設立されるまでのさまざまな委員会の経緯を考える上でも，教務部（現在の学事センター）が加わった学部間の日吉カリキュラムの共通化のための情報交換の場としては一定の期間，有効な機能を果たしていた点からも同委員会が存在したことの意味は大きいと思われる。その意味では「大学教育委員会」が小委員会を設置しながらも，扱うテーマが広すぎる点，日吉キャンパスを考える上でも，「日吉カリキュラム調整委員会」のような横断的な組織を編成して，カリキュラムの抜本的な調整とシステム化をはかるべきと考える。

05 改革と中途半端な半期制の問題

2005 年（平成 17 年）を前後して，慶應義塾大学の各学部のカリキュラムは，学部によって事情の差はあるが改訂されている。とりわけ，05 年には商学部と経済学部で，大幅なカリキュラム変更が行われた。

カリキュラム改革のひとつの目標には，半期制（セメスター制）で各学部の足並みを揃えるということ

があった。文学部を除くすべての学部では，半期制がこの際に導入された（文学部では07年度に半期制を導入）。しかし，それは多くの課題を残したままの半期制の船出となっている。第1は，多くの場合，旧来の通年制科目を単純に2分割するということにより半期の2科目とした科目が多く，かつ多くの科目で通年履修が推奨されたという点である。また学生も旧来の通年制の慣行に従って履修登録を行ったため実質的な変化はあまりなかった。第2には，多くの学部では春学期に秋学期の分も含めて履修登録をしなければならないシステムとなったため，春学期での学習成果を見きわめたうえで，秋学期の履修を学生が決定したり，新たなクラス編成を行ったりという半期制のメリットが十分に生かされなかった。

学生の間には，通年履修の慣行がまだ残っているため，単位が取得しやすいという評判の科目（いわゆる「楽勝科目」）をつまみ食い的に選択する傾向に拍車がかかる，という現象はあまり起きていないようである。だが，授業の目標設定やレベルを曖昧にしたまま，履修登録を春・秋とも可能にすると，そうした傾向が顕著になる可能性があるということは，ここで指摘しておかなければならない。

半期制の導入に関しては，大綱化後の改革以降さまざまな論議が交わされてきた。国際化対応のために半期制を導入すべきだ，従来のじっくりとひとつの分野に取り組むには通年制が適当だといった議論が行われたようであるが，このように半期制の部分的側面のみが強調されたきらいがある。本研究では半期制の問題にも，多面的・総合的に分析・検討を行っている。

慶應義塾大学の内部評価・外部評価

自己点検・評価

事前規制から事後評価へという国の政策に呼応して，慶應義塾大学でも2003年（平成15年）に点検・評価制度を発足させている。4年に1度点検・評価を行うことになっているが，現時点では，2004年度報告書が出されている[4)]。

その内容は，各学部，研究科，諸研究所等が，標準的フォーマットに沿って現状の活動について説明するものとなっている。これらの報告書は，学部の特徴や現状の組織等を知る資料としては貴重であり，それを外部に公表したということは非常に意義あることであった。しかしながら，点検・評価に関する個々の教員の認知度は比較的低く，これが次なる改善につながるという認識は，現状においては極めて希薄である。

大学基準協会による評価

上にも述べたように，2004年度より学校教育法により大学の外部機関による評価が義務づけられたが，慶應義塾大学の評価は，2005年1月から2006年3月にかけて，大学基準協会により実施された。その報告書はインターネットで公表されており[5)]，その内容は，すべての学部・研究科を多岐にわたる画一の評価項目で評価するものとなっている。そのため，細部の特徴に対しては，非常に概括的なものにとどまっている。しかし，この外部評価では，点検・評価よりもより広い視点による，より厳しい指摘も散見される。とりわけ，FDや授業評価の実施が現状では非常に低調であるということに関しては厳しく指摘している。

しかしいずれの報告書も，現状において慶應義塾大学の教育カリキュラムが抱える構造的な問題を明

4）報告書等は，慶應義塾大学点検・評価ホームページ http://www.tenken.keio.ac.jp/ から閲覧可能。（閲覧日：2006年9月21日）
5）大学基準協会『2005（平成17）年度「大学評価」の結果について』，「慶應義塾大学に対する総合評価結果ならびに認証評価結果」，313～363頁。（http://www.juaa.or.jp/main/daigakuhyouka/kekka－report/2005/keiogijuku.pdf，閲覧日：2006年9月21日）

らかにするに至っていない。大学の環境の変化，学生のニーズ，教育の現場におけるさまざまな問題を関連づけ，次代に向けてより責任のある教育体制を確立するという目標は，こうした一律の基準に従って項目を埋めるような方法によっては達成できないことは明かであろう。慶應義塾の評価は，政府の定めた基準を追認し，それを満たそうとするような表面的なものであってならない。さまざまな学生の将来と社会の未来の両方に責任をもつ大学を作るために，現在ある人的・経済的リソースをいかに有効に使い，より高い成果を得ることができるか，という創造的なものでなければならない。

教養研究センターとカリキュラム研究

教養研究センターではさまざまなプログラム展開において，その立ち上げメンバーが中心となって2002年にまとめた文部科学省委託研究『教養教育グランド・デザイン』[6]の理念が踏襲されている。この報告書は，大学教育における現代的な問題を分析したうえでの理想上のカリキュラム・モデルを提示している。それは，学士課程全体を広い意味での教養教育と見なし，さまざまな知の領域（文化知，社会知，科学知，言語知，身体知）の総合的な獲得を目指し，それぞれの分野を連環的に高次まで学ぶことができるカリキュラムとなっている。広い教養と深い専門を二律背反と捉えず，教育の質の向上による広く深い学問を目指すことを理念としている。

この報告書は，現状のリソースでの改革の可能性を十分に視野に入れながらも，それに具体的な移行の方策を示すには至っていない。いわば，この報告書は，現実問題を一旦論議の中心におかずに，目指すべき理想を提言するという点に重点が置かれていた。

また，教養研究センターでは，2003～2004年度にかけ2カ年で基盤研究を行い，2004年度末に『日吉設置学部共通総合教育科目の現状と問題点 ― 将来への提言を含めて』[7]を刊行した。これは，日吉で展開されている総合教育科目の現状を多角的にデータ化し，その問題点を分析したうえで，新たな提案を行ったものである。日吉にはさまざまな総合教育科目が設置されているが，その科目間，あるいは科目を設置する設置母体間の連携は，たとえ同一科目，あるいは同一系統の科目であっても十分に取られているとは言い難い。また，こうした状態がいわゆる楽勝科目の温床となっていることは否めない，という実態を明らかにした。そこから，総合教育科目を統一的にオーガナイズする機関の設置を提言した。この研究は，現実に存在する危急に解決すべき問題を洗い出したものであった。いわば，理想をベースにするのではなく，現実の具体的な問題を指摘するものであった。

本報告書は，上記2つの研究の延長線上に存在する。

本報告書の基本認識

現在さまざまな大学で，目まぐるしいほどにドラスティックな学部改革や教員組織改革，新学部や新学科の設置が行われている。また，FD（ファカルティー・ディヴェロープメント）や学生による授業評価の義務化は目前にまで迫ってきている[8]。

旧来，慶應義塾大学では教育上の個別の問題を解決するために，対症療法的な施策をとって問題を和らげるということを頻繁に行ってきた。すなわち，根本的解決を先送りしながらとりあえず最悪の状態は回避するという方法で問題に対処してきた。しかし，直面する問題の対症療法的回避を続けるだけでは，変化し続ける時代のなかで慶應義塾がこれまでと変わらない期待を集め続け，学生や社会に評価される大学の地位を維持することは難しいだろう。

しかし一方で，いかに高邁な理想を掲げようとも，足下にある問題を解決できなければ，それは全く意味をなさない。どのような組織改革が行われることよりも，見せかけの看板がかけ変わることよりも，教育の質が変わっていくことの方が重要である。FD制度や評価制度がいくら整っても，学生と教員の間の信頼関係が損なわれて結果的に良い教育がで

きなくなってしまうならば，何の意味もなくなってしまう。

コピーしたノートや，過去問対策で単位が取れる，教室収容人数以上の学生が履修登録し出席率が30％でもほとんど学生が単位を取っている授業も放置されている，インターネットからの無断の切り貼りレポートで単位が取れてしまう，人気のある楽勝科目は抽選に当たりさえすれば単位がゲットできる，保険をかけながら大量履修申告をし取りにくい科目を取り捨てていく，このような状態がもしこれからもずっと放置されるとしたら，どんな教育改革も一切むなしい。

本研究は，そうした認識のもとに，現代における大学のミッションと将来に対する責任という理想に目を離さないようにしつつも，慶應義塾大学において実際に実現可能なカリキュラムのモデルを目指している。

本報告書の構成

報告書は，提言を中心に構成されている。まず，第Ⅰ部第1章で具体的な28項目の提言を掲げる。この提言は7つの分野にわたるものである。すなわち，1. カリキュラムの基本である成績評価方法についての提言，2. 2005年改革で導入されたセメスター制度とそれに伴う履修登録制度についての提言，3. 日吉の学部共通科目の改組への道筋，4. 外国語科目の習熟度別クラス編成のあり方，5. 副専攻制度の導入についての提言，6. カリキュラムの国際化対応についての提言，7. 以上を実現させるための人的組織についての提言，以上である。

第1章では具体的な提言を簡略的に説明するにとどめているが，第2章ではそれらの具体的な背景と根拠となった調査結果との関連について詳細に考察を行っている。第1章の1～7の分野にわたる提言内容は，それぞれ第2章の1～7にリンクしている。

第3章はさらに，今回の2年間の研究中に行われた4つの比較的大規模な調査の結果の概要報告となっている。その調査とはすなわち，各学部の1. 履修案内等に基づく学部カリキュラムの比較分析，2. おもに教員に対するアンケート調査に基づく成績評価方法に関する実態調査，3. ケーススタディとしての米国のリベラル・アーツ・カレッジの理念とカリキュラムについて，4. 全学部の学生を対象に行ったカリキュラムに関する学生アンケート調査となっている。

第Ⅱ部では，上記4つの調査結果の具体的データをそれぞれ提示する。

教養研究センター基盤研究「慶應義塾大学の教育カリキュラム研究」グループは，2年間に研究会，幹事会，2回の合宿を含む22回の会合を重ねて（各セクションの会合を除く），本報告を提示するに至った（巻末の活動報告を参照）。もちろん，慶應義塾大学という大組織の教育をつぶさに洗い直すことは不可能であるし，多くの調査課題を残している。少人数で調査を行わざるを得なかったことによる限界ももちろん存在している。しかし，ここで行われた課題分析と調査データの多くは，これまでいかなる組織でも行ってこなかったことであり，これを土台として今後さらに各所で議論が深まることを期待している。

6）前掲書。

7）『日吉設置学部共通総合教育科目の現状と問題点―将来への提言を含めて―』，慶應義塾大学教養研究センター2004年度基盤研究報告書，横浜：慶應義塾大学教養研究センター，2005年。

8）中央教育審議会大学分科会の制度部会は，2006年12月14日の会合で大学教員の研修の義務づけの方針を了承したと報道されている。「教員の教育能力向上研修，全大学に義務づけ　文科省」，『朝日新聞』東京本社版朝刊，2総合面，2006年12月17日。その議事録は，以下に掲載されるものと思われるが，本稿執筆時点では未確認。文部科学省「中央教育審議会，議事録・配付資料」，大学分科会制度部会平成18年12月14日付資料，http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/（閲覧日：2007年3年12日）。

第１章　提言

本章では，まず本研究が結論として出してきた慶應義塾大学のカリキュラム運営に関わる諸提案を掲げる。その背景や理由の詳述，諸問題の検討は，第２章のそれぞれ対応箇所で行うこととする。これらの提言に共通する目標は,「現状の変革をめざして,実践可能な教育モデルを提示する」ということである。すなわち，現在あるリソースを利用し，現在の成功例を生かしながら，責任のある教育を実践するために，地道な努力を行えば現実的に実行可能な処方箋を示すことである。

現状の変革をめざして，実践可能な教育モデルを提示する

■成績評価方法

提言１　どのような教科・科目でどのような評価方法が用いられているか，教員間で理解を深める。

提言２　教員は成績評価の観点を必ず学生に公開し，学生に理解させる努力をする。

提言３　同一科目・系統の教員間で，評価規準（criterion）の内容を検討し類似項目の整理・統合をはかることで共通認識を持つ。

提言４　複数の評価項目についてはその重要度（評価比率）を明示する。

提言５　成績評価基準（standard）に関する組織的な統一性を高めるとともに成績評価に関する責任を各教員任せにしない体制をつくる。

提言６　成績評価制度を統括・支援する組織を教職員一体となって形成するとともに，それを中心に成績評価方法を含めたシラバスの公開方法を検討する。

提言７　成績評価に関する学生への情報開示について積極的に取り組む。

■セメスター制度

提言８　秋学期の履修登録が可能なセメスター制度を実施する。

提言９　授業をレベル分けし，授業の達成目標を明確化し，順次高いレベルに進むことを誘導するシステムを作る積み上げ型のセメスター制を作る。

■履修登録制度

提言10　秋学期の履修登録を可能にする制度とシステムを整備する。

■講義要項（シラバス）

提言11　紙媒体の講義要項は最小限にし，数年かけて電子媒体のシラバス公表システムを開発する。

提言12　新システムは，教員のシラバス提出，とりまとめ，公表，訂正，時間割・教室公表などのプロセスを一元化したCMS（コンテンツ・マネージメント・システム）とする。

提言13　新システムは検索機能を充実させ，学生が得たいと思う情報を即座に得られるようにし,かつ各科目の実情にあったものとする。

■日吉設置学部共通科目の新しいあり方

提言 14　日吉設置学部共通科目（総合教育科目）の理念・目標の確立を行う。

提言 15　日吉設置学部共通科目（総合教育科目）に属するそれぞれの授業の位置づけ，目標，目的の設定を行い，それを学生に積極的に公開・告知していく。

提言 16　日吉設置学部共通科目（総合教育科目）を基盤とした，学部の枠を越えた副専攻制度，ダブルメジャー制度，学生がデザインするオリジナル専攻・副専攻制度などを視野に入れた，方向性が見えるカリキュラムの構築を行う。

提言 17　日吉設置学部共通科目（総合教育科目）におけるカリキュラムの管理・検討・運営を統括的に行う組織を設立する。そして，この下に位置する文化知部門，社会知部門，科学知部門，複合知部門などのカリキュラム運営母体を確立し，さらには，それより小さい単位の運営母体(部会)の設立も行う。

提言 18　教養教育をカリキュラムの核の一つと位置づけできるような学部カリキュラムを設定する。

提言 19　日吉設置学部共通科目（総合教育科目）と学部共通科目ではない「外国語科目」，「教養研究センター設置科目」，「外国語教育研究センター設置科目」，「国際センター設置科目」などの科目，さらには，他キャンパス設置の専門課程の授業との連携を確立する。

■外国語科目における習熟度別クラス編成の導入と整備

提言 20　各科目の学習目的を明確化することにより，学習目標の設定を容易にし，自発的な学習計画立案を促す。

提言 21　クラスター化した時間割編成，完全セメスター制により，柔軟かつ効果的な科目選択を可能にする。

提言 22　外部指標に基づく習熟度・達成度評価法を導入する。

提言 23　「ポートフォリオ」等による，共通基準に基づく記述的な習熟度・達成度評価法の導入を行う。

提言 24　科目履修要件と成績評価基準を明確化・客観化し，科目履修の「入口」「出口」管理を行う。

■副専攻制度

提言 25　現在各学部で行われ始めているさまざまな副専攻プログラム，または副専攻に準ずるようなプログラムを発展させて，さらには，既存の専門課程間での行き来をより拡大，自由にすることにより，慶應義塾大学型の副専攻制度を確立する。

■カリキュラムの国際化

提言 26　国際教養コース（仮称）を設置し，英語で行われる授業を体系的に履修した学生に副専攻の認証を与える。

■人事とカリキュラム編成

提言 27　日吉設置学部共通科目（総合教育科目）のカリキュラムの運営・検討を行う組織そしてその下部組織である部門・部会が，科目担当者の人事に関する調整と各学部に対する提案を行う。

提言 28　日吉設置学部共通科目（総合教育科目）のカリキュラムの運営・検討を行う組織は，各学部の専門課程の授業を運営・検討する組織と緊密な連携を図ることにより，日吉設置学部共通科目（総合教育科目）の枠を超えた副専攻プログラムを確立する。

1. 成績評価方法の厳格化に向けて

大学教育の質的保証につながる厳格な成績評価を実施し，その社会的な説明責任を果たす取り組みが重要である。そのため，塾内において成績評価に関する共通認識と制度的な統一性を高める必要がある。以下の提言は，その実現へ向けた出発点であり，科目特性（目標・課題）に応じた評価方法の選択，明確な評価基準づくりに関する共通認識の形成，成績評価方法の公開手段・成績評価制度に関する組織的検討といった観点から成っている。これらは相互に関連しており，一定の順序性もある。以下に，各観点にそって具体的内容を説明する。

1）科目特性に応じた評価方法の選択とその浸透を図る

提言１　どのような教科・科目でどのような評価方法が用いられているか，教員間で理解を深める。

提言２　教員は成績評価の観点を必ず学生に公開し，学生に理解させる努力をする。

提言 1，2 は，まず，成績評価方法の選択という基本的な問題に目を向け，議論をする必要性を示すものである。成績評価の目的には，学習者自身の学びと育ちの保証があり，評価の観点は多様である。実技・実験・演習などの授業形態によって選択される評価方法が異なることは当然と考えられるが，筆記試験のみならず，授業過程における形成的評価が積極的に用いられるべきである。我々はまず，授業の目標に応じた多様な成績評価方法があり，適切に選定するべきことを認識すべきである。学生アンケートからは，プロセス重視や絶対評価を求める声が多いという結果が示された。しかし，プロセスか結果か，相対か絶対かの選択は，授業の目標に応じてなされるべきものであり，本来画一化する必要がないはずである。教員は個々の授業における適切な評価項目を選定し，学生はその授業の目標を理解し，成績評価を受ける覚悟を持って授業に参加するべきである。従って，次に，全教員が何を観点（規準 =criterion）とし, 最終的にどんな基準（standard）で成績評価がなされるのかを十分に公開し，学生に理解させる必要がある。また，教員相互が多様な学問領域における評価項目について理解を深めながら，自己の専門領域のスタンスを確固たるものにすることも重要である。総じて，成績評価とは自己の能力・努力の成果を見つめるための情報であることを教員にも，学生にも認識させなくてはならない。

2）成績評価内容の明確化と統一化への取り組み

提言３　同一科目・系統の教員間で，評価規準（criterion）の内容を検討し類似項目の整理・統合をはかることで共通認識を持つ。

提言４　複数の評価項目についてはその重要度（評価比率）を明示する。

提言５　成績評価基準（standard）に関する組織的な統一性を高めるとともに成績評価に関する責任を各教員任せにしない体制をつくる。

提言 3 ～ 5 は，適切な成績評価方法（規準）の選択に加え，教員間でその基準づくりに努力する必要性があることを示している。本研究の調査から，同じ科目内でも，成績評価項目（規準）と判定基準に関する統一，共通認識などが十分に図られていない現状が読み取れる。平常点の内容の曖昧さも明らかとなった。つまり，成績評価方法は各教員任せであり，教員間で差があると指摘されても仕方がない状況である。この点を改善するために，科目・組織内の教員間で，評価項目の選定とその比率に関する統一化を行う必要がある。つまり，個々の教員が選択した多様な評価項目の中身を並べて，その意味や範囲について共通認識を持ち，類似する観点の整理統合をしてゆくことが評価規準作りの第一歩となる。そして，複数の評価項目をどのように重視するのか，

その比率を明らかにしていくことで，統一性が高まるはずである。

成績評価については学部学則を基本としているため慶應義塾全体・各学部にかかわる部分もあり，単に日吉地区だけの問題に留まらない。しかし，こうした努力が始められている組織や部門のあることも本調査から明らかとなった。さらに，これまでのFDに関する議論や今回得られた成績評価に関する意見の中には，GPA（Grade Point Average) のようなシステムづくりの模索，A～Dの4段階評価の見直しなど，根本的な制度改革の必要性を問う意見もあった。評価項目の選定ばかりでなく，このような慶應義塾・各学部組織という広い視野でみた成績評価制度についても議論を進め，統一的な評価基準づくりを模索することが重要である。例として,「A, B，C，Dの境界をどのように決めるのか？」といった基本的問題がある。単位認定のための総括的評価基準が，形成的評価（各規準）の複合として決定されるならば，そこには点数化などの一定の取り決めが必要となろう。点数化しなければ境界が不明確なままになってしまう。一方，成績評価に関するルールがあるが，実情を考慮した改善が必要なケースもある。例えば，日吉における通年半期制において必修語学科目などをセット履修にしている場合，セット履修の春・秋の1科目は，両方合格（A, B, C）とするか，両方不合格（Dあるいは未受験）とし，BとDという組合せはしない，という申し合わせがあるケースである。これは科目担当者にとっては，成績評語の判定基準を学生に公開しておきながら，春の成績はA，秋はDの学生に対し，CC，BCあるいはDDなどとつけなければならず，矛盾を生じているという問題もある。

このように，議論すべき課題の次元が異なり，容易には解決しない問題もある。しかしながら，少なくとも，どのような規準を用いるかを一教員の個人的な判断にゆだねることなく，さらに評価基準を吟味した確固たる制度づくりに向けた組織的検討に立ち上がる必要がある。

3）成績評価方法の公開に関連した組織的活動

提言6　成績評価制度を統括・支援する組織を教職員一体となって形成するとともに，それを中心に成績評価方法を含めたシラバスの公開方法を検討する。

提言7　成績評価に関する学生への情報開示について積極的に取り組む。

最後に，提言6，7は，先の提言1～5の実現に向けた組織づくりの必要性を指摘するものである。全教員の成績評価方法の公開，そのために評価方法の内容・比率を教員間で決定すること，さらに，成績評価制度に関する議論を展開するためには，教職員一体となった組織的な支援が必要である。例えば，成績評価方法の公開手段の問題である。本調査で情報源とした冊子体は学事センターを中心としたとりまとめによって作成されているが，記載内容はまちまちである。特にその内容に関する責任は個々の教員に任されており，成績評価方法を記載しなくても問題にはならない。事実,評価方法の記載がないケースが1割程度あったことは，組織的に検討がなされていない証拠であろう。

本来，成績評価方法を含め，授業内容に関する情報はできうる限り履修決定に際して公開されていることが望ましい。つまり，より詳細なシラバスが公開される必要があるが，現行の「履修案内」「講義要綱・シラバス」といった冊子体は紙面の制約もある。このため授業ガイダンス時に個別のシラバスを配布する教員もいる。また，教員個人のホームページなどで公開するケースもある。一方，実際に学生が冊子体の情報をどの程度活用しているかは不明である。こうした状況を踏まえ，学事センター・学部学習指導などの組織レベルで情報公開手段の統一・吟味を進めることが重要である。つまり，成績評価問題を取りまとめてゆく組織づくりが必要である。また，情報の公開という点では，成績に関する学生側からの疑問，自己の成績（試験結果）の確認など

の事後対応についても組織的な検討を行う必要がある。学生アンケートでは，教員への質問体制が整っていないという意見が，成績に十分な納得が得られなかった学生に多く見られた。しかし，実際には各学部にこうした制度は存在し，ガイダンスや冊子での説明を行っている。従って，こうした認識の齟齬を解消していく取り組みが必要である。本来，成績評価は単に評定を伝えることに留まらず，学生に学び直しや発展的な追及の姿勢を喚起するように，具体的内容がフィードバックされることが望ましい。この制度の実現は容易ではないが，学びの過程の最終地点が単位取得という結果の確認に留まることは，学生自身の発展性を閉ざすこととなろう。また，セメスター制度による積み上げ型の知の構築を目指すためにも，事後の情報公開について考えることは重要である。総じて，シラバスの提示から成績通達までの成績評価全過程においてその質を高める組織的取り組みが必要である。

2. セメスター制度，シラバス，履修登録制度

1）セメスター制度について

第 2 章 2. 1)「セメスター制」(30 ～ 33 頁) で詳述するように，学年制を組み合わせた通年制とセメスター制にはそれぞれメリットとデメリットが併存する。しかし，旧制度からの移行も配慮に入れながら妥協的に導入された現在の通年半期制は，通年制のデメリットを払拭しながらセメスター制のメリットを引き出すというかたちには，残念ながらなっていない。以下のふたつの提言は，こうした問題を解決するための一体不可分の提案である。

提言 8　秋学期の履修登録が可能なセメスター制度を実施する。

セメスター制の意義は，各学期において成績を提示することで，学生に自己の達成度を明らかにし，新たな学期に新たな目標設定をすることにある。場合によっては，達成度別に機動的にクラスを組み替えることができることも，セメスター制の意義である。現在導入されている通年半期制は，次章でも詳しく述べるように，通年制とセメスター制の弊害点の両方が強く現われてしまっている。それを解消するには，各学期に仕切り直しが完全に可能なセメスター制を導入する必要がある。

完全なセメスター制を導入すると開設クラス数が倍増して，教室不足に陥るということがよくいわれるが，これに関しては実際の試算をもとにその認識が誤りであることを，次章で示しているので参照されたい (32 ～ 33 頁)。

提言 9　授業をレベル分けし，授業の達成目標を明確化し，順次高いレベルに進むことを誘導するシステムを作る積み上げ型のセメスター制を作る。

大学の学習においては，基礎的な知識の上に，それを批判的に検証する能力を身につける必要がある。提言 8 で述べた完全なセメスター制を導入しても，単に学生の履修の自由度を増すだけであっては，学生が細分化された授業をつまみ食い的に履修し数合わせを行ったり，また履修がしやすい授業だけに学生の履修希望が殺到し，楽勝科目の温床をつくったりする可能性が高い。そのためには，学習内容を段階的にステップアップしていく仕組みを作る必要がある。さまざまな分野の導入授業だけをたくさん履修しても，基礎を堅固にし，批判的検証を行う力は身につかない。

系統立てた履修を促し，ある程度のレベルにまで到達することができるようなシステムは，単なる単位の数合わせに終わらせないためにも必要である。授業のレベルを明確化するというのは，それぞれの授業の，1 学期目を Ⅰ (たとえば基礎)，2 学期目 Ⅱ (例えば応用) として，それをさらに 3 学期目 Ⅲ といったつながりができる科目群をつくることである。履修の規定にお

いて，一部の科目に関しては必ず上位レベルのものをセットで取らなければならない制度を確立することである。つまり，これは通年制の良さも生かしたセメスター制度を導入することに他ならない。

2）履修登録制度

提言 10　秋学期の履修登録を可能にする制度とシステムを整備する。

セメスター制を機能させるためには，春学期，秋学期を完全に独立した学期と捉え，秋学期にも履修登録とクラス編成の組み替えを可能にする必要がある。その実現のために，現在の履修登録のコンピュータ・システムをさらに発展させたシステムを開発する。そのためには一時的に人的コストをかけ，必要十分な投資を行う必要があるだろう。しかし，それに伴う効果は大きい。

3）講義要項（シラバス）について

「学生アンケート調査」の結果に現れるように（分析は 71 ～ 74 頁を参照），講義要項（シラバス）に対する学生の要望は，一様ではない。これらの要望を満たすためには，それぞれの学生のニーズに合った情報提供が必要である。そのためには，個別の対応を自動化したシステムの開発が必要となる。

提言 11　紙媒体の講義要項は最小限にし，数年かけて電子媒体のシラバス公表システムを開発する。

提言 12　新システムは，教員のシラバス提出，とりまとめ，公表，訂正，時間割・教室公表などのプロセスを一元化した CMS（コンテンツ・マネージメント・システム）とする。

提言 13　新システムは検索機能を充実させ，学生が得たいと思う情報を即座に得られるようにし，かつ各科目の実情にあったものとする。

次章にも述べるように，システム導入へのプロセスには，開発時間やコストの問題など課題も多いが，一旦導入されれば将来的には，大きな効率化と学生に対するサポートの拡大につながると考えられる。

このシステムは，2）で述べた履修登録システムと一体化して開発すると良いだろう。また，各学部の教員紹介，研究者情報公開システム，教育支援システムの既存のシステムとの連携も視野に入れると良い。このように，他の授業関連のシステムともリンク機能を充実させると学生の要求により応えることができる。

3. 日吉設置学部共通科目（総合教育科目）の新しいあり方

ここでは，慶應義塾大学におけるほとんどの学部の学生を対象に，共通科目として開講されている日吉設置学部共通科目，いわゆる「総合教育科目」に注目し，新しいカリキュラムのあり方の提言を行う。なお，提言は，教養教育の充実を視野に入れ，方向性のあるカリキュラムの実現を目指すことを目的に，アメリカのリベラル・アーツ・カレッジのカリキュラムの調査研究を基にしている。

提言 14　日吉設置学部共通科目（総合教育科目）の理念・目標の確立を行う。

日吉設置学部共通科目（総合教育科目）に理念・目標が欠落している。理念・目標が確立されない限り，それぞれの授業の位置づけ，性格，そして方向性を議論できない。

提言 15　日吉設置学部共通科目（総合教育科目）に属するそれぞれの授業の位置づけ，目標，目的の設定を行い，それを学生に積極的に公開・告知していく。

現在の日吉設置学部共通科目（総合教育科目）には，緩やかな区分のみが存在している。学生の視点に立つとこれは，それぞれの授業がどのような役割を持っているものなのか，またはそれぞれの授業の間にどのような関連性があるのかということを見出しにくくしている。また，それぞれの授業を履修することで，その後どのような学問的発展が期待できるかなどは，ほとんどの場合提示されていない。

提言 16　日吉設置学部共通科目（総合教育科目）を基盤とした，学部の枠を越えた副専攻制度，ダブルメジャー制度，学生がデザインするオリジナル専攻・副専攻制度などを視野に入れた，方向性が見えるカリキュラムの構築を行う。

学生自らが学問の方向性を見出していくことができ，学生にとって魅力を感じることができるようなカリキュラム（プログラム）の構築が不可欠である。これは，学生自らが，自身が持つ可能性を最大限に引き出す手助けになる。

提言 17　日吉設置学部共通科目（総合教育科目）におけるカリキュラムの管理・検討・運営を統括的に行う組織を設立する。そして，この下に位置する文化知部門，社会知部門，科学知部門，複合知部門などのカリキュラム運営母体を確立し，さらには，それより小さい単位の運営母体（部会）の設立も行う。

日吉設置学部共通科目（総合教育科目）の授業それぞれに，位置づけ，性格づけ，そして方向性を与えるには，これを協議する委員会などが不可欠となる。副専攻，ダブルメジャーなどの制度を実施する場合は，このような運営母体が，どのような授業を展開するべきなのかということや，どのようなプログラムであるべきなのかということを議論することとなる。

提言 18　教養教育をカリキュラムの核の一つと位置づけできるような学部カリキュラムを設定する。

現行の学部カリキュラムは，学部によっては必ずしも教養教育を重視しているように思われない。日吉設置学部共通科目（総合教育科目）を核とした，教養教育の充実を目指す必要がある。また，教養教育が，すべての学部の学部教育の要の一つになっていくには，「総合教育科目」の履修を，現状より幅広く容認したカリキュラムを各学部が設定する必要がある。

提言 19　日吉設置学部共通科目（総合教育科目）と学部共通科目ではない「外国語科目」，「教養研究センター設置科目」，「外国語教育研究センター設置科目」，「国際センター設置科目」などの科目，さらには，他キャンパス設置の専門課程の授業との連携を確立する。

日吉設置学部共通科目（総合教育科目）だけでなく，あらゆるタイプの授業と連携を図ることで，カリキュラムが内包する可能性を存分に見出す必要がある。

以上の提言をベースに，次にカリキュラムの改革具体案を示す。

①日吉設置学部共通科目（総合教育科目）の構成

・3 つの大きな柱
　――人文科学（Humanities and Fine Arts）の科目
　――自然科学・数学（Natural Science and Mathe－ matics）の科目
　――社会科学（Social and Behavioral Sciences）の科目
・基礎必修科目群
　――初年度教育科目（文章作成の基礎を学ぶことを核とした授業）

――外国語科目（単位の互換を可能とする。管轄と運営は各学部による）
・その他の選択科目
――体育科目など

②卒業までの総合教育科目の必修単位数

・卒業単位総数の 4 分の 1 程度（32 単位前後）が最低単位数の目安
・そのうち，基礎総合教育科目として 3 つの柱からそれぞれ少なくとも 6 ～ 8 単位履修
・4 年間継続的に履修することを基本とする
・段階的にレベルの異なる授業を履修することで，副専攻などを認定する
・選択科目単位（卒業認定単位）の幅を拡大し，総合教育科目を履修しやすくする
・専門の選択科目単位数の削減を行い，または，高レベルの総合教育科目を専門選択科目として位置づける

③卒業に必要な単位一覧の例（126 単位取得の場合）

・総合教育科目（計 32 単位）
――総合教育科目基礎として人文科学（6 単位）自然科学（6 単位）社会科学（6 単位）を含むこと
・外国語科目（16 単位）
・専門基礎教育（計 18 単位）
・専門教育科目（計 40 単位）
・選択（卒業認定単位）科目（計 20 単位）

④総合教育科目の授業の分類・性格づけ，そして副専攻

・学生にとって方向性が見える授業の展開を協議する母体の設立
・副専攻を視野に入れた授業の分類・性格づけ・位置づけの公表
・3 つの柱の中にさらに細かい分類（緩い意味でのデパートメント化）
・各授業の運営母体を設定，それぞれの授業の性格づけを行う
・各授業のレベル設定（100 番台，200 番台，300 番台授業のように）
・各特定系列（分野）で副専攻プログラムを組み立てる。
・副専攻の一環として，卒論レベルの論文を仕上げる少人数セミナー，もしくはインディペンデント・スタディ（プロジェクト型授業）を設定
・副専攻の一環として，所属学部外の専門科目を総合教育科目として履修できるようにする
・特定の外国語科目（コンテンツベース授業）を総合教育科目として認定する

4. 外国語科目における習熟度別クラス編成の導入と整備

外国語教育，特に大部分の履修者が既習者である英語科目においては，学生のさまざまな習熟度や学習目的に対応すること，加えて専門教育との連携をふまえた授業展開を行うことが必要とされる。限られた授業時間数，人的資源，教室等の設備を有効に活用し，そのような需要にきめ細かく応えるためには，学習目的別・習熟度別クラス編成の実施が有効であろう。そうしたクラス編成は，すでに多くの学部に導入され，効果を上げているようである。しかし一方では，履修要件の見極め，科目修了時の達成度判定，学習目標や設定レベルが異なる科目が混在する中での公正な成績判定などに多くの課題を残している。これらの課題は，いずれも旧来の達成度測定法や成績評価法が，学習目的と習熟度によって細分化されたカリキュラムに対応し切れていないことに起因する。ここでは学習目的別・習熟度別科目編成と，それに対応する達成度測定法，成績評価法に関して提言を行う。

提言 20　各科目の学習目的を明確化することにより，学習目標の設定を容易にし，自発的な学習計画立案を促す。

学習効果を高めるためには，各科目の学習目的を

明確にし，カリキュラムの意図を明らかにすること，それによって履修者による学習目標の設定を容易にし，その結果として個々の学生による自発的な学習計画の立案を促すことが有用と思われる。各学部の多くの外国語科目において，すでに習熟度別クラス編成が行われている。中でも履修者の大部分が既習者である英語科目においては，対象の多くが中級者であるため，それに加えて多様な学習目的別クラス編成が行われ，クラス形態の細分化が著しい。こうしたカリキュラムの複雑化は，往々にしてその意図を曖昧にしてしまう危険を内包している。その結果，学習目標の設定や学習計画の立案が困難となり，さらには学習意欲の低下に結びつくこと，学生の目的意識を「卒業単位のための外国語学習」へと留めてしまうことが危惧される。典型的な学習目的を3つあげるなら，それは①社会の先導たり得る人材を養成するための教養教育の一環としての英語力養成，②十全な専門教育を支えるために必要とされる英語力養成，③卒業後に社会に貢献する人材を育成するための実務的英語力養成，となるだろう。学生の学習意欲を喚起するためには，こうした目的を明らかにすること，複合的な授業目的を持つ科目においても，常にカリキュラム上の役割分担，その授業の機能を明確にすることが肝要である。また積極的にそれを学生に伝えることによって，学生の自覚的な目標設定と学習計画立案を促すべきである。

提言 21　クラスター化した時間割編成，完全セメスター制により，柔軟かつ効果的な科目選択を可能にする。

学生が自分の希望する，また必要とする科目を実際に履修できなくては，どのようなカリキュラム編成も意味をなさない。希望科目履修を容易にし，学習目的別・習熟度別クラス編成の効果を高め，また同時に他科目履修との干渉を最小限に留めるためには，合理的かつ計画的な時間割編成が必須である。最も単純な解決策は，立教大学など他大学において行われているような外国語科目のブロック化（○○語の授業は半数を○曜○限，もう半数を○曜○限に設置する，など）であろう。しかし慶應義塾大学においては，教室等設備の制約が存在し，また複数学部の学生に対して，共通化された一般教育科目の履修機会を最大限に確保する必要があるため，全学的なブロック化の導入は困難である。こうした状況下において，学生の希望や目的に応じた履修科目選択を容易にするためには，時間割編成上，いたずらに授業科目を分散させるのではなく，習熟度設定や学習目的の異なる複数の科目を1セットにし，同一曜日時限にクラスターとして設置すること，そうしたクラスターを他科目との干渉を避けながら，広範な曜日時限に分布させることが有用であろう。

また，完全セメスター制を前提に外国語科目のクラスター化を行うならば，春・秋学期間でのクラス変更が容易になり，習熟度別クラス編成，目的別クラス編成による学習効果のさらなる向上が期待される。進級時だけでなく，秋学期開始時にもクラス変更が可能となれば，春学期での学習成果をふまえた秋学期クラスレベルの選択や，新たな学習目的・達成目標の設定が実現できる。これにより学生各自の習熟度と目的意識に合わせ，よりきめ細かな学習プランを立てることが可能となり，外国語学習へのより積極的な取り組みを促すことにもつながるだろう。

提言 22　外部指標に基づく習熟度・達成度評価法を導入する。

学生の習熟度・達成度評価においては，後述するようなポートフォリオ形式の採用が期待されるが，一方では TOEFL，TOEIC に代表される，数値化され社会的に共有された外部指標の導入も不可欠である。大学内での成績判定を外部指標と連動させることは，学生の客観的自己評価を可能にし，自身による目標設定を促すことによって，学習への動機付けともなるであろう。またこうした外部指標の導入に

は，既存の科目を含むカリキュラム全体の成績評価基準に一貫性をもたらすという効果も見込まれる。しかし第2章4．1)「学習目的別・習熟度別クラス編成における成績評価の客観性」(42～44頁）で述べるように，外部指標，そしてその前提となる外部テストは，あらゆるテストの例に漏れず，特定の計測領域と対象者のために開発されたものであり，それを万能なものと過信することは出来ない。

提言23　「ポートフォリオ」等による，共通基準に基づく記述的な習熟度・達成度評価法の導入を行う。

TOEFLやTOEICのような外部指標によって達成度を判定・表現できない授業においては，学生の能力をカルテのように記述的に判定し表現するような，共通基準に基づく「ポートフォリオ」形式の達成度評価法導入が望まれる。外国語教育研究センターの「英語一貫教育プロジェクト」および「言語教育政策提言プロジェクト」では，「ヨーロッパ共通参照枠」などを念頭に置き，すでに慶應義塾全体の英語教育に有用な「共通参照レベル」を検討中である[9]。また経済学部においては，ドイツ語部門を中心に，「ポートフォリオ」形式による学習履歴管理用ソフトウェアを開発中であり，2007年度より実験運用を開始する予定である。今後，学校・学部ごと，また各語種ごとに，それぞれの要件をふまえたシステムの検討と導入が望まれる。またそれに当たっては，従来からの成績評価システムとの整合性の調整，また学外へ向けて成績証明を行うための制度整備が必要となるだろう。

提言24　科目履修要件と成績評価基準を明確化・客観化し，科目履修の「入口」「出口」管理を行う。

学習目的別・習熟度別クラス編成を行うに当たっては，履修に必要な学力基準を明確化・客観化し，履修に際しての「入口」管理を行うことが必要である。想定外の習熟度にある学生の履修は，クラス運営の支障となるだけではなく，第2章（42～44頁）で述べるように，往々にして成績評価基準の混乱を招き，当該科目に留まらずカリキュラム全体の信頼性を低下させる危険を含んでいる。

また科目修了時の成績評価を行うに当たっては，その評語の示すところを何らかの方法で客観的に示すべきである。従来，多くの外国語科目では，各科目内での達成度に応じて各種の成績評語が与えられてきた。しかしそれぞれの評語が具体的には何を意味し，学生がいかなる客観的達成度にあるのかということは，多くの場合曖昧である。評語の意味するところを客観的に示すことは，成績評価における公正さに貢献するだけでなく，学生がその学習意欲を高め，続く学習計画を立てる上でも有用である。授業目標がTOEFLやTOEICなど外部テストが計測対象とする能力の強化にあるなら，そうした外部指標との相関関係を示すことが望ましい。しかし，それ以外の能力の開発強化を目標とする授業では，そうした指標の導入に大きな効果は期待できそうもない。その場合は，「提言24」で述べたような「ポートフォリオ」等による記述的な習熟度・達成度評価法の導入を検討すべきであろう。

5. 副専攻制度の全学的導入

副専攻制度を視野に入れた日吉設置学部共通科目（総合教育科目）の改組については，既に「提言16」で述べた。ここで行う提言は，こうした総合教育科目の改変を前提としている。

9) ジョン・トリム他，『外国語教育II: 外国語の学習，教授，評価のためのヨーロッパ共通参照枠』吉島茂 他 訳・編（朝日出版社，2004年）

提言 25　現在各学部で行われ始めているさまざまな副専攻プログラム，または副専攻に準ずるようなプログラムを発展させて，さらには，既存の専門課程間での行き来をより拡大，自由にすることにより，慶應義塾大学型の副専攻制度を確立する。

「学生アンケート調査」に見られるように，アンケートに回答した約 80％の学生が，自分の学部の専門以外の分野を深く学べる副専攻制度のような制度があれば履修してみたいと希望している（問 35，168 頁参照）。すでにいくつかの学部では，こうした制度が走り出しているが，これを拡大するには，学部独自のプログラムでは限界がある。日吉設置学部共通科目（総合教育科目）の再編と，科目運営組織の再編によって，各学部の協力と共通化を推進し，各学部で協力しながら，副専攻認定委員会のような組織を創設し，比較可能で透明な制度を作り上げていかなければならない。

また，日吉設置学部共通科目（総合教育科目）のみを視野に入れた副専攻制度だけでなく，各学部の専門課程に，そこに所属しない他学部の学生が，副専攻プログラムの一環として専門課程の授業をより履修しやすいようにする必要もある。現在でも，それぞれの学部では，他学部の学生の専門課程の授業の履修を認めているケースが多く見られる。しかしながら，これら他学部の授業の履修は，卒業単位として認められる範囲に限りがあったり，履修が許可されている授業の数が限定されていたりして，副専攻制度には程遠いものである。このような状況では，副専攻制度はもちろんのことながら，それより発展的なダブルメジャー制度などは，学生からの要望があったとしても実現の可能性は困難である。

また，所属学部外の専門課程の授業を副専攻プログラム，またはダブルメジャーの一環として履修する場合には，専門課程の授業を履修する前に，専門分野の基礎的な知識の蓄積が求められることになる。通常，この役割を担うのは，当該学部生を対象とした学部設置の授業であるが，各学部は，このような授業に他学部所属の学生を多数受け入れる余裕はないのが現実である。したがって，他学部所属の学生はこのような授業を履修せずに，日吉設置学部共通科目（総合教育科目）の授業を履修することで，専門課程に通じる基礎的な知識を得る必要がある。

こうした制度の導入は，日吉設置学部共通科目（総合教育科目）の履修にインセンティヴを与えるだけでなく，社会のリーダーを養成する慶應義塾大学の教育カリキュラムの魅力を増すことにつながる。

6. カリキュラムの国際化対応

幅広く深い知識を持ち，さらには新しい考えを国際的に発信することができる人材を育成することは，これからの大学教育にますます重要になって来るであろう。そのために次の提案を行う。

提言 26　国際教養コース（仮称）を設置し，英語で行われる授業を体系的に履修した学生に副専攻の認証を与える。

これは，主に国際センターが現在開設している科目の再編を中心とし，各学部設置の英語で行われている授業を組み合わせながら，カリキュラム体系を構成する。1・2 年次において十分な教養基礎知識を備えてきた 3・4 年生の学部生を対象に，国際的な視点からより幅広く，より深い知識を教授し，新たな視点で我々人間を捉え，考えることができる能力を，さらには，さまざまな考えを国際的に発信できる人材の育成を目標とする。このコースの運営母体としては，国際センターが行うのが最も適当であり，そこが認めた副専攻の終了を学部が認証するというかたちを取るのが良いだろう。

具体的なカリキュラム案は，第 2 章 6.「カリキュラムの国際化対応について」（47 ～ 49 頁）で提示している。

7. 人事とカリキュラムの編成組織

カリキュラム編成の問題と人事の問題は密接に関わり合っている。とりわけ日吉設置学部共通科目(総合教育科目）に関しては，共通したカリキュラム編成の権限と人事を調整する機関が存在していないために，さまざまな問題をそのままにしてきている。日吉設置学部共通科目（総合教育科目）のカリキュラムの運営母体の設立についてはすでに「提言 17」で行った。ここではこれに加え，日吉設置学部共通科目（総合教育科目）の授業担当者の人事に関する提言と，全塾的な副専攻プログラムおよびダブルメジャー制度の設立を視野に入れた組織に関する提言を行う。

なお，日吉設置学部共通科目（総合教育科目）のカリキュラムの運営・検討を担う組織とその下部組織である部門および部会の関係に関する問題点の検証は，第 2 章 7 で行うこととする。

提言 27　日吉設置学部共通科目（総合教育科目）のカリキュラムの運営・検討を行う組織そしてその下部組織である部門・部会が，科目担当者の人事に関する調整と各学部に対する提案を行う。

これまで日吉設置学部共通科目（総合教育科目）は，学部間でほとんど調整されず，また教員の裁量の部分が非常に大きかったため，楽勝科目の温床となっていた面が否めない。このような状況を改善することも含め，日吉設置学部共通科目（総合教育科目）のカリキュラムを運営し検討する組織が必要であるという提言は，すでに「提言 17」で行った。これに加え，これら組織では，日吉設置学部共通科目（総合教育科目）の授業の管理･検討の一環として，授業を担当する教員の人選，評価，さらには FD に関する提案を，人事権を持つ各学部に積極的に提案していく体制を整える必要がある。このことが実現されることで，日吉設置共通科目（総合教育科目）のカリキュラムの有効的な運営・検討が初めて可能となる。

提言 28　日吉設置学部共通科目（総合教育科目）のカリキュラムの運営・検討を行う組織は，各学部の専門課程の授業を運営・検討する組織と緊密な連携を図ることにより，日吉設置共通科目（総合教育科目）の枠を超えた副専攻プログラムを確立する。

本章 5.「副専攻制度の全学的導入」において，全塾レベルでの副専攻プログラム，さらにはダブルメジャー制度の確立を提言した（提言 16)。そこでは，日吉設置学部共通科目（総合教育科目）を核とした副専攻プログラムに加え, 日吉設置学部共通科目（総合教育科目）の授業を基礎作りの場と位置づけ，これを基盤に学部の枠を超えた，既存の専門課程間の行き来を可能とした副専攻プログラム，あるいはダブルメジャー制度の必要性を唱えた。このような制度を確立・運用していくには，日吉設置学部共通科目（総合教育科目）の授業のみを運営・検討する組織と，学部設置の専門課程の授業を統括する組織との間の連携が不可欠となる。

第２章　提言の背景

第１章では、今回の研究の結果として挙げられた提言を簡潔に提示した。本章では、その提言の背景について、本研究のさまざまな調査との関連とともに、詳しく説明することにする。

1. カリキュラム目標に対応した成績評価方法のあり方

1）今日，求められる厳格な成績評価

序でも述べてきたように，教育目標を設定し，義塾の教育理念を具現化するためのカリキュラムづくりが重要である。この際，目標設定に対応した評価が対となって準備される必要がある。つまり，成績評価は単に，単位認定のための作業ではなく，目標の達成度を映し出す役割を担う必要がある。これは，社会からの要請でもある。社会が現在の大学に求めているのは，大学に進学する，18 歳人口の 6 割近くを占める若者に基礎教育を行い，社会の即戦力となる人材を育成する場となることである。学究的な大学の雰囲気に触れさせるだけではなく，日々変化する社会情勢に合わせた新たなる知を獲得した学生を輩出することが大学の使命となっている。そして，その大学教育の質の保証として，厳格な成績評価を実施し，またそれを公開・説明する責任が求められているのである。

高浦[10] によれば，成績評価には，「指導と評価の一体化」「自己学習力の向上」「外部の人々への説明責任」の 3 つの機能が内在する。このそれぞれは，「教授側」「学生側」「社会（他者）」に対応し，教育する側の指導内容，学習者の理解・到達目標，獲得内容の社会的価値などと一体化する。すなわち，成績評価は，

・教授する側は，自己の教育内容の成果を評価から確認する，
・学生は，成績評価によって自己の学習能力・努力過程を認識する，
・社会側は公開された成績によって，大学・学生の能力レベルを推し量ることができる，

といった機能を持つものである。従って，教育する教員の自由裁量といった一方的なものに留めてしまってはならない。

2）義塾の現状と課題

では，義塾（特に日吉キャンパス）において，これまで成績評価の厳格化に関する議論がなされてきたであろうか？　この点は，第 3 章 2.「成績評価方法に関する実態調査」（56 ～ 62 頁）の結果にも述べているように，カリキュラムづくりの責任体制が不明確なことに加えて，各教員の裁量任せの現状にあると考えられる。大学には教える側の「教育の自由」が長く存在した。同じ科目名であっても，授業の内容とそれに対する成績評価基準などは教員個人に一任され，他人の授業方針に口を出すのはタブーであったのではないだろうか。ましてや，系列の異なる科目間では，こうした情報の交換さえままなら

ないのが実際であったと思われる。

成績評価が機能的に行われる上で重要となるのが，どのような評価方法を用いているのかという点である。日吉設置科目の講義要綱に記載されている成績評価内容を概観すれば,「期末試験」「レポート」「出席」「平常点」「プレゼンテーション」等，その観点は多様である（第 3 章 2.「成績評価方法に関する実態調査」参照)。しかしながら，その詳細は不統一であり, 多くの疑問を生じさせる。例えば,「平常点」とは何なのであろうか？　その内容には授業への「取り組み」「態度」「出席」「提出物」などさまざまな観点が挙げられているが，平常点という表現を用いず,「出席率」が独立した項目となるケースもある。また複数の項目間の比率や点数化などはどうなっているのであろうか，評価方法は科目の特性を的確に捉えたものであるのか，学生は自己の学習能力をそうした観点から認識できているのであろうか。そもそも，講義要綱に示すべき成績評価の内容に指針はあるのであろうか。こうした疑問への回答を教員の個人的裁量の範疇に預けてしまってよいはずがない。一部では厳密な評価を行っている事例もあるが，少なくとも現状の成績評価方法の実際を認識し，あるべき姿について議論を行い，最低限のガイドラインや共通認識を形成する必要がある。

3）教育目標に対応した成績評価方法に関する理論的考察

教育評価には，事前的評価（学習者のレディネスの把握，診断的評価)，形成的評価（単元の途中の確認，フィードバック・軌道修正)，総括的評価（成果把握，単元・学期の終了時，単位認定)，外在的評価（実態の把握，全国調査・国際比較）があるとされ[11]，目的や目標にそって成長・達成を評価する形成的評価に基づいて，単位認定にかかわる総括的評価が行われることが重要である。近年，こうした，形成的評価を重要視する傾向が強まり，到達目標を細分化して設定する「ポートフォリオ評価法」の活用が盛んに試みられ，研究されている[10), 12), 13)]。すなわち,「小テスト」「レポート」「出席」など個々の評価観点を絶対的規準として設定し，それらの統合・総合化において，最終的な評価基準によって単位認定をしようとするものである[10)]。評価の観点となる「規準＝ criterion」と最終的な判断の「基準＝ standard」を考慮し，教育過程に細かな目標を設定することで，高い教育効果が期待できる。しかし，一方でこうした細分化した成績評価には，成績管理（点数の記録や計算など）に時間がかかるという難点がある。履修者数が 100 人を越えるような科目では，期末試験の採点だけでも大変な負担であり，同じ時間をかけるのならば，学生にフィードバックする方に重点を置くべきという議論もある。教育効果と教員の負担のバランスをどうとるかは難しい問題である。

しかし，成績評価の厳格化や説明責任達成においては，評価方法に関する工夫が重要である。たとえば，GPA（Grade Point Average）という制度では，最終的な点数（100 点満点）を共通の基準とし，さらに獲得点数別に与えられるポイントを平均することですべての教科の成績を同じ重み付けで比較可能にし，その統一性ゆえに社会的な判断材料ともなる。点数化する方法・材料は個々の規準から導かれることになる。このように，A, B, C などのグレードを点数で基準化することには批判もあるが，学習者や社会に対して基準に照らし合わせた成績評価結果を明確にすることができる。日本技術者教育認定制度（JABEE）等もこうした教育の質の保証，説明責任

10）高浦勝義『絶対評価とルーブリックの理論と実際』，黎明書房：名古屋，2004 年，38 － 58 頁.
11）梶田叡一『教育評価　第 2 版補訂版』有斐閣双書：東京，2002 年，1 － 83 頁.
12）安藤輝次編著『評価規準と評価基準表を使った授業実践の方法　ポートフォリオを活用した教科学習, 総合学習, 教師教育』黎明書房：名古屋，2002 年，36 － 77 頁.
13）B.D シャクリー他，田中耕治監訳『ポートフォリオをデザインする　教育評価への新しい挑戦』ミネルヴァ書房：京都，2001 年，133 － 147 頁.

に答えようとするものである。

いずれにしても，要は学習内容に対応した個々の評価規準をどのように用いているかが重要なのであって，その議論が深められていない義塾の現状は改善すべきである。そこで，第3章2.「成績評価方法に関する実態調査」では，成績評価方法の実態を把握するため，講義要綱に記載されている情報のデータ化・外国語科目の実態に関する調査結果・学生アンケートにおける成績評価関連項目の結果をまとめた。今後，これらの結果を利用し，各教員や各系列の教科ごとに，どのような評価規準が採用されるべきか，という点の議論と共通認識の形成が必要なのである。

評価規準・観点とする内容については，図1に示す「教育目標の類型と領域」が参考となる[14]。教育の領域には「認知」「情意」「精神運動」があり，その類型に「達成」「向上」「体験」の各目標を立てることができる。認知的領域とは知識の獲得を中心とするもので，精神運動的領域とは技術の獲得（実験・芸術・体育など）に関わるものである。こうした領域間では評価規準が異なることは当然である。また，情意的領域とは，意欲や態度の形成から個々の成長保障を目指すもので，近年注目される「インターンシップ」「ボランティア体験」などもこの領域に近いと考えられる。現在義塾の目標に掲げられる「感動教育」もこの領域を基礎とするものとなろう。しかしながら，成長保障を目指す向上・体験目標は評価として測定（判断）しにくいという特性もあるのである。新たな知をめぐる教養教育の充実において，教育目標に対応した成績評価方法の検討も重要な課題である。

図1

教育目標の類型と領域　　**梶田，加藤，板倉など**

領域＼類型	達成目標	向上目標	体験目標
認知的領域	知識・理解	思考力・判断力	（発見・納得）
情意的領域		関心・意欲・態度	（実感・感動）
精神運動的領域	技能・表現	（熟達）	（技術的到達度）

学力保障（学びの指導）
＊測定しやすい

成長保障（育ちの援助・支援）
＊測定しにくい

2. セメスター制度，履修登録，シラバス問題

1）セメスター制

現在，慶應義塾大学では，表面的には全学的にセメスター制が導入されたことになっている。しかし，実際には通年半期制と呼ばれるシステムが，採用されている。つまり（学部によって多少の違いはあるが）通年制部分と半期制の部分との組み合わせとなっており，一般に授業自体は半期単位で行われるが，履修登録は基本的には春のみに可能であり，成績も春学期の終了時には学生に知らされない学部もある。留年の決定も学期単位ではなく，基本的に学年単位となっている。この制度においては，あとでも述べるように，各学期に達成度を把握した上で先に進むセメスター制度の最大のメリットも，1年間学生をひとつのクラスにおくことによって一定程度のレベル達成を目指す通年制のメリットも，いずれも生かすことができず，いわば通年制とセメスター制のデメリット同士をつなぎ合わせたようなシステムと言わざるを得ない。

これは，セメスター制を導入すべきであるという日本の大学行政における大きな流れに順応しようとする力と，年に2学期の学事業務をこなすことは現在の体制では事実上不可能であるということから生じた妥協の産物であった。

そもそも，セメスター制導入の議論は，大綱化の時期から始まってはいた。しかしその後，セメスター制の問題は，慶應義塾大学においては，この制度に賛成か反対かの両論に意見が分かれ，高度に政治的な問題と化してしまった。その間の議論において，留学に出る場合の履修や単位の取り扱いや，9月入学の問題など，比較的些末な問題に焦点が当てられ，セメスター制の持つ本質的な意義があまり理解されてこなかったということがいえるだろう。

現在の通年半期制という矛盾したシステムを克服するためには，セメスター制のメリットとデメリットについてもう一度捉え直す必要がある。本研究会

ではその作業を行っていった。

セメスター制・通年制のメリットとデメリット

セメスター制および通年制のメリットとデメリットは，次のようにまとめることができる。

★セメスター制のメリット

①学期ごとに達成度を測りながら，達成度別のクラス編成が機動的に行える。

② 単位を落とした場合，比較的短期に再履修を終えることができる。

③ 多様な積み重ね型のカリキュラムを組むことが可能となり，学生の選択の幅が広がる。

④ 海外留学などを行った場合，留学前後半年間、計2回のブランクをつくらなくて良い。

★セメスター制のデメリット

① 履修登録と成績評価を年に2回行わなければならないため教員・事務作業の負担が増す。

②ある学問体系の基礎をきちんと教えるためには，半期では足りない。

③学年の前期（春学期）に履修者が集中する傾向にある。

★通年制のメリット

①ある分野に関しあるまとまった内容を一定のレベルまで教えることができる。

②履修学生同士，学生と教員の交流をより深めることができる。

③前期成績不良による再履修の際に生じる著しいモティベーションの低下が避けられ，後期に挽回のチャンスが与えられる。

★通年制のデメリット

① 1年間履修を縛るため適性や習熟度に合わせた機動的な履修ができない。

②ある授業を落とした場合，再履修に最低2年間かかる。

③科目選択の幅は比較的狭くなる。

以上のように，メリットとデメリットは当然ながら，表裏一体の関係にあるので，それらの性質をよく理解しながら学期の制度を考えていかなければならない。

現在の通年半期制の欠陥

現在，各学部はセメスター制を部分的に導入し，上記のような通年半期制を取っている（授業は表面的には春・秋に分かれているが，実質的には旧来の通年科目を単に2分割しただけのものが多く，履修登録は年に1回のみ可能）が，その問題点は，次のように要約できるだろう。

・段階的に達成度を測りながら履修をさせるという，半期制の最大のメリットが生かされていない。

・学生に選択の機会は増やしたが，広く浅く型の履修を助長し，ひとつの分野の知識を，より高いレベルまで体系的に学習させることを難しくした（すなわち秋学期に新たに加わった学生に，春学期で説明した基礎的な内容をもう一度説明しなければならない）。

・授業は春秋2つに分かれているのに，秋学期に履修登録ができないという学生の不満を生じさせた。

つまり，現在の通年半期制は，通年制と半期制，両者のメリットを組み合わせたというより，デメリットを組み合わせたという面が大きい。

もちろん，一部の学部，一部の科目においては春学期終了時に，成績が公表されるといったように，前進が見られる点もある。上述の問題を解決するためには，既に動き始めたセメスター制度が実効的に機能するように改善していく必要があるだろう。

学年制の問題

従来，慶應義塾大学をはじめ，多くの日本の大学は，学年制のシステムを前提にカリキュラムを構築

してきた。学年制は，各学年に履修するべき学習内容を細かく規定し，その内容を達成できた時点で次学年に進むことを認める制度である。学年制は，あらゆる学生がある程度横並びで先に進むことを前提とした制度である。それを前提にする限りでは，通年制は合理的なシステムであったと言うことができる。専門教育を中心とするカリキュラム構成の場合，このシステムは合理的に機能する。現に慶應義塾大学でも，医学部は学部のカリキュラムが完全な学年制で構成されており，「単位」という概念が希薄である。

完全なセメスター制の実施によって，学年制の意味は薄らぐことになる。というのもそもそもセメスター制は，資質と興味に併せて多様な科目を履修することを可能にし，達成度を短期間で測った上でさまざまな単位を取得し，上位のレベルに進むことを目的としたものだからである。したがって，セメスター制が導入されると，学年制が前提にしていた横並びの進級制度は，あまり意味をもたなくなる。セメスター制は，一定の科目を必ずしも全員が同時に取る必要のないシステムだからである。

学年制のシステムでは，一般教育において，さまざまなレベルの学生の能力を最大に引き出すような教育は実現しにくかった。とにかく単位数を集めれば良いというかたちでしか，カリキュラムに規定されてこなかったからである。そのため比較的履修のしやすい，あるいはしやすいと噂される科目に履修が集中し，いわゆる「楽勝科目」が生まれることになった。この問題は，半期ごとの科目のレベルを細かく設定した上で，積み上げて授業を取ることで改善することができる。

セメスター制完全導入によってクラス数が増えるか

セメスター制の導入の問題点として，しばしば挙げられるのは，授業数が倍に増えてしまうという懸念である。しかしこれは必ずしも正しくない。表1の例1は，1年2学期で完結するような科目の設定必要クラスの試算である。履修者500人，クラス・サイズの上限40人，落第率を10％と設定している。この場合，クラス数は春学期に2クラス増加をする必要がある。つまり倍増ではなく，若干数増やす必要があるという程度に留まる。しかも1学期目のクラス・サイズの上限をやや多めに設定するなどの工夫をすればクラス増設の必要性はさらに減る。例えば，第1学期目のクラスのサイズを46人まで増やせば，クラス数は通年制の時と同じ14にすることができる。その分秋学期の平均クラス・サイズは縮小しているので，よりきめの細かい指導をすること

表1

例1：履修対象学生が500名の科目で，40名程度をクラス・サイズとした場合，通年制と半期制の必要クラス数の比較。
（1名未満は切り上げて試算）

履修基礎数	500	及第率	90%
クラスサイズ　通年	40	落第率	10%
クラスサイズ 1学期目	40		
クラスサイズ 2学期目	40		

通年制の場合	初回履修者	2回目履修者	3回目履修者	履修者合計	クラス数	クラス人数平均
通年	500	50	5	555	14	39.64

半期制の場合	初回履修者	2回目履修者	3回目履修者	履修者合計	クラス数	クラス数合計	クラス人数平均
春学期　1学期目	500	5	1	506	13	16	38.92
春学期　2学期目	45	45	1	91	3		30.33
秋学期　1学期目	50	1	1	52	2	14	26
秋学期　2学期目	450	5	5	460	12		38.33

表 2

例 2：履修対象学生が 100 名の科目で，20 名程度をクラス・サイズとした場合，通年制と半期制の必要クラス数の比較。いくつかのクラスで春学期の収容人数を 1 名増とすれば，半期制にともなって設置クラスを増加させる必要はない

履修基礎数	**100**	及第率	**90%**
クラスサイズ　通年	**20**	落第率	**10%**
クラスサイズ 1学期目	**21**		
クラスサイズ 2学期目	**20**		

通年制の場合	初回履修者	2回目履修者	3回目履修者	履修者合計	**クラス数**	クラス人数平均
通年	100	10	1	111	**6**	18.5

半期制の場合	初回履修者	2回目履修者	3回目履修者	履修者合計	クラス数	**クラス数合計**	クラス人数平均
春学期　1学期目	100	1	1	102	5	**6**	20.4
春学期　2学期目	9	9	1	19	1		19
秋学期　1学期目	10	1	1	12	1	**6**	12
秋学期　2学期目	90	1	1	92	5		18.4

ができるだろう。

たしかに，1 クラスしか設置されない科目について，春開始，秋開始の両方を設定すれば，クラス数は倍増するが，その場合は春開始か秋開始のどちらかに限定して授業を設定すれば良い。また，半期完結の科目をなるべく秋に設定するなどの工夫をすれば，通年制のときと同数の設置コマ数で運用をすることができる。

もちろん，実際には学生はさらに複雑な動きをするので，この試算通りにはいかないであろう。しかし，セメスター制によって設置コマ数を大幅に増やさなければならない，という懸念が誤りであるということを理解するには役立つであろう。

セメスター制が必ずしも，設置時間数増加につながらないもうひとつの理由は，次の通りである。すなわち，旧来の通年制では，一度落第すると学生はその授業の単位を取得するのにまる 2 年かかっていたが，一度の落第であれば最短で 1 年半で履修を完結させる可能性が開ける点である。1 学期の失敗を 1 学期で取り返すことができる制度は，明らかに学生にとってメリットである。

以上の観点から，セメスター制が共通の制度として定着しつつある現在，これを有効に機能させていくように改善していく必要があるだろう。そのためには，進度を学期ごとに確認しながら先に進んでいくことができるということと，やり直しが繰り返しきくというセメスター制のもつ良さを生かしながらも，単に単位の数合わせにならない制度を導入する必要がある。以上の理由から，本報告書では，① 秋学期の履修登録が可能なセメスター制度を実施すること，② 授業をレベル分けし，授業の達成目標を明確化し，順次高いレベルに進むことを誘導するシステムを作る積み上げ型のセメスター制を作る，という 2 点を提言している。

2）履修登録制度・システムについて

秋学期履修登録は，現状で難しいという事務サイドの判断はある。それは，履修登録にあたってはそれぞれのクラスの事情に合わせ手作業で行わなければならない作業があまりにも多く，それを一定の締め切りまでに短期間に済ませることが非常に難しいからという事情がある。いくつかの問題の事情を挙げるならば，以下の点が指摘される。

・クラス編成の決定の時期から履修登録までの期間が極めて短い。
・科目のバッティングの調整に非常に大きな手間がかかる。
・履修制限を行う科目の方法が多様であるためその対応に人手を必要とする

・学生の履修登録の入力ミスなどの対応は個別に行わなければならない
・教員の履修許可のやり方もまちまちで，教員の誤記入も個別対応しなければならない

たしかに，慶應義塾大学では科目数も非常に多く，多くの例外処理に手間がかかるのは間違いない。しかし，これは人的な手当とシステムの改善で，いかにしても対処しなければならない。それは，以下の理由からである。

学生の要望

本研究で行った「学生アンケート調査」によれば，秋学期に履修登録ができるようにしてほしいとする学生の要望は非常に強い。アンケートでは，81.1％が「そう思う，どちらかといえばそう思う」，と答え，「そう思わない，どちらかといえばそう思わない」16.3％を大きく上回る（図 2）。

これは，秋学期に履修登録ができないという通年半期制の矛盾を，学生たちが感じ取っている結果であると見ることができる。

秋学期登録とセメスター制

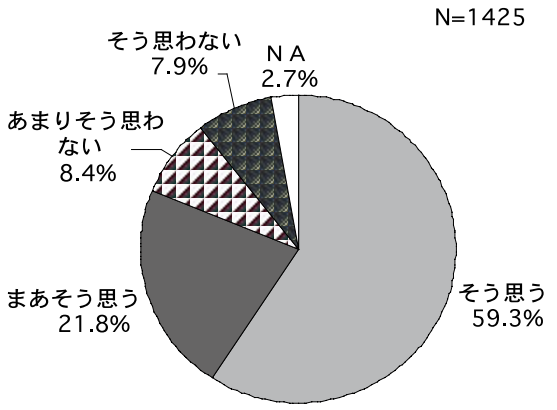
秋学期の履修登録を行わなければ，半期制はきちんと機能しない。なぜならば，半期制のメリットはある一定の単元の修了を段階的に確認することにあるからである。このことは，そもそもセメスター制を導入するときから論議しなければならなかったことであるが，登録システムの急な変更は不可能であるなどの事情から，通年半期制という妥協が取られたといっても良いし，それ自体はその時点ではやむを得なかった。

問題解決に向けて

問題の多くは，履修登録システムを改善することで克服できるであろうし，克服しなければならない。システムの改善にあたっては，一時的に人員を増加して対応した上で，その間に履修登録に伴う，クラス編成やクラス調整の作業，教員の作成する履修許可者名簿をシステムに反映させる作業や，履修抽選作業，誤記入への警告などに対応するための自動化されたシステムを準備すればよい。システムの自動化などで対応することができるだろう。これには，たしかに初期的にある程度のコストがかかるが，一度作成して稼働させれば，大きな負担軽減につながる。諸企業で行われている作業の IT 化を進めて生産性を高める努力を規範とすれば，履修登録のシステムを開発することは現在の技術水準からいってとりわけ困難なものでもない。実際にこうしたシステムを導入することによって履修登録を効率化して，学生サービスの向上を行った例は，国内でも数多く報告されている。

図 2

問 13. あなたは，すべてのキャンパスの授業について秋学期開始時に履修登録ができるようにすべきだと思いますか。（単一回答）



3）講義要項（シラバス）について

現在のシラバスが抱えるいくつかのジレンマ

学生はシラバスをあまり見ていないのではないか，という疑念はしばしば教員からあげられる。「学生アンケート調査」によれば，学生たちは，講義要項（シラバス）は，最も重要な情報源であると見なしている（図 3）。

しかし，個別の自由回答ではシラバスについての不満が非常に多く寄せられている[15]。シラバスだけでは，これまでの授業の様子や既に履修した学生の感想など，

図 3

問 7. 授業を選択する時に，時間割以外で，最も参考にした情報は何ですか。（単一回答）

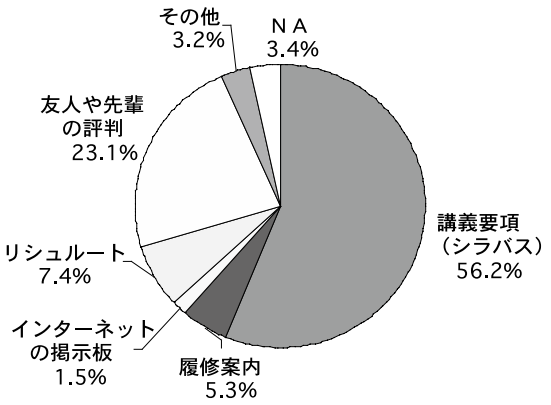
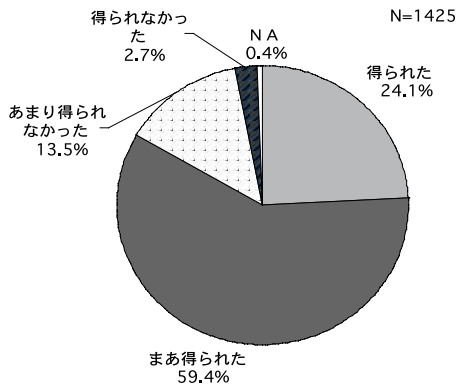


図 4

問 9. 講義要項（シラバス）であなたが重要だと思う情報は得られましたか。（単一回答）



学生が参考にしたい情報が得られない。また，すでに 1 で述べたように成績評価方法やその記述内容ですらかなりばらつき，不満要因になっていることが分かる。

また，シラバスを受け取ってから履修登録を行うまでの時間があまりにも短い。また，厚すぎて全部を見る気がしないとか，知りたい情報をもっと詳しく説明してほしい，といった一見決して両立しない要望も数多く寄せられている。

また，「学生アンケート調査」では，大多数の学生が，シラバスで得たい情報が得られたと答えている（図 4）。しかし自由記述では，「シラバスの内容が授業とあっていない」，「シラバスで得られない情報を得るためにガイダンスを実施してほしい」，「シラバスの内容は不十分である」という回答をしている。これもまた矛盾する結果である。ここでは，「得られた」という回答より，「どちらかといえば得られた」という回答が倍以上の数字になっているということに注目する必要があるだろう。また，自由記述欄には非常に多くの改善提案が寄せられており[15]，全体としては仕方ないとは認めつつも，このままで良いとは学生たちも考えていないという傾向が読み取れる。つまり，多くの科目では，ある程度学生が納得する情報が提示されているが，科目によって学生の納得の度合いが，著しく異なるということを表していると解釈することができる。

実際，教員に対するシラバス原稿の締め切りは，年々早められてきて 2007 年度の場合，依頼が 11 月中で，12 月初旬には締め切られる。在校生への配布は春休み中に行われるが，実際に多くの学生の目に触れるのは 4 月となる[16]。シラバス原稿が教員の手を離れてから，学生の手に入るまでに実に 4 カ月もの時間がかかっていることになる。もちろん，慶應義塾大学の科目数は非常に多く，分厚い講義要項の編集に多大な時間と労力を要するのは間違いない。

以上の分析から，シラバスの製作に関しては，いくつかのジレンマを抱えているということが分かった。すなわち，1）学生は多くの情報を望んでいるが，それを提供するために持ち運べない分量になってしまっている。2）統一的な編集方法によって大多数の学生と大多数の科目に関してはほぼ満足のいく結果を出しているが，記述内容の不統一は著しい不満を生じさせている。3）学生の選択肢を高めるための情報が多いのは良いがそのためにシラバス編集に多大な時間と労力がかかる。

15）本報告書には、その内容は掲載しないが，データベース化して教養研究センターに保管し、必要に応じて各学部のカリキュラム委員会等に提供する（74 頁参照）。

16）もっとも，学事センターではシラバスは 2 月下旬頃に完成させ，新入生への配布は入学手続き時に行われる。また，インターネットに公表されているものも pdf のみで検索をしたり，全体を見渡すのは難しい。

シラバス改善に関する学生の要望

シラバスの改善に関して，学生は次のようにアンケートに答えている（図5）。

すなわち，多くの学生が，記述を減らすのではなく増やして欲しいと考えている。また，かつウェブでの閲覧に多くの学生が期待を寄せている。一方，携帯での閲覧は否定的であることがわかる。

新しい電子媒体シラバスの導入

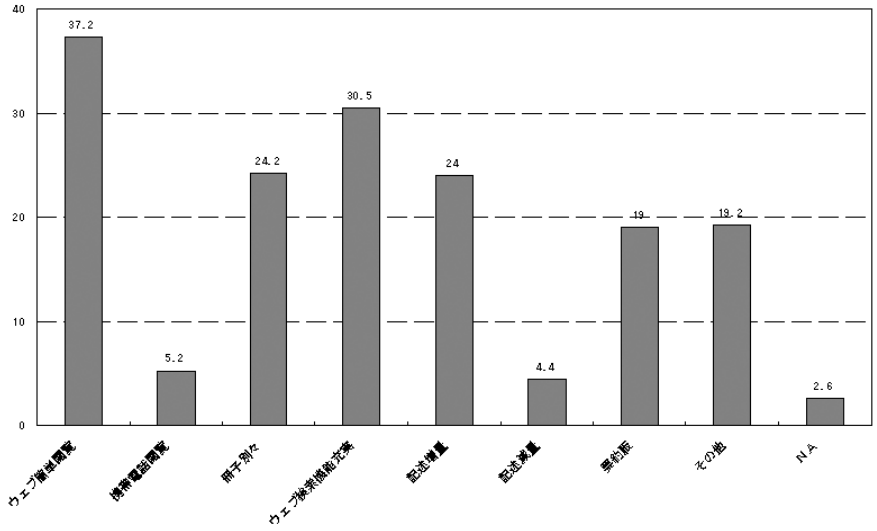
これらの問題は，旧来型の紙媒体によるシラバス編集の限界を表しているということができるであろう。それには，電子媒体と紙媒体の情報配布の組み合わせた新しいシラバス編集システムを数年かけて開発することで解決できるように思われる。これに関しては，いくつかの可能性が考えられる。

・紙媒体の講義要項は最小限にし，電子媒体のシラバス公表システムを開発する
・電子媒体のシステムは，教員のシラバス提出，科目設置母体ごとのとりまとめ，公表，訂正，時間割・教室公表などのプロセスを一元化したCMS（コンテンツ・マネージメント・システム）とする。
・一定のルールの下に，科目設置母体や科目設置責任者，担当者が情報の追加や修正が，随時できるようにする。
・学生が得たいと思う情報をすぐさま得ることができるような工夫をする。（検索機能，とりまとめ比較機能，自己の目的専用のシラバス印刷機能などの充実）
・講義要項CMSは，履修登録システム，教員の情報公開システムや教育支援システムともリンクできるようにする。

以上のプロセスには，おそらく最低でも数年の年月を要するであろう。また，相当期間の移行期間の間は，紙媒体の制作費とシステム開発に二重の支出をしなければならないという問題はある。しかし，体力があるうちにこうした改革を怠らないようにしなければ，慶應義塾の未来は開けないだろう。また，ソフト開発会社に丸投げしたり，一部の職員や教員で作り上げることは不可能である。より使いやすく，学生本意のシステムにするには，教職一体のワーキングチームを作り，学生の声をできるだけ反映したものとするべきである。

図5

問10. 講義要項（シラバス）をあなたはどのように改善すれば良いと思いますか。（複数回答）



3. 日吉設置学部共通科目（総合教育科目）の問題点

ここまでに慶應義塾大学におけるカリキュラムのさまざまな問題点が指摘した。今後，塾で学ぶ学生，そしてそこで教鞭を取る教員のために，より良い学習・教育環境を整えていかなくてはならないことは明らかである。このような状況下，日吉キャンパスが担う役割は大きいと思われる。なぜならば，慶應義塾大学の大半の学部生にとって，つまり湘南藤沢キャンパスに拠点を置く総合政策学部，環境情報学部，看護医療学部に所属する学生を除く学部生全員にとって日吉キャンパスは，学生生活のスタートを切る場所であり，ここでの経験がその後の学生生活に大きく影響していくからである。それだけに，日吉キャンパスにおける各学部のカリキュラムの見直しが早急に求められていることは，疑いの余地がない。

しかしその一方で，専門課程が置かれている三田，矢上，湘南藤沢，そして信濃町の各キャンパスの視点に立つと日吉キャンパスは，専門課程導入の場，あるいはその準備の場としか捉えられていない傾向も見られる。このような考え方の下では，日吉で設置されている，各学部共通の科目，いわゆる「総合教育科目」は，学生の目からも教員のそれからも，とりあえず何かを学ぶ，あるいは単純に単位を埋めていくための授業と見られてしまうことになる。これでは，日吉キャンパスにおいての学習環境の充実を見込むことは困難である。

そこでまず，日吉設置学部共通科目（総合教育科目）が，教養教育の観点からいかに重要で不可欠な授業であるかということを再確認する必要がある。そしてそれに基づき具体的なカリキュラム改革を行わなくてはならないように思われる。これにより，日吉キャンパスで学生生活を始める学生たちにとって，できるだけ早い時点から，4年間という短い学生生活の全体を見据えた，自分なりの学習が行えるような環境を構築することが可能となるであろう。その結果，従来どおり専門課程を主なターゲットとした履修パターンを選択する学生も多数存在することになるであろうし，これとは別に，あるいはこれに加えて，学部の枠にとらわれないさまざまな可能性と方向性を視野に入れた勉学を行っていく学生も，今後は数多く出てくることになるであろう。いずれにせよ，教養教育の充実を図ることにより，日吉キャンパスでの経験が，それぞれの学生の人生の基盤となり，そしてそれが将来へ確実に結びついていくようになると考えられる。

以下は，第1章で行った提言の基盤となった，現時点における日吉設置学部共通科目（総合教育科目）の問題点と，これら科目と各学部における現行カリキュラムとの間に生じている問題点を述べたものである。なお本研究では，アメリカのリベラル・アーツ・カレッジのカリキュラムの調査を行った。調査報告については，次章にまとめた。

問題点

①日吉設置共通科目（総合教育科目）の理念・目標の欠落

近年における，日吉キャンパスで開講されているおびただしい数の総合教育科目の実情は，『日吉設置学部共通総合教育科目の現状と問題点―将来への提言を含めて―』（教養研究センター「基盤研究報告書」，2005）で行われた調査研究まで十分に把握されることがなかった。この報告書により，日吉キャンパスで展開されている総合教育科目のさまざまな問題点が明らかになったが，その中で，「総合教育科目」に理念・目標が欠落しているという点は，もっとも早く解決しなくてはならない項目であると判断される。理念・目標が確立されない限り，それぞれの授業の位置づけ，性格，そして方向性などを議論することさえできない。結果，それぞれの授業の間に連携が欠け，明確な目的を提示しないまま授業を展開している例が少なからずある。また，場合によっては，同じような内容を持つ授業が，調整なく多数存在するというような状況もある。また，それ

ぞれの授業の位置づけ，目標が明確化されない限り，成績評価の問題，FDの問題などは，解決の糸口さえ見つけることができなくなってしまう可能性もある。

全塾レベルでの教育理念としては，「塾の教育理念は『独立自尊』に凝縮されている」(2006年度『入学案内』より）を挙げることができるかと思われる。しかしながら，この「独立自尊」とは正確にどのようなものであるという説明は，理念という形での一般的な提示は，残念ながら行われていない。

この福澤諭吉の言葉を基本理念として，各学部はある程度ながらそれぞれの学部における教育理念を掲げている。「公に対する私」「集団に対する個人」「プロフェッショナルに対するアマチュア」（文学部），「世界経済をリードする指導的経済人の育成」（経済学部），「自ら物事を判断できる平衡感覚や能力を有するリーガルマインド」（法学部），「実学の精神」（商学部），「独立性と人間性の重視」（医学部），「創発」（理工学部），「問題発見・解決」（総合政策学部・環境情報学部），「躬行実践を以って全社会の先導者たらん」（看護医療学部）などの文章を目にすることができる[17]。

しかしながら，このような文章が確固たる理念・目標として全面的に表に出されているかというと，必ずしもそうではない。例えば，上記の文章と履修案内，入学案内，学部HPなどで見ることができる各学部の学部長の挨拶などとの間には，ある程度の隔たりが見られる。ちなみに，『塾』2006年冬号では以下が書かれている（抜粋）。

> 文学部：「幅広い真の意味での教養と高度な専門性を身につけた卒業生・修了生を送り出すために，味と深みとゆとりのある教育・研究を日々行っている。」
>
> 経済学部：「精緻な知的訓練と広範な論議を通じて，現実の経済社会を認識し評価する知性を磨くことをひとつの目的としています。」
>
> 法学部：「新しい出会いを創造」
>
> 商学部：「思考力・論理力・分析力・判断力を養成し，国際的に活躍できる人材の輩出を主目的としています。」
>
> 理工学部：「（育成すべき人材は）分野横断的な視野と，物事を纏め作り上げていくことができる統合力を持ち，国際舞台で活躍できる逞しい人材です。」

これらは，学部が定めている理念を発表している正式な文章ではない。むしろ，各学部の学部長が，それぞれの学部での教育内容をわかりやすい言葉で語っているものである。つまり，理念を示すことができる絶好な場においても、明確にそれが示されていないのが現状である。

このような状況下各学部が，専門科目より格下に見られる傾向がある日吉設置学部共通科目（総合教育科目）について，それぞれの学部で行われている教育の観点から理念・目標を設定するということは，容易に検討されるものではないように思われる。さらには，学部共通として開講されている総合教育科目の理念を，各学部が共同で設定していくということは，現況では想像することさえできない。しかしながら，教養教育の充実という観点からは，日吉設置学部共通科目（総合教育科目）の独自の理念・目的を設定することが不可欠であり，もっとも最初に取り組まなくてはならない課題である。

②日吉設置学部共通科目（総合教育科目）に属するそれぞれの授業の位置づけ，目標，目的の設定が行われていない，もしくは不明確である。また，それぞれの授業の間に関連性が存在したとしても，それは学生の視点からは見えにくい。

現状においては，日吉設置学部共通科目（総合教育科目）には緩やかな区分のみが存在している。学生の視点に立つと，属する学部のカリキュラムの中において，それぞれの「総合教育科目」の授業が，どの単位を充足するためのものであるかということは容易に理解できる。しかしながら，カリキュラム全体を通して，もしくは学生が考える学習プランにおいて，それぞれの授業がどのような役割を持って

いるものなのかということを見出すことは，かなり困難を伴う場合がほとんどである。それぞれの授業が「総合教育科目」の文系科目に属しているというようなことしかわからないような授業の位置づけは，単位を充足するという視点を除けば，学生が学習プランを立てていく際，何ら役に立たたない。

もちろん，履修案内を見れば授業名から，それぞれの授業がどのような内容の学問的トピックを取り扱っているかということは容易に理解できる。しかしながら，これだけではやはり，それぞれの授業が，他の授業とどのような関わりを持っているかということを把握することは極めて困難である。ある授業を履修することにより，その授業から今後，他のどのような授業を履修することで，どのような学問的発展が期待できるのかというようなことは，現状の授業の状況からはまったく見出すことができない。それぞれの授業の位置づけ（レベル設定を含む）・性格づけを行い，それらが他のどのような授業とどのような関連性があるのかということを，学生に明確に示さない限り，これまで多くの弊害を生んできた，単位収得を主眼に置いた履修パターンや，いわゆる「楽勝科目」と呼ばれるような授業をゼロにしていくことは不可能である。また，学生が何かを目指して学習プランを立てようにもその学生は，現状では路頭に迷ってしまう確率が高く，結果，学生が持つ可能性を否定してしまうような状況を生んでしまうことも多々あるように思われる。

③学生の独立心を促すような，あるいは幅広い学問的興味を呼び起こす，学部の枠を越えた副専攻制度，ダブルメジャー制度，学生がデザインするオリジナル専攻・副専攻制度などを視野に入れた，方向性が見える，日吉設置学部共通科目（総合教育科目）を基盤としたカリキュラムの欠落。

アメリカのリベラル・アーツ・カレッジの教育理念とカリキュラムを検証してみると，教養教育が重要視されていることは明確である。そこで求められているのは，学生がさまざまなことを経験し学ぶということである。これを具現するためにアメリカのリベラル・アーツ・カレッジのカリキュラムは，多くの種類の授業の履修を学生に要求している。このため，日吉設置学部共通科目（総合教育科目）群に見られるように，アメリカのリベラル・アーツ・カレッジでは，学校の規模が小さい場合でも，実に多くの種類と数の授業が用意されている。しかしながら，両者の間の共通点はここまでで，アメリカのリベラル・アーツ・カレッジの授業の多様性と，日吉設置学部共通科目（総合教育科目）における統一性の欠如した授業群の間には，大きな隔たりがある。

日吉設置学部共通科目（総合教育科目）と異なり，アメリカのリベラル・アーツ・カレッジにおいては，各授業の位置づけ，性格づけ，そして他の授業との関連性が明確になっている場合がほとんどである。このためアメリカのリベラル・アーツ・カレッジの学生たちは，幅広くさまざまな事柄を学ぶことができると同時に，自らが学問の方向性を見出していくことができるようになっている。結果，卒業に必要となる主専攻のほかに，副専攻，ダブルメジャー，学生がプログラムを組み立てて成立させる専攻など，さまざまな形での学問の修得が実現化されている。これは，学生が勉学の意義を認識することができるようになるということだけでなく，学生自らが，自身が持つ可能性を最大限に引き出すことができるような学習環境であると捉えることができる。

日吉設置学部共通科目（総合教育科目）だけで主専攻を組み立てていくことは，これらの授業の目指すところではないように思われる。しかしながら，日吉設置学部共通科目（総合教育科目）を基盤とした，副専攻，ダブルメジャーなどの制度は，各学部のカリキュラムの一部として，または「総合教育科目」独自のプログラムとして，早急に実現していくべきである。これにより学生は，目的・目標を持っ

17）『2004（平成 16 年）年度慶應義塾大学点検・評価報告書―総括』，東京：慶應義塾，2005 年，12 － 15。

て独自の学習プランを立てていくということが考えやすくなっていくと思われる。

④日吉設置学部共通科目（総合教育科目）のカリキュラムの管理・検討・運営を統括的に行う組織の欠落。

現状では，日吉設置学部共通科目（総合教育科目）は，それぞれの学部が他の学部とほとんど議論・協議することなく継続して授業を設置している。そして各学部は，このように開講された授業を，慣習的に受け入れてきている傾向が強く見られる。つまり，日吉設置学部共通科目（総合教育科目）の学部間の相互乗り入れは，それぞれの授業の位置づけ，性格，重要度，目的などを検討されずに行われてきていることになる。このため，「総合教育科目」の授業の種類やレベルにはかなりの偏りが存在したり，授業名が多少異なるというだけで，授業の重複設置が見られたりする。このように効率が悪い，指向性の無い授業の設置方法からは，明らかに何らメリットを見出すことはできない。

日吉設置学部共通科目（総合教育科目）の授業それぞれに，位置づけ，性格づけ，そして方向性などを与えようとした場合，これを協議する運営母体が当然ながら必要となってくる。また，副専攻，ダブルメジャーなどの制度を実施する場合は，どのような授業を展開するべきなのかということや，どのようなプログラムであるべきなのかということを議論する運営母体も不可欠となる。アメリカのリベラル・アーツ・カレッジでは，これらのことは，学問分野などで区分されたDepartmentが責任母体となって授業を展開しているケースが目立つ。また，多様な学問分野に対応している授業や，概論的な科目については，関連しているDepartmentが連携を取りながら授業を展開している。いずれにせよ，現在の日吉キャンパスには，日吉設置学部共通科目（総合教育科目）を管轄・管理する委員会等はまったく存在しない。

なお，『日吉設置学部共通総合教育科目の現状と問題点―将来への提言を含めて―』（教養研究センター，2004年度基盤研究報告書 , p. 20）では，日吉設置共通科目（総合教育科目）を, 1)「文化知」, 2)「社会知」，3)「科学知」，そして4)「複合知」に区分している。このうち，「文化知」，「社会知」，「科学知」については，さらに細かい分類を行っている。すなわち「文化知」の下には,「思想･言語系」,「芸術･文学系」,「歴史・地域系」を，「社会知」の下には,「法律・政治系」,「社会・経済系」，そして「科学知」の下には,「物理･化学系」,「生命･心理系」,「技術･環境系」,「数理・情報系」という区分が設けられている。これらは，部門，部会の設立の参考になると思われる。

⑤現行の各学部のカリキュラムは，必ずしも教養教育をカリキュラムの核の一つと位置づけていない。

現状において，日吉設置学部共通科目（総合教育科目）を設置している学部のカリキュラムに，教養教育に重点を置いていると明確に断言できるプログラムが少ないように思われる。「総合教育科目」がすべての学部の学部教育の要の一つになっていくには，「総合教育科目」の履修を現状よりはるかに幅広く容認したカリキュラムを各学部が設定する必要がある。

多くの学生は日吉キャンパスで1・2年次を過ごすわけだが，ここで専門課程の授業，もしくは専門課程の基礎を学ぶような授業が数多く必修科目として存在すると，必然的に幅広い「総合教育科目」の履修が圧迫されることになる。このような体制下では，学生は卒業に直接影響する専門課程を重視し，どうしても「総合教育科目」を副次的な科目として捉えてしまう傾向が出てくる。これでは，充実した教養教育を目指すことは困難である。

また，日吉キャンパスで学ぶ学生のほとんどは，「総合教育科目」の授業を日吉キャンパスに在籍している期間のみ履修するということを慣例的に行ってきている。学部によっては，「総合教育科目」の履修を日吉に在籍している間のみ認めるというカリキュラムを施行しているところも存在する。このよ

うな習慣は，学生が「総合教育科目」を長期的にかつ方向性を持って履修するということを明らかに妨げている。3·4 年次などの専門課程においても，「総合教育科目」を専門課程の一部として――特に「総合教育科目」を副専攻やダブルメジャー・プログラムの一環として履修している場合――認定していくことが不可欠であるかと思われる。

日吉設置の専門課程の授業，もしくは専門の基礎と位置づけられている授業の見直し，および 3・4 年次における「総合教育科目」の履修の大幅な容認が実現しないと，日吉設置学部共通科目（総合教育科目）を核とした教養教育の充実は困難であると思われる。

⑥学部共通科目でない「外国語科目」,「教養研究センター設置科目」,「外国語教育研究センター」,「国際センター設置科目」などの学部設置ではない授業，さらには他キャンパス設置の専門課程の授業などとの連携の欠落。

日吉設置学部共通科目（総合教育）のみでは，理想的な教養教育の環境を作り出すことは困難である。「総合教育科目」以外の授業と連携を図ることで，カリキュラムが内包する可能性がより広がることも容易に想像できる。学問分野によっては，「外国語科目」が基礎の一部として不可欠なものもあることも考えられる。また，アカデミックな観点から外国語を用いて教養教育を行っているコンテンツ・ベースの「外国語科目」は，容易に「総合教育科目」と関連性を持つことで，より発展的なプログラムを展開することができる。また，各学部の専門課程の授業も，設置学部に所属していない学生を対象に門戸を広げることで，より多様な学習の展開が可能となる。

まとめ

日吉設置学部共通科目（総合教育科目）が抱える問題点を総括的に見ると，学ぶ視点からも教える視点からも「総合教育科目」を軽視しやすい環境が存在することが容易に判る。このような状況から一刻も早く脱却し，教養教育を学部教育の核と位置づけ，日吉設置学部共通科目（総合教育科目）を基盤としたカリキュラムの実現を目指すことが望まれる。

4. 外国語科目における目的別・習熟度別クラス編成と客観的成績評価方法の導入

昨今，外国語教育は大学が担う，また大学に求められている主要な機能の一つであると言ってよいだろう。そこには大きな期待が掛けられると共に，常にそれと表裏をなす批判にさらされている。慶應義塾大学においても，それらを先取りする形で，あるいはそうした期待と批判に応え，各学部においてカリキュラム改革が進められ，それぞれの必要と目標に沿った外国語教育が行われている。ここではその例として主に英語教育を取り上げながら，学習目的別・習熟度別クラス編成と成績評価法において，学部間に共通して見られる課題とその対応策について検討する。

文部科学省は，懇談会報告，答申，行動計画などを通じ，常に英語教育の現状と問題点を指摘し，進むべき方向を示唆してきた。もっともその内容は，学習指導要領が教科書執筆者への指針を示すに留まるのと同じく，必ずしも具体的なものではない。しかしそれらの文書は懇談会等を通じて聴取された意見に基づくものであり，結果として教育者，企業家を始めとする外部有識者の現状認識と要望を土台としている。つまりそれらの文書は監督官庁による提言であり，同時に社会あるいは「世間」が英語教育に求めているものの反映ともなっているのである。ここではそうした提言から特に 2 つを取り上げ，慶應義塾大学の英語教育の現状と照らし合わせることを試み，それよって提言の内容を吟味すると同時に，慶應義塾大学における英語教育が今後にいかなる課題を残しているかを検討する。

1）学習目的別・習熟度別クラス編成における成績評価の客観性

2002年（平成14年），文部科学省はそれに先立つ懇談会等にもとづき，「『英語が使える日本人』の育成のための戦略構想」[18]を発表し，つづく2003年（平成15年）には，それを踏まえた「『英語が使える日本人』の育成のための行動計画」[19]を策定した。後者は「今後5ヶ年で『英語が使える日本人』を育成する体制を確立すべく，2008年度（平成20年度）を目指した英語教育の改善の目標や方向性を明らかにし，」[20]そのための施策をまとめたものである。その第1項が「『英語が使える日本人』育成の目標」であり，そこには以下のように達成目標が示されている。

【国民全体に求められる英語力】
「中学校・高等学校を卒業したら英語でコミュニケーションができる」
中学校卒業段階：挨拶や応対，身近な暮らしに関わる話題などについて平易なコミュニケーションができる（卒業者の平均が実用英語技能検定（英検）3級程度）
高等学校卒業段階：日常的な話題について通常のコミュニケーションができる（卒業者の平均が英検準2級～2級程度）

【専門分野に必要な英語力や国際社会に活躍する人材等に求められる英語力】
「大学を卒業したら仕事で英語が使える」
各大学が，仕事で英語が使える人材を育成する観点から，達成目標を設定

またこれに続く説明には，「国民全体のレベルで，英語により日常的な会話や簡単な情報の交換ができるような基礎的・実践的なコミュニケーション能力を身に付けるようにすると同時に，職業や研究などの仕事上英語を必要とする者には，上記の基礎的な英語力を踏まえつつ，それぞれの分野に応じて必要な英語力を身に付けるようにし，日本人全体として，英検，TOEFL，TOEIC等客観的指標に基づいて世界平均水準の英語力を目指すことが重要である。」との補足がある[21]。

ここで注意しなければならないのは，前述の達成目標に想定される対象者比率である。上の引用からもわかるように，大学においては全学生に画一的な達成目標を課さず，卒業後の進路と必要に応じて在学中に実務的な英語力を養成することを目指している。つまり高校卒業程度から実務レベルにいたるまで，必要と進路に応じた英語教育のコース分けと達成目標の設定が提言されているのである。またここで言う「客観的指標」とは，例として挙げられているものが英検，TOEFL，TOEICであることからも分かるように，社会的に認知されている外部テスト，それによる成績評価を前提とした外部指標を指している。

個々の学生の必要と目的に応じたコース分け，英語力を計る上での外部指標の導入を始め，その他「行動計画」で提言されている施策の多くは，各学部においてすでに採用されているものである。多くの学部において，外国語科目の学習目的別・習熟度別科目編成が行われ，学生の多様な需要に応じた授業を提供している。また習熟度判定においても，すでに多くの試みがなされている。英語を例に挙げるなら，文学部では2006年度より必修科目に独自開発のプレイスメント・テストを導入し，それに基づいて英語読解力別のクラス編成を行っている。またこのプレイスメント・テストにおいては，導入後4年間のデータ蓄積の後に，TOEFL，TOEIC等の外部テストとの関連性を検証する予定である。商学部では，1・2年生に対してそれぞれTOEIC IPテストによるレベル分けを行い，それを踏まえたクラス編成を行っている。また理工学部も1・2年生に対する統一テストとしてG－TELPを実施し，習熟度別クラス編成を行っている。

いずれの場合も，外部指標を踏まえた統一テストによって科目履修の「入口」管理を行う一方で，成績評価と単位認定にかかわる「出口」管理においては，統一的な基準を採用するには至っていない。これは，英語がほとんどの履修者にとっては既習外国語である，という英語特有の事情によるものと考え

られる。履修者の習熟度はさまざまであり，またすでに基礎を終えているため，続く英語学習における目標設定は多様である。多くの学部ではこうした状況に対応して，複数のレベルあるいはコースを設置し，多岐に渡る授業内容を用意している。皮肉なことに，そうして学生のさまざまな需要に応えた結果，学習成果を計るに当たって統一的な基準を用いること，またそれによって成績評価を客観的に行うことが困難となっているのである。

しかし，何らかの方法で科目あるいはコースごとに設定された客観的到達目標を明らかにし，その上で履修者がいかなる達成度にあるかを示さなければ，認定された単位，与えられた成績評語の意味を客観的に提示することは出来ない。文学部と理工学部で行われているような成績評語の傾斜配分（レベルの高い科目ほどＡの比率が多い）も，それによって示すことができるのは，同一カリキュラム内でのレベル間の相対関係のみである。学習目的別・習熟度別カリキュラムの意義を損なうことなく，その上で成績評価の公正さを保つためには，何らかの客観的成績評価法の導入が必要である。またそれによって，学部間，大学間での履修乗り入れや単位交換のプロセスを明かにし，学外に対して学生の習熟度・達成度を客観的に示すことが可能になると言う副次的効果も期待できるであろう。

客観的成績評価法として最も簡便なのは，TOEFL，TOEIC のような，細かく数値化され，すでに社会的に受容されている外部テスト，及びそれに基づく外部指標の導入である。すでに第１章（24～25 頁）でも述べたように，授業内容と達成目標が，そうした外部テストが想定する測定分野領域と合致する場合には，この選択は合理的であり，換算式を明示した上で，外部テストによる習熟度評価をそのまま成績評語へと読み替えることも可能である。外部テストを導入せず，個々の授業内容により即した独自テストを用いる場合でも，外部指標との相関関係を明らかにすることにより，成績評価の客観性を維持することができる。

しかしながら，授業内容がこれとは異なり，TOEFL，TOEIC 等が計測対象としていない領域に渡る場合，こうした外部指標の導入は意味をなさない。たとえば TOEFL が想定しているのは，北米の大学に留学し，学部１・２年レベルの授業を英語で受講するのに必要となる能力の判定である。加えて試験システムの制約から，多くの外部テストでは「読む・書く・聞く・話す」の４技能を網羅的に計測すること，あるいは複合的な技能を計測することを想定していない。こうした限界は，基本的に計ろうとするものしか計れないという，テスト一般の限界でもある。従って，例えばディスカッション，パブリック・スピーチ，アカデミック・ライティング，古典あるいは文学領域に及ぶような高度な読解訓練といった授業の達成度を計るためには，前述のような既存の外部テストは有効であると言い難い。かといって，それぞれの科目に即したテストを新たに開発し，数値化された成績評価を得たとしても，異なるテストを用いる科目間で成績評価の公正さを維持することは不可能である。

既存の外部テストでは計ることの出来ない領域の習熟度・達成度を記述するにあたっては，学生ごとの学習履歴を記述的に記録する「ポートフォリオ」や「Can － do List」の採用が検討されるべきだろう。第１章（25 頁）に述べたように，こうした方法は慶應義塾においても各所で導入が検討されつつ

18）「『英語が使える日本人』の育成のための戦略構想」，2002 年（平成 14 年）7 月 12 日，文部科学省審議会情報（英語教育改革に関する懇談会），http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/020/sesaku/020702.htm

19）「『英語が使える日本人』の育成のための行動計画」，2003 年（平成 15 年）3 月 31 日，文部科学省報道発表資料，http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/15/03/03033101.htm.

20）ibid.

21）「『英語が使える日本人』の育成のための行動計画」計画書，2003 年（平成 15 年）3 月 31 日，文部科学省報道発表資料，http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/15/03/03033102.pdf

あり，大学においては，経済学部ドイツ語部門のように，独自システムを開発し，すでに試験運用へと踏み出そうとしている例が存在する。

しかし「ポートフォリオ」等を，学習支援のための習熟度・達成度評価法としてではなく，各学部における成績評価システムの一部として導入するためには，未だ多くの課題が残されている。第一に問題となるのは，従来から行われてきたＡからＤあるいはＰかＦの評語を用いる成績評価システムとの整合性である。評語による既存の成績評価システムを再考しない限り，「ポートフォリオ」等による達成度評価は，言語学習における習熟度・到達度を記録し，それによって学生の自立学習を促すという機能を果たす一方で，成績評語との相関関係を確立した上で，評語の示すものの詳細な内容を明らかにするという役割を担わざるを得ない。「ポートフォリオ」の記述内容と成績評語が連動しない，ましてや時として矛盾するようでは，双方の信頼性を損なうばかりである。両者の相関関係を確立するためには，まず「ポートフォリオ」記述の前提となる共通基準の確立，その上での各科目，各カリキュラムに対応した調整が行われる必要がある。

2）習熟度別クラス編成における履修クラスの最適化

「『英語が使える日本人』の育成のための戦略構想」に先立ち，文部科学省は平成 13 年 1 月に「英語指導方法等改善の推進に関する懇談会報告」を発表した[22]。その第７項は大学における英語教育を扱い，「国際化，グローバル化の進展に対応し，今後の我が国の大学においては，『英語を学ぶ』授業から『英語で学ぶ』授業へのカリキュラム改革を一層推進していくことも必要である。」[23] という提言を行っている。

各学部において，すでに多くの「英語で何らかのコンテンツを学ぶ」試みが行われており，その設置形態やレベル，学習目的はさまざまである。コンテンツ中心で，英語は単なる道具であるような専門科目から，コンテンツを道具として英語運用の習熟を主目的とするものまで，その比重の置き方によって多くのバリエーションが存在する。たとえば，経済学部では「PCP（Professional Career Programme）」と言う名称で，選抜された学生（3・4 年生で各学年の 20% 程度を上限と設定）を対象とし，大学院留学を念頭においた少人数制の専門科目を整備中である。加えて多くの学部は，主としてネイティヴ・スピーカーが担当し，「英語を使う」トレーニングを主眼とする科目群を設置している。これらは必修外国語科目，一般教育科目，専門科目などさまざまな設置形態をとるものの，実質的には上級から超上級（帰国生レベル）の学生を対象とした語学科目として想定されている例が多い。

「英語で学ぶ」ことの最終的な目的が「英語を学ぶ」ことにある場合でも，英語を用いて開講されるコンテンツ系の授業を履修するにあたり，あらかじめ一定以上の英語力が必要とされることは自明である。しかしながらこうした科目，中でも必修科目として設置されている科目を，英語力の伴わない学生が「楽勝科目」として履修する例が散見される。これはそうした授業で，成績評価基準の二重化が行われているためと考えることができるだろう。開講時点ですでに自明とも見える不合格判定を避けるため，本来の授業レベルにある学生と，明らかに力不足な学生に対し，それぞれ異なった成績評価基準が適用され，結果として後者の学生にとっては楽勝科目化してしまうのである。

このような成績評価の形骸化を避けるためには，授業担当者に対し公正な成績評価を求めると同時に，履修に先だって習熟度判定を行い，履修要件を確認することが必要である。当然そのためには，前提として授業目的の明確化と，客観的な到達目標の設定が不可欠となるだろう。もちろんこれは「英語で学ぶ」タイプの科目に留まる問題ではない。履修クラス振り分け全般における同様な問題は，習熟度別科目の教育効果を損なうだけでなく，カリキュラムを通しての成績評価全体の信頼性にまで悪影響を及ぼす危険を内包している。この問題は，個々の科

目ではなく，カリキュラム全体にかかわるシステム上の課題として対処することが必要である。

また履修要件の確認に当たっては，各科目の授業内容に即した判定方法の選択が必要である。すでに複数の学部で行われているような，何らかの統一テストによって習熟度を判定する方法は，客観性と公正さにおいて大きな長所を持つものの，測定領域・分野が限られることから決して万能とは言えない。それを補うものとして，「ポートフォリオ」方式の習熟度・達成度評価法を整備することが有用である。双方を併用することによって，履修要件の判定においても，実情に即したより公正かつ細やかな対応を行うことが可能となるであろう。

慶應義塾大学の英語教育は，度重なるカリキュラム改革を経て，英語教育一般に向けられる要請や批判を先取りし，またその多くに応えてきた。しかしそれらには未だ改善の余地があり，時に本来の意義を損なうような問題点を含んでいる。上に挙げた2例はその一部に過ぎない。すでに述べたように，ここに指摘した問題点は，多岐に渡る学生の学習目的，習熟度，達成目標に応じ，多様で細分化された外国語科目を用意する必要性と，それとは両立が困難な，客観的な成績評価指標導入の必要性との間に生じたものである。これは外国語科目カリキュラムの根幹にある構造的な問題に由来し，既存のシステムをその枠組みの中で改変するのみでは，解決は困難と思われる。外国語科目に求められる多様性と，成績評価に必須である公正さを両立させるためには，外部指標を導入した統一テストなどによる成績評価を行う一方で，「ポートフォリオ」方式の採用など，従来のシステムとはまったく異なる方法論を，基幹となる成績評価システムの一部として導入することが必要であろう。そうした取り組みは大学に留まらず，すでに塾内の各所で始まっている。それらから大きな結実を得るためにも，人的資源を中心に，塾当局からのより一層の支援が期待される。またそれと同時に，それぞれの取り組みにおいては，その意義と有用性について，より広範な認知と理解を得る努力が望まれる。

5. 副専攻制度

アンケート結果

大学は専門を学ぶべきところである，という考え方は，旧制大学の時代から日本の大学に根強く存在している。しかし，第二次世界戦後に導入された一般教育は必ずしも成功しなかったとはいえ，大学が専門と教養を幅広く学ぶべきところであるという考えは，学生の間では定着している。「学生アンケート調査」では，「学部の専門科目以外に一般教養を大学で学ぶ意義はあるか」という問いに，86.4％の学生が，「ある」または「どちらかといえばある」と答えている。また，「大学生活で本来，最も大切だと思うことは」という問いには，「専門と教養のバランス」という答えが41.3％ と最も多い（問54，193頁参照）。細かくみるとは，当然医学部や理工学部，法学部法律学科では，専門教育を重視するという意識が強いが，文学部，経済学部，法学部政治学科，環境情報学部などでは，教養教育を勉学において重視する傾向が現れている。

さらに興味深いのは，図6である。約80％の学生が，副専攻制度的な制度の履修に興味を持っており，この傾向は各学部にほぼ一様の傾向を示している（問35，168頁も参照）。つまり，総合教育も副専攻としてインセンティヴを与えられれば，大多数の学生がそれに興味を示すという結果となっている。

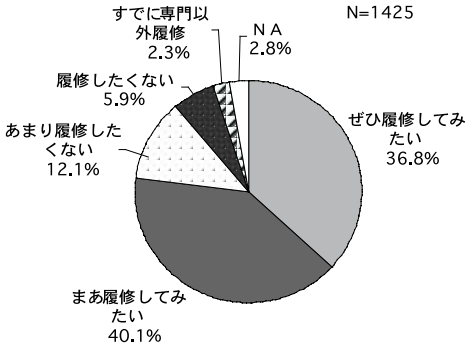
また，アンケートでは具体的に質問項目として含

22）「英語指導方法等改善の推進に関する懇談会報告」，2001年（平成13年）1月，文部科学省報道資料，http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/13/01/010110a.htm

23）Ibid，http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/13/01/010110b.htm#ki

図 6

問 35. 学部の専門の勉強以外の領域をより高いレベルまで学ぶことのできるような制度（例えば副専攻制度）があれば，履修してみたい，あるいは履修してみたかったと思いますか。（単数回答）



まれていないが，「学部の専門の勉強以外の領域」とは，かならずしも総合教育の枠だけで学生が理解しているとも限らない。学生の意識には，「学部の専門の勉強以外の領域」に，所属学部とは別の学部が提供している専門課程をも含まれている可能性も十分あると思われる。この場合学生は，他学部の専門課程の授業を副専攻プログラムの一環として履修するということを望むこともあるであろうし，さらには，所属学部で学士を得るということだけでなく，他学部の専門課程を副専攻のレベルを超えて，もう一つの専攻という形で履修を希望する（ダブルメジャー）ということもあるであろう。

副専攻制度の前提

副専攻の前提となるのは，下から規定した科目を積み重ねて取っていかなければならない，ということである。各分野の各レベルを積み重ねるようなかたちで選択した後に，副専攻の認定申請資格，論文を書く資格を得るというような制度をつくる，ということを想定している。こうしたことを，単一学部で行うには，限界がある。そのためにはすでに，本章 3.「日吉設置学部共通科目（総合教育科目）の問題点」で指摘したように，日吉設置学部共通科目（総合教育科目）の改組と学部共通化を進め，分野ごとに科目の目的や性質の位置づけを明確にする独自のカリキュラムの構築が必要になってくる（49 ～ 51 頁を参照）。

現在すでに進められている制度との関係

現在いくつかの学部ではすでに，副専攻的な制度が導入されている。法学部の地域文化関連の副専攻，経済学部の「研究プロジェクト」，商学部の「強化プログラム」である。全塾的な副専攻制度を確立していくためには，現在すでに進められている副専攻的制度を各学部で拡げていくという道筋が現段階では最も良いと考えられる。例えば，これらの先行モデルに関する情報を各学部で共有し，それぞれのプログラムを可能な範囲から各学部の学生に拡大していくというところがスタート地点になると思われる。日吉設置学部共通科目（総合教育科目）の科目群の改組と共通化を併せて進めていけば，他の大学にない非常に魅力的な制度を確立することができるであろう。

そのためには，各学部代表による運営委員会やワーキンググループをつくり推進する必要がある。その上で，各プログラムの独自性や良さを生かしながら，いくつかの制度が並列することも可能である。それには，学部独自に運営・認証するものや，センターや諸研究所が認証するもの，第 1 章 3 および本章 3 で述べた日吉設置学部共通科目（総合教育科目）設置学部の運営母体となる組織で運営され，最終的には学部の認証を受けるといった制度などが可能性としてあげられる。しかし，各プログラムでは，単位数や到達目標が明確にされている必要がある。またそれぞれの基準が，比較可能で透明性のあるものとなっている必要がある。そのためには，各学部で協力しながら，副専攻認定委員会のような組織を創設し，ある程度基準の共通化・比較可能化を進める必要がある。なお，この委員会は本章 7 で述べる「学部共通カリキュラム運営委員会」（仮称）の下部組織として位置づけられる。

そのためには，4 年間を見据えた教養教育に関するカリキュラム研究をさらに推進し，法学部の地域

文化関連の副専攻，商学部の「強化プログラム」，経済学部の「研究プロジェクト」を例として，現状の問題点や内容について研究し，また他大学や海外の例の問題点などを調べながら，慶應型を実現させる研究を進めていく必要があるだろう。これに加え，所属学部外の専門課程の授業を組み込んだ副専攻プログラム，さらには既存の学部の専門課程間でのダブルメジャー制度の確立のためには，既存の学部の専門課程の門戸を，これまで以上に広く開いてくことも必要になっていくであろう。

6. カリキュラムの国際化対応

慶應義塾大学と国際化

現在，アジアの各国ではアメリカ型のリベラル・アーツ・カレッジをモデルとした大学の制度整備が進んでいる。また，ヨーロッパでも単位制の導入と学位制度の共通化・比較可能化がいわゆるボローニャ・プロセスによって進行中である[24]。慶應義塾大学でも，海外からの留学生受け入れの拡大と，学生の国際経験の拡大を目指している。

各学部でも，外国語とりわけ事実上の世界共通語である英語を中心としたコンテンツ教育を充実させる方向に徐々にではあるが進んでいるし，現に，各学部においても英語で履修できる科目は拡大している。それに学生にインセンティヴを与えられるような魅力的なプログラムを作ることは，今後ますます重要になってくるだろう。

また，国際センターでは，英語で履修できる多くの科目を提供しているが，現在のところ履修者のレベルに著しく開きがあり，また各授業の目標設定もそれぞれの教員の裁量に任されている面があまりにも強い。個々の授業には多くの魅力的なものがあっても，プログラム全体としてはあまり機能していない。

国際教養コース（仮称）の設置

そこでここでは，英語で学べる科目を組織化して，国際教養コース（仮称）という名称の副専攻として再編成することを提案したい。具体的には，現在設置されている国際センターの科目，外国語教育研究センターの科目を含め，英語で行われている学部設置の科目を併設設置などの方法によって有効に利用しながら，ひとつの統一のあるプログラムとして展開する。アメリカのリベラル・アーツ・カレッジに見られるような，国際的な視点に立った教養教育，そしてそこで育成された人材は社会的に高く評価されてきている。こうしたプログラムをモデルとして，このコースを整備する必要があると考えられる。

国際教養コースの理念と目標

国際教養コースの根本理念は，幅広く深い知識を持ち，さらには新しい考えを国際的に発信することができる人材を育成することである。そして，1・2年次において十分な教養基礎知識を備えてきた3・4年生の学部生を対象に，国際的な視点からより幅広く，より深い知識を教授し，新たな視点で我々人間を捉え，考えることができる能力を持ち，さらには，自らの考えを国際的に発信できる人材の育成を目標とする。このコースの運営母体としては，国際センターが行うのが最も適当であり，そこが認めた副専攻の終了を学部が認証するというかたちを取るのが良いだろう。

国際教養コース設立の背景

現在慶應義塾においては，このような場および機会を学生に提供できているとは言いがたい。そこで，これまで国際センターで行ってきた英語で行う授業を基礎に，これまで以上に学部生に焦点を置いたカ

24）教養研究センター『ヨーロッパの大学改革と日本の大学 European Highereducations Reform and Japanese Universities』，横浜：慶應義塾大学教養研究センター，2005年。（CLAアーカイヴズ1）

リキュラムの拡充を図る。このコースは，既存の学部の外に設置される副専攻コースと位置づけられる。

カリキュラム

具体的には，学部3・4年生を対象とした2年間のコース。学生の所属学部は問わない。交換留学生は，すべての授業の履修を可とする。具体的には，次のような運営を行う。

授業の種類

講義科目(1クラス50人程度),「シニア･セミナー」(1クラス20人以下),「インディペンデント・スタディ」(原則個人指導）もしくは「研究会」(1クラス5人以下)。人文科学，社会科学，自然科学の3分野において授業を開講。そのほかに,国際センター設置海外プログラム，国際センターが認定した他学部設置の科目。

★講義科目：

英語で行う講義科目。半期集中（週2回4単位),もしくは半期（週1回2単位)。国際的な視点から知識を高めていくことを目的とする。半期で完結し，主に試験で成果を計る。授業は，国際教養コースに参加していない学生も履修できる（コース参加者優先)。

★シニア・セミナー：

英語で行う少人数セミナー。半期集中（週2回4単位),もしくは半期(週1回2単位)。国際教養コース参加者のみ履修可。主に4年生を対象とするが，3年生の履修を，特に秋学期において妨げない。講義科目などで得た知識をより深め，独自のアイデアを形成していくことを促すことを目的とする授業。授業のテーマは講義科目より深く掘り下げたものがふさわしい。成果はエッセイ・ペーパーの執筆で計る。

★インディペンデント・スタディ（または研究会）

半期（週1回4単位）（指導は基本的には週1回であるが，論文を評価するために2単位が付加されている――2005年度より学則が変更になり，成果に単位を付与することが可能となっている)。国際教養コース参加者のみ履修可。国際教養コースの「講義科目」および「シニア・セミナー」の修了条件を満たしていること。特定分野において研究課題を設定し，専門的に考えをまとめ，本格的な卒論レベルの論文を英語で執筆する。

国際教養コース修了条件（例）

① 国際教養コースが認定する授業を計20単位以上。
② 講義科目は，人文科学，社会科学，自然科学のそれぞれの分野から4単位以上。
③ シニア・セミナー，4単位以上。
④ インディペンデント･スタディ（もしくは研究会）4単位（他学部設置の科目を認定する場合でも4単位分のみ算入する)。単位収得には論文の提出が条件。「インディペンデント・スタディ」もしくは同等の授業の単位の重複算入はできない。
⑤ 国際センター設置海外プログラムは単位算入可。

国際教養コース参加条件

① 1・2年次において，総合教育科目を積極的に履修し，一定以上の成績を収めていること
② 1・2年次において，少人数セミナーを履修し，文章で結果を残していることが望ましい。
③ 教養研究センター設置のアカデミック・スキルや総合教育セミナーの履修などにより，学問に取り組む基礎ができていること。
④ 外国語教育研究センターのアドバンスト英語などの，レベルが高く設定されている外国語科目の履修をしていること。
⑤ 国際センター設置の海外プログラムへの事前参加が望ましい。
⑥ 国際教養コース履修希望者の選抜条件：1・2次の成績，英語試験（TOEFLなど）の成績
⑦ 文章で残された成果の審査，および面接。選択プロセスは，基本的には3年次開始前に行う。ただし，3年次にセンター設置の授業を十分に履修し

表３　国際教養コース履修例：

３年次春学期	３年次秋学期
講義科目（人文科学）（２単位）	講義科目（人文科学）（２単位）
講義科目（社会科学）（２単位）	講義科目（社会科学）（２単位）
講義科目（自然科学）（２単位）	講義科目（自然科学）（２単位）

４年次春学期	４年次秋学期
シニア・セミナー（２単位）	インディペンデント・スタディ（４単位）
シニア・セミナー（２単位）	

ていて,４年次に応募することもできる（「シニア・セミナー」および「インディペンデント・スタディ」が履修できるようになる）。

運営について

プログラムの運営にはアカデミックアドバイザーの存在が不可欠であろう。また，授業の設定，各授業の内容確認，人事の検討などを綿密に議論できる会議体を必要としている。またその際，各学部における卒業単位としての単位認定ができるよう，レベルと達成目標をきちんと明示したカリキュラム構成をしなければならない。

「インディペンデント・スタディ」科目は，国際センター独自設置の授業のみでは不足するであろうから，経済学部の「研究プロジェクト」や，英語で卒論を書く学部の研究会の授業を読み替え認定するという方法も検討して良いだろう。このように講義科目も含め，英語で行われている学部設置の科目を有効に利用するべきである。そのためにも，学部との綿密な協力体制を確立する必要がある。第１章 5.「副専攻制度の全学的導入」および，本章 5.「副専攻制度」で提案した学部共通の副専攻認定委員会に国際センターからの委員も加わるのがよいだろう。

7. 共通カリキュラム調整組織と人事

序でも指摘したように，そもそも 1993 年「一般教育委員会」が廃止された後，各学部のカリキュラムの調整は,「大学教育委員会」で行うはずであった。ところが，実際にはカリキュラムの洗い直しと調整は，実現できないまま今日に至っている。日吉学習指導連絡会議は，共通科目の承認と検討を行うことになっているが，全科目について詳細に検討することはそもそも不可能であり，各学部から提示されたものに単に目を通すだけに終わっている。

日吉設置学部共通科目（総合教育科目）の運営は，専門家集団が責任を持って行うべきであるという指摘は，以前の教養研究センター基盤研究でもなされている[25]。また，第１章 3 および本章 3 でも，学部共通科目カリキュラムを運営する統一的で確固とした組織の必要性について述べた。

そのためには，日吉所属教員の組織を次のように再編することが考えられる。

① 日吉設置学部共通科目カリキュラムの管理・検討・運営を統括的に行う組織（学部共通カリキュラム運営委員会――仮称）の設立。
② その下に位置する，それぞれがカリキュラムを管理・検討・運営を行う人文科学（文化知），社会科学（社会知），自然科学（科学知）などの部門の設立
③ それぞれの部門の下には詳細にカリキュラムを管理・検討・運営を行う小単位の組織（部会）の設立（例えば，思想・言語部会，芸術・文学部会，歴史・地域部会，法律・政治部会，社会・経済部会，物理・化学部会，生命・心理部会，技術・環境部会，数理・情報部会）。

①「学部共通カリキュラム運営委員会（仮称）」

学部共通カリキュラム運営委員会は，各部門の代表（三田・日吉）および各学部・諸研究所の代表で構成される。学部に対する共通科目カリキュラムの提案権，および科目の提案権をもつ。ここに上がっ

25）日吉設置学部共通総合教育科目の現状と問題点 ―将来への提言を含めて― 』慶應義塾大学教養研究センター 2004 年度基盤研究報告書，横浜：慶應義塾大学教養研究センター，2005 年，48 ～ 50 頁

てくる案件は，各部門で調整済みであることを前提とする。また, 学部共通設置の副専攻制度のカリキュラムの大枠もここで，最終的に承認される。副専攻認定委員会は，この委員会の下部組織とする。その他, 成績評価の原則, 授業評価, シラバス共通フォーマットの作成，履修制限の原則など大枠で共通して決定しておかなければならないことは，ここで調整したうえで，各学部に提案する。

② 部門

人文科学，社会科学，自然科学の部門は，各部会から上がってくる科目設置の提案について承認や調整を行う。非常勤講師の人事の審査は，ここで審査を行った上で，学部に提案をする。学部共通総合教育科目は，基本的には部会によって提案され，各部門およびその学部共通カリキュラム運営委員会で承認される。また，総合教育科目を主に担当する部門所属の専任教員の人事に関する提案を各学部に行う道筋も，部門の機能としてもたせる。

③ 部会

それぞれの設置科目の実質的な運営責任は各部会が負う。科目設置に関する専門部会であり，すべての共通科目は，この部会で検討された後，部門会，学部共通カリキュラム運営委員会へと上げられる。部会は日吉・三田所属を含む常勤の関連科目担当者で構成される。その規模や構成員に関しては，科目の実情に合わせて決定する。授業の内容や目標レベル設定や，各クラスの分野割り当て，成績評価基準などは，ここで決定する。非常勤講師の選任と提案や，学部共通設置の副専攻の科目構成の決定も部会で行う。

外国語担当教員と総合教育科目担当教員の関係

日吉には，主に総合教育科目を担当する教員，各学部の外国語部会に属しその学部学生の外国語を主に担当する教員，数学などの学部独自の科目を主に担当する教員が所属している。総合教育科目は，このうちの多くの教員が担当しており，かつ三田や矢上の所属教員が担当することもある。また，非常勤講師は，さまざまな部局を通じて学部に提案され，共通科目としての審査は事実上行われていない。そのため，共通科目は，科目設置責任の所在が非常に曖昧になっており，教員の裁量が非常に大きいため楽勝科目の存在などのモラルハザードの温床となっている[26)]。

新しい部会，部門，学部共通カリキュラム運営委員会などは，これまで学部ごとに分断され各科目設置に関する責任の所在が曖昧になっている状態を解消し，関連する科目のレベルや分野構成の適正化を図る目的で設置するものである。したがって，これら組織には，総合教育科目を主に担当する教員だけでなく，外国語部会所属の教員もこれらの科目に関わる限りは参加することとし，すべての総合教育科目は，これらの組織で調整された後に，各学部に提案される。

事実上学部に閉じられている外国語科目は，これまで通り各学部の責任で設置するのが適当であろう。

また，ひとつの分野に限定されない学際分野的な科目などは，部会や部門共同で設置することも可能とすればよいだろう。また学部共通カリキュラム運営委員会の学部代表メンバーは，各学部のカリキュラム関連の委員会などとも密接に連絡を取りながら，学部独自の教育方針との整合性を図るようにする必要がある。

専任教員の学部所属の問題と人事の問題

いずれにしても，総合教育科目がこれまで抱えてきた問題は，慶應義塾大学のもつ人事組織問題と深く関わっている。日吉の教員が，専門分野にかかわらず各学部に分属している状態は，それによる学際的な融合の可能性というメリットや，その他実際的な事情に鑑みれば，当面維持されるべきであると考える。

ただし，専任教員の採用人事に関しては，学部が最終的な決定権限をもつことは維持されるにして

も，全体のカリキュラム構成を勘案してある程度の提案ができる道筋もつける必要がある。学部の採用人事に関する人事計画が，必ずしも具体的な人選そのものではなくとも採用分野や採用方法に関する事項について，予め各部会などと調整のもとに行われることが最も望ましいと思われる。ある分野の共通科目担当者が退職して補充人事が行われなければ，他の学部の授業構成に大きな影響を与えるが，逆に同分野の補充人事を行い続けるだけでは，新しい分野への対応や時代に即したカリキュラム編成ができなくなるからである。

いずれにしても，こうした組織を作ることによって，より実質的で責任のあるカリキュラム編成が可能になるであろう。多くの大学で行われているような看板の掛け替えや，表面的な変更ではなく，より実質のある，学生と未来に責任をもった改革を，慶應義塾は目指していかなければならない。

26）前掲書

第３章　調査およびデータ分析の報告

1. 学部カリキュラムの比較分析

1）目的

本調査の目的は，第１学年あるいは第１・２学年に在籍する学生が日吉キャンパスで学ぶ文・経・法・商・医・理工の６学部が，同キャンパスに設置されている日吉設置学部共通科目（総合教育科目）（「以下「総合教育科目」と略記する」，必修英語科目および必修外国語科目（英語を除く）を，どのように運営しているのか，あるいはどのように学生に履修させているのか，といった点を中心に，各学部のカリキュラムの現状について，でき得る限り多くのデータを収集し，多角的に比較分析することにある。

総合教育科目に関しては，周知のように，すでに大規模かつ精力的な調査研究が行われており，その成果は2004年度基盤研究報告書『日吉設置学部共通総合教育科目の現状と問題点―将来への提言を含めて』としてまとめられている。同報告書では，2001～2003年度の総合教育科目を対象に，ほぼすべての科目を文化知，社会知，科学知，およびそれらの複数領域にまたがる複合知の４カテゴリーに分類した上で，第１に，①設置コマ数，②総履修者数，③専任教員の割合の推移について数値データを示し，科目設置状況の概要を明らかにし，第２に，①科目設置母体と調整，②専任担当率，日吉・三田担当者の割合，③テーマ分布，④年度ごとの変化について略述し，科目設置傾向の全体像をわかりやすく提示している。

本調査では，2004年度基盤研究報告書の成果を踏まえながら，総合教育科目のみならず必修英語科目や必修外国語科目（英語を除く）をも対象に，６学部がそれらをどのように運営しているのかを，科目の観点からではなく，学部の観点から項目ごとに比較することにより，現状を把握し，課題を摘出することに主眼を置いた。

なお，本調査における総合教育科目は，日吉キャンパスにおいて学部共通科目として複数学部にまたがる形で設置されている科目を指し，各学部が独自に設置し，他学部に「オープン」にしていない科目は原則として調査の対象外とした。また必修英語科目は，経済学部，医学部，理工学部におけるように第１・２学年の学生が全員必ず履修しなければならない場合と，文学部，法学部，商学部におけるように第１・２学年あるいは第１～４学年の学生が必修外国語の中から英語を１語種として選択履修する場合があるが，本調査では双方の場合を含むものとする。以上の理由により，必修外国語科目からは，英語を除外し別扱いにすることとした。

2）学部カリキュラム比較の図表の作成方法とその見方

6学部のカリキュラム比較の図表を作成するにあたっては，6学部・全学年を対象として可能な限り多くの資料を収集すべく，日吉学事センター，三田学事センター，医学部学事課，理工学部学事課に対し協力を要請し，①2006年度『講義要綱　慶應義塾大学（日吉）』，②6学部の履修案内（外国語科目履修案内，総合教育セミナー履修案内など），③その他カリキュラムに関わる情報が掲載されている資料などを入手した。次に，収集したデータおよび情報の中から6学部のカリキュラムを比較検討する上で必要と思われる部分を抽出し，それをテキスト情報に加工した。

こうした準備作業を終えた後，6学部のカリキュラムを，上述のように，①総合教育科目，②必修英語科目，③必修外国語科目（英語を除く）の3カテゴリーに分類し，各カテゴリーにおいて縦軸に学部名，横軸に比較項目を列記した図表を作成した。なお，履修者全体に関わる項目および英語を含む必修外国語科目全体に関わる項目を比較する図表を，別途作成した。従って，本研究における学部カリキュラムの比較検討は，合計4つの図表に基づいて行われる。

各カテゴリーにおける比較項目は以下の通りである。

①総合教育科目

必要単位数，進級条件，設置形態，設置学年，専攻・学科等との関係，秋学期科目の追加・削除の可否，教養研究センター設置科目の扱い，外国語教育研究センター設置科目の扱い，体育研究所設置科目の扱い，他学部設置科目の扱い，1クラスの人数（講義科目），教育内容を検討する学部設置機関

②必修英語科目

設置形態，半期1週間のコマ数，半期1コマの単位数，設置学年・学期，外国語教育研究センター設置科目の扱い，習熟度別クラス編成の有無，学年全体を対象とした統一テストの有無，1クラスの人数，教育内容を検討する学部設置機関，非常勤講師の公募の有無，共通シラバス，成績評価に関係する共通テスト

③必修外国語科目（英語を除く）

履修可能な語種，設置形態，半期1週間のコマ数，設置学年，外国語教育研究センター設置科目の扱い，教育内容を検討する学部設置機関，非常勤講師の公募の有無

④共通項目

卒業必要単位数，履修上限単位数，必修外国語科目（英語を含む）における必要単位数・進級条件・履修方法

学部，諸研究機関，部会，教室などの組織の権限や利害が複雑に交錯している日吉のカリキュラムは，一見したところ雲を掴むような茫漠たる感があるが，4つのカテゴリーに分類し，項目毎に比較する図表を作成してみると，不十分ながら，視覚効果が発揮され，現状を把握しやすくなったのではないかと思われる。

なお，4つの図表のデータは，原則として2006年度の学則および履修案内などに準拠しているが，2006年12月末の時点で6学部の教授会あるいは学習指導会議などで決定された事項については，できる限り盛り込むように努めた。また，2006年度において，複数の学則が並存する場合は，最新の学則に基づくこととした。さらに，6学部の学習指導などの関係者や日吉学事センターの各学部担当者らにヒヤリングや確認作業を行い，データに関してはできる限り正確さを期した。

3）分析

学部カリキュラムを4つのカテゴリーに分類し，各カテゴリーにおいて項目毎に比較する図表を作成し分析した結果，いくつかの課題が浮き彫りにされたと思われるので，以下，各カテゴリー別にそれらをまとめてみる。また，適宜，コメントを加えた。

①総合教育科目

a) 卒業単位

卒業必要単位数に占める総合教育科目の必要単位数の割合は，文学部で英語を履修した場合 29.68％，しない場合 29.23%，経済学部 15.87％，法学部法律学科 17.64%，政治学科 32.35%，商学部 15.62％，理工学部 13.04％（自主選択による科目 8 単位を含めた場合，18.84％）である（医学部の学則では，卒業必要単位数が記載されていないため，割合を算出できなかった）。日吉キャンパス全体の総合教育科目のカリキュラムを統一化・共通化していく方向に進んでいくとすれば，この不均衡な割合は，検討課題のひとつになると思われる。

b) 系列

理工学部を除く文系 4 学部および医学部の総合教育科目は，自然科学系列・社会科学系列・人文科学系列・系列外やⅠ～Ⅴ類といった形で系列別に分類され，それぞれの系列の中で最低取得単位数が指定されている。理工学部の場合，科目の選択は学生の意思・希望に全面的に委ねられており，例えば選択英語のみを履修して必要単位数の 18 単位あるいは 26 単位（自主選択による科目 8 単位を含む）を充足させることができる。この点も，総合教育科目のカリキュラムの統一化・共通化を図っていく場合，検討課題となるであろう。

c) 設置形態

法学部と理工学部はほぼ完全に半期制に移行していると思われるが，その他の学部において，2007 年度の時点で通称セット科目がどのくらい存在するのか，また今後どのような方針をとるのか，詳しく調査する必要がある。さらに，単に形式的に半期制に移行すれば事足りるわけではなく，合わせてグレード制の導入を図ることも検討しなければならないであろう。

d) 秋学期科目の追加・削除

文学部の場合，2007 年度より春学期に成績不振であった学生の救済処置として限定的に行う。理工学部の場合，2006 年度より，第 1 学年については指定された理工学部日吉設置秋学期総合教育科目に限り，また第 2 学年については指定された理工学部日吉設置秋学期総合教育科目および専門基礎科目（選択）に限り，認めることになった。日吉キャンパス全体で半期制への移行が完了すれば，学事センターとしても対応しやすくなると思われる。各学部においても，部分的あるいは全面的な追加・削除を認める方向で検討すべきではなかろうか。

e) 他学部・センター・研究所設置科目の扱い

文系 4 学部では，学則に記載されている「その他教授会が認める授業科目」という付帯条項を利用して，一定の範囲内で認めている。理工学部では，2007 年度より教養研究センター，外国語教育研究センター，国際センターの設置科目を，自主選択による科目 8 単位の枠内で卒業単位として認めることになった。総合大学の利点を利用し，さまざまな科目を自由に履修したいという学生の要望を踏まえた場合，今後も各学部において制限の緩和や撤廃に向けて努力を積み重ねていくことが望ましいと思われる。

f) 体育科目の扱い

文学部では，講義と実技の組み合わせを問わず合計 4 単位まで卒業必要単位として認めている。経済学部では，講義 2 単位＋実技 2 単位，合計 4 単位まで卒業必要単位として認めている。法学部法律学科では，規定外の 8 単位の中から，政治学科は規定外の 24 単位の中から履修できる。商学部では，Ⅴ類として最高 4 単位まで，また理工学部では，実技Ａ（1 単位）を合計 2 単位まで卒業必要単位として認めている。医学部では自由科目として履修される。このように扱いは学部によって異なる。

g) 教育内容を検討する学部設置機関

文学部では各総合教育科目の窓口となっている専攻・部門が科目担当者の選出や科目の改廃を提案し，

運営委員会で審議している。商学部では研究教育委員会が教育内容を検討している。理工学部では総合教育委員会が学部独自設置総合教育科目全般の教育内容を随時検討し，必要に応じて学習指導会議に科目の改廃や非常勤人事を提案し，委員会独自の予算も執行している。

問題は，学部共通科目として複数学部にまたがる形で設置されている総合教育科目について，現在ほとんど話し合いが行われていない点である。日吉キャンパス全体の教養教育の理念･目的を検討したり, カリキュラムを調整できる学部横断的な組織を設置することが切に望まれる。まずは既存する組織･委員会の整備･拡充を早急に考える必要があるであろう。

②必修英語科目

a) 習熟度別クラス編成

文学部では 2007 年度より 5 段階で編成される。経済学部では Study Skills に習熟度別クラス編成はないが，英語セミナーは 3 段階に分類されている。法学部では 1 年生は 5 段階，2 年生は 3 段階に分類されている。商学部では 4 段階に分類されている。理工学では 3 段階に加え，外国語教育研究センターのアドバンスト英語に併設をかけ 4 段階としている。各学部で英語力の格差に対応している。

b) 学年全体を対象とした統一テスト

文学部では入学直後と第 1 学年末の 2 回，学部独自の統一テストを実施し，第 1 学年と第 2 学年のプレイスメントに活用している。経済学部と法学部では学年全体を対象とした統一テストはない。商学部では TOEIC を習熟度別クラス編成に活用している。理工学部では入学直後と第 1 学年末の 2 回，G－TELP を実施し，第 1 学年と第 2 学年の習熟度別クラス編成に活用している。

習熟度別クラス編成を行う場合，入試形態の複雑化に伴い，学生が自己診断する英語力のレベルと所属するクラスのレベルとの間に落差が生じることが多く，その解消法の一策として学年全体を対象とした統一テストの重要性が高まっているように思われる。

c) 教育内容を検討する学部設置機関

文学部では各語種で検討している。経済学部と法学部では英語部会，商学部では英語部会および研究教育委員会が検討している。理工学部では教育内容検討委員会英語部会（矢上教員と日吉英語教員で構成される）が検討している。

英語教育の内容に関し現場の英語教員以外の教員や学生の意見・要望などを聴取したり反映したりできる組織や委員会があってもよいのではなかろうか。

d) 非常勤講師の採用

文学部と理工学部では公募を実施し，幅広い人材の登用を行っており，急遽欠員が生じた場合は waiting list に登録されている候補者で補填し，即応しており，成果をあげつつある。

③必修諸外国語（英語を除く）

a) 語種の多様さ

各学部において履修できる語種の数が多く，それぞれの語種の担当部会が独自の方針・システムの下で教育を行っており，かなりの教育成果をあげていると思われる。しかし，他方，語種間にあまり意思の疎通や連携が見られないことは，例えば，成績評価の統一的な基準を設ける際には検討課題として浮上してくるのではなかろうか。

b) 教育内容を検討する学部設置機関

文学部と医学部では各語種，経済学部と法学部では各部会，商学部では各部会および研究教育委員会が検討している。理工学部では，教育内容検討委員会諸外国語部会（矢上教員と日吉教員で構成される）が諸外国語全体の教育内容を随時検討している。前述した成績評価の統一的な基準を設ける際，バラバラな対応では不可能であり，ぜひとも語種間の壁を乗り越えた横断的な組織を学部内に設置する必要性があるのではなかろうか。

2. 成績評価方法に関する実態調査

1）分析結果の要約（課題点）

厳格な成績評価が求められる一方で，成績評価方法に関する議論が不足しているのではないか，との認識に立ち，その評価方法の実態を把握するため以下の調査を実施した。

①学生に配布される冊子，講義要綱・シラバス，外国語科目履修案内（平成 17 年度）の内容を調査した。
②外国語科目においては，必修科目等において冊子体に情報がない授業も存在したため，成績評価方法に関するアンケートおよび聞き取り調査を行った（平成 18 年度）。
③学生に対するアンケート調査から成績評価に関する意見についてまとめた（平成 18 年度）。
(①，②の調査の詳細は後述の 2)，③については 3) および第Ⅱ部 3. を参照されたい)

以上の現状分析の結果を簡潔にまとめると以下のようになる。

●評価方法の内容は多彩であり，授業目標に応じた多様な評価方法が採用されている。しかし，複数項目を用いる際の比率が明記されているケースは２割に満たず，評価項目（規準）の重み付けなど明確でない部分も多い。
・成績評価の方法は，期末試験が最も多いが，その単独性は低く，その他に平常点，出席，レポートなど多様な項目が複合的に用いられていた。
・評価方法は科目の特性に応じた多様性があった。科目の系統でまとめると，人文社会系では期末試験単独のものも多く，自然科学系ではこれに中間レポートの採用が多い。演習・実験・少人数セミナー，外国語科目では，平常点，出席点，レポートが中心で，さらにプレゼンテーション，討論，宿題等バリエーションが多かった。芸術系，体育科目では，演奏発表・技術点など科目特有の項目があった。

●成績評価項目（規準）・内容，記載方法に関する統一性は低い。同一科目，部門，学部等における取り組みも見られるが，全体に各教員任せの部分が多い。
・冊子体において成績評価方法の記載がないものは約 1 割であったが，学部・組織によってやや差があった。要綱原稿を取りまとめる際の各組織の不統一が感じられる。他にも「平常点」を例に取ると，その内容は曖昧であった。出席，レポート，小テストなどを含むケースもあれば，授業内の取り組み・態度のみを指すケースもあり，教員ごとにばらばらであった。また，単に「平常点」としか記載しないケースも 3 分の 1 あった。
・必修科目の多い外国語科目において，各語種・部門で評価方法を統一する取り組みをしているケースもあった。しかし，その内容は「判定会議を持つ」「評価パターンを統一」「A, B, C, D の比率のみを決める」などさまざまな段階のものであった。また，共通テキストの採用率も低く，統一化の動きのない科目もあった。
・一方，積極的に評価方法の統一を行っている組織も一部見られた。例えば，医学部ではシラバス集に各授業時間の重点目標や小目標を明記するといった形成的評価の取り組みを統一して実施していた。また体育研究所では，A － D の従来評価と Pass/Fail の合否評価を授業内容で区別し，従来評価においても出席・技術・態度・理解の観点を一定比率で用いる等，組織的に評価方法の統一を図っていた。

●学生は成績評価基準の明確性，授業ごとのばらつきについて問題意識を持っており，また自己の成績評価に十分納得しているわけではない。
・「評価基準が示されているか」について肯定的意見は 6 割程度であり，学部によっては半数程度のケー

スもあった。また,「授業ごとに評価方法が異なること」については，仕方がない，不公平という意見が多く，問題なしは22％に過ぎなかった。

・「これまでの成績評価に納得がいくか」について，ほとんど納得がいくと答えたのは約24％で，納得のいかない科目の存在が認められる。また納得がいかない場合,「教員に質問できる体制が整っているか」について，実に86％が否定的意見であった。

各教員は授業内容にそって多様な方法を用い学生の評価を実施しているが，教員間・組織間の議論や確認が不足しているようである。そのことが，情報開示の不徹底や学生への説明不足につながり，さらには教員・学生の各認識の差を生み出しているようである。つまり，成績評価のあり方，開示方法についてもっと意識を高め，改善すべき部分が多く存在する。

2）調査の概要

日吉で開講されている授業全体について，成績評価方法の概要を知るため以下の調査を行った。

★公開情報の読み取り：公開されている冊子（履修案内・講義要綱）の記載情報からその内容を読み取り，データベース化した。

★アンケート・聞き取り調査：冊子体から読み取れなかった外国語科目について，日吉専任教員を中心にアンケートおよび聞き取り調査を行い，成績評価方法の実情について調べた。

Ⅰ．公開情報の読み取り調査

2005年度の「講義要綱・シラバス（日吉)」「外国語科目履修案内・文・経・法・商・理」「医学部第1学年　Syllabus」を対象に以下の項目についてデータベース化した。成績評価項目については予め「成績評価方法」欄を概観し設定した。

ⅰ．授業形態（オムニバス・講義・実験実習・演習）
ⅱ．単位数・学期（通年・半期）
ⅲ．成績評価項目
a) 期末試験, b）中間試験, c）出席点, d）平常点, e) 平常点の内容，f）期末レポート，g）中間・途中のレポート, h）小テスト（クイズ), i) 実験報告, j）その他，k）複数項目で評価する際の比率

・データの構成について：記載のある1講義要綱を1データとした。

例：1教員が複数科目名・複数コマを共通の1講義要綱→1データ
複数教員（オムニバス含む）が同一科目名で共通内容の1講義要綱→1データ
1教員が同一科目名で曜日時限ごとに別内容の各講義要綱→各1データ

Ⅱ．アンケート調査

外国語科目の必修の授業を中心に，公開情報の読み取り調査の冊子体からは情報収集出来なかった科目が多く存在した。必修科目では，同一科目・複数教員間の評価基準の統一等がどのようになっているか興味がある。そこで，日吉外国語担当専任教員を対象にアンケート調査および聞き取り調査を実施した。アンケート内容は主に以下のようである。さらに，アンケート調査を元に同じ内容について聞き取り調査を実施し各学部の外国語科目について調査した。

ⅰ．科目の基礎情報（科目名・必修性・単位数・対象学部学年・履修者）
ⅱ．成績評価項目
ⅲ．評価基準公開の有無とその方法および比率の公開
ⅳ．同一教科内の取り決め
ⅴ．自由記述

・実施の詳細：アンケート調査期間2006年6月15日～31日。配布総数70，回答20。
聞き取り調査　2006年8月～9月（基盤研究メンバーの分担による)。

3）調査結果の概要

Ⅰ．成績評価方法明示の割合（公開情報の読み取り調査から）

公開情報の読み取り調査から，成績評価項目について，表 1，2 にまとめた（87 頁参照）。表 1 は成績評価に用いられる項目のおよそのパターンと延べ数について，人文社会系，自然科学系，演習･実験･少人数セミナー，芸術（身体知）系，外国語科目の分類ごとに示した。表 2 は表 1 を比率で示したものである（なお，体育科目については別に集計をし，本節Ⅳにまとめて報告することとした）。

記載なしは平均 9.4%。つまり 10 分の 1 は記載情報なしといえる。実際には，授業時に説明がなされているであろう，と想像される。未記載数については学部間で若干の差がある。作成のプロセスに違いがあるのではないか，という疑問も出る。「シラバス（学生との契約）」ということよりも従来の「講義要綱（講義内容を紹介するもの）」という認識の方が強いのかもしれない。本調査は，あくまでも冊子体の情報収集であり，各教員が授業時間内などに直接配布している，より詳細な「シラバス」や，口頭での説明には言及できないものである。しかし，授業履修のために，最初に学生が目にする情報として，冊子体における記載の重要性は否めない。まず，記載しておくこと，公開しておくことという約束事としての認識において組織・教員間の温度差があるといえるのではないだろうか。

Ⅱ．評価方法の内容

ⅰ．代表的な評価項目

表 1, 2 から, 全体の延べ数で期末試験が最も多く, 比率では 58.3% を占めることがわかる。これに続き, 平常点 47%，出席 39.8%，期末レポート･レポート･小テストが約 15% となっている。

ⅱ．評価方法の単独性

期末試験を評価項目に採用する比率が高いが，1 項目のみで判定することは少ない。期末試験のみで評価するのは全体平均で 12.1% しかない。ただし分野の特性があるようである。授業内容の特徴から，おおまかに以下の 5 群に分類し，その特徴をあげると以下のようになる。

- 人文社会系：約 40% が単独（期末試験のみ 34.7%，期末レポートのみ 4.1%）
- 自然科学系：期末試験のみが 15.5%
- 演習・実験・少人数セミナー：単独項目評価は極少
- 芸術（身体知）系：約 30% が単独（期末試験のみ 25.6%，期末レポートのみ 4.7%）
- 外国語科目：単独項目評価は極少

ⅲ．分野別の評価パターン

先に述べたように，全体として単独項目による評価は少ない。次に分野別のパターンをまとめてみる。

- 人文社会系：期末試験の次に多い項目は出席 23.1% であるが，全体の平均から見ると出席・平常点の比率は低く，レポート・小テストなどがやや多い。つまり，試験・レポート中心で特に期末試験の比重が大きい。
- 自然科学系：人文社会系に類似して，期末試験の比重が多いが，中間レポートの採用が群間で最も多い（36.1%）。出席・平常点の比率は比較的低い。
- 演習・実験・少人数セミナー：平常点・出席点・期末レポートが中心となる（56.6%，41.8%，41.8%）。これらを複合的に用いているケースが多い。期末試験の比率は 15.2% と最も少ない。また実験報告は 13.7% であるが，実験を実施する科目では，報告を提出するのが常であり，平常点・出席点の中に組み込まれている場合が多いようである。この系統の授業では科目の特徴を反映した項目が明確である。
- 芸術（身体知）系：期末試験が 88.4% と多いが，平常点も 51.2% 採用され，期末レポートも 39.5% と多い。単独項目評価のほかは期末試験と平常点の採用が多いと考えられる。
- 外国語科目：期末試験が 59.8% で，全体の平均とほぼ等しい。これに加え，平常点・出席が平均より多い（67%，55.1%）。全体から見れば，平常点･出席が重視されているといえる。

ⅳ．平常点とは何か？

期末試験の次に多く採用される評価項目が，平常点である。しかしながら，その具体的内容は定義されていない。平常点の説明があるケースは平均65.4%。残りの3分の1は単に「平常点」と記載しているだけである。そこで，説明のあった具体的内容をまとめると表3のようになった（88頁参照）。いずれの群でも比率が高いのは「参加（度）」「態度」であり，積極性，貢献度，発言などの授業への取り組みなども含まれていた。外国語では「予習」「宿題」「発表・プレゼンテーション」などが多い特徴があった。また，外国語では少数ながら多様な内容が平常点として含まれていた。演習・実験・少人数セミナーでは「討論（ディスカッション）」が比較的多かった。

ⅴ．その他の評価項目

「その他」の評価方法についてまとめたのが表4である（89頁参照）。平常点の内容と重複するものも多く，「発表・プレゼンテーション」「態度」「宿題」「討論」などが比較的多数であった。特に，演習・実験・少人数セミナー，外国語では「発表・プレゼンテーション」が非常に多かった。また，特殊性のある内容として，芸術系での「演奏会」「コンサートで演奏」，自然科学系や演習・実験・少人数セミナーでは製作物・作品などの課題，「演習」といった項目が多かった。外国語ではより細分化され，TOEIC，TOEFLや検定試験などの他，スピーチ，口答試験，暗誦など多様な項目が評価に採用されていた。

ⅵ．複数項目による評価の比率

上記のように，単独の項目で評価をするケースは全体で15%弱であり，7割以上のケースで複数の項目が評価に用いられている。しかしながら，その項目間の比率が明記されているケースは全体で13.7%（複数項目評価をするケース内の18%）にとどまっている。

Ⅲ．外国語科目のアンケートおよび聞き取りの結果

外国語必修科目などでは冊子体から十分に情報を集められないものもあった。そのため，必修外国語科目を対象に，特に複数担当者間の評価統一，テキストの統一性などについてアンケート調査および聞き取り調査を実施した。各学部の結果をまとめたのが表5－10である（90～101頁参照：アンケートはそれぞれの部会の協力くださった先生のお答えを反映させています）。また，アンケート調査で得られた，成績評価方法のあり方についての教員からの意見を，表11「成績評価方法に関するアンケート」自由記述意見，にまとめた（102～103頁参照）。各学部で多くのパターンの授業について回答を得た。それぞれに特徴が見られたが，以下に，大まかな傾向をまとめた。詳細は一覧表を参照されたい。

ⅰ．評価方法および複数評価項目間比率の公開

文学部は外国語履修案内，医学部もシラバス集の中で，必修の授業もほぼ評価方法が明示されている。それ以外の学部では，必ずしも冊子による情報がないケースもあり，口頭による説明，プリントの配布などが行われている。しかしながら，評価項目が複数の場合の項目間の比率公開については，ばらばらであった。例えば，経済学部ではほとんどの語種で公開しているが，法学部では行っていない，もしくは統一方針はなし，というケースが多い。その他の学部では，公開・非公開が半々程度である。つまり，多様な評価項目を用いているがその重み付けは明確になっていないといえる。

ⅱ．複数担当者間の評価およびテキストの統一について

必修の外国語科目では，クラス数が増えるため，複数の担当者がそれぞれにクラスを担当するが，この際の科目内の評価方法の統一はどのように図られるのか，興味深い点である。まず，テキストの利用に際しては，ほとんどの語種で共通ではない。共通テキストを利用しているのは，経済学部英語（スタディ・スキルズ），法学部のフランス語，文・法・商学部のスペイン語，文・商学部の中国語，医学部

ドイツ語・フランス語などである。こうした状況で，評価方法の統一については，比較的多くのケースで統一させる取り組みがなされている。その主なものとして，「部門などの統一方針（ガイドライン）がある」「成績の判定に関する会議を持つ」「統一試験等の共通項目を一定割合盛り込む」などである。やはりテキストが共通の場合は，統一化を図りやすいケースが多いようであるが，別テキストでもガイドラインの提示や一定の決め事を確認している場合がある。ただし，部門などの統一方針も，その内容は多様であり，A, B, C, D の割合のみを決める，大まかな目安を新任者向けのマニュアルとして提示する，評価の種類を統一（例えば理工学部）などいろいろなレベルがある。総じて，「全く担当者に任せてしまってよい」としているわけではないようであるが，経済学部・法学部は統一化がなされていない科目が比較的多いようである。統一化を進めることが必ずしも良いと決め付けるものではないが，教員間で議論をしてゆくことが重要であろう。一例として，評価項目の範囲を明確にすることが統一化の一歩と考えられる。試験やテストに加えて平常点として括られるような宿題・発言や取り組みという多様な観点の範囲について共通の認識を持つべきである。そして，複数項目間の比率を明示することが大切であろう。そうすれば，個々の教員の観点にそって学生に努力を促すことが可能となるはずである。

Ⅳ．体育研究所設置科目・体育実技の事例

体育研究所設置の体育科目は，教育内容の充実と成績評価の厳格化をねらいにし平成 16 年度よりカリキュラム改定をした。その中で体育実技を評価方法の違いにより，体育実技 A・B と分類している。この事例を紹介する。

ⅰ．体育実技 A：A, B, C, D の 4 段階で評価（従来型）
成績評価方法：出席・技術・態度・理解の 4 項目を点数化し，その合計点で評価する。

例）フライングディスク　出席 60 点, 技術 30 点, 理解 10 点
（3 分の 2 出席しないと成績評価対象者としない。欠席 1 回 5 点減点。）

ⅱ．体育実技 B：合格・不合格で評価（Pass/Fail）
成績評価方法：科目ごとに定めた基準を元に，合否のみを判定する。

例）ニュースポーツ　80％以上の体験とレポート課題の提出

ⅰ，ⅱともに，体育研究所が共通の評価ガイドラインを各教員に提示。細部を各教員が実施種目・内容に合わせてアレンジする。体育実技 A では点数化による客観化を実施している。また，体育実技 B では体験（合宿など）型の授業を中心に履修者間には合否の差しかつけず，達成目標を明確に設定することとしている。

Ⅴ．教育目標・形成的評価目標を設定した医学部シラバス集の事例

医学部では，学年別にシラバス集が冊子体となって学生に配布されている。この中で，特徴的なことが，各授業とも，大きな教育目標（GIO）と単元を通じて獲得する水準を示した小目標（SBO）が示されている点である。例えば，数学Ⅲを例にとると，教育目標（GIO）は「多変数関数の重積分に関する基礎理論とその応用を学ぶ。さらに，級数に関する基礎理論を学ぶ」となっている。さらに，個々の授業では，GIO：重積分における広義積分を理解する，SBO：領域の適切な増加例を見出すことにより広義積分の値を求めることができる，といった具体的目標・ねらいが示されている。こうした，授業内の到達目標を明確にする形成的評価の積み重ねが，最終的な教育の質を確保する上で重要である。医学部のシラバス集にはこうした点に，統一性があり参考となろう。

4）学生アンケートにおける成績評価に関する意見

本章 4．の学生へのアンケート調査においても，成績評価に関する質問をしている。ここで，学生の

意識から見た成績評価の課題を見てみる。

「問 45：成績評価基準は示されているか」では，肯定的意見が全体で平均すると 6 割程度であるが，藤沢の 3 学部が 7 割以上の高い肯定意見を示したのに対し，法学部・医学部では否定的意見も多く，半数程度否定的な意見も得られた（180 頁参照）。つまり，評価基準が明確でないと感じている学生も相当数存在した。また，「問 48：授業ごとに成績評価の方法にばらつきがあること」については，問題ない 22.2%，仕方がない 44.6%，不公平・とても不公平 31.7% と見方が分かれている（183 頁参照）。しかし，8 割近い者が，“問題がないわけではない” と捉えているという見方もできる。ここから，教員側の評価方法の設定を必ずしも学生が肯定的に受け入れているわけではないことがわかる。

「問 50：これまでの成績評価に納得がいくか」については，ほとんど 23.9%，どちらかといえば多い 46.5%，ほぼ半数ずつ 19.4％と，納得のいかない科目の存在も見て取れる（185 頁参照）。学生が現在の成績評価について十分に納得しているとはいえない状況があるであろう。さらに，半数以上納得がいかないと答えた者への質問として，「教員に質問できる体制が整っているか（問 50 － 1)」では，否定的意見が 86％であった（186 頁参照）。実際は，各学部にこうした質問制度は存在し，アナウンスされているはずである。この点は，学生側に成績が送付されるのは学期末の休業中であり，教員と連絡がとりにくいといった事情によるのかもしれない。

「問 47：プロセス重視と結果重視のどちらがよいか」では，プロセス重視が全体で 60.1% であるが，法学部・医学部のように結果重視の方が多いケースもあった（182 頁参照）。この傾向は，問 45 の評価基準の明示と似ており，結果を重視するものが，基準の一層の明示を求めているのかもしれない。また，「問 49:相対評価と絶対評価のどちらがよいか」では，全体の 78% が絶対評価に肯定的であり，この傾向には学部差がほとんどなかった（184 頁参照）。

以上の学生の意見をまとめれば，成績評価方法に関して，その明確性や統一性に疑問を感じている者がおり，教員と学生の間に認識の差があるといえる。こうした学生の声を真摯に受け止めれば，より厳格な成績評価に取り組み，説明責任を果たす必要性を痛感するものである。

5）まとめ

Ⅰ．現状の成績評価方法に関する課題

成績評価方法の公開という形式的な手続き，評価基準の設定の方針については，学部や部門，諸研究所など組織間の温度差があるように思われる。なぜなら，その掲載の義務や内容の統一性などに十分なルールがなく，教員任せの部分が大きい。冊子体への掲載には学事センターからの取りまとめが行われている。しかし，その形式や方針に責任を持つ機関は不明確なままである。「何のために，どこまで成績評価方法を公開すべきなのか？」という議論もあるが，学生が納得できていない現状がある以上，予め説明責任を果たす姿勢が重要である。また，成績評価とは大学全体・学部の規則として共通に単位認定をする作業に付随するものであり，学生個人の評価について一教員のみが責任を負うものではなく，組織的に責任を持つべき事柄であろう。従って，情報の公開に際し，評価方法の項目や記載範囲などについて大学教育委員会や学部のカリキュラム委員会のレベルで議論し，学習指導会議や学事センター等によって組織間の調整や共通認識を作る工夫を進めてゆくことが必要であろう。

Ⅱ．評価方法のパターン分析

成績評価の目的は，第一に教育の成果判定であり，学びと育ちの保証をすることであろう。つまり，学生の到達度を計るものである。しかし，学生にとってはどんな観点で評価されるのかを知ることが重要になる。期末試験があるから，それに向けて勉強する，という過程もまた教育評価のための実際的な要素である。したがって，科目の目的や特徴に応じた評価方法の多様性を認識し，より適切な評価方法を

選択する必要がある。こうした評価方法のパターンが今回の調査でおよそ明らかになった。

.・人文社会科学系では一般的な期末試験を中心とした評価が多く，出席やレポート，平常点などが併用されている。また，自然科学系でも期末試験に加えて試験中間レポートや平常点の比率が人文社会科学系より多くなる。

・演習・実験・少人数セミナーでは平常点，出席，中間レポートなどが多く，期末試験はあまり用いられない。また，授業内のプレゼンテーションを評価に用いるという特色も加わる。さらに，芸術系や体育科目実技では，演奏や技術などの教科特有の技能評価などが加わり，出席・平常点の比率が高い。

・外国語科目では，非常に多くの項目が併用されるが，期末試験に加え，宿題提出や出席，授業態度などの平常点，プレゼンテーションなど多彩な評価項目で総合的に評価している。

以上のような評価方法の多様性について，学生の認識を高めると同時に教員間でも相互に理解を進めるべきである。例えば，実験や小人数セミナーなど，授業に参加すること自身に意味がある科目は，出席点が重視されるのは当然である。では，普通の講義科目で，出席点（あるいは平常点）を加味するねらいと，その重み（満点に占める比率）はどの程度であるのか？試験で失敗した学生を救うためなのか，そもそも出席せずに試験で合格点を取れればいいのか，等々，議論すべき問題が多い。つまり，多様な評価項目の中から，各分野・部門に必要な特有の評価項目・方法を選ぶことを組織的に行うことが厳格化への第一歩であろう。それによって，評価の範囲や比率を明示することが可能となる。内外に対し，成績評価方法の十分な説明ができるように今後一層の研究・工夫が必要である。

3. 米国のリベラル・アーツ・カレッジのカリキュラム調査報告

1）はじめに

日吉設置学部共通科目（総合教育科目）のカリキュラムの新しいあり方を考えるにあたり，アメリカの高等教育機関，特にリベラル・アーツ・カレッジを調査研究の対象とした。これらの教育機関のカリキュラムを検証することで，日吉設置学部共通科目（総合教育科目）のカリキュラムに今後何を求めるべきであるかということを考察した。

数あるアメリカの高等教育機関の中で特にリベラル･アーツ･カレッジに注目する理由は, 1）リベラル･アーツ・カレッジの根底に流れるリベラリズムと，義塾の教育理念ともいえる「独立自尊」との間に共通性が見られる，2）研究大学よりも教育に力を注いでいる傾向が顕著に見られる，3）リベラル・アーツ・カレッジのカリキュラムは教養教育が中心であり，これは日吉設置学部共通科目（総合教育科目）のカリキュラムが目指すべき方向と類似しているという 3 点である。アメリカの高等教育機関を調査対象とすることはそれほど難しいことではない。なぜならば, 大学の理念, 教育目的, 目指す方向性などが, 学校案内・履修案内などに，あらゆる入学志願者でも理解できるように明示されているからである。

調査対象としたアメリカのリベラル・アーツ・カレッジは，USA News 誌による 2005 年のアメリカ大学ランキングのリベラル・アーツ・カレッジ部門の上位 50 校から選択した。調査資料は，インターネット上に公開されている，各大学の入学案内（カタログ）を用いた。一般的に，リベラル・アーツを含むアメリカの高等教育機関が発行している入学案内は，日本のそれよりもはるかにカリキュラムの内容，開講されている授業の内容，教員プロフィール，卒業に必要な単位などが詳細に記されている。

2）アメリカのリベラル・アーツ・カレッジのカリキュラム

アメリカのリベラル・アーツ・カレッジには，確固たる教育理念が存在する（第 II 部 3）。このような教育理念を核，そして基盤としてさまざまなカリキュラムの試みが行われてきている。傾向としては，アメリカのリベラル・アーツ・カレッジのカリキュラムには，「人は専門家としてのみ人生を送るにあらず（Connecticut College）」という教育理念の中にある言葉に代表されるように，学生が自由に授業を選択できるように，多くの分野にわたる授業が提供されている。専攻を決定する際の手段は多様で，主専攻・副専攻の区別はもとより，専門を二分野にすること（ダブルメジャー），あるいは多様な分野を組み合わせて学際的な一分野を組み上げることができたりする。さらには，学生が自分自身で自分の専攻をデザインすること（オリジナル専攻）も可能なカリキュラムも多く見られる。

以下は，アメリカのリベラル・アーツ・カレッジのカリキュラムの例である。

★ケーススタディ 1：Bryn Mawr College

〈履修要件〉

学位は B.A. で，卒業に必要な単位は 32 単位である（単学期で終了する 1 つの授業は 1 単位）。その中には，以下の要件を含めなければならない。

・「大学セミナー」を 1 年生秋学期に 1 つ，2 年生終了までにさらに 1 つ履修
・数学関連の単位を最低 1 単位履修
・2 年生終了時までに外国語の授業を 2 単位取得するか，実力試験に合格
・2 年生終了時までに，社会科学，自然科学，人文科学の各部門から 2 単位ずつ履修
・体育 8 単位，及び，水泳テストに合格すること

「大学セミナー」の履修が条件となっているが，これは大学の理念の中で謳われている，「Bryn Mawr teaches and values critical, creative and independent habits of thought and expression in an undergraduate liberal － arts curriculum.」という文章と密接な関係を持っていると思われる。基礎知識の授与だけでなく，学生に考える力，考えたことを表現するという力を基礎の段階で身につけることができるのが，おそらく少人数で行われる「大学セミナー」であると捉えているのであろう。

また，4 年次開始前までに，人文系科目，数理系科目，社会科学系科目の中からそれぞれ少なくとも任意の 2 つの授業，計 6 つの授業（6 単位分）の単位の取得を行うことが義務付けられている。

各授業はレベル設定されていて番号で識別できるようになっている。「001 － 099 番」の授業は，初級，中級の授業で，例外を除いてこれらの授業は主専攻認定に用いられることはない。また，「100 － 199 番」の授業は，1 年生のための授業と位置づけられている。「200 － 299 番」の授業は 2 年生用の授業となっているが，主専攻授業の核ともなっているので，3 年次，4 年次での履修も求められている。300 番台の授業は主専攻のアドバンスト科目であり，主専攻認定には欠かせない授業となっている。

〈主専攻〉

主専攻として用意されているのは，以下のものである。

文化人類学，生物学，化学，古代及び中近東考古学，古典語，比較文学，東アジア研究，経済学，英文学，フランス語及びフランス研究，地質学，ドイツ語及びドイツ研究，ギリシア語，都市論，歴史，美術史，イタリア語，ラテン語，数学，哲学，物理学，政治学，心理学，ロマンス語，ロシア語，社会学，スペイン語。

また，Haverford College（提携校）設置の以下の主専攻を履修してもよい。

天文学，美術，音楽，宗教学。

さらに，Bryn Mawr College と Haverford College の特定の授業を履修することによって，上記の学問分野ではカバーし切れないフィールドを主専攻に代わるものとして学ぶこともできる。ただし，2 名の教員の同意が必要で，それら 2 名の教員とともに，相応しい履修計画を策定することが義務づけら

れている。この Independent Major Program と呼ばれる制度には，以下の専攻領域が設けられている。

アメリカ研究，コンピュータ科学，文化研究，舞踏，ジェンダー論，国際関係論，言語学，中世研究，平和研究，演劇。

主専攻の認定を受けるには，認定を受けたい学問領域の授業を少なくとも 11 単位履修することを条件としている分野が多い。それぞれの分野（学問領域）にはレベル分けされた授業が設けられていて，卒論を仕上げるための授業などが属する，レベルが高く設定されている 300 番台の授業の履修が少なくとも 2 単位分あることなどが決められている場合が多い。主専攻の認定の内容は専攻分野によって多少異なる。

主専攻科目の履修は，主に 3 年次と 4 年次に行われる。しかしながら，2 年次からもある程度レベルが低く設定されている専攻科目を履修する傾向が見られる。

〈副専攻制度〉

多くの専攻で副専攻を履修できる。副専攻として認定されているのは，以下のものである。

アフリカ研究，文化人類学，生物学，化学，古代及び中近東考古学，古典文化社会論，比較文学，コンピュータ科学，創作，舞踏，東アジア研究，経済学，教育学，英文学，映画研究，フランス語及びフランス研究，ジェンダーとセクシュアリティー，地質学，ドイツ語及びドイツ研究，ギリシア語，都市論，歴史，美術史，イタリア語，ラテン語，数学，音楽，哲学，物理学，政治学，心理学，ロシア語，社会学，スペイン語，演劇研究。

副専攻の認定を受けるには，6 単位前後の領域分野科目の履修とレベルの高い，領域分野内の 300 番台科目の履修が必要になることが多い。つまり，主専攻の約半分の単位数が求められていることになる。

★ケーススタディ 2：Vassar College

〈学部構成〉

芸術，外国語，社会科学，自然科学の 4 つの学部がある。それぞれの学部には以下の専攻がある。

・芸術学部＝美術，演劇，英文学，映画，音楽，体育。
・外国語学部＝中国語，フランス語，ドイツ研究，ギリシア語，ヘブライ語，スペイン研究，イタリア語，日本語，ラテン語，ロシア研究。
・社会科学部＝文化人類学，経済学，教育学，地理学，歴史学，哲学，政治学，宗教学，社会学。
・自然科学部＝天文学，生物学，化学，コンピュータ科学，地質学，数学，物理学，心理学。

なお，上記の専攻のほかに，学部横断的な専攻が設置されている（Interdepartmental Program）。具体的には，生物化学，地球科学，文化地理学，中世及びルネサンス研究，神経科学，ヴィクトリア朝研究の 6 つである。

また，学際的な研究プログラム（Multidisciplinary Program）を主専攻にすることもできる。これには，アフリカ研究，アメリカ文化研究，アジア研究，認知科学，環境学，国際社会研究，ユダヤ研究，ラテン･アメリカ研究，メディア研究，科学技術，都市論，女性学がある。

さらに，専攻として設置されていない分野であっても，学生は，自分で領域横断的分野を主専攻として申請でき，審査の結果それが許可されれば，アドバイザーの指導のもとに，コースをデザインすることができる (Independent Program)。

〈履修要件〉

卒業には 34 単位が必要。また，以下のものを含める必要がある。

・フレッシュマン・コースを 1 年生時に 1 つ履修。
・数学を 2 年終了時までに 1 単位履修。
・外国語の授業を 1 年間履修。

主専攻の認定には，多くの場合，同一学問領域内の授業を 11（11 単位分）履修する必要がある。その中でもレベルが高く設定されている 300 番台の授業を 2 つ修了することなどの条件も付けられてい

る。しかしながら, 主専攻の認定は各専門領域によって定められていて異なる。

★ケーススタディ 3：Colby College

〈履修要件〉

専攻ごとに細かい履修規則が設けられているが, 全学的には, 学生に以下のような科目をできる限り履修するよう指導している。

・128 単位の履修が卒業までに必要。
・卒業には通算 GPA 2.0 以上が必要。
・英語授業（English Composition）を 1 つ（3 単位）履修する。
・外国語授業（1 カ国語）を 1 つ（3 単位）履修する。
・数学授業を 1 つ（3 単位）を履修する。
・歴史授業を 1 つ（3 単位）を履修する。
・社会科学授業を 2 つ（6 単位）を履修する。
・自然科学の授業を 2 つ（6 単位）履修するなど。

〈主専攻〉

主専攻として設置されているのは, 以下のものである。

アフリカ系アメリカ人研究, アメリカ研究, 古代史, 文化人類学, 美術, 天文学, 生物化学, 生物学, 化学, 古典研究, コンピュータ科学, 東アジア研究, 経済学, 英文学, 環境学, フランス語, 地質学, ドイツ語, 政治学, ギリシア語, ヘブライ語, 国際政治, ラテン語, ラテン・アメリカ研究, 数学, 音楽, 神経科学, 哲学, 物理学, 心理学, 宗教学, ロシア語, 科学技術と社会, 社会学, スペイン語, 演劇, 女性学。

〈副専攻〉

副専攻として認められているのは, 以下のものである。

経営学, アフリカ研究, アフリカ系アメリカ人研究, 文化人類学, 化学, 中国語, 古典研究, コンピュータ化学, 創作, 経済学, 教育学, 環境学, 地質学, アメリカ先住民研究, イタリア語, 日本語, ユダヤ研究, 音楽, 哲学, 物理学, 宗教学, ロシア語, 科学技術と社会, 演劇, 女性学。

★ケーススタディ 4：Bowdoin College

〈カリキュラム〉

学士号を取得するプロセスとしては, 定められた科目数と大学の在籍期間, また（科目）分布の要求を満たし, 専攻科目を終了することが必要となる。大学に続けて在籍するためには, 一定の成績を修めなければならない。

1. 32 単位の科目を取得すること。
2. 4 セメスター（16 単位の取得）の在籍期間：低学年期と高学年期にそれぞれ 2 セメスター以上。
3. 「自然科学と数学」,「社会・行動科学」,「人文科学と美学」のそれぞれの分野から 2 コース以上, 非欧米圏科目から 2 コース以上を履修すること。
4. 専攻科目：学科専攻を 1 つ, あるいは 2 つ, 又はコーディネート専攻（coordinate major）か学際的専攻（interdisciplinary major）, あるいは学生自身の設計になる専攻を修了すること。

各学生には, 1 年次から専攻準備のためのアカデミック・アドバイザーがあてがわれる。このシステムにより, 学生の最初の 2 年間の学業を支援し, その後の学業年の設計をする。アドバイザーとの連携により, 学生は 1 年目の履修科目の選び方や組み合わせ方, また学業上の困難さへの対応の仕方を学ぶことができる。2 年生の後半期に何を専攻するかを決定し, その後は専攻科目担当の教員の指導を受ける。9 セメスターを超えた学生は在学できない。

〈履修科目〉

以下の科目群の中からそれぞれ 2 コースを履修する（1 コースは週 3 時間の授業で 1 単位。1 セメスターにつき 4 単位以上を履修）。

・「自然科学・数学」系科目：生化学, 生物学, 化学, コンピューター・サイエンス, 地質学, 数学, 神経科学, 物理学, 及び環境研究科目と心理学のいくつか。
・「社会・行動科学」系科目：アフリカ研究, 経済学, 政治学, 心理学, 社会学, 人類学, 及びアジア研究科目, 環境研究科目, 歴史, ジェンダー・女性論のいくつか。

・「人文科学・美学」系科目：美術，中国語，古典語，舞踏，教育学，英語，映画論，ドイツ語，日本語，音楽，哲学，宗教学，ロマンス諸語，ロシア語，演劇論，歴史学のほとんど，アジア研究科目，ジェンダー・女性論のいくつか。
・「非欧米圏研究」科目群：欧米文化圏以外の考え方を学ぶためのコース。アメリカ黒人文化，アメリカン・インディアン文化，ラテン・アメリカ文化はこの科目群に含めることができるが，語学は含めることができない。

〈専攻科目〉

次の6種類の専攻方法がある(2学年の春に決定)。1）学科専攻一科目，2）学科専攻二科目（ダブル専攻)，3）コーディネート専攻（a coordinate major)，4）学際的専攻，5）自主設計 (a student − designed major)，6）上のいずれかと学科副専攻一科目。

・学科専攻科目群：アフリカ研究，人類学，美術史，アジア研究, 生化学, 生物学, 化学, コンピューター・サイエンス，経済学，英語･英文，仏語･仏文，ジェンダー･女性論，地質学，独語･独文，歴史，数学，音楽, 神経科学, 哲学, 心理学, 宗教学, 社会学など。

ダブル専攻を選んだ学生は，専攻科目のうちの一科目を止めることもできる。

・コーディネート専攻：環境問題に関する研究に対してのみ認められる。
・学際的専攻：2学科にまたがる研究領域を対象とする。以下のような組み合わせが考えられる。美術史と考古学，化学と物理学，コンピューター・サイエンスと数学，英語英文と演劇学，ユーラシアと東ヨーロッパ研究，地質学と化学，数学と経済学など。
・学生の自主設計による専攻：教員2名と連携をとり，2学科以上に重点をおく専攻を決める。

〈副専攻科目〉

副専攻科目として4－7コースをオファーする学科は以下の通りである。

アフリカ研究, アジア研究, 人類学, 美術, 生物学, 化学，古典語，コンピューター・サイエンス，舞踏，経済学，教育学，ゲイ・レスビアン研究，映画論，演劇論など。

★ケーススタディ5：Connecticut College

〈卒業条件〉

B.A. を取得するには，一般教養，選択科目，専攻科目から計128単位（semester hours）が必要。

〈教養教育のプログラム〉

大学の教養教育の方針は，2種類の原理に則っている。一つは，専攻科目によるもの，もう一つは一般教養科目によるもの（Foundation Courses と呼ばれる)。この2種類の教育原理により，バランスのとれた人格を輩出する。

・教養教育プログラムにおける Foundation Courses：

以下の7種類の分野から，それぞれ一つのコースを履修すること。

1. 物理・生物学。
2. 数学・論理学。
3. 社会科学。
4. 文学・芸術批評。
5. 創造芸術。
6. 哲学・宗教学。
7. 歴史学。

外国語1科目 (中級かそれ以上のレベル) と2コースの Writing 科目を履修すること。

・専攻科目：

以下の分野（計56科目）から専攻科目を選べる。人類学, 建築学, 天文学, 生物学, 植物学, 中国語･中文，コンピューター・サイエンス，舞踏，東アジア研究，ジェンダー・女性学，国際関係論，日本語・日文，ラテン・アメリカ研究，音楽とテクノロジー，哲学，心理学，宗教学，演劇，都市研究など。

さらに, 以下の学際的な7分野も専攻科目と認める。

・アフリカ研究，アメリカ研究，行動神経科学，比較文化，環境学，映画学，中世研究。

専攻科目としては, 最低8セメスター･コース（最高15コース）を必要とする。同一の学科からは13

コースを超えてはいけない。うち最低6コースは中級以上の授業であること。また，128単位を超えた履修をして卒業するのでなければ，同一学科から64単位以上を履修してはならない。

専攻科目が決まるまでは,「academic adviser」が,また，専攻科目が決まってからは「major adviser」が学生の相談に当たる。

学生は，教員と協議した上で，自分自身で学際的専攻科目のデザインをすることができる。

副専攻科目（随意）：

一般教養科目や主専攻科目に加えて，副専攻科目が随意で履修できる。副専攻を提供する学科（department）であれば，どれでも良い。副専攻科目では，5コース以上を履修し，そのうちの3コースは中級以上のレベルでなければならない。

〈授業の種類〉

学部学生に対する授業は100番から499番の授業としてオファーされている。「100 − 199」はどの学生にもオープンの授業で,「200 − 299」は初級レベルの知識を,「300 − 399」は中級レベルの知識を,「400 − 499」は上級レベルの知識を前提としたコースである。1コースは4時間を通常とする。

専攻科目の履修例：東アジアの言語と文化を専攻する場合。

これを主専攻とする学生は，中国か日本のいずれかをメインテーマに選ばなければならない。日本を選んだ学生は,「東アジア研究101」「日本語101 − 2, 201 − 2」「歴史116」「日本セミナー」11科目,「日本文学」1科目, 日本関連の選択科目（Electives）の中から1科目（「日本政治」,「日本史」,「宗教学」といった科目），中国か韓国関連の選択科目1科目を履修しなければならない。

1. コア・コース：東アジア研究「東アジアの文学・映画批評」。
2. 言語:「日本語インテンシブ」（週7時間半）,「日本語中級」（週5時間）。
3. 歴史：「日本史」。
4. セミナー：「日本語上級」,「日本史上級」。
5. 選択科目（Electives）:「日本政治」,「日本史」,「宗教学」。

副専攻とする学生は，2年間の日本語コース,「東アジア研究101」東アジア研究を主専攻とする学生のための200番代の科目1科目。

★ケーススタディ6：Middlebury College

〈1年間の授業の構成〉

13週間の秋学期，4週間の冬学期，13週間の春学期から成る。

〈カリキュラムの構成〉

「1年次セミナー」が必修。最初の学期でこのタイプのセミナーを一つ選ぶ。これにより，さまざまな学科のパースペクティブが得られ，特に論文執筆に重点をおいた訓練がされる。

第2から第4セメスターの間では，多くの分野で提供される論文執筆に関するスキルを学ぶコースを1つ選ぶ。

7つの学問分野と，4つの異なる文化・文明コースを履修する。

・学問分野：次の8分野のうちから7分野を選び，それぞれ少なくとも一つのコースを履修のこと。文学，芸術，哲学・宗教学，歴史学，生命科学，演繹推論・分析処理，社会分析，外国語。
・文化・文明：次の文化圏の中から少なくとも一つのコースを履修のこと。アフリカ・アジア・ラテンアメリカ・カリブ海文化圏，ヨーロッパ文化圏，北アメリカ文化圏，諸文化・文明間の比較。
・主専攻：第3セメスターの終わりまでに主専攻を決定する。ほとんどの学科は学際的研究を奨励し，学生はダブル専攻として2つの研究分野に取り組むこともできる。また, 環境研究, 国際研究, 女性学・ジェンダー論のように，学際的なプログラムも用意されている。学生は2分野を統合した専攻や,（優秀な学生の場合）自ら企画した専攻を設定することもできる。

全ての学科や学際的プログラムにおいて，45の専攻分野がある。主専攻としては，10コースを修

めること。主専攻として選択できるのは，アメリカ文明，アメリカ文学，生化学，生物学，化学，中国語，コンピューター・サイエンス，経済学，映画・メディア学，仏語，地理学，地質学などの学科がある。

他の選択肢としては，以下がある。

・「Joint Major」：2つの学科の部分集合を組み合わせた専攻方式。
・「Double Major」：2つの学科を主専攻としたもの。
・「Independent Scholar」：優秀な学生が教員の助言を得て自ら企画したもの。

〈副専攻〉

任意で副専攻が可能である。上級レベルのコースを1つ含む4～6のコースを修めること。

〈履修パターン〉

・映画・メディア学を主専攻とした場合：

中心的なコースとして，「映画史Ⅰ＆Ⅱ」，「テレビとアメリカ文化」，「映画とメディア文化」の上級セミナー，「メディア・テクノロジーと文化の変化」，「アメリカ文化研究」，「文化研究」を履修する。

以下の科目群から少なくとも1つのグループを選ぶ。

1. メディアと芸術批評：「アメリカの映画ジャンル」，「アメリカ映画の名作集」，「フィルム・ノワール」，「ヒッチコックの映画」，「コメディー映画」，「映画とモダニズム」，「著作と映画」，「映画理論」，「映画撮影の歴史」，「カメライメージの美学と批評」。
2. メディアと芸術製作：「ドキュメンタリー」，「サイエンス・フィクション」，「メディア・テクノロジーと文化の変化」，「文化研究」，「アメリカ文化研究」，「アメリカのメディア産業」，「アメリカの現代文化の形成II」。
3. メディアと芸術製作：「サイト・アンド・サウンドⅠ＆Ⅱ」，「シナリオライター論・ワークショップⅠ」，「デジタル・イメージング入門」，「シナリオライター論Ⅱ」，「メディア製作特論」，「白黒映像」。
4. 国際メディア：「外国映画」，「フランス映画」，「フランスのヌーベル・ヴァーグ」，「文化の国際化―現代芸術と映画の国境を超えて」，「グローバルなテレビ文化」，「日本映画」，「現代中国映画」，「日本のアニメ，ロシア映画」，「アラブ圏映画」，「ドイツ映画」。

・副専攻の場合：次の4授業のうち3つを履修すること。「映画史Ⅰ」，「映画史Ⅱ」，「テレビとアメリカ文化」，「メディア・テクノロジーと文化の変化」。

★ケーススタディ7：Gettysburg College

〈カリキュラム〉

Bachelor of Arts, Bachelor of Science, Bachelor of Science in Music Education が取得できる。2005年入学者34単位，2006年入学者33単位，2007年入学者34単位。

〈主専攻〉

・Bachelor of Arts：人類学，芸術史，芸術スタジオ，生物学，化学，古典学，コンピューター・サイエンス，経済学，英語，環境学，フランス語，ドイツ語，ギリシア語，健康・運動学，健康・体育教育，歴史学，日本研究，ラテン語，経営学，数学，音楽，哲学，物理学，政治学，心理学，宗教学，社会学，スペイン語，スペイン・ラテンアメリカ研究，演劇，女性学。
・Bachelor of Science：生物学，生化学・分子生物学，環境学，健康・運動学，物理学。
・Bachelor of Science in Music Education：音楽教育。

〈副専攻〉

副専攻もできる。上記主専攻の一覧に加え，アフリカ系アメリカ研究，南北戦争時代研究，東アジア研究，初等教育，映画学，イタリア研究，ラテン・アメリカ研究，神経科学，平和・正義研究，中等教育，作文。そのほか，個人専攻というのも可能。主専攻の代わりに，特別な問題を扱うためにインターディシプリンにコースをデザインすることができる。インターディシプリン研究委員会に申請することが必要となる。

★ケーススタディ 8：Trinity College

〈カリキュラム〉

通常は Bachelor of Arts が, 生物学, 生化学, 化学, コンピューター・サイエンス，経済学，工学，環境学，数学，神経科学，物理学，心理学などを専攻した場合は Bachelor of Science が与えられる。36 コース修了すること。一般教育の単位を取得すること。一つの専攻の必修単位を取得すること。General Examination に合格すること。

一般教育の科目は作文, 数学と 5 分野（芸術, 人文, 自然科学，数と象徴の論法，社会科学）で構成されている。

〈主専攻〉

主専攻は以下のとおり。

アメリカ研究，人類学，芸術史，生化学，生物学，化学，古典文明，古典，コンピューター・サイエンス，経済学，教育研究，工学，英語，環境学，歴史学，国際学，ユダヤ研究，数学，近代言語（フランス語，ドイツ語，ヒスパニック，イタリア語，ロシア語，中国語，日本語），音楽，神経科学，哲学，物理学，政治学，心理学，公共政策学，宗教学，社会学，スタジオ芸術，演劇・舞踊，女性・ジェンダー論。
インターディシプリナリー専攻も可能。

★ケーススタディ 9：Scripps College

〈卒業条件〉

本校の B.A. 取得には最低 32 コースの履修を必要とする。必須課程は以下 8 分野である：人文科学，文章の書き方及び批判的な分析，多分野の学習（芸術，社会科，自然科学等），人種と民族，性別と女性問題, 外国語, 数学, 専攻分野。また, 最低 16 コースを Scripps College で受講すること。専攻は以下 3 つから選択可能：主専攻，二重専攻（Dual Major），ダブル専攻（Double Major）。また，希望であれば，副専攻を選択することもできる。成績は，主専攻及び副専攻において評価点の累計平均が最低 C 以上であること。また，文章の書き方のクラスで C 以上を修めること。なお，二重専攻（Dual Major）とは複数の専門分野の学習を必要とする学生のための専攻である。卒業論文は，それぞれの学部で習得した技術と知識を総合的に取り入れたものとする。二重専攻の場合は，それぞれの専攻について論文を書く必要がある。

〈その他〉

教職員のアドバイザーが学生の興味にあった学習プログラムの調整，事前のトレーニング，学問的な目標設定のサポートを行う。

★ケーススタディ 10：Williams College

〈カリキュラム〉

B.A. 取得には，大学が指定した 4 種類の必須課程（部門別課程，民族と文化，定量的・形式的論理思考, 文章の書き方), 4 つの冬季学習プロジェクト，専攻分野及び体育科目の履修が必要である。また指定された期間在籍することが要求されている。専攻分野は以下 3 つから選択可能である：専攻，規約専攻（Contract Major）（注 1），ダブルメジャー。成績は，32 科目のうち少なくとも 19 科目は C マイナスまたはそれ以上，専攻科目は C マイナスまたはそれ以上であること。

（注 1）規約専攻（Contract Major）：異なった学問分野にまたがった専攻を学びたい学生のための専攻。教職員 2 名がサポートする。現教職員の才能に適していること，既存の専攻と特徴が異なること，プログラムに一貫性があること。

〈冬季学習プログラム（Winter Study Program）〉

講義は 1 年を 2 つに分けた 2 学期制（semester）であり，1 月は冬季学習プログラム（注 2）が実施される。各学期に 4 科目を履修し，1 月の冬季学習プログラムでは 1 科目を合否成績評価方式（pass － fail）に基づき履修する。

〈一般教養と工学の組合せ（3 － 2 プログラム）〉

本プログラムの資格を得た学生は一般教養と工学分野の専門トレーニングを組合せる事ができる。3 年間で 24 コースと 3 つの冬季学習プロジェクトを

履修する。その後他の工科大学へ転校し，B.S. を取得する。全コース修了後，本校の B.A. と他校工科大学の B.S. を取得する事ができる。ただし，本校での科学関連教科の評価点平均が B 以上であること。本校はコロンビア大学との正式協定を持つ。

〈調整プログラム（Co － ordinate Program）〉

職業上，学部間をまたがった分野での学習が必要な場合のプログラム。生物情報学，ゲノミクス，プロテオミクス，物質科学研究，動作研究がある。

〈海外研修〉

本校はスペイン，フランス，中国，スウェーデン，デンマーク，京都での海外研修プログラムを用意している。学部長の承認が必要。

〈個別指導プログラム〉

個別プログラムは，2 年目用，と 3 年目 /4 年目用の 2 つのレベルに分かれており，週に一度一対一で一時間ほど行う。分析方法，文章の書き方，会話と議論の能力の向上に重点をおいている。手助けを必要としている又は興味のある学生が受講できる。

★ケーススタディ 11：Kenyon College

〈必須要項〉

B.A. 取得には，芸術，人文科学，自然科学，社会科の 4 分野と第二言語，及び定量的論理思考から 16 ユニット（1 教科の表示単位）以上履修しなければならない。また，最低 4 学期分（4 年目を含む）の在籍が必要である。専攻は次の 3 つから選択可能：専攻, ダブル専攻, 総観専攻（Synoptic Major）[27]。（注 1）また，任意で副専攻や，自身の専攻にさらに専門分野を追加する事も可能である（Interdisciplinary Concentration）。単位に加算されないが，各専攻の 4 年目の課題も必須。成績は平均 C 以上を修めることが要求されている。

〈その他〉

コース決定における疑問や問題についてはアドバイザーと相談し解決する。

★ケーススタディ 12：Reed College

〈専攻分野〉

主専攻は以下の学問領域から選択する。

人類学, 美術, 生物学, 化学, 中国文学, 古典, 経済学, 英米文学，仏文学，独文学，歴史，数学，音楽，哲学，物理学，政治学，心理学，宗教学，露文学，社会学，西文学，演劇。

さらには，以下複合領域的専攻も可能である。

アメリカ学，生化学・分子生物学，化学・物理，古典・宗教学，舞踏・演劇，文学全般，歴史・文学，国際比較政治学，言語学，文学･演劇，数学･経済学，数学・物理学。

ダブルメジャーもしくは副専攻も可能である。

〈授業形態〉

各授業はレベル分けされていて，番号でレベルの識別が可能。100 番台の授業は概論的・導入的な授業で, 履修条件（prerequisite）が設定されていない。200 番台の授業は概論的・導入的な授業であるが, 多少の履修条件（prerequisite）が設定されている。300 番台の授業は該当分野の知識を身に付けている学生向けであり，400 番台は上級クラスで 2 つ以上履修条件（prerequisite）が設定されている。

〈卒業条件〉

30 ユニットの授業（1 ユニットは通常の 4 単位），保健体育科目 1.5 ユニット分。通常，27 ユニット分の授業と保健体育科目の単位取得を 3 年次終了時までに行うことが望ましい。

学問分野に偏りがないように，専攻に関係なく以下の 5 つの学問的分野グループの授業を履修しなくてはならない。

グループ A（文学，哲学，宗教，芸術）少なくとも 2 ユニット分の授業を履修。

グループ B（歴史，社会科学，心理学）少なくとも 2 ユニット分の授業を履修。

グループ C（自然科学）少なくとも 2 ユニット分の授業を履修。

グループ D（数学，論理学，外国語，言語学）少なくとも 2 ユニット分（数学系か言語系を選択）の授業の履修。

グループX（専攻外科目）上記のほか，2ユニット分の授業を専攻分野の外の科目から選択。

★ケーススタディ 13：Oberlin College
〈学部構成〉
教養学部（B.A.）と音楽院（B.M.）がある。5年で2つの学位を取得するコースも想定されている。また，5年で学部学位と大学院修士の2つを取得するプログラムもある。
〈卒業条件（B.A.）〉
教養学部は3つの学科に分かれている：人文学科，社会科学学科，数理（自然科学，数学）学科。

★ケーススタディ 14：Haverford College
〈カリキュラム〉
卒業までには32単位が必要。単位数のほか，1年次の必修であるWriting Course，1年間の外国語科目の履修（能力試験での免除も可），少なくも1単位の数学関連科目の履修，人文科学，社会科学，自然科学の3つの学問領域で少なくともそれぞれ3単位ずつ履修することが必要である。
通常の主専攻のほか，学生の能力と興味に合った専攻をデザインすることもできる。また，副専攻も設定されている。

3）まとめ

いずれのカリキュラムの例を見ても，教養教育の充実が意図されていて，幅広い履修が求められているのが理解できる。この幅広さは，裏を返せば学生にかなりの選択肢を与えている結果になっている。つまり，上記のようなカリキュラムの下で学生は，幅広く学びながら自分たちで学問の方向性を見出していくことができるようになっている。そこでは，主専攻のほか，副専攻，ダブルメジャー，学生がプログラムを組み立てる専攻など，さまざまな学生の要望に対応できる仕組みができあがっている。
また，各授業は，学問分野による分類が行われているだけでなく，各授業には明確に性格づけ，目的の付加，位置づけ，レベル分けなどが行われている。学生の目からは，どの授業を履修することで，何を目指すことができるのかということがわかるようになっている。
このような仕組み，制度は日吉キャンパス設置の共通科目にはまったく見られない。日吉設置学部共通科目（総合教育科目）の授業だけで主専攻を組み立てていくことは，現時点ではかなり困難が伴うと思われる。しかしながら，少なくとも，日吉設置学部共通科目（総合教育科目）を核とした副専攻，ダブルメジャーなどの制度は大いに実現の可能性があるかと思われる。また，これに向けて，日吉設置学部共通科目（総合教育科目）の分類，性格付け，目的付加などを早急に進めていくことが求められているのではないであろうか。

4.「慶應義塾大学における学部カリキュラムに関するアンケート」の分析と考察

本研究グループでは，2006年6～7月にかけて「慶應義塾大学における学部カリキュラムに関するアンケート」を実施した。これは，現在慶應義塾大学で行われている大学教育について，学生どのように考えているかをできるだけ正確に把握し，今後の大学教育改善に関する本報告書の提言をつくるにあたっての，基礎データを取る目的で行われた。

27）複数の専門分野の学習を必要とする学生のための専攻である。学生は教職員のアドバイスのもと，提案書を2年目の終了時までに作成する。提案書は関連する専攻分野の議長が承認し，最終的に学長が承認する。提案書作成は，成績が本校の平均またはそれ以上の学生に許可される。最近では，「行動の物理的過程（Behavioral Physics）」「文化的生態学（Cultural Ecology）」「アメリカの外交（American Diplomacy）」等が承認された。

アンケート調査の詳細とデータは，第2部「4.『慶應義塾大学における学部カリキュラムに関するアンケート』調査結果報告」に示す（118～197頁）。

ここでは，この調査報告から読み取れる内容の分析を概括して述べることにする。

1）履修登録と講義要項（シラバス）について

はじめに，履修を決定する際の参考情報に関して尋ねたが，ここにおいては，授業を決めるにあたっては，シラバスが最重要であるということの認識が，ある程度は浸透していることが示されている（問1，2参照）。シラバスを最も参考にしたという学生が56.2％だったのに対し，シラバス以外の友人や先輩の評判や『リシュルート』[28]を最も参考にする学生が，それぞれ23.1%，7.4%と高率に及んでいる事実も明らかになった。

ただ，シラバスをどのように改善したら良いかという問いに対しては，コンパクトにして欲しいが情報量は増やして欲しいという矛盾した要求をもっていることが分かる（問10，140頁）。それと同時にシラバスを電子化して，簡単に閲覧できるようにして欲しいという要求も非常に強いことが分かる（ウェブで簡単に閲覧37.2%，ウェブの検索機能を充実する30.5%）。

ガイダンス・ウィークのガイダンスは，現在春学期に日吉キャンパスのみで行われている。一部の教員の間ではこれを廃止して，授業を早く始められるようにしてはという考えもあるようであるが，学生はこれがとても重要であると考えているようである。必要，どちらかといえば必要をあわせて76.6%（日吉キャンパス単独では90.2%）。また，これを秋学期にも必要かという問いに対しては，必要，どちらかといえば必要をあわせて56.8%（日吉キャンパス単独では69.4%）となっている。セメスター制（半期制）を前提として，秋学期開始時の履修登録をできるようにするべきかという問いに対しては，医学部を除く全キャンパスで81.1%の学生が，肯定的な回答をしている。これらを総合すれば，秋学期の履修制度を春学期と同様に整備して欲しいというのが，一般的な学生の強い希望であるということができる。

ただし，2年間研究会やゼミに在籍する制度のある学部や専攻では，ゼミや研究会に2年間在籍することが適当であると考える学生が非常に多数であることが明確である（文・経・法・商学部でそれぞれ73%以上，問44，179頁参照）。

2）各科目について

① 満足度

各種類の科目について学生の満足度を尋ねた。科目の種類や学部，学年によって濃淡はあるが，どの種類の授業においても，満足派が不満足派を上回る結果が出た。「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた合計は，英語52.2%（問15，145頁参照），それ以外の外国語71.2%（問21，151頁参照），総合教育科目63.4%（問28，160頁参照），総合教育の少人数セミナー82.9%（問34－1，167頁参照），専門の科目72.1%（問38，173頁参照）であった。

② 外国語の習熟度別（レベル別）の授業について

外国語に関して習熟度別（レベル別）のクラス編成の是非を尋ねた質問では，英語に関しても，それ以外の外国語に関しても，習熟度やレベル別に分けたクラス編成が妥当であると多数の学生が考えていることが分かる（問16，17，26：146頁，147頁，158頁参照）。とはいえ，レベル別に分けた上で統一教材を使うのが良いかというという問いには，必ずしも肯定的ではない（問18，25：148頁，157頁参照）。

③ 専門と一般教育の関係，副専攻制度について

大学で一般教養を学ぶ意義はという問いに対して，大多数の学生が「ある」と考えている（「ある」「どちらかといえばある」合わせ86.4％，問29，161頁参照）。また，大学で最も大切だと思うことにつ

いては（問 54，193 頁参照），「専門の知識と幅広い教養をバランスよく身につける」という答えが最も多い（41.3%）。また，専門と一般教養のどちらを優先しているかの傾向は，医学部と理工学部，看護医療学部の理科系学部では専門を重視する傾向が非常に強いことがわかる。その他の学部では，法学部・法律学科，商学部，環境情報学部において専門指向がやや強く，その他の学部では専門と一般教養が同等か，もしくは教養指向がやや強い学部もあった（文学部，経済学部）。

さらには，「学部の専門の勉強以外の領域をより高いレベルまで学ぶことのできるような制度（たとえば副専攻制度）があれば，履修してみたい，あるいは履修してみたかったか」という問に対しては，「ぜひ履修してみたい」「どちらかといえば履修してみたい」を合わると 76.9% となり，極めて多くの学生が専門のみを勉強するのではなく，その他の科目をより深く学ぶ機会があれば学んでみたい，と考えていることが分かった。

④ 授業の評価点や改善点

各科目の種類に応じた評価点や改善点に関して，複数回答方式で質問した。英語に関しては，「希望した授業が履修できない」（40.3%），「クラスによる負担の相違が大きい」（39.3%），「目的・内容を明確化する」（33.5%），「授業の質」（33.3%）の点でより強い改善の要望が現れている（問 20，150 頁参照）。英語以外では，「授業の質」（37.3%），「目的・内容を明確化する」（35.8%），「難易度の明確化」（33.2%），「教え方の技術」（32.0%）でより強い改善の要望が出されている（問 24 － 1，156 頁参照）。総合教育科目に関しては，授業の内容の面白さを学生は強く期待していることがわかる（問 32, 33：164 頁，165 頁参照）。総合教育科目の履修に関しては，授業に対する興味を単位の取りやすさに優先する学生がたしかに多いが（62.2%），35.8% という非常に多くの学生が，単位の取りやすさをより重要視しているし（問 30，162 頁参照），授業を履修して良かった理由として「単位が楽にとれた」とする学生も多い（31.2%，問 32，164 頁参照）。

3）成績および楽勝科目の問題

成績評価に関しては数字上では，基準はきちんと示されていると考える学生が多く（64.0%），基準と結果が合致していると捉えられている（82.1%）というデータが出ている（問 45，46：180 頁，181 頁参照）。しかし，それを細かく精査するとあまり楽観視できないものがある。他の質問項目では，傾向がはっきりしているものに関しては，留保なく白黒はっきりした回答が出てくるのに関して，この質問では，「どちらかといえば」という留保をつける回答が非常に多いということである。つまり，本来すべての科目に関して明確であるべき成績評価基準が曖昧な科目がかなりの数存在していることを示唆する数字である。

ただし，成績評価に関しては，達成度のみを測るだけでは良くないとする傾向がやや強く現れており（問 47，182 頁参照），授業ごとに評価方法のばらつきがあるのは仕方ないと考える学生が多いことも分かる（問 48，183 頁参照）。また，相対評価と絶対評価に関しては，絶対評価の方が良いとする学生が非常に多い（問 49，184 頁参照）。また，成績評価に対する質問制度は整っていないとする学生も非常に多い（問 50 － 1，186 頁参照）。

こうした状況のなかで存在するのが，楽勝科目の問題である。楽勝科目の定義はさまざまであるので，アンケート作成の際はそれを明確にすることは行わなかった。一般的には，労力をかけずに単位が取得できる科目の総称で，履修登録さえすれば出席しなくても単位が取れる，過去の試験と同じ問題が出るなどの授業が楽勝科目と呼ばれている。そして，これらを実際に 53.3% の学生が履修し（問 36，170

28）学生団体が発行する冊子。一部の教員の前年度の授業を紹介し，学生の声などを掲載している。

頁参照)，そのうち 84.6％の学生が「だいたい楽勝だった」と答えている（問 36 － 1，171 頁参照)。

成績評価に関しては，評価に関するさまざまな観念を含むため，このような一律のアンケート調査で問題点を詳らかにすることは難しい。学生自身も評価の問題がもつ矛盾を十分感じ取った上で回答を行っている傾向が見られる。しかし，基準を明らかにした上で，学生が納得のいく評価方法と制度を確立していくということは，追求を続けていかなければならないだろう。

4）学生による授業評価

これに関しては,「行うべき」55.9％と「どちらかといえば行うべき」30.4% とを合わせて 86.3% の学生が賛成意見を示している（問 51，187 頁参照)。その理由としては,「授業内容の向上を期待」(63.2%）や「現状を把握して欲しい」(「57.7%）といった答えが最も多かった（複数回答，問 51 － 1，188 頁参照)。

5）問 59　自由記述欄に関して

問 59 の自由記述欄には，極めて多数の要望が寄せられた。今回，自由記述欄に書かれた内容をひとつひとつ切り分けて 1035 項目からなるデータベースを作成した。このデータベースは, 1. 記述内容, 2. 学部，3. 学年，4. 性別，5. 内容 1，6. 内容 2，7. 内容 3，8. 形態，9. 科目の 9 つのカラムからなっている。5. ～7. の「内容 1 ～ 3」には内容のキーワードを記入していった。外国語科目，学校生活，講義その他, 施設, 事務, 専門科目, 教員，カリキュラム, 成績，履修，出席，授業評価，時間割，シラバスなどがそれにあたる。「6. 形態」は批判，要望，苦情，感想の別を記入した。「9. 科目」は具体的な科目名が書かれていた場合，それを記入した。

これらは，興味深い内容で，今後のカリキュラムや大学について考える上で，貴重な情報を提供している。しかしながら, 非常に雑多な内容で, 数も多く, 公表するには不適当な個人的な内容も含むので，本報告書に掲載することは行わなかったが, データベース・ファイルとして電子化した状態で教養研究センターに保管し，各学部のカリキュラム委員会等が資料とする場合は必要に応じて供することとした。

6）アンケートを総括して

今回のアンケートに回答を寄せた学生は，全体としては, 非常にまじめに授業を受け（問 53, 192 頁)，カリキュラムに関しても真摯に評価をしているという傾向を見ることができる。また，塾生であることに対する満足度も高く（問 57，196 頁参照)，授業に対する満足度（問 15, 21, 28, 34 － 1, 38：145 頁，151 頁，160 頁，167 頁参照)，現在の大学，学部，専攻に対する満足度も非常に高く出ている（問 41，43，58：176 頁，178 頁，197 頁参照)。

ところが，問 59 の自由記述欄には，上記の数値の印象を覆すさまざまな要望，批判，苦情，感想が記されている。そのなかには，現状のさまざまな問題点に関して考えさせられる内容も決して少なくない。また非常に多くの建設的な提案も含まれている。

つまり，このアンケートからは，大学やカリキュラムの現状を全般的には肯定的に捉えてはいるが，決して不満をもっていないわけではない，そしてさまざまな雑多な要望や改善の要求をそれぞれがもっているという塾生の姿が浮かび上がってくる。

たしかに，第二次世界大戦後拡大の一途を辿った私立大学としての慶應義塾は，マス教育の機関としては成功をしているということができる。そのことは，今回のアンケートの数字にははっきりと表れている。しかし，そこからは今後の慶應義塾大学の教育カリキュラムの課題も見えてくる。それは，個々の矛盾や問題点をひとつひとつ分析しながら解決し，学生の要望や，学生の将来に対する責任，社会の大学への付託にきめ細かく応えていく体制をつくることだと言えよう。

第Ⅱ部

資料編

資料 1
学部カリキュラムの比較分析

比較表の見方

図表を作成するにあたっては、６学部・全学年を対象として可能な限り多くの資料を収集すべく、日吉学事センター、三田学事センター、医学部学事課、理工学部学事課に対し協力を要請し、① 2006 年度『講義要綱慶應義塾大学（日吉）』、②６学部の履修案内（外国語科目履修案内、総合教育セミナー履修案内など）、③その他カリキュラムに関わる情報が掲載されている資料などをもとに作成した。

■総合教育科目等

学部	① 必要単位数	② 進級条件	③ 設置形態	設置学年	④ 専攻・学科等との関係	⑤ 秋学期科目の追加・削除の可否	⑥ 教養研究センター設置科目の扱い	⑦ 外国語教育研究センター設置科目の扱い

⑧ 体育研究所設置科目の扱い	⑨ 他学部設置科目の扱い	⑩ １クラスの人数（講義科目）	⑪ 教育内容を検討する学部設置機関

① 当該学部の卒業に必要となる総合教育科目の単位数
② 当該学部における総合教育科目に関する進級条件
③ 当該学部における総合教育科目の成績をつける形態
④ 当該学部の専攻・学科等と総合教育科目との関係
⑤ 当該学部における総合教育科目に関する秋学期科目の追加・削除の可否
⑥ 当該学部における教養研究センター設置科目と総合教育科目との関係
⑦ 当該学部における外国語教育研究センター設置科目と総合教育科目との関係
⑧ 当該学部における体育研究所設置科目と総合教育科目との関係
⑨ 当該学部における他学部設置科目と総合教育科目との関係
⑩ 当該学部における総合教育科目（講義科目）の１クラスの人数
⑪ 当該学部における総合教育科目の教育内容の検討を行う学部設置機関

■必修英語

学部	設置形態	① 半期１週間のコマ数	② 半期１コマの単位数	③ 設置学年・学期	④ 外国語教育研究センター設置科目の扱い	⑤ 習熟度別クラス編成の有無	⑥ 学年全体を対象とした統一テストの有無	⑦ １クラスの人数

教育内容を検討する学部設置機関	⑦ 非常勤講師の公募の有無	⑧ 共通シラバス	⑨ 成績評価に関係する共通テスト

① 当該学部における必修英語の半期１週間に設置されているコマ数
② 当該学部における必修英語の半期１コマに与えられている単位数
③ 当該学部における必修英語が設置されている学年と学期
④ 当該学部における外国語教育研究センター設置科目と必修英語との関係
⑤ 当該学部における必修英語の習熟度別クラス編成の有無
⑥ 当該学部における必修英語の学年全体を対象とした統一テストの有無
⑦ 当該学部における必修英語の１クラスの人数
⑧ 当該学部における必修英語を担当する非常勤講師の採用に関する取組み
⑨ 当該学部における必修英語の共通シラバスの有無
⑩ 当該学部における必修英語の成績評価に関係する共通テストの有無

■必修外国語（英語を除く）

学部	① 履修可能な語種										設置形態	半期１週間のコマ数	設置学年	② 外国語教育研究センター設置科目の扱い	教育内容を検討する学部設置機関	非常勤講師の公募の有無
	ドイツ	フランス	中国	朝鮮	ロシア	スペイン	イタリア	アラビア	ペルシア	トルコ						

① 当該学部における必修外国語（英語を除く）のうち履修可能な語種
② 当該学部における外国語教育研究センター設置科目と必修外国語（英語を除く）との関係

■共通項目

学部	① 卒業必要単位数	② 第1学年・第2学年の履修上限単位数	③ 必修外国語（英語を含む）		
			必要単位数	④ 進級条件	⑤ 履修方法

① 当該学部の卒業に必要となる単位数
② 履修申告時に申請できる上限単位数
③ 当該学部の卒業時に必要となる必修外国語（英語を含む）の単位数
④ 当該学部における必修外国語（英語を含む）に関する進級条件
⑤ 当該学部における必修外国語（英語を含む）の履修方法

「総合教育科目」等

学部		必要単位数	進級条件	設置形態	設置学年	専攻・学科等との関係
文学部		38 単位以上（系列外科目を含む） 人文科学系列、社会科学系列、自然科学系列の各系列で最低 8 単位以上。 ＊総合教育科目については、専攻にかかわらず、文学部内で全部共通。	第 1 学年から第 2 学年への進級には 26 単位以上（英語を選択しない場合は 28 単位以上）取得することが必要。 必修外国語科目 10 単位（英語を選択しない場合は 12 単位） 総合教育科目 16 単位を取得することが必要。	セット科目半期	第 1 から第 4 学年	専攻により、履修を推奨する科目有り。
経済学部		20 単位以上 Ⅰ系（自然・数理）：6 単位以上 Ⅱ系（人文・社会）：10 単位以上 Ⅰ系またはⅡ系またはⅢ系（総合・関連）：4 単位以上	第 1 学年から第 2 学年への進級には合計 24 単位以上を取得することが必要。 第 2 学年から第 3 学年への進級には、以下①から③の 26 単位を含めて 60 単位を取得することが必要。 ① 基礎教育科目：6 単位 ② 外国語科目：8 単位 ③ 専門教育科目の礎教育科目：12 単位	セット科目半期	第 1 から第 4 学年	無
法学部	法律学科	24 単位以上 人文科学：8 単位以上 自然科学：8 単位以上 社会科学：8 単位以上 ＊総合教育科目という名称は無い。	当該学年で 30 単位以上（自由科目を除く）を取得することが必要。	半期	第 1 から第 4 学年	副専攻制度と関係する。
	政治学科	44 単位以上 人文科学：8 単位以上 自然科学：8 単位以上 社会科学：28 単位以上 ＊総合教育科目という名称は無い。				
商学部		20 単位以上 Ⅰ類：6 単位以上 ⅡからⅣ類：最低単位数無し ⅠからⅣ類の指定演習科目：2 単位以上 Ⅳ類：最高 4 単位まで	第 1 学年から第 2 学年への進級には 30 単位以上を取得することが必要。 第 2 学年から第 3 学年へは 30 単位かつ第 1・2 学年を通じ 70 単位以上取得することが必要。	セット科目半期	第 1 から第 4 学年	強化プログラムと関係する。
医学部		人文・社会科学：4 単位以上履修 （選択必修） ＊総合教育科目ではなく、基礎教育科目として、人文･社会科学科目、基礎科学必修科目、医学基礎教育科目がある。	第 1 学年から第 2 学年への進級には基礎教育科目 43 単位を取得することが必要（うち人文・社会科学を除く 39 単位が必修科目）。	半期	第 1 学年	無
理工学部		18 単位以上 第 1･2 学年 日吉設置科目：10 単位以上 第 3･4 学年：8 単位以上	第 3 学年への進級には 8 単位以上を取得することが必要。	半期	第 1 から第 4 学年	無

・４つの比較図表のデータは原則、2006 年度の学則や履修案内などに基づいている。
　必要に応じ、2006 年 12 月末日までの各学部教授会および学習指導会議において決定された事項も反映させた。
・複数の学則が並存している場合は、最新の年度の学則のみ参照した。

	秋学期科目の追加・削除の可否	教養研究センター設置科目の扱い	外国語教育研究センター設置科目の扱い	体育研究所設置科目の扱い	他学部設置科目の扱い	1クラスの人数（講義科目）	教育内容を検討する学部設置機関
	不可	卒業単位として認める 系列外科目として認める。	卒業単位として認める 大部分を系列外科目として認める。	卒業単位として認める 体育研究所設置講座（講義）（実技）、体育学講義（2単位）、体育学演習（1単位）、体育実技A、B(1単位）の組み合わせを問わず合計4単位まで系列外科目として認める。それ以上は自由科目となる。	卒業単位として認める	各科目の窓口となっている専攻・部門が科目担当者の選出や科目の改廃を提案し、運営委員会で審議する。学事が教室定員で調整	カリキュラム等検討委員会（日吉所属専任教員・三田所属専任教員）、文学部教授会・運営委員会準備会（学部長・日吉主任・学習指導主任・学部長補佐・学事センター） 総合教育科目および専門教育科目の教育内容を随時検討する。
	可 指定された経済学部秋学期基礎教育科目の選択必修科目と選択科目、専門教育科目の選択必修科目と特殊科目に限り追加・削除を認める。	卒業単位として認める Ⅲ系（総合・関連）の科目として認める。	卒業単位として認める 対象者：2年生次の英語の一部で関係がある。 科目：2年次以降「アドバンスト英語」単位を外国語科目の単位として取得できる。 「初級」を除くセンター科目を認める。	卒業単位として認める 126単位のうち、実技2単位、講義2単位まで、計4単位までは卒業認定単位に含まれる）	卒業単位として認める	学事が教室定員で調整（一部例外有）	無関連部門・部会 カリキュラム委員会
	可 秋学期進級者・秋学期復学者のみ追加申告を認める。	卒業単位として認める 自主選択科目として認める。	卒業単位として認める 外国語の一部を卒業単位として認める。	卒業単位として認める 規定外の16単位（規定128単位・卒業144単位）の中から履修。	卒業単位として認める	学事が教室定員で調整	無
				卒業単位として認める 規定外の32単位（規定112単位・卒業144単位）の中から履修。	卒業単位として認める		無
	不可	卒業単位として認める 併設 科目名：総合教育科目:Ⅲ類（アカデミック・スキルズは指定演習科目扱い）	卒業単位として認める 総合教育科目Ⅲ類（上限8単位）を卒業単位として認める。	卒業単位として認める V類として位置づけられ、最高4単位まで履修を認める。 ＊（自由科目は除く） （体育実技A、B(1単位）、体育学講義(2単位）、体育学演習（1単位）	卒業単位として認める	学事が教室定員で調整	研究教育委員会
	不可	卒業単位として認める アカデミック・スキルズを社会科学の単位として認める。	卒業単位として認めない 自由科目として扱う。	卒業単位として認めない 自由科目として扱う。	卒業単位として認める （人文・社会科目）	学事が教室定員で調整	他学部設置科目等の取り扱いについては、日吉専任者会議において決定している。 医学部開講の基礎科学必修科目、医学部基礎教育科目に関しては、検討する機関は特に設置されていない。
	可 指定された理工学部日吉設置秋学期総合教育科目に限り、追加・削除を認める。	卒業単位として認める 自主選択による科目8単位の枠内で履修を認める。	卒業単位として認める 自主選択による科目8単位の枠内で履修を認める。	卒業単位として認める 体育実技A（1単位）は第1学年から第4学年の間に合計2単位まで履修を認める。 ＊競技の組み合わせは自由	卒業単位として認ない	理工学部独自設置科目に限り、学習指導が原則200名以内で調整	総合教育委員会（日吉専任教員＋矢上専任教員） 理工学部独自設置総合教育科目の教育内容を随時検討し、必要に応じ学習指導会議に科目の改廃や非常勤人事を提案する。また委員会独自の予算も執行できる。

【用語の定義】

セット科目：通年で成績をつける形態。　半期：半期ごとに成績をつける形態。

＊履修案内等公表された文書によって確認できない部分に関しては、複数の学部所属教員に確認して記述した。カリキュラムや教育内容決定のプロセスは多様で複雑なため、厳密な記述よりもむしろ学部間比較を目的として簡略化して記している。

必修英語

学部		設置形態	半期１週間のコマ数	半期１コマの単位数	設置学年・学期	外国語教育研究センター設置科目の扱い
文学部		セット科目	2 コマ	1 単位	第 1・第 2 学年 （中国文学、独文学、仏文学専攻では第 2 学年に設置されていない。）	併設有 併設により、帰国生（およびそれに準ずる者）は「アドバンスト英語　英語最上級」を文学部設置「英語Ⅰ / Ⅱ上級」として履修できる。
経済学部	Study skills 以外の英語科目	セット科目 半期	2 コマ	1 単位	第 2 学年以降から第 4 学年 （ただし、英語セミナーは第 1 学年秋学期以降から第 4 学年）	併設有 2 年生以上で「英語 Study Skills」または「英語セミナー（特別上級）」を取得済の学生は「アドバンスト英語」を選択必修科目として履修できる。
経済学部	Study skills	半期	2 コマ	1 単位	第 1 学年春学期	—
法学部	法律学科 政治学科	半期	2 コマ	1 単位	第 1・第 2 学年	併設有 日吉設置「アドバンスト英語」を「英語第Ⅳ」として履修できる。その他の許可された科目は「英語第Ⅱ（レベル 2）」および「英語第Ⅲ」として履修できるが、振り替えが可能なのは必修 8 単位のうち 2 単位を上限とする。
商学部		半期	2 コマ	1 単位	第 1 学年・第 2 学年	併設無 外セ設置科目を必修英語として履修できない。
医学部		セット科目	2 コマ（第 1 学年） 2 コマ（第 2 学年） 1 コマ（第 3 学年）	1 単位	第 1・第 2・第 3 学年	併設無 外セ設置科目を必修英語として履修できない。
理工学部		半期	1 コマ	2 単位	第 1・第 2 学年	併設有 「アドバンスト英語」受講有資格者として認められた場合、「アドバンスト英語」を履修するかを選択できる。

・４つの比較図表のデータは原則、2006 年度の学則や履修案内などに基づいている。
　必要に応じ、2006 年 12 月末日までの各学部教授会および学習指導会議において決定された事項も反映させた。
・複数の学則が並存している場合は、最新の年度の学則のみ参照した。

	習熟度別 クラス編成の有無	学年全体を対象とした 統一テストの有無	1クラスの人数	教育内容を検討する学部設置機関	非常勤講師の 公募の有無	共通シラバス	成績評価に関係する 共通テスト
	5段階	有（文学部独自作成のテスト）	25名前後	有 外国語部門（英語）	原則公募	無	無
	無 （ただし、「英語セミナー」は3段階に分類される。）	無	「英語リーディング」：35名前後に調整 「英語セミナー中級」：30名前後 「英語セミナー上級」：20名前後	有 英語部会	非公募	無	無
	無	有（春学期末テスト）	30名前後	有 英語部会	非公募	有	有
	5段階 （1年生：5段階 2年生：3段階）	無	25名前後	有 英語部会	非公募	無	無
	4段階	有（TOEIC）	コミュニケーションクラス：25名前後 リーディングクラス：40名前後	有 英語部会および研究教育委員会	非公募	無	無
	無	無	25名前後	有 英語	非公募	有	無
	3段階（「アドバンスト英語」に併設をかける場合は4段階）	有（G－TELP）	30名前後	有 教育内容検討委員会 英語教室（矢上教員＋英語専任教員）	公募（過去2回実施）	無	無

【用語の定義】

セット科目：通年で成績をつける形態。　半期：半期ごとに成績をつける形態。

＊履修案内等公表された文書によって確認できない部分に関しては、複数の学部所属教員に確認して記述した。カリキュラムや教育内容決定のプロセスは多様で複雑なため、厳密な記述よりもむしろ学部間比較を目的として簡略化して記している。

必修外国語（英語を除く）

学部			履修可能な語種										設置形態
			ドイツ	フランス	中国	朝鮮	ロシア	スペイン	イタリア	アラビア	ペルシア	トルコ	
文学部	1年生		○	○	○	○	○	○	○				セット科目
	2年生	国文学	○	○	○	○	○	○	○				
		中国文学			○								
		独文学	○										
		仏文学		○									
		哲学系、史学系、英米文学、図書館・情報学、人間関係学	○	○	○	○	○	○	○				
		東洋史学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
経済学部			○	○	○		○ 2年のみ	○					セット科目
法学部	法律学科		○	○	○	○	○	○	○				半期
	政治学科												
商学部			○	○	○			○					セット科目
医学部			○	○									セット科目
理工学部			○	○	○	○	○						セット科目

・4つの比較図表のデータは原則、2006年度の学則や履修案内などに基づいている。
　必要に応じ、2006年12月末日までの各学部教授会および学習指導会議において決定された事項も反映させた。
・複数の学則が並存している場合は、最新の年度の学則のみ参照した。

半期 1 週間のコマ数	設置学年	外国語教育研究センター設置科目の扱い	教育内容を検討する学部設置機関	非常勤講師の公募の有無
英語＋英語以外の 1 語種を履修する場合：3 コマ（6 単位） 英語以外の 2 語種を履修する場合：3 コマ ×2（6 単位 ×2） ＊いずれも第 1 学年のみ	第 1・第 2 学年	併設有 科目名：中国語 （第 1 学年） 併設により、中国語の上級能力がある者は、外セ設置の「中国語聴解 1（Ⅰ・Ⅱ）（上級）」「中国語表現技法 1（Ⅰ・Ⅱ）（上級）」「中国文翻訳（Ⅰ・Ⅱ）（最上級）」を文学部設置「中国語Ⅰ（中級）」として振替えることができる。 （第 2 学年） 併設により、高度な中国語能力のある者は、外セ設置の「中国語聴解 2（Ⅰ・Ⅱ）（最上級）」「中国語表現技法 2（最上級）」を文学部設置「中国語Ⅱ（上級）」として振替えることができる。	有 各語種	無
第 1 学年　3 コマ 第 2 学年　1 コマ （ロシア語のみ 2 コマ）	第 1・第 2 学年	併設有 「特設科目」を「選択 A」として履修可能（初級レベルは除く）。 「特設科目」のうち初級レベルの科目とオープン科目は自由科目。	有 各部会	無
2 コマ（インテンシブクラス：4 コマ）	第 1・第 2 学年	併設有 全てのセンター設置科目に対して、選択科目か必修科目に振替えることができる。	有 各部会	無
2 コマ	第 1・第 2 学年	併設無	有 各部会および研究教育委員会	無
2 コマ	第 1 学年	併設無 自由科目として認定。	有 各語種	無
2 コマ ＊第 1 学年のみ	第 1 学年	併設有	有 ドイツ語教室、フランス語教室、ロシア語教室および教育内容検討委員会（矢上教員＋諸外国語専任教員）	無

【用語の定義】

セット科目：通年で成績をつける形態。　半期：半期ごとに成績をつける形態。

＊履修案内等公表された文書によって確認できない部分に関しては、複数の学部所属教員に確認して記述した。カリキュラムや教育内容決定のプロセスは多様で複雑なため、厳密な記述よりもむしろ学部間比較を目的として簡略化して記している。

共通項目

学部		卒業必要単位数	第１学年・第２学年の履修上限単位数	
文学部		英語を履修する場合　128 単位 英語を履修しない場合　130 単位	第 1 学年のみ 52 単位	
経済学部		126 単位	両学年とも 48 単位 （各学期 24 単位）	
法学部	法律学科	136 単位 ＊ 2006 年度までは 144 単位	両学年とも 48 単位	
	政治学科		両学年とも 52 単位	
商学部		128 単位	両学年とも 50 単位	
医学部		単位よりも科目を中心としたカリキュラムとなっているため、卒業必要単位という概念はない。	第 1 学年のみ 43 単位履修することが規程となっている。	
理工学部		138 単位	無	

・４つの比較図表のデータは原則、2006 年度の学則や履修案内などに基づいている。
　必要に応じ、2006 年 12 月末日までの各学部教授会および学習指導会議において決定された事項も反映させた。
・複数の学則が並存している場合は、最新の年度の学則のみ参照した。

	必修外国語（英語を含む）		
	必要単位数	進級条件	履修方法
	英語を履修する場合、14 単位もしくは 18 単位 英語以外の 2 語種を履修する場合、16 単位もしくは 20 単位	合計 26 単位以上（英語を履修しない場合は合計 28 単位以上）単位を取得することが必要。	第 1 学年 英語と英語以外の 1 語種を履修する場合：英語 4 単位と英語以外の 1 語種 6 単位を履修する。 英語以外の 2 語種を履修する場合：英語以外の 2 語種を 6 単位ずつ履修する。 第 2 学年 専攻により異なる。 国文学系:第 1 学年で履修した 2 語種のうちいずれか 1 語種 4 単位を履修する。 中国文学系、独文学系、仏文学系：各専攻ごとの語種を 2 単位 哲学系、史学系、英米文学、図書館・情報学、人間関係学系：第 1 学年で履修した同一の 2 語種を 8 単位履修する。 東洋史学：第 1 学年で履修した同一の 2 語種を 8 単位履修する。また、2 語種のうち 1 語種をアラビア語、ペルシア語、トルコ語のいずれかに変更できる。
	14 単位	第 1 学年から第 2 学年への進級には外国語Ⅰ（英語：Study Skills 2 単位) および、外国語Ⅱ（入学後に発表された 1 語種 6 単位）を履修し、単位取得することが必要。	①第 1 学年で取得すべき外国語Ⅰ（英語 :Study Skills）2 単位。 ②第 1 学年で取得すべき外国語Ⅱ（ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語のうち 1 語種）6 単位。 ③第 1 学年秋学期以降から卒業までの間に取得すべき外国語Ⅰ（英語セミナー）および第 2 学年以降に取得すべき外国語Ⅰ(英語リーディング・英語最上級アドバンスト英語）より 2 単位。 ④第 2 学年以降に取得すべき外国語Ⅱ ・②と同語種を選択する場合　2 単位 ・②とは別語種を選択する場合（外国語Ⅲ）　4 単位 ⑤第 2 学年時以降で取得すべき外国語Ⅰまたは外国語Ⅱ ・③、④とは別に 2 単位（ただし「外国語Ⅲ」履修者は除く。
	16 単位	当該学年で 2 学期（1 年）以上在籍していること。 当該学年で合計 30 単位以上（自由科目を除く）を取得することが必要。 必修科目に不合格の科目があっても、その学年での取得単位数の合計が 30 単位を超えている場合は進級できる。 第 4 学年へ進級するにあたって、英語を除く必修外国語で、初級課程（第Ⅰ・第Ⅱ）を取得していない語種が 1 語種でもある場合には、進級することができない。	第 1 学年から第 4 学年までの間に、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、朝鮮語、イタリア語の 8 つの必修外国語から 2 語種 16 単位（各 8 単位）を履修する。
	16 単位	必修外国語を各学年の進級条件にはしていない。。	第 1 学年から第 4 学年までの間に、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語の 5 つの必修外国語から 2 語種 16 単位(各 8 単位)を履修する。
	12 単位	第 2 学年へ進級するにあたって､英語Ⅰ(2 単位)､英語Ⅱ(2 単位）および、ドイツ語（4 単位）もしくはフランス語（4 単位）のいずれか 1 語種を履修し単位取得することが必要。	第 1 学年において、英語（4 単位）を履修し、かつドイツ語もしくはフランス語のいずれか 1 語種（4 単位）を履修する。
	16 単位	第 2 学年へ進級するにあたって、外国語科目 12 単位中、6 単位以上を取得することが必要。また、第 3 学年へ進級するにあたって外国語科目 16 単位中、12 単位以上を取得することが必要。	第 1･ 第 2 学年において､英語(8 単位)を履修し､かつドイツ語､フランス語、ロシア語、中国語、朝鮮語のいずれか 1 語種（8 単位) を履修する。

【用語の定義】

<u>セット科目</u>：通年で成績をつける形態。　　<u>半期</u>：半期ごとに成績をつける形態。

＊履修案内等公表された文書によって確認できない部分に関しては、複数の学部所属教員に確認して記述した。カリキュラムや教育内容決定のプロセスは多様で複雑なため、厳密な記述よりもむしろ学部間比較を目的として簡略化して記している。

資料２
成績評価に関する実態調査

1）履修案内・講義要綱の記載情報の集計結果

「第３章，2．成績評価方法に関する実態調査」の集計結果として，以下に資料を示す。

表１から表４までは，公開情報の読み取りとして履修案内・講義要綱の記載情報からその内容を読み取った結果の集計である。

表１および表２は，成績評価方法として用いられている項目について，実数および比率を示した一覧表である。期末試験，レポート，平常点，出席などの各項目の単独・複合性，記載の延べ数について，人文社会系，自然科学系，演習・実験・少人数セミナー，芸術（身体知）系，外国語科目の分類ごとに示した。また，表３には，平常点の内容，表４にはその他の評価項目として読み取った内容を上記同様の分類ごとに示した．主な分析結果は第３章，２－３）のⅠ，Ⅱを参照されたい。

2）外国語科目のアンケートおよび聞き取り調査の結果

冊子体から読み取れなかった外国語科目について，日吉専任教員を中心にアンケートおよび聞き取り調査を行い，成績評価方法の実情について調べた。表５から表10は文・経済・法・商・医・理工の各学部の集計結果一覧である。各学部とも調査できた範囲で，1，2年時やレベル別等の授業パターンごとにまとめてある。また，アンケート調査における自由記述意見を表11に示した。主な分析結果は第３章，2–3）のⅢを参照されたい（アンケートはそれぞれの部会の協力くださった先生のお答えを反映させています）。

表 1.　成績評価方法に用いられる項目の集計結果　各項目に該当する実数

	人文社会系	自然科学系	演習・実験	芸術系	外国語科目	全体
集計した講義要綱の総数	441	277	256	43	830	1847
期末試験のみ	153	43	1	11	15	223
期末＋中間試験	2	4	0	2	0	8
期末レポートのみ	18	2	5	2	5	32
期末＋中間レポートのみ	2	6	0	1	0	9
平常点のみ	5	0	5	0	8	18
出席のみ	0	0	0	0	1	1
記載なし	27	35	19	3	89	173
延べ数						
期末試験	331	172	39	38	496	1076
中間試験	8	25	5	2	33	73
出席	102	56	107	13	457	735
平常点	82	63	145	22	556	868
平常点内容明示	37	44	98	2	387	568
期末レポート	80	14	107	17	90	308
中間レポート	87	100	53	5	50	295
小テスト	59	38	10	7	167	281
実験報告	2	5	35	0	0	42
複数項目間の比率明示	21	52	21	10	149	253

表 2.　成績評価方法に用いられる項目の集計結果　各項目に該当する比率（%）

	人文社会系	自然科学系	演習・実験	芸術系	外国語科目	全体
集計した講義要綱の総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
期末試験のみ	**34.7**	15.5	0.4	**25.6**	1.8	12.1
期末＋中間試験	0.5	1.4	0.0	4.7	0.0	0.4
期末レポートのみ	4.1	0.7	2.0	4.7	0.6	1.7
期末＋中間レポートのみ	0.5	2.2	0.0	2.3	0.0	0.5
平常点のみ	1.1	0.0	2.0	0.0	1.0	1.0
出席のみ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1
記載なし	6.1	12.6	7.4	7.0	10.7	9.4
延べ数						
期末試験	**75.1**	**62.1**	15.2	**88.4**	**59.8**	58.3
中間試験	1.8	9.0	2.0	4.7	4.0	4.0
出席	23.1	20.2	**41.8**	30.2	**55.1**	39.8
平常点	18.6	22.7	**56.6**	**51.2**	**67.0**	47.0
平常点内容明示	8.4	15.9	38.3	4.7	46.6	30.8
平常点内容明示率＊	45.1	69.8	67.6	9.1	69.6	65.4
期末レポート	18.1	5.1	**41.8**	**39.5**	10.8	16.7
中間レポート	19.7	36.1	20.7	11.6	6.0	16.0
小テスト	13.4	13.7	3.9	16.3	20.1	15.2
実験報告	0.5	1.8	13.7	0.0	0.0	2.3
複数項目間の比率明示	4.8	18.8	8.2	23.3	18.0	13.7

＊平常点を採用している際の内容明示割合

表 3.　平常点の内容

人文社会系　（記載計 37）	
態度	16
参加	12
出席	8
発言	5
貢献度	4
授業時提出の感想や小レポート	3
宿題	2
積極性	2
記名式アンケート	1
授業時に行う数回の小問題記述を参考にする	1

自然科学系　（記載計 44）	
参加	16
態度	13
出席	7
宿題	6
演習	5
小テスト	5
レポート	4
討論	3
課題提出	2
貢献度	2
中間試験の結果を含む	2
自主的なレポート提出	1
出席点を含まず	4

演習実験少人数　（記載計 98）	
参加	65
討論	18
態度	16
課題提出	11
貢献度	10
積極性	10
出席	4
授業の理解度	3
問題提起	2
宿題	1
レポート	1
読みの力、小論文、ノート作製の力量	1

芸術系　（記載計 2）	
出席状況、授業態度、随時小テスト、レポート	1
授業への参加	1

外国語科目　（記載計 387）	
参加	203
態度	48
予習	38
宿題	33
発表・プレゼンテーション	27
積極性	21
小テスト	16
貢献度	15
討論	15
提出物	13
取り組み	13
課題・課題提出	15
授業中のレスポンス	9
出席	6
授業中のトレーニング	5
意欲	3
暗誦	2
感想文	2
クラスパフォーマンス	2
参加討論	2
質疑応答	2
学習状況	2
LL 訓練	1
演習	1
グループワーク	1
向上心	1
個別アサインメント	1
達成度	1
遅刻	1
発音、訳読	1
復習	1
毎回の翻訳文	1
訳出分担	1
訳読発表	1
レポート	1

表 4.　その他の評価項目一覧

人文社会系	
小テスト	6
態度	6
発表	5
出席を重要視	3
毎回のコメント内容	3
課題(毎回､質問・感想記入)	2
出席後のコメント	2
出席率受講態度などを加味	2
ありとあらゆる手段	1
即レポ	1
時間内の小論文とノート	1
毎時間に提出するコメントの内容	1

芸術系	
実習課題	2
中間試験	2
演奏会	1
コンサートで演奏	1
感想文＋試験	1

自然科学系	
演習	25
小テスト	5
課題	4
宿題	3
出席	2
発表	2
レポート	2
CAD に関する課題を２件、スケッチに関する課題を１件	1
映像コンテンツ制作のプロセスと番組完成度	1
合宿、特別講義、工場見学	1
実習内容の評価	1
各回のエスキスと作品発表	1

演習実験少人数	
発表・プレゼンテーション	63
演習	8
小論文・エッセー	5
参加・積極性・態度	5
宿題、プロジェクト	3
提出物	3
完成したウェブサイト	1
製作物	1
ディスカッション	2
最後の作品	1
レジェメ作成、レポーター担当	1
面談	1
毎回の課題	1
報告、ディスカッション	1

外国語	
発表・プレゼンテーション	143
宿題	112
討論	22
課題	21
取り組み	16
エッセイ	14
クイズ	13
グループワーク	12
課題提出	11
スピーチ	6
各種テスト（発音･語彙数など）	6
努力	5
口答試験	5
TOEIC スコア改善度	4
作文	4
ノート	4
マニュスクリプト	4
宿題	3
TOEFL 各セクションテスト	3
参加度	3
ディベート	3
詩のリーディング	3
予習	3
級検定テスト	3
暗記	2
小論文	2
毎回確認試験	2
リサーチファイル	2
インタビュー	1
意見を述べる能力、向上心	1
一斉共通試験（秋学期）	1

表５　文学部外国語科目の成績評価方法に関するアンケート結果

科目名	イタリア語1・2年	英語１－２年共通	スペイン語１年（指定クラス）	スペイン語２年（選択クラス）	中国語
主な評価項目	各担当者が期末テスト，小テストを実施。出席状況は各担当者がほかのクラスの状況も把握できるようにしている	各担当者の判断による（典型的には期末試験、小テスト、出席率、取り組みなど）	年3回の定期試験＋小テスト＋課題	各担当者の判断による（期末試験、小テスト、出席率、参加度など）	[日吉1年] : 春学期、発音テストと期末試験を全クラス統一で行う。秋学期はクラス別中間テストと期末の全クラス統一試験を行う。出欠席遅刻早退の扱いは統一基準。その他小テストなど平常点は各クラス担当者の裁量。[三田2年] 各クラス担当者の判断による。
評価方法の公開	ガイダンス時および授業内に口頭で説明。テストの返却。	冊子（『外国語科目履修案内』）	授業内プリント	授業内に口頭で。	冊子（『外国語科目履修案内』）、全体ガイダンス時に明示。
評価比率の公開	各担当者の判断による。	各担当者の判断による（部門より推奨）	有	各担当者の判断によるが、できるだけ公開するよう担当者に要請している	[日吉] およその評価比率は公開。[三田] 各クラス担当者による。
同一科目名	複数担当	複数担当者	同一担当者（ネイティヴのみ、複数）	複数担当	複数担当である
科目間テキスト	文法は共通テキスト。会話のテキストは別のものを用いているが、進度はつねに確認しあい、時折、文法の時間に会話のテキストの未収項目を確認するなどして調整をはかる。	共通テキストは用いない	共通	担当者ごとに異なる	日吉は統一教材、三田は大体のガイドラインのなかで、各担当者が教材を選択。
評価の統一	評価は、年度末に担当者全員で成績会議を開き、調整をはかっている。	各担当者に部門よりガイドラインを提示	評価は、年度末に担当者全員で成績会議を開き、調整をはかっている。	担当者におまかせ	[日吉] 各期末に担当者会議を開き、基本的に統一基準で評価を決定する。統一テストの成績を基準に、各クラス担当者合議の上、平常点を加味した最終成績を決定する。担当者が単独で決定することはない。[三田] 完全に担当者の責任において決定。
備考					日吉は到達度の設定から教学の方法にいたるまで、蓄積が豊かで、リレー形式・統一教材・統一テスト・集団評価が定着した。今後は三田の中級の進め方を具体的に検討していく。中級においては、半期制の具体化に伴ってかなりの変動がありうる。

	朝鮮語	ドイツ語１－２年	フランス語１年	フランス語２年	ロシア語
	各課ごとの小テスト、宿題、出席状況が中心。期末テストは担当者の判断にまかせる。	各担当者の判断による	期末試験（全クラス一斉、年2回）、小テスト（全クラス共通、年6回） フランス語1A、フランス語1B、フランス語1C 計3コマのうち、1コマの成績は期末試験のみを基準とし、2コマ目は小テスト成績のみを基準、残りの1コマを平常点を基準として評価を出すことにしており、この平常点の内容に、宿題提出の有無、出席率、授業への取り組みなどが盛り込まれている。	期末試験（全クラス一斉、年2回）、小テスト フランス語2A、フランス語2B のうち、2A では年二回全クラス一斉の期末試験を実施し、これを成績の５０％とし、残りの５０％は小テスト成績、平常点を基準として評価を出すことにしており、この平常点の内容に、宿題提出の有無、出席率、授業への取り組みなどが盛り込まれている。フランス語2B では、各担当教員が独自に小テスト、期末試験などを行っている。	期末試験
	冊子と口頭	冊子（『外国語科目履修案内』）	文学部外国語科目履修案内、４月の語種別ガイダンスなどで口頭にて周知している。	４月のガイダンスで口頭にて周知している。	冊子
	担当者により有り。	各担当者の判断による	合否判定の基準をも含め、文学部外国語科目履修案内、４月の語種別ガイダンスなどで口頭にて周知している。	合否判定の基準をも含め、４月のガイダンスなどで口頭にて周知している。	無
	複数担当者	複数担当者。 １年生は原則として担当者間で連携を取り合う。	各クラスを３人の教員が担当し、3コマ中2コマはリレー式の教授法を採っている。	フランス語2A、2B を合せ、専任、非常勤計１５名が担当しているが、フランス語1におけるようなリレー式教授法は実施していない。	複数担当でない
	共通テキスト使用	共通テキストは用いない	「科目間」の解釈が分かれるところだが、上記のように3コマ中2コマでは同一教材をリレー式で教授している。また残りの1コマも含め、クラス間で教材に相違はない。	「科目間」の解釈が分かれるところだが、フランス語2A では全クラス共通教材を使用している。	統一である
	評価基準は担当者の判断にまかせる。ただし、年度末に合否の判定が必要な時は　協議をしている。	完全な担当者任せである	年度末に成績判定会議を開催し、担当教員約２０名が会し、全クラス統一の評価基準を決定している。	フランス語2A の一斉期末試験の採点基準、平常点との比率は統一されているが、最終的な評価は各担当教員に一任している。	
	2 年生には毎年、夏休みの課題として「朝鮮文化研究」のレポートを課している。秋学期に簡単な口頭発表もしてもらう。				

表６　経済学部外国語科目の成績評価方法に関するアンケート結果

科目名	英語スタディスキルズ	スペイン語Ⅰ・Ⅱ	スペイン語Ⅲ	中国語Ⅰ・Ⅱ	中国語既習クラス
主な評価項目	期末試験、宿題・出席、取り組み、口頭発表など	1）小テスト（春学期２回・秋学期４回　計６回　回数が多いため「小テスト」となっているが、１回60分程度、A4版２～４ページの詳細なもの）45％ 2）作文（春学期１回／秋学期２回　計３回）15％ 3）単語テスト（秋学期はじめ）5％ 4）期末発表（各学期１回　計２回　3～4名のグループに分かれ、4ページ程度の劇台本を書いて台詞をすべて暗記、10分程度のプレゼンテーション。評価は個人単位）15％ 5）授業参加（出席のみならず、授業に対する貢献、参加の質、発表内容、個人的努力と進歩のいずれもが評価対象となる）20％	試験（春学期１回、秋学期２回）70％ 平常点（宿題、出席、授業態度、各学期７回の小テスト）20％ レポート10％	期末試験のほか、小テストや暗唱テスト、発音テスト、さらに統一単語テストを行い、総合点を100点に換算して評価している。割合としては期末試験を８割、他を１割、単語テストを１割程度としている。	期末試験を主としている。
評価方法の公開	冊子とプリント	シラバスに詳細に記載するとともに、開講時口頭で説明	口頭	口頭で伝えている。小テストや前期末テストは返却している。	口頭で伝えている。前期末テストは返却している。
評価比率の公開	行っている	シラバスに記載	している	口頭で行っている	口頭で行っている
同一科目名	複数者担当	スペイン語Ⅰa/b、Ⅱa/bの組み合せはそれぞれ同一の教員が担当するが、当該２科目の組み合わせを複数の教員で担当。	複数担当である		複数担当者
科目間テキスト	同一テキスト	共通ではない	統一でない	複数のテキスト（但しⅠ，Ⅱでは共通）。基本単語集を統一テキストとして指定している。	複数のテキスト。基本単語集を統一テキストとして指定している。
評価の統一	統一 （各タスクの点数化が統一） 自由裁量の部分はある （全体の10－15%程度）	担当者による	担当者により異なる	担当者によって異なるが、Ⅰ，Ⅱの間では統一されている。備考の回答の通り共通させている点もある	担当者によって異なるが、備考の回答の通り、共通させている点もある。
備考				基本的には担当者に任せていいるが、基本単語集「ふうたお」の統一試験の成績を評価の10％程度反映させていることにしている。また、A評価については履修学生の20％程度に抑えることにしている。	基本的には担当者に任せていいるが、基本単語集「ふうたお」の統一試験の成績を評価の10％程度反映させていることにしている。既習クラスについてはAの数については特に上限を設けないことにしている。つまり、絶対評価。

中国語Ⅲ	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ	ドイツ語既習クラス	ドイツ語Ⅲ	フランス語Ⅰ・Ⅱ	フランス語既習クラス	フランス語Ⅲ a/b
期末試験のほか、暗誦テストを実施。毎回小テストを実施し、平常点として加算している。割合としては期末6割、暗誦テスト3割、小テスト1割程度としている。	年間5回の試験を行い、その成績に、小試験、出席率、授業への貢献度などを加味して最終成績としている。担当者によっては期末試験を主としてその他の要素を加味して評価している。5回の試験のほかの小試験は最終評価に反映させている。年3回の中間試験(20%)、年15回の小試験（10%)、学年度共通（一斉）試験（20%）出席点（10%）という方法を取ることがある。	年間3回の試験と小試験、出席率、授業への貢献度を加味して最終成績としている。1年次に3コマ必修。ドイツ語Ⅰ，Ⅱ，Ⅲと同じ扱い。担当者によっては期末試験を重視しながら、他の要素も加味して評価している。	期末試験（リスニング含む)、宿題・出席、授業内の取り組み（音読・和訳・口頭または筆記による問題の解答など)	年間4回実施する試験の成績を基に評価している。授業出席は最低条件とみなしている。履修者の学力とやる気を考慮し、臨機応変に対応している。	年間2回実施する試験の成績を基に評価している。授業成績は最低条件としている。履修者の学力とやる気を考慮し、臨機応変に対応している。	年間2回実施する試験の成績と平常点を基に評価している。授業出席は最低条件とみなしている。履修者の学力とやる気を考慮し、臨機応変に対応している。
口頭もしくは電子メール。希望者にはPDF化した答案を添付ファイルで返却。	成績は毎回、答案を返却することで累積点を公開している。AA, BBなどの最終評価基準も口頭で明らかにしている。	成績は、答案を返却することで累積点を公開している。AA, BBなどの最終評価基準も口頭で明らかにしている。	口頭により詳細に説明している。	一般論として簡単に口頭で説明している。	一般論として簡単に口頭で説明している。	一般論として簡単に口頭で説明している。
口頭で行っている。	行っている。	行っている。	している(期末試験50%　統一試験20%　その他・出席など30%)	していない。	していない。	していない
	複数担当者（但しⅠ，Ⅱでは同一者が担当)	複数担当者	複数担当	複数担当者（Ⅰ，ⅠⅠは同一者が担当)	複数担当者	同一担当者
複数のテキスト	複数の「テキスト」(但し、Ⅰ，Ⅱでは共通)	共通ではないが、内容の話し合いは行っている	共通ではない	複数のテキスト（但しⅠ，Ⅱでは共通)	統一ではないが、レベルは考慮している。	統一ではないが、レベルは考慮している。
担当者によって異なるが、備考の回答の通り、共通させている点もある。	担当者によって異なるがⅠ，Ⅱでの間では統一されている。基本的には担当者に任されているが、統一試験（1，2年生とも学年末）の成績を最終評価の20%に反映させることを原則としている。	基本的には担当者に任せていいるが、統一試験（1，2年生朋学年末に行われる）の成績を最終評価の20%に反映させることを原則としている。	担当者により異なるが統一試験（学年末に行われる）の成績を評価の20%に反映させている	担当者により異なる。完全な担当者任せである。	担当者により異なる場合により、担当者間で相談することもある。ただし、特別な問題がない限りは担当者任せである。	担当者により異なる
基本的には担当者に任せていいるが、基本単語集「ふうたお」の統一試験の成績を評価の10%程度反映させていることにしている。また、A評価については履修学生の20%程度に抑えることにしている。						場合により、担当者間で相談することもある。ただし、特別な問題がない限りは担当者任せである。

表７　法学部外国語科目の成績評価方法に関するアンケート結果

科目名	英語第Ⅰ、第Ⅱ（レベル２）、第Ⅲ	英語インテンシブ	英語第Ⅱ（レベル３）、英語第Ⅳ	外国語特殊	スペイン語インテンシブ１年	スペイン語インテンシブ２年	中国語	ドイツ語（Ⅰ）（Ⅱ）
主な評価項目	期末試験、宿題、出席、プレゼンテーション、レポート、小テスト、各授業への参加度など	期末試験、宿題、出席、プレゼンテーション、レポート、小テスト、授業への参加度など	期末試験、宿題、出席、プレゼンテーション、レポート、小テスト、授業への参加度など	期末試験、宿題、出席、プレゼンテーション、レポート、小テスト、授業への参加度など	期末試験　出席率	期末試験　出席率	期末試験　宿題・出席率　取り組み	期末試験　宿題　出席率率
評価方法の公開	講義要綱の冊子と口頭、および授業のはじめに配るシラバス	講義要綱の冊子と口頭、および授業のはじめに配るシラバス	講義要綱の冊子と口頭、および授業のはじめに配るシラバス	講義要綱の冊子と口頭、および授業のはじめに配るシラバス	口頭	口頭	冊子と口頭	口頭
評価比率の公開	していない	していない	していない	していない	していない	していない	していない	していない
同一科目名	複数担当である	複数担当である	複数担当である	複数担当	複数担当である	複数担当である	複数担当である	複数担当ではない
科目間テキスト	統一でない	統一でない	統一でない	統一でない	統一	一部統一	統一でない	統一でない
評価の統一	担当者により異なる完全な担当者任せ。A,B,C,D それぞれの評価の率はなるべくバラけるように非常勤の先生方に指示しているものの、義務ではない。	担当者によって異なるインテンシブのクラスは週４クラスで一セットの集中クラスである。二人のコーディネーターがおり、４クラスのうちの２クラスは必修としてそのコーディネーターが教える。よってインテンシブのクラスを履修している学生をこの二人はすべて把握していることになる。必修以外の２クラスは複数の選択クラスより履修する。評価は基本的に各担当教員に任されているが、選択クラスの担当教員は、学生の評価と学習進度に関して、随時コーディネーターに相談する方式をとっている。	担当者によって異なる	担当者によって異なる	統一	完全な担当者任せ	完全な担当者任せである。ただしインテンシブコースについては、一部で担当者間の意見・情報交換がある。	統一されていないが、他の担当者で相談した部分がある

	ドイツ語インテンシブコース初級・中級・上級	フランス語レギュラー（1年）	フランス語レギュラー（2年・クラス指定）	フランス語レギュラー（2年・選択）	フランス語入試合格者コース（1年･2年）	フランス語インテンシヴ（1年・初習）	フランス語インテンシヴ（2年・初習）	フランス語インテンシヴ（1年・2年・既習）	フランス語三田・選択（3年・4年）	フランス語三田・インテンシヴ（3年・4年）	ロシア語
	期末試験･レポート　宿題　出席率率　プレゼンテーション　取り組み　外部の検定試験、セミナー・海外研修参加なども対象	各期末の統一試験60%　担当者のクラス内評価40%（クラス内評価は、小テスト、出席率、宿題、取り組みなどからなる）	春学期は左に同じ。秋学期は統一試験がないのでクラス内評価のみ	担当者によって異なる	担当者によって異なる	各期末の統一試験（レギュラーと共通）をおこなうが、評価への組み入れは担当者に一任	春学期は左に同じ。秋学期は統一試験がないのでクラス内評価のみ。	担当者によって異なる	担当者によって異なる	担当者によって異なる	期末試験、数回のテスト、暗唱　プレゼンテーションなどインテンシブとレギュラーコースで異なる
	冊子と口頭	冊子と口頭	冊子と口頭	冊子と口頭	冊子と口頭	口頭	口頭	口頭	冊子と口頭	冊子と口頭	口頭
	していない	統一方針はない	統一方針はない	統一方針はない	統一方針はない	統一方針はない	統一方針はない	統一方針はない	統一方針はない	統一方針はない	公開
	複数担当である	複数担当だが、週2コマを同一の担当者が受け持つ	複数担当	複数担当	複数担当	複数担当。週3コマを同一の日本人講師、1コマをネイティヴ講師が担当	複数担当。2コマを同一の日本人講師、2コマを同一のネイティヴ講師が担当	複数担当。2コマを同一の日本人講師、2コマを同一のネイティヴ講師が担当	複数担当	複数担当	複数担当
	初級では一部統一他は統一でない	統一テキストを使用	春学期は統一テキストを継続使用。秋学期は担当者ごと別の教材を選択	担当者によって異なる	担当者によって異なる	日本人講師の授業は統一テキストを使用	担当者によって異なる	担当者によって異なる	担当者によって異なる	担当者によって異なる	統一
	統一	上記の通り、統一試験のみ共通	春学期は統一試験のみ共通、秋学期は担当者に一任	担当者によって異なる	担当者によって異なる	担当者によって異なる	担当者によって異なる	担当者によって異なる	担当者によって異なる	担当者によって異なる	統一されていないが、他の担当者で相談した部分がある

表８　商学部外国語科目の成績評価方法に関するアンケート結果

科目名	英語	スペイン語１、２
主な評価項目	各英語担当教員により異なる.（英語部会共通方針として，書かせる期末試験は全授業取り入れている).「書かせる期末試験」とは，たとえコミュニケーションのクラスで，スピーキング・リスニングが中心のクラスでも，スピーキングやプレゼンテーションのテストだけでなく，必ず筆記の学期末試験を取り入れる，という英語部会の共通理解がある。期末試験，授業内小テスト，提出課題，授業参加度（いわゆる出席点ではなく，毎回の授業における発言や課題への取り組みなどを点数化して毎回つけており，欠席した日は零点，遅刻した日は減点になる.）	期末試験　授業の取り組み　出席率など
評価方法の公開	多くは講義要綱　学期初めにシラバスを配る者あり	プリントと口頭
評価比率の公開	担当教員により異なる	公開
同一科目名	複数担当	複数担当
科目間テキスト	別テキスト	同一テキスト
評価の統一	英語部会共通統一目安を設け（ABCD の割合)，各教員がそれに基づいて各自の裁量で判断している.	統一

	中国語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ	ドイツ語１	フランス語１、２
	期末試験・中間試験（中国語Ⅰ・Ⅱ）、期末試験（中国語Ⅲ）、出席率 プレゼンテーション　取り組みなど（Ⅲでは検定３段を受けさせているが評価には関係なし）	期末試験　出席率　秋学期末に統一試験を実施	期末試験　年４回のテスト　仏検、取り組み
	口頭	プリントと口頭	口頭
	厳密には公開していない	公開していない	公開
	複数担当	複数担当	複数担当
	同一テキスト	別テキスト	別テキスト
	統一 統一試験・統一規準で成績評価を実施している	各担当者任せで統一はしていないが、おおまかな目安を担当者に伝えてある（新任者向けマニュアルあり）	統一 ABCD 評価の大体の目安を授業担当者に示している。

表９　医学部外国語科目の成績評価方法に関するアンケート結果

科目名	英語 I/II	ドイツ語既習（１クラス）	
主な評価項目	毎回実施の小テスト　中間･期末試験、出席、平常点、取り組みなど総合的に判断	専任と非常勤のペア授業で、それぞれ別のテキストを使用している。単位取得のためには、両方の授業で合格ラインに達することが原則。その上で、両クラスの評価を比較して最終評価を出している（但し、未習組との関連で多少の救済措置あり）。専任の授業では、春学期に小テスト２回（動詞の変化や三基本形 20 点、口頭試問 60 点）と期末試験１回（和訳と独作文中心で 100 点）、秋学期は小テスト３回（教科書の指定範囲からの聞き取り 20 ～ 30 点、オーストリア語学試験で使用しているヒアリング問題 20 点、和訳と独作文による文法中心のテスト 60 点）および期末試験１回（初見のテキストの全訳）を行っているほか、夏休みの宿題としてドイツ語による自由作文を点数評価（60 点満点）して上記の合計点に算入している。出席等はマイナス・ポイントとしてのみ考慮。	
評価方法の公開	冊子と口頭	冊子（シラバス）と口頭	
評価比率の公開	多くの担当者は明示している	公開	
同一科目名	複数担当である	専任と非常勤のペア授業	
科目間テキスト	統一ではない	専任と非常勤のペア授業で、それぞれ別のテキストを使用している。	
評価の統一	担当者間で相談することはあるが、基本的には担当者の判断	上記のように、A+/A/A －/B+/B…で双方の授業の評価を出した上で、専任が責任をもって最終的に評価を下している。	
備考		もし、合格ラインに達しなかった場合（専任においては、上記の小テストや期末テスト等の合計が６割に達している必要がある）、未習組の学年末テスト（既習と同形式）を受けさせて、最終的な合否判断を下している。	

	ドイツ語未習	フランス語
	20 点の小テスト３回（「動詞の人称変化」「三基本形」「聞き取り」に関して。春学期１回、秋学期２回）、60 点の小テスト３回（和訳、独作文。春学期１回、秋学期２回）、期末試験２回（春学期は小テストとほぼ同形式で文法中心、秋学期は初見のテキストを全訳する）の合計点で評価。出席に関してはマイナス・ポイントのみ考慮。	年数回の試験と平常点（出席率・宿題・授業への参加度）を総合的に評価している
	冊子（シラバス）と口頭	冊子と口頭
	公開	公開していない
	A 組は単独で担当、B 組は非常勤とのペア授業だが、評価方法やテスト回数は同じ	単独担当
	同一テキスト使用	テキストは同一
	上記のように、A 組、B 組とも専任（一名）が担当しており、授業も通年４単位として一括して出すため、評価基準は統一されている。なお、各クラスの点数調整・最終評価に関しては専任が責任をもつ。	担当者が単独で複数クラスを受け持っているが、クラスによって評価に公平性を欠くということのないように努めている。
	非常勤の先生には、春学期の期末試験と秋学期の小テストをお願いしている。また、小テストや期末に関しては専任の場合も問題をクラス毎に変えている。そのため、どうしても多少のクラス間格差が生じるが、上記のように最終的に調整したうえで評価を行っている。	

表 10　理工学部外国語科目の成績評価方法に関するアンケート結果

科目名	英語１	ドイツ語１－４	フランス語１－４
主な評価項目	期末試験　中間試験　授業の取り組み　小テストなど	授業内テストと一斉テストによる総合評価	授業内テスト　宿題　出席率　授業の取り組み
評価方法の公開	冊子と口頭	口頭	口頭
評価比率の公開	していない	原則公開	していない
同一科目名	複数担当	複数担当	複数担当
科目間テキスト	別テキスト	共通教材と別テキストの併用	別テキスト
評価の統一	A の割合のみ相対評価で統一。B, C, D は任意	一斉テストの合否基準および評価の種類を統一の上、担当者に任せる。評価は 7 種類：AAAA, AABB, BBBB, BBCC, CCCC, CCDD, DDDD。	評価の種類を統一の上、担当者に任せる。評価は 7 種類：AAAA, AABB, BBBB, BBCC, CCCC, CCDD, DDDD。

	ロシア語１－４	中国語１－４	朝鮮語１－４
	期末試験　小テスト　出席率	期末試験　小テスト	期末試験　小テスト
	口頭	口頭	口頭
	している	していない	していない
	1 名担当	複数担当	１名担当
	統一	別テキスト(2007 年度より共通化を検討)	統一
	評価の種類を統一の上、担当者に任せる。評価は 6 種類：AAAA, AABB, BBBB, BBCC, CCCC, DDDD。	一斉テストの合否基準および評価の種類を統一の上、担当者に任せる。評価は 7 種 類：AAAA, AABB, BBBB, BBCC, CCCC, CCDD, DDDD。	評価の種類を統一の上、担当者に任せる。評価は７種類：AAAA, AABB, BBBB, BBCC, CCCC, CCDD, DDDD。

表 11 「成績評価方法に関するアンケート」自由記述意見

・もっと，教員（学部）間と慶應全体で一定の評価基準を作り上げることに取り組むべきである。これは，個々の教員の学術的自由の侵害ではない。これは学生の権利である。

・ABCD の評価不充分である。イギリスのシステム（First, UpperSecond, LowerSecond, Third, Pass）に近い，達成基準を顕著に超える A+，ボーダーラインである C －が必要である。A ＋は海外で学ぶことを希望するような優秀な学生にとって刺激と留学の助けとなる。C －は単位取得にぎりぎり最小限であり，留学をねらいにしている学生を思いとどまらせるであろう。（経済・英語・ボールハチェット）

・半絶対評価で成績をつけている。80 点以上を A，70 点以上を B，60 点以上を C，60 点未満は D をつける。ただし，D をつけると自動的に留年になるのでその場合に限り，授業への態度を加点することがあります。A, B, C, D のパーセントを予め決めておくやり方も否定しません。皆で同意がとれればそれに従います。（理工）

・どの教科でも，特に語学ではいい加減な成績のつけ方はしていないと思う。にもかかわらず，学生の間にいわゆる「楽勝」～「激難」の評価分けができるのは，最終的に「きちんと」成績をつけるの「きちんと」に個人の感覚差が大きいからだと思う。（商）

・インテンシブ（既習）は例外ですが，フランス語部門（法学部）では一昨年より共通テストを導入し，共通テスト 60%，各担当者 40% で採点している。評価の相対化がねらいです。その場合，評価方法などは公開しています。（法）

・学生への公開（初回のみならず，はじめの 2 ～ 3 回）を書面で行うことの重要性を感じる。全員がウェブで公開しなくてもいいかと思うが，そのクラスの中では書面が大切と考える。

・スタディスキルズのように非常勤の方にも同じ基準でつけていただかなくてはならない。大人数の必修科目の場合，専任と非常勤間のコミュニケーションは大切で，3 月末にオリエンテーションをひらき，コーディネータも置いて，クラス間の成績評価の格差が出来るだけ生じないように努力している。

・非常勤の方にわかりやすい（＝誰でも同じように学生に説明できる）基準であることを心がけている。（経済・英語・鈴木亮子）

・クラスのタイプに限らず，成績評価で大切なのは以下のような点であると思います。
  ・評価基準とその比率は必ず第一回の授業で説明する。何をすれば A がとれるのか，何をすれば不合格になるかをでき得る限り明確にし，恣意的な変更は一切しない。シラバスに明記して配布しておけば，成績関係のトラブルの予防にもなる。
  ・学期の早い段階から評価を行うこと（小テスト宿題）により，学習方法や履修態度を改善する機会を与える。何らかの評価が早めに出ていれば，学生も相談に来やすい。
  ・学期中にこまめに課題を与えることにより，授業が効果的に行われているかの自己評価が可能となる。大多数の学生が課題をこなせていないようであれば，授業内での導入・説明が不十分であるということ。
  ・学期（または一年）を通して評価する。学期末・学年末だけ努力をすればよい評価が出るようなシステムでは，真面目に出席・学習する意欲が損なわれる。
  ・さまざまなタスク（小テスト・レポート発表など）を通して評価をする。学生によって実力を発揮しやすいタスクは異なっている。特定のタスクで失敗しても，他のタスクで挽回が可能であるように評価の比率を考える。
  ・レポート締め切りや試験は，可能な限り早めに実施し，最終クラスまでに結果を学生に伝えるべきである。そうでなければ学生は自分のやったことの何が評価されたのか，今後何を改善するべきなのかがわからない。（経済・英語・松岡和美）

・第 2 外国語（初習）のように複数のクラスが設置される科目については、統一的な評価基準による評価が望ましい。特にクラス指定によって担当者が決まる場合，クラスによっては授業開始以前に履修学生の学習意欲をそいでしまう事態が現実に起こっている。こうした事態は評価以前の問題であるが，統一的な評価基準の導入により，一定の抑止効果は期待できるだろう。と同時に，教員についてはやはり FD が必要であり，教員の意識改革につながるシステマチック FD 活動と、何らかの支障が生じた時のケア体制も整えることが重要ではないか。さらには GPA，授業評価，授業公開とその検討など成績評価を足がかりに総合的な観点から授業，教育のあり方を問い直すことが求められていると考える。（経済・独・羽田功）

・担当者が複数で同一のクラスを受け持っている場合は，成績評価を合議で決定するのがよいのではないか（ドイツ語インテンシブコースでは，１クラスを２名または３名の担当者が担当するが，成績に極端な差が出ないように成績を平準化してい

る。例えば１人の学生がＡとＣ評価となった場合ＢとＢとなるなど)。

・外国語授業の場合には，本来到達目標を明示していなければ成績評価は困難なはずである。評価基準のみならず，そのクラスでの到達目標も開講時に明示すべきではないだろうか。（法学部・ドイツ語・三瓶慎一）

・初級においては，ドイツ語（Ⅰ）においてのみ共通暗記用例文を各クラスで配布し，それぞれの担当者が６月中旬に各クラスでテストを実施，春学期の評価の一資料にしています。もちろんこれだけが評価の基準ではなく，各担当者が使用している教材から定期試験を実施し，期末テストが成績評価の一番大きな材料です（ドイツ語（Ⅱ）においては共通暗記例文は配布しておりません)。（法学部・ドイツ語・坂口尚史）

資料３
米国のリベラル･アーツ･カレッジの理念調査報告および調査資料リキュラム比較分析

以下は､米国のリベラル･アーツ･カレッジの理念の調査報告および資料である｡ここに挙げる資料の大半は、詳細なニュアンスを損なわないために原文のみ載せてある。日本語に訳してあるものあるが、これは調査員の判断によるものである。

1）はじめに

日吉設置学部共通科目（総合教育科目）のカリキュラムの新しいあり方を考えるにあたり、まず、これら科目に理念・目標を設定する必要があるということは、すでに提言の中（第１章３）で、さらにはカリキュラムが抱えている問題の中（第２章３）で述べた。日吉設置学部共通科目（総合教育科目）の理念を確立するために、アメリカの高等教育機関、特にリベラル・アーツ・カレッジが掲げている理念・目的を調査研究の対象とした。数あるアメリカの高等教育機関の中で特にリベラル・アーツ・カレッジに注目する理由は、１）リベラル・アーツ・カレッジの根底に流れるリベラリズムと、義塾の教育理念ともいえる「独立自尊」との間に共通性が見られるということと、２）リベラル・アーツ・カレッジのカリキュラムは教養教育が中心であり、これが理念に強く反映されているからである。ちなみに、アメリカの高等教育機関を調査対象とすることはそれほど難しいことではない。なぜならば、大学の理念、教育目的、目指す方向性などが、学校案内・履修案内などに、あらゆる入学志願者でも理解できるように明示されているからである。

調査対象としたアメリカのリベラル・アーツ・カレッジは、*USA News* 誌による 2005 年のアメリカ大学ランキングのリベラル・アーツ・カレッジ部門の上位 50 校から選択した。調査資料は、インターネット上に公開されている、各大学の入学案内（カタログ）を用いた。一般的に、リベラル・アーツを含むアメリカの高等教育機関が発行している入学案内は、日本のそれよりもはるかにカリキュラムの内容、開講されている授業の内容、教員プロフィール、卒業に必要な単位などが詳細に記されている。

2）アメリカのリベラル・アーツ・カレッジの教育理念

アメリカの多くのリベラル・アーツ・カレッジのほとんどのカタログの冒頭には、各校の教育理念が明示されている。理念だけでなく教育目的が記されている場合も多々ある。理念は、シンプルなものからかなり具体的なものまでと、さまざまな文章形態で書かれている。どのように形で理念・目的が書かれていたとしても、大半の文章においては、明確に教育の方向が示されていて、カリキュラムの内容が見えてくる。

ケーススタディ１：Bryn Mawr College

Bryn Mawr College の理念（抜粋）

The mission of Bryn Mawr College is to provide a rigorous education and to encourage the pursuit of knowledge as preparation for life and work. Bryn Mawr teaches and values critical, creative and independent habits of thought and expression in an undergraduate liberal－arts curriculum for women and in coeducational graduate programs in the arts and sciences and in social work and social research. Bryn Mawr seeks to sustain a community diverse in nature and democratic in practice, for we believe that only through considering many perspectives do we gain a deeper understanding of each other and the world.（下線は筆者による）

Bryn Mawr College 理念は、抜粋部のほか２段落あるのみで、比較的言葉少なく書かれている。しかし、カリキュラムの内容を示唆する文言は見受けられる。すなわち、教養教育の中で各々の学生が考える力を養い、そしてそれを表現していくということを大切にするという姿勢が明確に見える。ほかに、多様な価値観を理解することが民主的社会の根幹であるとの認識に立ち、固定観念から脱却するための批判能力や独立心を強化することや、共同生活を通じての他者への敬意や他者との協力の必要性を学ぶことを重視していることも見受けられる。この理念に基づいて Bryn Mawr College は、周辺大学との提携により、学習機会の提供を拡大するとともに、その制度を利用した単位認定にも力を入れている。

ケーススタディ２：Vassar College

Mission Statement of Vassar College

The primary mission of Vassar College, to furnish “the means of a thorough, well－proportioned, and liberal education,” was articulated in The First Annual Catalogue and has remained constant throughout its history. Founded in 1861 to provide young women an education equal to that once available only to young men, the College has since 1969 opened its doors to both women and men on terms of equality. Encouragement of excellence and respect for diversity are hallmarks of Vassar’s character as an institution. The independence of mind and the diverse intellectual interests of students are fostered by providing them a range of ways to meet our curricular expectations. The structure of the residential experience, in which students in all four classes live in the residence halls, obliges students to master the art of living cooperatively in a diverse community. Diversity of perspective is honored as well in the college’s system of shared governance among all the constituencies of the institution.

Vassar’s statement of academic purpose, adopted by faculty and trustees, is a definition of the qualities it seeks to develop in its students:

・Achievement of depth and range of knowledge in a single discipline or in a subject approached through several disciplines. The quality sought is not only the mastery of a body of facts, but the attainment of skill in the conduct of inquiry and the satisfaction of having gained knowledge.

・Recognition of the different kinds of knowledge and their scope and relevance to one another. It is necessary for an educated person to understand the relationships between the past, the present, and the future as well as those between people and their social and physical environment.

・Immediate experience of creative ideas, works of art, and scientific discoveries.

・Development of the powers of reason and imagination through the processes of analysis and

synthesis and the use of all our human resources—to speculate, to feel, to inquire boldly, to enjoy, to change, to create, and to communicate effectively.

・Increased knowledge of oneself, a humane concern for society, and a commitment to an examined and evolving set of values.

To achieve these purposes, Vassar offers a curriculum that honors the values of liberal learning as it challenges us to lead energetic and purposeful lives. We aim, therefore, to support a faculty dedicated to teaching, scholarship, and artistic endeavor; to educate—in the humanities, the natural sciences, and the social sciences—distinguished, diverse students motivated toward intellectual risk; to promote clear thinking and articulate expression; to stimulate integrative learning through multidisciplinary studies that communicate across cultural and curricular perspectives; and to commit both students and teachers to coherent and cohesive approaches to learning.

In the largest sense, Vassar seeks to educate the individual imagination to see into the lives of others. As such, its academic mission cannot be separated from its definition as a residential community composed of diverse interests and perspectives. The differences among us are real and challenging. Contemporary life requires more than ever the skills and wisdom that liberal education has always promoted: the exercise of informed opinion and sound critical judgment; a willingness to engage in ethical debate in a spirit of reasonable compromise; the achievement of balance between emotional engagement and intellectual detachment; the actions of personal integrity and respect for others; independent thought and an attendant resistance to irresponsible authority. It is our mission to meet the challenges of a complex world responsibly, actively, and imaginatively.

Goals

1. To develop a well－qualified, diverse student body which, in the aggregate, reflects cultural pluralism, and to foster in those students a respect for difference and a commitment to common purposes.

2. To educate our students, both broadly and deeply, in the liberal disciplines; to stimulate integrative thinking both within and across the disciplines; to strengthen and refine the powers of reason, imagination, and expression; through curricular offerings to promote gender and racial equality and a global perspective; and to nurture not only pleasure in learning but also an informed and active concern for the well－being of society.

3. To extend these curricular values into the life of a residential community in which students may develop their skills by means of organized and informal activities, athletics, student government, contact with the surrounding community, and engagement with a concerned faculty.

4. To maintain and support a distinguished and diverse faculty in their commitment to teaching, to scholarship, and artistic endeavor, and to other forms of professional development.

5. To renew, improve, and adapt the college' s educational programs and technologies in ways that are commensurate with the most provident use of its resources.

6. To continue to be a significant source of national and international leadership, producing graduates who will be distinguished both in their professional careers and in service to their communities and the

world.

7. To inform, involve, and engage the alumnae/i of the college in order to promote lifelong learning and to enlist their energies in the continuing development of the college.

Vassar College is committed to working toward a more just, diverse, egalitarian, and inclusive college community where all members feel valued and are fully empowered to claim a place in—and responsibility for—our shared working, living, and learning. The College affirms the inherent value of a diverse campus and curriculum reflective of our lives as members of multiple local and global communities. [From the 2003 report to the President from the Committee on Diversity and Difference, affirmed by the president and the senior officers, 2004]（下線は著者による）

Vassar College の理念は長大な文章で綿密に書かれている。さらには、理念のほかに目標も明確化されている。

Vassar College の理念でも、Bryn Mawr College 同様、共同生活を通じて他者を見る目を養いながら、世界の多様性を理解することを重視している。理念で謳われていることを実現するためにも、講演会や催し物を多数実施することで、授業とは異なる教育機会を提供することにも力を入れている。

Vassar College の例にあるような、明確かつ詳細に記された教育理念・および目標は決して特異なものではない。ここまで目的意識をはっきり持たせてある教育理念・目標が存在すると、展開しているカリキュラム、そして開講している各授業の性格づけ、位置づけ、さらには目的・目標の設定の確固たる基盤になることは容易に想像できる。また、カリキュラム、各授業の見直し、再検討、評価などもこのような教育理念・目標があることにより、明確にかつ透明性をもって行えることができるかと思われる。

ケーススタディ 3：Kenyon College

Kenyon College の理念

Over the 175 years of its life, Kenyon College has developed a distinctive identity and has sought a special purpose among institutions of higher learning. Kenyon is an academic institution. The virtue of the academic mode is that it deals not with private and particular truths, but with the general and the universal. It enables one to escape the limits of private experience and the tyranny of the present moment. But to assert the primacy of the academic is not to deny the value of experience or of other ways of knowing. Kenyon' s academic purpose will permeate all that the College does, but the definition of the academic will be open to recurrent questioning.

Kenyon' s larger purposes as a liberal arts institution derive from those expressed centuries ago in Plato' s academy, although our disciplines and modes of inquiry differ from those of that first "liberal arts college." We have altered our curriculum deliberately in answer to changes in the world, as an organism responds to its environment without losing its identity. Kenyon' s founder gave a special American character to his academy by joining its life to the wilderness frontier. His Kenyon was to afford its students a higher sense of their own humanity and to inspire them to work with others to make a society that would nourish a better humankind. To that end, and as an important educational value in itself, Kenyon maintains a deep commitment to diversity. Kenyon today strives to persuade its students to those same purposes.

As a private and independent college, Kenyon has been free to provide its own mode of education and special quality of life for its members. Its historic relationship with the Episcopal Church has marked its commitment to the values celebrated in the Judaeo － Christian tradition, but without dogmatism, without proselytizing. Because its faculty and students are supported by neither church nor state, the College must charge fees and seek support from donors. While this preserves Kenyon' s independence, it sets unfortunate limits. The College' s ambitions must be tempered by a sense of what is economically feasible.

As an undergraduate institution, Kenyon focuses upon those studies that are essential to the intellectual and moral development of its students. The curriculum is not defined by the interests of graduate or professional schools, but by the faculty' s understanding of what contributes to liberal education. The faculty' s first investment is in Kenyon' s students. The College continues to think of its students as partners in inquiry, and seeks those who are earnestly committed to learning. In the future, Kenyon will continue to test its academic program and modes of teaching and learning against the needs of its students, seeking to bring each person to full realization of individual educational potential.

To be a residential college means more than that the College provides dormitory and dining space for its students. It argues a relationship between students and professors that goes beyond the classroom. It emphasizes that students learn and develop, intellectually and socially, from their fellows and from their own responses to corporate living.

Kenyon remains a small college and exemplifies deliberate limitation. What is included here is special, what is excluded is not necessary to our purposes. Focus is blurred when there is dispersion over large numbers or over a large body of interests. Kenyon remains comprehensible. Its dimensions are humane and not overpowering. Professors, knowing students over years, measure their growth. Students, knowing professors intimately, discover the harmony or conflict between what a teacher professes and his or her behavior.

To enable its graduates to deal effectively with problems as yet uncalculated, Kenyon seeks to develop capacities, skills, and talents which time has shown to be most valuable: to be able to speak and write clearly so as to advance thoughts and arguments cogently; to be able to discriminate between the essential and the trivial; to arrive at well － informed value judgments; to be able to work independently and with others; to be able to comprehend our culture as well as other cultures. Kenyon has prized those processes of education which shape students by engaging them simultaneously with the claims of different philosophies, of contrasting modes, of many liberal arts.

The success of Kenyon alumni attests to the fact that ours is the best kind of career preparation, for it develops qualities that are prized in any profession. Far beyond immediate career concerns, however, a liberal education forms the foundation of a fulfilling and valuable life. To that purpose Kenyon College is devoted.

The Goals and Objectives of the College

I. General Liberal Arts Education

Kenyon is institutionally committed to promoting a liberal arts education. Skills are promoted and developed that are not only useful to any career but essential for a fulfilling and valuable life.

a) Students acquire knowledge and understanding of fine arts, humanities, nature sciences, and social sciences.
b) Students learn to use information technology and make sense of the information they find.

c) Students learn to formulate ideas rigorously and communicate them effectively, in speaking and in writing.
d) Students learn to understand a wide diversity of cultures.
e) Students learn to assess arguments.
f) Students learn quantitative skills and how to analyze data.
g) Students learn to work creatively.

II. Overall Academic and Major Program

The academic program provides freedom within a common structure to promote balance and coherence, so students design truly liberal educations which are focused, expansive, and useful in the future.
a) Students develop expertise in at least one discipline or area.
b) Students organize courses so that study of one subject illuminates and is illuminated by study of another.

III. Relationships, Community, and Security

Fundamental to the Kenyon experience is that students and professors develop personal and long－term relationships. The personal contact between students and faculty that characterizes Kenyon stands as central to the Kenyon undergraduate experience. The consequence of student－faculty interaction is that student experience is not one of anonymity. The scale and rural location of the residential community heighten the importance of these relationships. Kenyon provides an environment that is aesthetically conducive to study and is safe and secure, so that students may direct their attentions to their academic life and extracurricular activities unhindered.

IV. Participation and Involvement

The opportunity to participate in campus life and the ease and comfort of participation are characteristic of Kenyon. The atmosphere at Kenyon promotes student involvement. Discourse among students is frequent, on both academic and nonacademic issues, and that discourse is enriched by the diversity of the faculty and student body. Students are active in producing their own experience, rather than being primarily receivers or observers. Doing, by oneself and with others, is Kenyon’s recipe for learning.

V. Satisfaction and Accomplishment

Accomplishment of the first four goals translates into high levels of student satisfaction both at Kenyon and years later when former students reflect back on their Kenyon experience. It also translates into high levels of accomplishment for Kenyon graduates.

Kenyon College の理念にも、Vassar College の例のように、綿密に書かれた理念に加えて、リベラル・アーツ教育の目的・目標が具体的に記されている。

ケーススタディ 4：Bowdoin College

Bowdoin College の理念（要約）

教育を社会的視点から捉え、大学は公益のために創られ、社会の利益となる精神力を磨き、向上させるものであるとする。教養教育には、特定分野の知

識の獲得を超えた、幅広く深みのある固有の価値が存在する。Bowdoin College は、以下の５つの領域において、その理念を追求する。

1.「知的・学問領域」：学問への愛、学問の方法、学問の習慣を学生に植え付ける。
a. 教養科目における一般教育：自然科学、人文科学と芸術、社会科学という大きな３つの学問分野を提供し、学際的研究プログラムを支援する。欧米以外の世界の視点も学ばせ、学生に国際的意識と言語習得を促すために留学を推奨する。

b. 専攻分野と自主研究：大学は学問の専攻に重点を置く。学生を研究活動に従事させ、指導教官のもとに論文執筆させるために、自主管理制度と自主研究の機会を与える。

c. スキル：大学レベルの研究をするために、多様なバックグラウンドをもつ学生にライティングスキルやオーラルコミュニケーションのスキルを習得させる。

2.「社会・居住領域」：学生の才能は多様である。個人によって芸術、スポーツ、科学などに才能は分かれる。そのような学生間の友好を育てるために、全ての学生に快適な学生生活とその環境を提供する。

3.「スポーツ領域」：他大学との交流試合を通じ、自制心、指導力、健康等をはぐくむ。大学は学生にスポーツ活動への参加を奨励する。

4.「審美・環境領域」：大学は校舎とキャンパス・スペースの美的向上と品質保持に努める。歴史的建造物や博物館を維持し、学習のための自然環境の整備に責任をもつ。

5.「倫理的領域」：道徳的環境を創る。学生と教員は学問研究において誠実であること。カリキュラム上であれ社会生活上であれ、数多の選択肢から個人の意志によって自由に選ぶことが学生の倫理的成長と個性の錬磨につながると信ずる。知性と教養は、礼儀正しさ・忍耐・慈悲の心によってもたらされなければ、結局は個人と社会の破壊につながる。従って、大学の目的とは、成熟と英知の性質ともなりうる知的能力を深めるために学生を支援することである。

ここでもやはり明確な教育理念が示されていて、大学はこの教育理念を追求すると明確に宣言されている。つまり、大学が設定するカリキュラム、および開講する各授業は、この理念に基づいている必要性があり、これによりはじめてカリキュラムの妥当性、各授業の必要性を問う姿勢整えることができる。

大学が設定している教育理念は必ずしも上記の例のように長く、綿密に書かれてある必要かならずしもないように思われる。

ケーススタディ５：Middlebury College

Middlebury College の理念

The mission of Middlebury College is to educate students in the tradition of the liberal arts. Our academic program, co － curricular activities, and support services exist primarily to serve this purpose. Middlebury College is committed to excellence throughout its liberal arts curriculum: to balance in its academic offerings; to selective development of carefully chosen emerging strengths; and to maintaining conspicuous excellence in those areas of its traditional strengths such as language, literature, and an international perspective, including study abroad.

Middlebury College の理念は一段落からのみで構成されているが、このような短い文章でも、一般教養の伝統において学生を教育すること、教養科目の

カリキュラムを通して大学の教育の質の向上と保持を目指し、バランスのとれた授業の提供、特に言語、文学、留学を含む国際論という伝統的に得意な分野の優位性を維持するということが謳われ、大学が取るべき方向が明確に提示されている。

アメリカのリベラル・アーツ・カレッジの理念には、このように短いが的確に書かれている文章が実は多く見受けられる。短い文章でも大学の特色、方向性を示すことは困難なことではないことが、簡潔かつ明確に書かれている理念から理解することができる。

以下は、アメリカのリベラル・アーツ・カレッジに見られるいくつかの教育理念の例である。

ケーススタディ 6：Colby College

Colby College の理念

Colby is committed to the belief that the best preparation for life, and especially for the professions that require specialized study, is a broad acquaintance with human knowledge. The Colby experience is designed to enable each student to find and fulfill his or her own unique potential. It is hoped that students will become critical and imaginative thinkers who are: welcoming of diversity and compassionate toward others; capable of distinguishing fact from opinion; intellectually curious and aesthetically aware; adept at synthesis as well as analysis; broadly educated with depth in some areas; proficient in writing and speaking; familiar with one or more scientific disciplines; knowledgeable about American and other cultures; able to create and enjoy opportunities for lifelong learning; willing to assume leadership roles as students and citizens; prepared to respond flexibly to the changing demands of the world of work; useful to society and happy with themselves.

Colby stands for diversity; for respect for various lifestyles and beliefs; and for the protection of every individual against discrimination. In the classroom and outside, there is freedom to study, to think, to speak, to work, to learn, and to thrive in an environment that insists upon both civility and the free and open exchange of ideas and views. The behavior of individuals may often affect the rights and well being of others, therefore all members of the campus community are responsible for fostering an environment in which teaching, learning, and research flourish.

The Colby Plan is a series of 10 educational precepts that reflect the principal elements of a liberal education and serve as a guide for making reflective course choices, for measuring educational growth, and for planning for education beyond college. Students are urged to pursue these objectives not only in their course work but also through educational and cultural events, campus organizations and activities, and service to others. These precepts, which the College believes are at the heart of a liberal arts education, are as follows:

1. to develop one’s capability for critical thinking, to learn to articulate ideas both orally and in writing, to develop a capacity for independent work, and to exercise the imagination through direct, disciplined involvement in the creative process

2. to become knowledgeable about American culture and the current and historical interrelationships among peoples and nations

3. to become acquainted with other cultures by learning a foreign language and by living and studying in another country or by closely examining a culture other than one’s own

4. to learn how people different from oneself have contributed to the richness and diversity of society, how prejudice limits such personal and cultural enrichment, and how each individual can confront intolerance

5. to understand and reflect searchingly upon one' s own values and the values of others

6. to become familiar with the art and literature of a wide range of cultures and historical periods

7. to explore in some detail one or more scientific disciplines, including experimental methods, and to examine the interconnections between developments in science and technology and the quality of human life

8. to study the ways in which natural and social phenomena can be portrayed in quantitative terms and to understand the effects and limits of the use of quantitative data in forming policies and making decisions

9. to study one discipline in depth, to gain an understanding of that discipline' s methodologies and modes of thought, areas of application, and relationship to other areas of knowledge
10. to explore the relationships between academic work and one' s responsibility to contribute to the world beyond the campus.

Colby College は留学生の受け入れに積極的である。70 カ国から学生がきており、キャンパスの国際化に関する賞を受賞している。これは、理念内の世界の多様な文化を理解し、他者との共存を目指すという教育目標に添ったものである。また、環境問題に熱心で、キャンパス自体もサステイナビリティーを重視している。さらに、フラターニティーを廃止し、その建物を一般学生の住居として解放するなど、新しい取り組みも始めている。

ケーススタディ 7：Connecticut College

Connecticut College の理念

Connecticut College の理念は、学生に生涯にわたって民主主義社会への知的貢献ができるようにすることである。教養科目に深く関わることを通し、大学は以下の目的をもつ。

1）厳密な学問基準を通し、学生の知的能力を十全に開花させること。

2）教員と学生との間に緊密な研究関係を築くこと。

3）人間の行動や多様性、社会と教育機関、自然、科学、そしてさまざまな芸術の理解という教養教育を学生に身につけさせること。

4）幅広い学問分野と学際的課題から学生に深い研究を促すこと。
5）教員の資質、研究、創造的研究を促進し、教育に優れた人材を育成する。

6）学生のさまざまな価値観に関する思考力を深め、論理的な見解を述べる力と指導力を発揮するスキル、賢明な選択ができる能力を養うこと。

7）多様な大学の共同体（コミュニティ）となることを努める。

8）学生の自主管理制度（無試験制度、honor system）を支援する。

9）学生、教職員、理事の間における共同管理に積極的に関わること。

10）地元や地域、国内的、あるいは国際的なコミュニティへの理解を促進し、その中に関わることを奨励する。

11）卒業生が大学の理念を表現する究極の存在であり、大学への継続的関わりを通じて社会の貴重で不可欠な一員となるという認識をもつ。

12）大学の理念を支援・促進することで教職員の力を発揮させる。

Connecticut College の理念には、教員と学生の関係だけでなく、職員の役割までにも言及されている。

ケーススタディ 8：Gettysburg College

Gettysburg College の理念

Gettysburg College, a national, residential, undergraduate college committed to a liberal education, prepares students to be active leaders and participants in a changing world.

This statement is grounded in the core values of the institution:

・The worth and dignity of all people and the limitless value of their intellectual potential;

・The power of a liberal arts education to help students develop critical thinking skills, broad vision, effective communications, a sense of the inter－relatedness of all knowledge, sensitivity to the human condition, and a global perspective, all necessary to enable students to realize their full potential for responsible citizenship.

・The enrichment of the traditional liberal arts and sciences curriculum with the most promising intellectual developments of the age;

・The free and open marketplace of ideas and the exploration of the ethical and spiritual dimensions of those ideas, both indispensable to helping students learn to determine which have lasting value;

・The value of a lifelong commitment to service, and the role of the College in both providing an example of public service for students and fostering a commitment to service among our young people; and

・A belief that a residential college is the most effective means of promoting the personal interaction between student and professor, and student and student which develops the community that is the heart of a liberal arts education.

Gettysburg College の理念は、リベラル・アーツ教育の力が、批判的思考、広い視野、効果的なコミュニケーション、あらゆる知識が関連しているという感覚、人間状況への鋭敏さ、グローバルな視野を養うとしている。開かれたアイデアの市場、それらのアイデアの倫理的、霊的次元の開拓。ゲティスバーグ大学は、リベラル・アーツ教育が人間の心を有限性の縛りから解放すると考えるとしている。

ケーススタディ 9：Trinity College

Trinity College の理念

Trinity College is a community united in a quest for excellence in liberal arts education. Our

purpose is to foster critical thinking, free the mind of parochialism and prejudice, and prepare students to lead examined lives that are personally satisfying, civically responsible, and socially useful..

Four elements are central to the success of that quest:

・An outstanding and diverse faculty who excel in their roles as teachers and scholars, bringing to the classroom the insight and enthusiasm of people actively engaged in intellectual inquiry. Working closely with students in relationships of mutual respect, they share a vision of teaching as discussion – a face－to－face exchange linking professor and student in the search for knowledge and understanding.

・A rigorous curriculum firmly rooted in the traditional liberal arts, but one that also integrates new fields of study and interdisciplinary approaches to learning. Trinity encourages a blend of general education and specialized areas of study, and takes imaginative advantage of the many educational resources inherent in Trinity' s urban location and international ties.

・A talented, motivated, and diverse body of students who are challenged to the limits of their abilities and are fully engaged with their studies, their professors, and one another. Our students take increasing responsibility for shaping their education as they progress through the curriculum, and recognize that becoming liberally educated is a lifelong process of learning and discovery.

・An attractive, secure, and supportive campus community that provides students with myriad opportunities for interaction with their peers as well as with the faculty. The College sustains a full array of cultural, recreational, and volunteer activities, and embodies the philosophy that students' experiences in the dormitories, dining halls, and extracurricular organizations are an important and powerful complement to their formal learning in the classroom.

Trinity Collegeの理念は、リベラル・アーツの伝統を21世紀に伝えるとし、2,000人の学生が教員と密接に活動し、批判的思考を養い、偏見の心を自由にし、個人的な満足・市民的な責任・社会的有用性となる生活を学生がリードできるようにするとしている。

ケーススタディ 10：Scripps College

Scripps Collegeの理念

"The paramount obligation of a college is to develop in its students the ability to think clearly and independently, and the ability to live confidently, courageously, and hopefully."

Ellen Browning Scripps

The mission of Scripps College is to educate women to develop their intellects and talents through active participation in a community of scholars, so that as graduates they may contribute to society through public and private lives of leadership, service, integrity, and creativity.

Scripps Collegeの理念は、大学創立者の言葉を出発点とし、それに短いながらも明確な文章を添えている。知識豊かな人間となり、卒業生として社会に貢献することができる女性の教育を目指している。

ケーススタディ 11：Reed College

Reed Collegeの理念

The goal of Reed College is to provide an

education in the liberal arts and sciences with emphasis on the highest intellectual and scholarly standards. The Reed education pays particular attention to a balance between a broad study in the various areas of human knowledge and a close, in－depth study in a recognized academic discipline.
The general program consists of a background in humanistic and scientific study, which delineates the relationships of cultural phenomena and the modes of thought important in understanding ourselves and the world. The advanced program provides opportunity for intensive examination of the subject matter and techniques of a more narrowly defined academic discipline, culminating in the senior research project and thesis. At Reed we believe the balance of a general and more specialized education is best achieved where students and faculty members work closely together in an atmosphere of shared intellectual and scholarly concern, and where individual interests and disciplines are pursued not in isolation, but with a sense of the larger intellectual life of which they are a part.

ケーススタディ 12：Oberlin College

Oberlin College の理念

Statement of Goals and Objectives for Oberlin College

Oberlin College, an independent coeducational institution, holds a distinguished place among American colleges and universities. Oberlin was the first college to grant undergraduate degrees to women and historically was a leader in the educating of African Americans; its heritage is one of respect for the individual and active concern for the larger society. The College uniquely combines an outstanding professional school of music with a leading undergraduate college of arts and sciences. The two divisions reinforce each other. The Conservatory provides flexible programs to prepare students as professional musicians and teachers of music. Deeply committed to academic excellence, the College of Arts and Sciences offers a rich and balanced curriculum in the humanities, social sciences, and natural sciences. Within that framework the College expects that students will work closely with the faculty to design an educational program appropriate to their own particular interests, needs, and long－term goals.

Oberlin seeks a diverse and promising student body. Recognizing that diversity broadens perspectives, Oberlin is dedicated to recruiting a culturally, economically, geographically, and racially diverse group of students. Interaction with others of widely different backgrounds and experiences fosters the effective, concerned participation in the larger society so characteristic of Oberlin graduates. Oberlin seeks students who are talented, highly motivated, personally mature, and tolerant of divergent views. The Conservatory of Music in particular seeks talented musicians with considerable potential for further growth and development. Performance is central to all of the curricula including music education, history, theory, composition, and technology.

Oberlin’ s faculty is dedicated to combining effective undergraduate instruction with productive scholarship and artistry. Members of the faculty are highly skilled and professional, well－grounded in their chosen discipline; yet they characteristically have interests that extend beyond their own specialization. The College seeks to recognize and encourage teaching of unusually high caliber, and scholarly and other creative activities are considered

essential to continued teaching excellence. Thus, active research, scholarship, artistry, and/or performance is expected of each faculty member.

Oberlin College enjoys an exceptional physical plant including libraries, art museum, computing center, scientific laboratories, physical education facilities, concert halls, and practice rooms. Creating an environment in which academic excellence can flourish, these attractive physical resources are important to realizing the aims of the College.

For its students, the aims of Oberlin College are:

a) to equip them with skills of creative thought, technique, and critical analysis which will enable them to use knowledge effectively;

b) to acquaint them with the growing scope and substance of human thought;

c) to provide for their intensive training in the discipline of a chosen area of knowledge;

d) to ready them for advanced study and work beyond the college years;

e) to foster their understanding of the creative process and to develop their appreciation of creative, original work;

f) to expand their social awareness, social responsibility, and capacity for moral judgment so as to prepare them for intelligent and useful response to the present and future demands of society;

g) to facilitate their social and emotional development;

h) to encourage their physical and mental well－being; and

i) to cultivate in them the aspiration for continued intellectual growth throughout their lives.

—Adopted by the General Faculty November 15, 1977

以下のケースのように、理念という言葉を用いずに教育目的という形で理念が語られていることもある。

ケーススタディ 13：Haverford College

Haverford College の理念

Statement of Purpose

Haverford College is committed to providing a liberal arts education in the broadest sense. This education, based on a rich academic curriculum at its core, is distinguished by a commitment to excellence and a concern for individual growth. Haverford has chosen to remain small and to foster close student/faculty relationships to achieve these objectives.

The College' s rigorous academic program is flexible in form and content to meet the needs of individual students, and rests on the assumption that the able students who come here will use their capacities fully. Haverford' s faculty is noted for its strength in both scholarship and teaching, and its members expect to transmit to students their enthusiasm and high standards. The faculty members are teaching at an undergraduate college of arts and sciences by choice and they expect to learn, as well as to teach, in this close relationship with undergraduates.

The full resources of the College, in and out of the classroom, are designed to promote the personal and intellectual growth of students. Through an ambitious program of visiting lecturers and cultural activities, a conscious effort to recruit faculty and students representing diverse backgrounds and perspectives, student self－governance and service programs, an athletic program focused on participation and the scholar － athlete, and through day － to － day living in a residential community, the College seeks to broaden and

enrich each person' s development. Students are asked to give of themselves, even as they draw new strength from others. We seek to foster the pursuit of excellence and a sense of individual and collective responsibility throughout the entire environment.

Haverford strives to be a college in which integrity, honesty, and concern for others are dominant forces. The College does not have as many formal rules or as much formal supervision as most other colleges; rather it offers an opportunity for students to govern their affairs and conduct themselves with respect and concern for others. Each student is expected to adhere to the Honor Code as it is adopted each year by the Students' Association.

Haverford College, while a non － sectarian institution, has Quaker origins which inform many aspects of the life of the College. They help to make

資料４
「慶應義塾大学における学部カリキュラムに関するアンケート」調査結果報告

調査について

この調査は、教養研究センター基盤研究「慶應義塾大学の教育カリキュラム研究」研究グループ（2005～2006年度）が、2006年6～7月に実施した大学カリキュラムに関する意識調査である。これは、慶應義塾大学の授業カリキュラムに関して、学部学生がどのように考えているかを正確に把握し、学生の声を今後のカリキュラム改善に生かす目的で実施された。同種の学生意識調査としては、学生総合センターが2年に1度行ってきた「学生生活実態調査」があるが、同調査は、学生生活全般におよぶ広範な質問項目からなっている。これに対して、本「大学カリキュラムに関するアンケート調査」は大学の正課のカリキュラムに関して、詳細に調査を行ったものであり、全学にわたるこの種の大規模な調査は、本塾においては初めてのものである。

この調査結果に関する分析および考察は、本報告書第Ⅰ部第3章 3) で行っているが、ここでは調査データを詳細に提示する。

調査内容について

アンケート調査票は、本研究会で検討して作成した。本研究グループ幹事佐藤望が原案を作成し、学部生10名によるヒアリング調査をへて、質問項目および選択肢の妥当性を検討した。さらに、心理学を専門とする本塾教員および教育心理学を専門とする本塾大学院生の協力で内容の修正を行った後、本研究会の合議によりアンケート調査票の最終稿を決定した。質問項目および選択肢を決定する際、質問方法や選択肢が学生の意識に沿ったものであるか、誘導的な質問になっていないかとりわけ留意し、学生の意識が実態に即して反映されやすいよう工夫した。また、項目の策定にあたっては、「どちらともいえない」という選択肢はなるべく廃し、肯定・否定の傾向が数値として表れやすいようにした。

問１～６は基本属性（学部、学年、在籍キャンパス、性別、年齢、入試形態）を問うものであり、問７～13は履修を決定するまでの過程に関わる質問事項である。問14～44は個々の科目に関する事項を、外国語科目、総合教育科目、専門の科目に分けて質問した。問45～50は成績評価、問51は学生の授業評価についての質問であり、問52～58は大学生活全般に関することと大学への満足度について問うたものである。問59は自由記述となっている。。

アンケート調査実施方法について

2006年5月1日現在の在籍の学部学生を母集団として、学籍番号末尾を用いて4割を抽出した後（同時期に計画されていた学生総合センターによる「大学生活実態調査」と重複しない末尾番号を抽出）、さらに各学部･学年別に無作為で抽出した学生5,000名を対象に調査を行った。全学生に対する調査対象となった学生の割合（以下、標本率）は17.1%であった。

調査対象となった学生（学部生）に2006年5月31日に調査票を郵送した。なお、作成した調査票には、2006年3月15日開催の学内理事等懇談会に

おいて、担当常任理事より諮り了承を経た上で、各学部長名による学生に対するアンケート協力の依頼文を添付した。

回収方法は、教養研究センターに直接郵送または各地区学事センター（湘南藤沢地区は事務室）の専用ボックスで回収した。6 月 19 日を締め切りとし、それまでに回答のなかった学生（4,019 名）に対して、7 月 5 日まで締め切りを延長し、6 月 23 日に葉書で再度回答依頼を送った。7 月 8 日時点で回答数は 1,316 に達したが、再度掲示により締切を 7 月末日まで延長し、最終的には 8 月 17 日までに届いた回答すべてを集計の対象とした。最終的に、1,425 名の学生から回答を得た。回収率は 28.5% であった。

学部別・学年別の回答率は以下の通りである。

例外的な記入の集計について

集計において、次のような処理を行った。

・回答の記入のない項目は、欠損値 (NA) として集計した。
・ひとつだけ選ぶよう指示されている項目に複数の回答を行った回答は、欠損値 (NA) として扱った。
・問 1 が記入されていない回答 2 件は、欠損値 (NA) として扱った。したがって、この 2 件は学部ごとの統計には含まれない。
・問 3 が記入されていないものは、学部・学年から類推して回答を補った。
・問 52 において、勉強時間が 1 日 20 時間を超える回答に関しては信憑性がない回答とみなし、欠損値として扱った。

アンケートの調査票及び電子データの扱いについて

本アンケートの調査票およびそれに付随する一切の書類は、個人情報保護の観点に基づき本調査書発行後に溶解処分とする。また、集計データ、自由記述のデータはデータベース化して教養研究センターにおいて管理・保管する（データベースの概要は第 3 章 4. 5)，75 頁を参照されたい)。

学年別

	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	6 年生	全体
抽出数	1,233	1,214	1192	1,278	38	45	5,000
回答数	386	350	298	363	12	16	1,425
回答率	31.31%	28.83%	25.00%	28.40%	31.58%	35.56%	28.50%

学部別

	文	経	法法	法政	商	医	理工	総合	環境	看護	NA
抽出数	589	915	445	438	737	259	758	339	332	188	2
回答数	215	209	160	130	180	94	216	85	75	59	−
回答率	36.50%	22.84%	35.96%	29.68%	24.42%	36.29%	28.50%	25.07%	22.59%	31.38%	−

謝辞

本アンケートに回答してくださった塾生諸君、本調査に協力してくださった学事センター・藤沢事務室・教養研究センター・スタッフ、西村太良常任理事、学部長諸氏、教員諸氏に深い謝意を表したい。調査票の作成にあたっては、木島伸彦氏（心理学）から専門的アドヴァイスをいただいた。また、本塾大学院生の佐々木尚氏（教育心理学）が、調査の全般にわたる専門的アシストと自由記述データベース作成を担当してくださった。調査作業および集計は（株）マーケティングスペース花傳舎に依頼して行った。ここに記して、深い感謝を表したい。

アンケート依頼状および調査票

2006 年 5 月 30 日

学生 各位

慶應義塾大学
文学部長
経済学部長
法学部長
商学部長
医学部長
理工学部長
総合政策学部長
環境情報学部長
看護医療学部長

慶應義塾大学における学部カリキュラムに関するアンケートのお願い

慶應義塾大学では、各キャンパス、各学部で展開される学部カリキュラムを検証し、教育効果の一層の向上を常に模索しております。この度、その一環として、「大学教養研究センター」が学部生の諸君を対象にアンケート調査を実施することになりました。

諸君は、さまざまな期待を抱き慶應義塾大学に入学し、また、さまざまな目的をもって学んでいることと思います。そうした皆さんの期待あるいは勉学の目的に対して、本塾の学部カリキュラムがどのように対応しているか、有効に機能しているかなど、学生諸君が大学での勉学のなかでふだん考えていることを、アンケート調査により的確に把握して、今後の教育の改善、充実に生かしてゆきたいと考えています。

本アンケート調査は匿名で扱われ、上記以外の目的には一切使用することはありません。調査終了後は、回答を破棄し、プライバシーの保護には細心の注意が払われます。

以上の点をご理解の上、同封されました「教養研究センター」によるアンケート調査にご協力をお願いいたします。

以上

2006年5月30日

学生各位

慶應義塾大学教養研究センター
所長　横山　千晶

大学カリキュラムに関するアンケート調査ご協力のお願い

教養研究センターでは、現在慶應義塾大学で行われている大学教育について、学生の皆さんがどのように考えているかをできるだけ正確に把握し、これからの大学教育の一層の充実に活かすための基礎データを取るため、下記の通りアンケート調査を実施することにいたしました。

アンケート対象者は無作為抽出により選定いたしました。個人情報については万全の注意を払い、回答結果は個人のプライバシーが現れないように統計的にまとめ、上記の目的のためだけに用います。また、アンケート結果は、インターネットや冊子を通じて公表いたします。

学生の皆さんの率直なご意見を大学に届ける良い機会ですので、ぜひご協力いただきますようお願いいたします。

記

調査票の記入について

1. 回答は該当する番号に○をしてください。質問によって回答が“1つだけ”と、“いくつでも”を選ぶ場合がありますので、それぞれの指示に従ってお答えください。「その他」は（　　）内に具体的にお書きください。
2. 年齢などは回答欄に直接数字を記入してください。
3. 記入は質問の順番に、もれのないよう最後まで記入してください。

調査票の提出について

回答期限　：　6月19日（月）

回答提出先　：　各地区の学事センター・学事課に設置されている専用ポストに投函してください。
（湘南藤沢キャンパスは事務室に設置されています）
あるいは、同封の返信用封筒で郵送してください。（切手は不要です）

問合わせ先　慶應義塾大学教養研究センター
教養研究センター事務室
電話　045 − 566 − 1151
FAX　045 − 566 − 1102

2006 年度　大学カリキュラムに関するアンケート

慶應義塾大学教養研究センター

Ⅰ　一般的な事項について

あなたご自身について、それぞれあてはまる番号に1つ○をつけてください。

問1　学部	1. 文学部 2. 経済学部 3. 法学部(法律学科) 4. 法学部(政治学科)	5. 商学部 6. 医学部 7. 理工学部 8. 環境情報学部	9. 総合政策学部 10. 看護医療学部
問2　学年	1. 1年生 2. 2年生	3. 3年生 4. 4年生	5. 5年生 6. 6年生
問3　在籍キャンパス	1. 日吉キャンパス 2. 三田キャンパス	3. 矢上キャンパス 4. 信濃町キャンパス	5. 湘南藤沢キャンパス
問4　性別	1. 男　性　　2. 女　性	問5　年齢	(　　) 歳
問6　入試形態	1. 一般入試 2. 塾内進学 3. 一般高校長推薦	4. 学士入学 5. 帰国子女入試 6. AO 入試	7. 自己推薦 8. 留学生入試 9. その他 (具体的に　　)

Ⅱ　履修登録について

問7. 授業を選択する時に、時間割以外で、最も参考にした情報は何ですか。(○は1つだけ)

1. 講義要項(シラバス)
2. 履修案内
3. インターネットの掲示板
4. リシュルート
5. 友人や先輩の評判
6. その他(　　)

問8. 授業を選択する際に講義要項(シラバス＝全講義の内容が書かれた冊子)をどの程度参考にしましたか。(1つだけ)

1. 参考にした
2. まあ参考にした
3. あまり参考にしなかった
4. 参考にしなかった

問9. 講義要項(シラバス)であなたが重要だと思う情報は得られましたか。(1つだけ)

1. 得られた
2. どちらかといえば得られた
3. どちらかといえば得られなかった
4. 得られなかった

問 10. 講義要項(シラバス)をあなたはどのように改善すれば良いと思いますか。(いくつでも)

1. ウェブで簡単に見られるようにする
2. 携帯電話で見られるようにする
3. 簡単な授業内容と詳細な授業計画は別々の冊子にする
4. ウェブでの検索機能を充実させる
5. 記述量を増やす
6. 記述量を減らす
7. 要約版を作る
8. その他(　　)

問 11. 日吉キャンパスのガイダンス・ウィークのガイダンス（春学期の１週間、授業時間を前半・後半に分けた説明）は必要だと思いますか。（1つだけ）

1. 必要	3. どちらかといえば不要	5. 日吉キャンパスの授業を受けたことがない
2. どちらかといえば必要	4. 不要	

問 12. 日吉キャンパスのガイダンス・ウィークは秋学期にも必要だと思いますか。（1つだけ）

1. 必要	3. どちらかといえば不要	5. 日吉キャンパスの授業を受けたことがない
2. どちらかといえば必要	4. 不要	

問 13. あなたは、すべてのキャンパスの授業について秋学期開始時に履修登録ができるようにすべきだと思いますか。（1つだけ）

1. そう思う	3. どちらかといえばそう思わない
2. どちらかといえばそう思う	4. そう思わない

Ⅲ　個別の科目について

（外国語科目について）

問 14. あなたはどの外国語科目を履修していますか。（いくつでも）

1. 英語	4. 中国語	7. 朝鮮語
2. ドイツ語	5. スペイン語	8. その他
3. フランス語	6. ロシア語	（　　）語

（英語について）

問 15. 英語の授業に満足していますか。（1つだけ）

1. 満足している	3. どちらかといえば満足していない
2. どちらかといえば満足している	4. 満足していない

問 16. 英語のクラス編成やレベル分けの方法は妥当だと思いますか。（1つだけ）

1. 妥当である	3. どちらかといえば妥当でない
2. どちらかといえば妥当である	4. 妥当でない

問 17. レベル別クラス編成についてどう思いますか。（1つだけ）

1. 細かくレベル分けした方がよい	3. できる学生もできない学生も同じ教室で学ぶ方がよい
2. ある程度レベル分けした方がよい	

問 18. 同一レベル内の、あるいは授業内容が類似している英語の授業は統一された教材を用いるべきだと思いますか。（1つだけ）

1. そう思う	3. どちらかといえばそう思わない
2. どちらかといえばそう思う	4. そう思わない

問 19. 英語の授業で自分が学びたいものを得ることができましたか。（1つだけ）

1. できた	3. どちらかといえばできなかった
2. どちらかといえばできた	4. できなかった

問 20. 英語の授業で何を改善するべきだと思いますか。（いくつでも）

1. 授業の質	7. 教員の教え方の技術
2. 時間数を増やす	8. 英語のクラスごとの負担に違いがありすぎる
3. 内容の多様さ	9. クラスサイズ
4. 難易度やレベルを明確にする	10. 希望する授業が必ずしも履修できない点
5. 授業の目的や内容の明確化	11. その他（　　）
6. 教員の資質	12. 特になし

（英語以外の外国語について）

問 21. 英語以外の外国語の授業に満足していますか。（1つだけ）

1. 満足している	3. どちらかといえば満足していない
2. どちらかといえば満足している	4. 満足していない

問 22. 英語以外の外国語を学ぶ意義はあると思いますか。（1つだけ）

1. ある	3. どちらかといえばない
2. どちらかといえばある	4. ない

問 22-1.（前問で1．2と答えた方）英語以外の外国語を学ぶ意義は何だと思いますか。（いくつでも）

1. 専門課程で必要だから	5. 将来国際的な仕事ができるようになる
2. 違う国の文化を学べるから	6. 得意な言語の力を伸ばせるから
3. 英語圏以外の人とコミュニケーションができるから	7. その他（　　）
4. 国際的視野を身につけるため	

問 23. あなたは英語以外の外国語の意義や選択に関する大学側の説明は十分だったと思いますか。
（1つだけ）

1. 十分であった	3. どちらかといえば不十分であった
2. どちらかといえば十分であった	4. 不十分であった

問 24. あなたは英語以外の外国語の授業で自分が学びたいものを得ることができましたか。（1つだけ）

1. できた	3. どちらかといえばできなかった
2. どちらかといえばできた	4. できなかった

問 24-1.（前問で3．4と答えた方）英語以外の外国語の授業で何を改善するべきだと思いますか。
（いくつでも）

1. 授業の質	7. 教員の教え方の技術
2. 時間数を増やす	8. クラスサイズ
3. 内容の多様さ	9. 選択できる外国語の種類
4. 難易度やレベルを明確にする	10. 希望する授業が必ずしも履修できない点
5. 授業の目的や内容の明確化	11. その他（　　）
6. 教員の資質	12. 特になし

問 25. 英語以外の外国語の授業は統一された教材を使うのがよいと思いますか。（1つだけ）

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない

問 26. 外国語のクラス編成は、試験の結果によって習熟度別に行なった方がよいと思いますか。（1つだけ）

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない

問 27. あなたは自分が選択した外国語を選択して良かったと思いますか。（1つだけ）

1. 良かった
2. どちらかといえば良かった
3. どちらかといえば良くなかった
4. 良くなかった

（総合教育科目について）

問 28. 全般的に、総合教育科目の授業に満足していますか。（1つだけ）

1. 満足している授業が多い
2. どちらかといえば満足している授業が多い
3. どちらかといえば満足していない授業が多い
4. 満足していない授業が多い

問 29. 学部の専門科目以外に、一般教養を大学で学ぶ意義はあると思いますか。（1つだけ）

1. あると思う
2. どちらかといえばあると思う
3. どちらかといえばあるとは思わない
4. あるとは思わない

問 30. 総合教育科目を選択する際に、単位の取り易さと授業に対する興味のどちらを優先させますか。あるいはさせましたか。（1つだけ）

1. 単位の取り易さを優先
2. どちらかといえば、単位の取り易さを優先
3. どちらかといえば、授業に対する興味を優先
4. 授業に対する興味を優先

問 31. 履修したい授業は希望通りとれましたか。（1つだけ）

1. だいたいとれた
2. 半分以上はとれた
3. 半分以上はとれなかった
4. まったく希望通りにはとれなかった

問 32. 履修して良かったと考える授業に関して何が良かったと思いますか。（いくつでも）

1. 単位が楽にとれた
2. 教員とのつながりができた
3. 良い成績がもらえた
4. 新たな視点が獲得できた
5. 教養が身についた
6. 友人と仲良くできた
7. 授業が面白かった
8. 知的好奇心が満たされた
9. 恋人・新しい友人ができた
10. その他
（　　）
11. 良かったと考える授業はない

問 33. 選択して良くなかったと考える授業に関して、その大きな問題は何でしたか。（いくつでも）

1. 授業の内容が面白くなかったから
2. 授業が難しすぎたから
3. 授業が易しすぎたから
4. 教員の自己満足的授業だから
5. 教員の一方的な授業だから
6. 休講が多かったから
7. 成績が思わしくなかったから
8. その他
（　　）
9. 良くなかったと考える授業はない

問 34. あなたは一般教養の少人数制のセミナー授業を履修していますか、あるいは履修しましたか。

1. はい　　2. いいえ

問 34-1.（前問で1. と答えた方）少人数制の授業に満足していますか。（1つだけ）

1. 満足している
2. どちらかといえば満足している
3. どちらかといえば満足していない
4. 満足していない

問 35. 学部の専門の勉強以外の領域をより高いレベルまで学ぶことのできるような制度（例えば副専攻制度）があれば、履修してみたい、あるいは履修してみたかったと思いますか。（1つだけ）

1. ぜひ履修してみたい
2. どちらかといえば履修してみたい
3. どちらかといえば履修したくない
4. 履修したくない
5. すでに専門以外の分野を重点的に履修している

問 35-1.（前問で3. 4と答えた方）なぜとりたくないのですか。（1つだけ）

1. 大学は専門の知識を身につけるところだから
2. 複数の専攻は両立できないから
3. 興味がないから
4. その他（　　）

問 36. 楽勝科目といわれている科目を履修しましたか。（1つだけ）

1. はい　　2. いいえ　　3. 楽勝科目が何か知らない

問 36-1.（前問で1. と答えた方）実際それらの科目は楽勝でしたか。（1つだけ）

1. だいたい楽勝だった
2. 楽勝のものは少なかった

（専門の科目、学部について）

問 37. あなたは希望の学部に入ることができましたか。

1. はい　　2. いいえ

問 38. あなたの学部の専門の授業に満足していますか。（1つだけ）

1. 満足している
2. どちらかといえば満足している
3. どちらかといえば満足していない
4. 満足していない

問 39. あなたの学部を選んだ動機のうち最も重要だったのは何ですか。（1つだけ）

1. 専門分野に興味があったから
2. 就職に有利だと思ったから
3. 志望する職業を見据えて
4. 消去法的に
5. 入試や偏差値の都合で
6. ただなんとなく
7. 親に強く薦められて
8. その他（　　）

問 40. あなたのいま所属する学部に入って良かったと思いますか。（1つだけ）

1. 良かった
2. どちらかといえば良かった
3. どちらかといえば良くなかった
4. 良くなかった

※日吉の学生は、以下の質問をとばして、問 45 に進んでください。

※1年生は問 52 に進んでください。

問 41. あなたは所属している専攻、学科やゼミに満足していますか。（1つだけ）

1. 満足している
2. どちらかといえば満足している
3. どちらかといえば満足していない
4. 満足していない

問 42. あなたは希望の専攻や学科、ゼミに入ることができましたか。（1つだけ）

1. はい
2. どちらかといえば、はい
3. どちらかといえば、いいえ
4. いいえ
5. もともと希望しなかった

問 43. 専攻や学科、ゼミは自分にあっていましたか。（1つだけ）

1. はい
2. どちらかといえば、はい
3. どちらかといえば、いいえ
4. いいえ

問 44. 同一のゼミや研究会に2年間在籍することはどう思いますか。（1つだけ）

1. 適当である
2. 長すぎる
3. 短すぎる
4. 自分の学部の在籍期間は2年間ではない

Ⅳ　成績評価について

※1年生は以下の質問をとばして、問 51 に進んでください。

問 45. 大学の授業の成績評価の基準は示されていますか。（1つだけ）

1. ほとんどの授業で示されている
2. どちらかといえば示されている授業が多い
3. どちらかといえば示されていない授業が多い
4. ほとんどの授業で示されていない

問 46. 成績の基準が明確な場合、その基準と結果は合致していると思いますか。（1つだけ）

1. ほとんど合致している
2. どちらかといえば合致している
3. どちらかといえば合致していない
4. ほとんど合致していない

問 47. 成績評価は、プロセスを重視して良い成績をつける方法と、結果重視で成績をつける方法とどちらが良いと思いますか。（1つだけ）

1. プロセスを重視が良い
2. どちらかといえばプロセスを重視が良い
3. どちらかといえば結果重視が良い
4. 結果重視が良い

問 48. 授業ごとに成績評価の方法にばらつきがあることについてどう思いますか。（1つだけ）

1. 問題ない
2. 問題はあるが仕方がない
3. 不公平だと思う
4. とても不公平だと思う

問 49. A・B・Cの人数割合をはじめから決めておく相対評価と、一定の基準に従って割合を決めない絶対評価のどちらが好ましいと思いますか。（1つだけ）

1. 相対評価	3. どちらかといえば絶対評価
2. どちらかといえば相対評価	4. 絶対評価

問 50. これまで履修した科目の成績評価は納得がいきますか。（1つだけ）

1. 納得のいく科目がほとんどである	4. どちらかといえば納得のいかない科目が多い
2. どちらかといえば納得のいく科目が多い	5. 納得のいかない科目がほとんどである
3. 納得のいく科目といかない科目がほぼ半数	

問 50-1. （前問で3. 4. 5と答えた方）成績に疑問を抱いた時、評価について教員に質問するという体制が整っていると思いますか。（1つだけ）

1. 整っている	3. どちらかといえば整っていない
2. どちらかといえば整っている	4. 整っていない

Ⅴ 学生の授業評価について

問 51. 学生の教員に対する授業評価について、行なうべきだと思いますか。（1つだけ）

1. 行なうべき	3. どちらかといえば行なうべきでない
2. どちらかといえば行なうべき	4. 行なうべきでない

問 51-1. （前問で1. 2と答えた方）その理由はなぜですか。（いくつでも）

1. やる気のない教員がいるから	4. 現状を把握して欲しいから
2. 授業内容の向上を期待できるから	5. 顧客（学生）中心主義を徹底すべきだから
3. 学生の声を反映した授業を行なうべきだから	6. その他（　　）

Ⅵ その他

問 52. 現在、あなたの授業以外の１日の勉強時間を教えてください。

（　　）　時間

問 52-1. （2年生以上がお答えください）テスト前や夏休み、春休み期間中の勉強時間はどの位ですか。

テスト前	（　　）　時間
夏休み、春休み期間中	（　　）　時間

問 53. あなたは授業にどの位出席していますか。（1つだけ）

1. ほとんど出席している	3. あまり出席していない
2. だいたい出席している	4. ほとんど出席していない

問 54. 大学生活であなたが本来、最も大切だと思うことは何だと思いますか。（1つだけ）

1. 専門の知識を身につける
2. 幅広い教養を身につける
3. 専門の知識と幅広い教養をバランス良く身につける
4. 資格を取得する
5. 好きな活動に没頭する
6. 大学卒業の肩書きを身につける
7. 師弟関係の形成
8. 友人関係の形成
9. その他
（　　）

問 55. あなた自身が実際の大学生活で最も重視していることは何ですか。（1つだけ）

1. 専門の知識を身につける
2. 幅広い教養を身につける
3. 専門の知識と幅広い教養をバランス良く身につける
4. 資格を取得する
5. 好きな活動に没頭する
6. 大学卒業の肩書きを身につける
7. 師弟関係の形成
8. 友人関係の形成
9. その他
（　　）

問 56. あなたは現在大学以外の学校などに通っていますか（いわゆるダブルスクール）。通っている場合はどのような種類の学校に通っていますか。（通っている場合はいくつでも）

1. 通っていない
2. 公認会計士資格取得のための学校
3. 司法試験または法科大学院受験のための学校
4. 公務員試験受験のための学校
5. その他の専門資格関連の学校
6. 英会話学校やその他語学学校
7. スポーツ・芸術関連の学校
8. その他（専門資格関連以外に）
（　　）

問 57. あなたは慶應義塾大学の学生であることに満足していますか。（1つだけ）

1. 満足している
2. どちらかといえば満足している
3. どちらかといえば満足していない
4. 満足していない

問 58. あなたは慶應義塾大学に対して満足していますか。（1つだけ）

1. 満足している
2. どちらかといえば満足している
3. どちらかといえば満足していない
4. 満足していない

問 59. 勉学生活の充実のために、カリキュラムや授業に関して今後どのような改善を望むか、またどのような授業を望むか自由にお答えください。

ご協力ありがとうございました。

集計結果クロス表

Ⅰ　一般的な事項について

問1　学部

回答　　1. 文学部　2. 経済学部　3. 法学部(法律学科)　4. 法学部(政治学科)　5. 商学部　6. 医学部
選択肢:　7. 理工学部　8. 環境情報学部　9. 総合政策学部　10. 看護医療学部

		全体	1. 文学部	2. 経済学部	3. 法学部(法律学科)	4. 法学部(政治学科)	5. 商学部	6. 医学部	7. 理工学部	8. 環境情報学部	9. 総合政策学部	10. 看護医療学部	NA
合計		1425	215	209	160	130	180	94	216	85	75	59	2
		100.0	15.1	14.7	11.2	9.1	12.6	6.6	15.2	6.0	5.3	4.1	0.1
学部	文	215	215	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	経済	209	0	209	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	法・法	160	0	0	160	0	0	0	0	0	0	0	0
		100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	法・政	130	0	0	0	130	0	0	0	0	0	0	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	商	180	0	0	0	0	180	0	0	0	0	0	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	医	94	0	0	0	0	0	94	0	0	0	0	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	理工	216	0	0	0	0	0	0	216	0	0	0	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	環境情報	85	0	0	0	0	0	0	0	85	0	0	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	総合政策	75	0	0	0	0	0	0	0	0	75	0	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	看護医療	59	0	0	0	0	0	0	0	0	0	59	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
学年	1年生	386	54	54	34	38	50	20	65	24	29	17	1
		100.0	14.0	14.0	8.8	9.8	13.0	5.2	16.8	6.2	7.5	4.4	0.3
	2年生	350	57	53	43	36	38	14	59	19	13	18	0
		100.0	16.3	15.1	12.3	10.3	10.9	4.0	16.9	5.4	3.7	5.1	0.0
	3年生	298	47	54	38	29	37	13	46	14	15	5	0
		100.0	15.8	18.1	12.8	9.7	12.4	4.4	15.4	4.7	5.0	1.7	0.0
	4年生	363	57	48	43	27	54	22	46	28	18	19	1
		100.0	15.7	13.2	11.8	7.4	14.9	6.1	12.7	7.7	5.0	5.2	0.3
	5・6年生	28	0	0	2	0	1	25	0	0	0	0	0
		100.0	0.0	0.0	7.1	0.0	3.6	89.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
在籍キャンパス	日吉	549	54	107	78	74	89	21	125	0	0	0	1
		100.0	9.8	19.5	14.2	13.5	16.2	3.8	22.8	0.0	0.0	0.0	0.2
	三田	492	161	102	82	56	90	0	0	0	0	0	1
		100.0	32.7	20.7	16.7	11.4	18.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2
	矢上	92	0	0	0	0	0	0	91	0	1	0	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	98.9	0.0	1.1	0.0	0.0
	信濃町	78	0	0	0	0	0	73	0	0	0	5	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	93.6	0.0	0.0	0.0	6.4	0.0
	湘南藤沢	214	0	0	0	0	1	0	0	85	74	54	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	39.7	34.6	25.2	0.0
性別	男性	858	59	151	92	76	128	75	186	46	40	3	2
		100.0	6.9	17.6	10.7	8.9	14.9	8.7	21.7	5.4	4.7	0.3	0.2
	女性	567	156	58	68	54	52	19	30	39	35	56	0
		100.0	27.5	10.2	12.0	9.5	9.2	3.4	5.3	6.9	6.2	9.9	0.0

問2　学年

回答選択肢:　1. 1年生　2. 2年生　3. 3年生　4. 4年生　5. 5年生　6. 6年生

		全体	1. 1年生	2. 2年生	3. 3年生	4. 4年生	5. 5年生	6. 6年生	NA
合計		1425	386	350	298	363	12	16	0
		100.0	27.1	24.6	20.9	25.5	0.8	1.1	0.0
学部	文	215	54	57	47	57	0	0	0
		100.0	25.1	26.5	21.9	26.5	0.0	0.0	0.0
	経済	209	54	53	54	48	0	0	0
		100.0	25.8	25.4	25.8	23.0	0.0	0.0	0.0
	法・法	160	34	43	38	43	2	0	0
		100.0	21.3	26.9	23.8	26.9	1.3	0.0	0.0
	法・政	130	38	36	29	27	0	0	0
		100.0	29.2	27.7	22.3	20.8	0.0	0.0	0.0
	商	180	50	38	37	54	1	0	0
		100.0	27.8	21.1	20.6	30.0	0.6	0.0	0.0
	医	94	20	14	13	22	9	16	0
		100.0	21.3	14.9	13.8	23.4	9.6	17.0	0.0
	理工	216	65	59	46	46	0	0	0
		100.0	30.1	27.3	21.3	21.3	0.0	0.0	0.0
	環境情報	85	24	19	14	28	0	0	0
		100.0	28.2	22.4	16.5	32.9	0.0	0.0	0.0
	総合政策	75	29	13	15	18	0	0	0
		100.0	38.7	17.3	20.0	24.0	0.0	0.0	0.0
	看護医療	59	17	18	5	19	0	0	0
		100.0	28.8	30.5	8.5	32.2	0.0	0.0	0.0
学年	1年生	386	386	0	0	0	0	0	0
		100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2年生	350	0	350	0	0	0	0	0
		100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3年生	298	0	0	298	0	0	0	0
		100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	4年生	363	0	0	0	363	0	0	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	5・6年生	28	0	0	0	0	12	16	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	42.9	57.1	0.0
在籍キャンパス	日吉	549	316	230	1	2	0	0	0
		100.0	57.6	41.9	0.2	0.4	0.0	0.0	0.0
	三田	492	0	57	203	229	3	0	0
		100.0	0.0	11.6	41.3	46.5	0.6	0.0	0.0
	矢上	92	0	0	46	46	0	0	0
		100.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	信濃町	78	0	13	18	22	9	16	0
		100.0	0.0	16.7	23.1	28.2	11.5	20.5	0.0
	湘南藤沢	214	70	50	30	64	0	0	0
		100.0	32.7	23.4	14.0	29.9	0.0	0.0	0.0
性別	男性	858	236	206	175	217	8	16	0
		100.0	27.5	24.0	20.4	25.3	0.9	1.9	0.0
	女性	567	150	144	123	146	4	0	0
		100.0	26.5	25.4	21.7	25.7	0.7	0.0	0.0

問3　在籍キャンパス

回答　　1. 日吉キャンパス　2. 三田キャンパス　3. 矢上キャンパス　4. 信濃町キャンパス
選択肢:　5. 湘南藤沢キャンパス

		全体	1. 日吉	2. 三田	3. 矢上	4. 信濃町	5. 湘南藤沢	NA
合計		1425	549	492	92	78	214	0
		100.0	38.5	34.5	6.5	5.5	15.0	0.0
学部	文	215	54	161	0	0	0	0
		100.0	25.1	74.9	0.0	0.0	0.0	0.0
	経済	209	107	102	0	0	0	0
		100.0	51.2	48.8	0.0	0.0	0.0	0.0
	法・法	160	78	82	0	0	0	0
		100.0	48.8	51.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	法・政	130	74	56	0	0	0	0
		100.0	56.9	43.1	0.0	0.0	0.0	0.0
	商	180	89	90	0	0	1	0
		100.0	49.4	50.0	0.0	0.0	0.6	0.0
	医	94	21	0	0	73	0	0
		100.0	22.3	0.0	0.0	77.7	0.0	0.0
	理工	216	125	0	91	0	0	0
		100.0	57.9	0.0	42.1	0.0	0.0	0.0
	環境情報	85	0	0	0	0	85	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	総合政策	75	0	0	1	0	74	0
		100.0	0.0	0.0	1.3	0.0	98.7	0.0
	看護医療	59	0	0	0	5	54	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	8.5	91.5	0.0
学年	1年生	386	316	0	0	0	70	0
		100.0	81.9	0.0	0.0	0.0	18.1	0.0
	2年生	350	230	57	0	13	50	0
		100.0	65.7	16.3	0.0	3.7	14.3	0.0
	3年生	298	1	203	46	18	30	0
		100.0	0.3	68.1	15.4	6.0	10.1	0.0
	4年生	363	2	229	46	22	64	0
		100.0	0.6	63.1	12.7	6.1	17.6	0.0
	5・6年生	28	0	3	0	25	0	0
		100.0	0.0	10.7	0.0	89.3	0.0	0.0
在籍キャンパス	日吉	549	549	0	0	0	0	0
		100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	三田	492	0	492	0	0	0	0
		100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	矢上	92	0	0	92	0	0	0
		100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	信濃町	78	0	0	0	78	0	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	湘南藤沢	214	0	0	0	0	214	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
性別	男性	858	370	259	80	62	87	0
		100.0	43.1	30.2	9.3	7.2	10.1	0.0
	女性	567	179	233	12	16	127	0
		100.0	31.6	41.1	2.1	2.8	22.4	0.0

問4　性別

回答選択肢:　1. 男性　2. 女性

		全体	1. 男性	2. 女性	NA
合計		1425 100.0	858 60.2	567 39.8	0 0.0
学部	文	215 100.0	59 27.4	156 72.6	0 0.0
	経済	209 100.0	151 72.2	58 27.8	0 0.0
	法・法	160 100.0	92 57.5	68 42.5	0 0.0
	法・政	130 100.0	76 58.5	54 41.5	0 0.0
	商	180 100.0	128 71.1	52 28.9	0 0.0
	医	94 100.0	75 79.8	19 20.2	0 0.0
	理工	216 100.0	186 86.1	30 13.9	0 0.0
	環境情報	85 100.0	46 54.1	39 45.9	0 0.0
	総合政策	75 100.0	40 53.3	35 46.7	0 0.0
	看護医療	59 100.0	3 5.1	56 94.9	0 0.0
学年	1年生	386 100.0	236 61.1	150 38.9	0 0.0
	2年生	350 100.0	206 58.9	144 41.1	0 0.0
	3年生	298 100.0	175 58.7	123 41.3	0 0.0
	4年生	363 100.0	217 59.8	146 40.2	0 0.0
	5・6年生	28 100.0	24 85.7	4 14.3	0 0.0
在籍キャンパス	日吉	549 100.0	370 67.4	179 32.6	0 0.0
	三田	492 100.0	259 52.6	233 47.4	0 0.0
	矢上	92 100.0	80 87.0	12 13.0	0 0.0
	信濃町	78 100.0	62 79.5	16 20.5	0 0.0
	湘南藤沢	214 100.0	87 40.7	127 59.3	0 0.0
性別	男性	858 100.0	858 100.0	0 0.0	0 0.0
	女性	567 100.0	0 0.0	567 100.0	0 0.0

問5　年齢

		全体	18-19歳	20-21歳	22-23歳	24-25歳	26歳以上	NA	平均（歳）
合計		1425	516	594	216	34	11	54	20.2
		100.0	36.2	41.7	15.2	2.4	0.8	3.8	
学部	文	215	73	100	30	5	1	6	20.2
		100.0	34.0	46.5	14.0	2.3	0.5	2.8	
	経済	209	76	83	32	4	1	13	20.2
		100.0	36.4	39.7	15.3	1.9	0.5	6.2	
	法・法	160	62	70	21	2	0	5	20.0
		100.0	38.8	43.8	13.1	1.3	0.0	3.1	
	法・政	130	55	57	14	0	0	4	19.9
		100.0	42.3	43.8	10.8	0.0	0.0	3.1	
	商	180	60	76	30	6	1	7	20.3
		100.0	33.3	42.2	16.7	3.3	0.6	3.9	
	医	94	26	23	26	11	2	6	21.1
		100.0	27.7	24.5	27.7	11.7	2.1	6.4	
	理工	216	79	103	21	3	0	10	20.0
		100.0	36.6	47.7	9.7	1.4	0.0	4.6	
	環境情報	85	31	28	17	2	6	1	20.8
		100.0	36.5	32.9	20.0	2.4	7.1	1.2	
	総合政策	75	26	33	15	0	0	1	20.1
		100.0	34.7	44.0	20.0	0.0	0.0	1.3	
	看護医療	59	27	20	10	1	0	1	20.1
		100.0	45.8	33.9	16.9	1.7	0.0	1.7	
学年	1年生	386	327	37	3	0	2	17	18.6
		100.0	84.7	9.6	0.8	0.0	0.5	4.4	
	2年生	350	189	146	8	0	1	6	19.6
		100.0	54.0	41.7	2.3	0.0	0.3	1.7	
	3年生	298	0	253	30	1	1	13	20.6
		100.0	0.0	84.9	10.1	0.3	0.3	4.4	
	4年生	363	0	158	159	23	5	18	21.9
		100.0	0.0	43.5	43.8	6.3	1.4	5.0	
	5・6年生	28	0	0	16	10	2	0	23.4
		100.0	0.0	0.0	57.1	35.7	7.1	0.0	
在籍キャンパス	日吉	549	398	119	8	0	0	24	19.0
		100.0	72.5	21.7	1.5	0.0	0.0	4.4	
	三田	492	26	301	123	17	3	22	21.1
		100.0	5.3	61.2	25.0	3.5	0.6	4.5	
	矢上	92	0	69	19	3	0	1	21.1
		100.0	0.0	75.0	20.7	3.3	0.0	1.1	
	信濃町	78	8	24	28	11	2	5	21.8
		100.0	10.3	30.8	35.9	14.1	2.6	6.4	
	湘南藤沢	214	84	81	38	3	6	2	20.4
		100.0	39.3	37.9	17.8	1.4	2.8	0.9	
性別	男性	858	297	333	138	31	10	49	20.4
		100.0	34.6	38.8	16.1	3.6	1.2	5.7	
	女性	567	219	261	78	3	1	5	20.0
		100.0	38.6	46.0	13.8	0.5	0.2	0.9	

問6　入試形態

回答　　1. 一般入試　2. 塾内進学　3. 一般高校長推薦　4. 学士入学　5. 帰国子女入試
選択肢:　6. AO入試　7. 自己推薦　8. 留学生入試　9. その他

		全体	1. 一般入試	2. 塾内進学	3. 一般高校長推薦	4. 学士入学	5. 帰国子女入試	6. AO入試	7. 自己推薦	8. 留学生入試	9. その他	NA
合計		1425	843	326	143	0	20	46	27	2	13	5
		100.0	59.2	22.9	10.0	0.0	1.4	3.2	1.9	0.1	0.9	0.4
学部	文	215	160	19	1	0	6	1	27	0	0	1
		100.0	74.4	8.8	0.5	0.0	2.8	0.5	12.6	0.0	0.0	0.5
	経済	209	126	80	0	0	2	0	0	1	0	0
		100.0	60.3	38.3	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0
	法・法	160	54	58	34	0	4	5	0	1	3	1
		100.0	33.8	36.3	21.3	0.0	2.5	3.1	0.0	0.6	1.9	0.6
	法・政	130	59	37	30	0	3	1	0	0	0	0
		100.0	45.4	28.5	23.1	0.0	2.3	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0
	商	180	118	20	37	0	2	0	0	0	2	1
		100.0	65.6	11.1	20.6	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0	1.1	0.6
	医	94	63	30	0	0	0	0	0	0	0	1
		100.0	67.0	31.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1
	理工	216	114	50	41	0	3	1	0	0	7	0
		100.0	52.8	23.1	19.0	0.0	1.4	0.5	0.0	0.0	3.2	0.0
	環境情報	85	51	15	0	0	0	19	0	0	0	0
		100.0	60.0	17.6	0.0	0.0	0.0	22.4	0.0	0.0	0.0	0.0
	総合政策	75	49	9	0	0	0	17	0	0	0	0
		100.0	65.3	12.0	0.0	0.0	0.0	22.7	0.0	0.0	0.0	0.0
	看護医療	59	47	8	0	0	0	2	0	0	1	1
		100.0	79.7	13.6	0.0	0.0	0.0	3.4	0.0	0.0	1.7	1.7
学年	1年生	386	227	84	39	0	6	18	9	1	1	1
		100.0	58.8	21.8	10.1	0.0	1.6	4.7	2.3	0.3	0.3	0.3
	2年生	350	196	79	43	0	6	11	9	1	4	1
		100.0	56.0	22.6	12.3	0.0	1.7	3.1	2.6	0.3	1.1	0.3
	3年生	298	173	82	29	0	3	4	3	0	3	1
		100.0	58.1	27.5	9.7	0.0	1.0	1.3	1.0	0.0	1.0	0.3
	4年生	363	227	74	32	0	5	13	6	0	5	1
		100.0	62.5	20.4	8.8	0.0	1.4	3.6	1.7	0.0	1.4	0.3
	5・6年生	28	20	7	0	0	0	0	0	0	0	1
		100.0	71.4	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6
在籍キャンパス	日吉	549	295	139	82	0	9	7	9	2	5	1
		100.0	53.7	25.3	14.9	0.0	1.6	1.3	1.6	0.4	0.9	0.2
	三田	492	307	106	46	0	9	1	18	0	3	2
		100.0	62.4	21.5	9.3	0.0	1.8	0.2	3.7	0.0	0.6	0.4
	矢上	92	44	27	15	0	2	0	0	0	4	0
		100.0	47.8	29.3	16.3	0.0	2.2	0.0	0.0	0.0	4.3	0.0
	信濃町	78	54	23	0	0	0	0	0	0	0	1
		100.0	69.2	29.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3
	湘南藤沢	214	143	31	0	0	0	38	0	0	1	1
		100.0	66.8	14.5	0.0	0.0	0.0	17.8	0.0	0.0	0.5	0.5
性別	男性	858	510	243	71	0	7	16	1	0	7	3
		100.0	59.4	28.3	8.3	0.0	0.8	1.9	0.1	0.0	0.8	0.3
	女性	567	333	83	72	0	13	30	26	2	6	2
		100.0	58.7	14.6	12.7	0.0	2.3	5.3	4.6	0.4	1.1	0.4

Ⅱ　履修登録について

問7．授業を選択する時に、時間割以外で、最も参考にした情報は何ですか。
（ ○は1つだけ）

回答　　1. 講義要項（シラバス）　2. 履修案内　3. インターネットの掲示板　4. リシュルート
選択肢:　5. 友人や先輩の評判　6. その他

		全体	1. 講義要項（シラバス）	2. 履修案内	3. インターネット	4. リシュルート	5. 友人や先輩の評判	6. その他	NA
合計		1425	801	75	21	105	329	46	48
		100.0	56.2	5.3	1.5	7.4	23.1	3.2	3.4
学部	文	215	175	5	1	11	13	2	8
		100.0	81.4	2.3	0.5	5.1	6.0	0.9	3.7
	経済	209	86	12	7	20	72	8	4
		100.0	41.1	5.7	3.3	9.6	34.4	3.8	1.9
	法・法	160	82	7	2	16	43	3	7
		100.0	51.3	4.4	1.3	10.0	26.9	1.9	4.4
	法・政	130	64	11	0	14	32	0	9
		100.0	49.2	8.5	0.0	10.8	24.6	0.0	6.9
	商	180	79	9	1	20	61	3	7
		100.0	43.9	5.0	0.6	11.1	33.9	1.7	3.9
	医	94	31	6	0	0	39	16	2
		100.0	33.0	6.4	0.0	0.0	41.5	17.0	2.1
	理工	216	128	14	1	24	40	4	5
		100.0	59.3	6.5	0.5	11.1	18.5	1.9	2.3
	環境情報	85	62	3	3	0	10	5	2
		100.0	72.9	3.5	3.5	0.0	11.8	5.9	2.4
	総合政策	75	51	5	5	0	9	3	2
		100.0	68.0	6.7	6.7	0.0	12.0	4.0	2.7
	看護医療	59	42	3	1	0	9	2	2
		100.0	71.2	5.1	1.7	0.0	15.3	3.4	3.4
学年	1年生	386	205	25	7	57	69	8	15
		100.0	53.1	6.5	1.8	14.8	17.9	2.1	3.9
	2年生	350	210	23	5	29	59	11	13
		100.0	60.0	6.6	1.4	8.3	16.9	3.1	3.7
	3年生	298	179	9	4	7	81	7	11
		100.0	60.1	3.0	1.3	2.3	27.2	2.3	3.7
	4年生	363	200	18	5	12	104	15	9
		100.0	55.1	5.0	1.4	3.3	28.7	4.1	2.5
	5・6年生	28	7	0	0	0	16	5	0
		100.0	25.0	0.0	0.0	0.0	57.1	17.9	0.0
在籍キャンパス	日吉	549	279	40	4	86	105	13	22
		100.0	50.8	7.3	0.7	15.7	19.1	2.4	4.0
	三田	492	284	18	8	17	139	7	19
		100.0	57.7	3.7	1.6	3.5	28.3	1.4	3.9
	矢上	92	63	2	0	2	23	1	1
		100.0	68.5	2.2	0.0	2.2	25.0	1.1	1.1
	信濃町	78	22	4	0	0	35	16	1
		100.0	28.2	5.1	0.0	0.0	44.9	20.5	1.3
	湘南藤沢	214	153	11	9	0	27	9	5
		100.0	71.5	5.1	4.2	0.0	12.6	4.2	2.3
性別	男性	858	437	42	10	84	223	34	28
		100.0	50.9	4.9	1.2	9.8	26.0	4.0	3.3
	女性	567	364	33	11	21	106	12	20
		100.0	64.2	5.8	1.9	3.7	18.7	2.1	3.5

問8. 授業を選択する際に講義要項(シラバス＝全講義の内容が書かれた冊子)をどの程度参考にしましたか。(1つだけ)

回答　　1. 参考にした　2. まあ参考にした　3. あまり参考にしなかった
選択肢:　4. 参考にしなかった

		全体	1. 参考にした	2. まあ参考にした	3. あまり参考にしなかった	4. 参考にしなかった	NA	参考にした計	参考にしなかった計
合計		1425	821	460	100	35	9	1281	135
		100.0	57.6	32.3	7.0	2.5	0.6	89.9	9.5
学部	文	215	165	44	4	1	1	209	5
		100.0	76.7	20.5	1.9	0.5	0.5	97.2	2.3
	経済	209	101	83	20	5	0	184	25
		100.0	48.3	39.7	9.6	2.4	0.0	88.0	12.0
	法・法	160	88	62	10	0	0	150	10
		100.0	55.0	38.8	6.3	0.0	0.0	93.8	6.3
	法・政	130	81	35	12	2	0	116	14
		100.0	62.3	26.9	9.2	1.5	0.0	89.2	10.8
	商	180	92	66	20	2	0	158	22
		100.0	51.1	36.7	11.1	1.1	0.0	87.8	12.2
	医	94	30	32	10	15	7	62	25
		100.0	31.9	34.0	10.6	16.0	7.4	66.0	26.6
	理工	216	127	68	14	7	0	195	21
		100.0	58.8	31.5	6.5	3.2	0.0	90.3	9.7
	環境情報	85	55	24	4	1	1	79	5
		100.0	64.7	28.2	4.7	1.2	1.2	92.9	5.9
	総合政策	75	49	21	4	1	0	70	5
		100.0	65.3	28.0	5.3	1.3	0.0	93.3	6.7
	看護医療	59	33	23	2	1	0	56	3
		100.0	55.9	39.0	3.4	1.7	0.0	94.9	5.1
学年	1年生	386	220	124	32	9	1	344	41
		100.0	57.0	32.1	8.3	2.3	0.3	89.1	10.6
	2年生	350	206	120	17	5	2	326	22
		100.0	58.9	34.3	4.9	1.4	0.6	93.1	6.3
	3年生	298	188	86	19	3	2	274	22
		100.0	63.1	28.9	6.4	1.0	0.7	91.9	7.4
	4年生	363	201	120	29	10	3	321	39
		100.0	55.4	33.1	8.0	2.8	0.8	88.4	10.7
	5・6年生	28	6	10	3	8	1	16	11
		100.0	21.4	35.7	10.7	28.6	3.6	57.1	39.3
在籍キャンパス	日吉	549	305	186	45	13	0	491	58
		100.0	55.6	33.9	8.2	2.4	0.0	89.4	10.6
	三田	492	300	155	32	4	1	455	36
		100.0	61.0	31.5	6.5	0.8	0.2	92.5	7.3
	矢上	92	58	27	6	1	0	85	7
		100.0	63.0	29.3	6.5	1.1	0.0	92.4	7.6
	信濃町	78	23	25	9	14	7	48	23
		100.0	29.5	32.1	11.5	17.9	9.0	61.5	29.5
	湘南藤沢	214	135	67	8	3	1	202	11
		100.0	63.1	31.3	3.7	1.4	0.5	94.4	5.1
性別	男性	858	453	288	80	32	5	741	112
		100.0	52.8	33.6	9.3	3.7	0.6	86.4	13.1
	女性	567	368	172	20	3	4	540	23
		100.0	64.9	30.3	3.5	0.5	0.7	95.2	4.1

問9．講義要項（シラバス）であなたが重要だと思う情報は得られましたか。（1つだけ）

回答選択肢：　1. 得られた　2. どちらかといえば得られた　3. どちらかといえば得られなかった　4. 得られなかった

		全体	1. 得られた	2. まあ得られた	3. あまり得られなかった	4. 得られなかった	NA	得られた計	得られなかった計
合計		1425	343	846	192	38	6	1189	230
		100.0	24.1	59.4	13.5	2.7	0.4	83.4	16.1
学部	文	215	55	131	25	4	0	186	29
		100.0	25.6	60.9	11.6	1.9	0.0	86.5	13.5
	経済	209	44	130	28	5	2	174	33
		100.0	21.1	62.2	13.4	2.4	1.0	83.3	15.8
	法・法	160	36	104	19	1	0	140	20
		100.0	22.5	65.0	11.9	0.6	0.0	87.5	12.5
	法・政	130	39	76	13	2	0	115	15
		100.0	30.0	58.5	10.0	1.5	0.0	88.5	11.5
	商	180	29	107	39	5	0	136	44
		100.0	16.1	59.4	21.7	2.8	0.0	75.6	24.4
	医	94	27	40	14	10	3	67	24
		100.0	28.7	42.6	14.9	10.6	3.2	71.3	25.5
	理工	216	47	131	29	8	1	178	37
		100.0	21.8	60.6	13.4	3.7	0.5	82.4	17.1
	環境情報	85	33	43	8	1	0	76	9
		100.0	38.8	50.6	9.4	1.2	0.0	89.4	10.6
	総合政策	75	23	42	9	1	0	65	10
		100.0	30.7	56.0	12.0	1.3	0.0	86.7	13.3
	看護医療	59	10	40	8	1	0	50	9
		100.0	16.9	67.8	13.6	1.7	0.0	84.7	15.3
学年	1年生	386	93	224	55	14	0	317	69
		100.0	24.1	58.0	14.2	3.6	0.0	82.1	17.9
	2年生	350	96	205	40	7	2	301	47
		100.0	27.4	58.6	11.4	2.0	0.6	86.0	13.4
	3年生	298	70	182	41	2	3	252	43
		100.0	23.5	61.1	13.8	0.7	1.0	84.6	14.4
	4年生	363	79	223	53	8	0	302	61
		100.0	21.8	61.4	14.6	2.2	0.0	83.2	16.8
	5・6年生	28	5	12	3	7	1	17	10
		100.0	17.9	42.9	10.7	25.0	3.6	60.7	35.7
在籍キャンパス	日吉	549	133	324	73	18	1	457	91
		100.0	24.2	59.0	13.3	3.3	0.2	83.2	16.6
	三田	492	106	308	68	9	1	414	77
		100.0	21.5	62.6	13.8	1.8	0.2	84.1	15.7
	矢上	92	18	59	14	0	1	77	14
		100.0	19.6	64.1	15.2	0.0	1.1	83.7	15.2
	信濃町	78	22	31	14	8	3	53	22
		100.0	28.2	39.7	17.9	10.3	3.8	67.9	28.2
	湘南藤沢	214	64	124	23	3	0	188	26
		100.0	29.9	57.9	10.7	1.4	0.0	87.9	12.1
性別	男性	858	187	502	132	32	5	689	164
		100.0	21.8	58.5	15.4	3.7	0.6	80.3	19.1
	女性	567	156	344	60	6	1	500	66
		100.0	27.5	60.7	10.6	1.1	0.2	88.2	11.6

問10. 講義要項（シラバス）をあなたはどのように改善すれば良いと思いますか。（いくつでも）

回答　　1. ウェブで簡単に見られるようにする　2. 携帯電話で見られるようにする
選択肢：　3. 簡単な授業内容と詳細な授業計画は別々の冊子にする　4. ウェブでの検索機能を充実させる
5. 記述量を増やす　6. 記述量を減らす　7. 要約版を作る　8. その他

		全体	1. ウェブ簡単閲覧	2. 携帯電話閲覧	3. 冊子別々	4. ウェブ検索機能充実	5. 記述量増	6. 記述量減	7. 要約版	8. その他	NA
合計		1425	530	74	345	434	342	63	271	273	37
		100.0	37.2	5.2	24.2	30.5	24.0	4.4	19.0	19.2	2.6
学部	文	215	91	13	54	69	57	3	35	51	3
		100.0	42.3	6.0	25.1	32.1	26.5	1.4	16.3	23.7	1.4
	経済	209	80	7	56	73	44	15	46	46	3
		100.0	38.3	3.3	26.8	34.9	21.1	7.2	22.0	22.0	1.4
	法・法	160	65	8	40	45	39	5	35	32	4
		100.0	40.6	5.0	25.0	28.1	24.4	3.1	21.9	20.0	2.5
	法・政	130	46	8	30	38	29	7	27	26	1
		100.0	35.4	6.2	23.1	29.2	22.3	5.4	20.8	20.0	0.8
	商	180	73	10	51	50	40	17	47	27	3
		100.0	40.6	5.6	28.3	27.8	22.2	9.4	26.1	15.0	1.7
	医	94	36	7	15	20	18	5	17	14	9
		100.0	38.3	7.4	16.0	21.3	19.1	5.3	18.1	14.9	9.6
	理工	216	70	2	52	59	58	8	39	44	3
		100.0	32.4	0.9	24.1	27.3	26.9	3.7	18.1	20.4	1.4
	環境情報	85	20	5	23	27	22	1	12	18	4
		100.0	23.5	5.9	27.1	31.8	25.9	1.2	14.1	21.2	4.7
	総合政策	75	16	5	14	30	21	2	8	9	5
		100.0	21.3	6.7	18.7	40.0	28.0	2.7	10.7	12.0	6.7
	看護医療	59	32	9	10	22	13	0	5	6	2
		100.0	54.2	15.3	16.9	37.3	22.0	0.0	8.5	10.2	3.4
学年	1年生	386	146	29	114	121	86	22	105	52	6
		100.0	37.8	7.5	29.5	31.3	22.3	5.7	27.2	13.5	1.6
	2年生	350	119	12	82	109	94	18	63	76	11
		100.0	34.0	3.4	23.4	31.1	26.9	5.1	18.0	21.7	3.1
	3年生	298	106	13	76	79	77	10	43	59	7
		100.0	35.6	4.4	25.5	26.5	25.8	3.4	14.4	19.8	2.3
	4年生	363	147	20	68	117	82	12	56	80	11
		100.0	40.5	5.5	18.7	32.2	22.6	3.3	15.4	22.0	3.0
	5・6年生	28	12	0	5	8	3	1	4	6	2
		100.0	42.9	0.0	17.9	28.6	10.7	3.6	14.3	21.4	7.1
在籍キャンパス	日吉	549	209	27	152	173	124	38	148	96	8
		100.0	38.1	4.9	27.7	31.5	22.6	6.9	27.0	17.5	1.5
	三田	492	197	21	119	145	121	18	79	114	8
		100.0	40.0	4.3	24.2	29.5	24.6	3.7	16.1	23.2	1.6
	矢上	92	28	1	16	22	31	0	8	18	3
		100.0	30.4	1.1	17.4	23.9	33.7	0.0	8.7	19.6	3.3
	信濃町	78	32	5	12	16	11	4	11	12	7
		100.0	41.0	6.4	15.4	20.5	14.1	5.1	14.1	15.4	9.0
	湘南藤沢	214	64	20	46	78	55	3	25	33	11
		100.0	29.9	9.3	21.5	36.4	25.7	1.4	11.7	15.4	5.1
性別	男性	858	314	41	222	242	209	45	161	155	24
		100.0	36.6	4.8	25.9	28.2	24.4	5.2	18.8	18.1	2.8
	女性	567	216	33	123	192	133	18	110	118	13
		100.0	38.1	5.8	21.7	33.9	23.5	3.2	19.4	20.8	2.3

問11. 日吉キャンパスのガイダンス・ウィークのガイダンス（春学期の1週間、授業時間を前半・後半に分けた説明）は必要だと思いますか。（1つだけ）

回答　1. 必要　2. どちらかといえば必要　3. どちらかといえば不要　4. 不要
選択肢：　5. 日吉キャンパスの授業を受けたことがない

		全体	1. 必要	2. やや必要	3. やや不要	4. 不要	5. 日吉授業受講無し	NA	必要計	不要計
合計		1425	884	207	68	45	184	37	1091	113
		100.0	62.0	14.5	4.8	3.2	12.9	2.6	76.6	7.9
学部	文	215	165	31	10	5	1	3	196	15
		100.0	76.7	14.4	4.7	2.3	0.5	1.4	91.2	7.0
	経済	209	149	33	18	7	0	2	182	25
		100.0	71.3	15.8	8.6	3.3	0.0	1.0	87.1	12.0
	法・法	160	127	19	6	5	0	3	146	11
		100.0	79.4	11.9	3.8	3.1	0.0	1.9	91.3	6.9
	法・政	130	95	20	10	5	0	0	115	15
		100.0	73.1	15.4	7.7	3.8	0.0	0.0	88.5	11.5
	商	180	118	39	9	10	1	3	157	19
		100.0	65.6	21.7	5.0	5.6	0.6	1.7	87.2	10.6
	医	94	60	17	5	8	2	2	77	13
		100.0	63.8	18.1	5.3	8.5	2.1	2.1	81.9	13.8
	理工	216	157	41	7	4	1	6	198	11
		100.0	72.7	19.0	3.2	1.9	0.5	2.8	91.7	5.1
	環境情報	85	7	3	1	1	66	7	10	2
		100.0	8.2	3.5	1.2	1.2	77.6	8.2	11.8	2.4
	総合政策	75	5	3	2	0	58	7	8	2
		100.0	6.7	4.0	2.7	0.0	77.3	9.3	10.7	2.7
	看護医療	59	0	0	0	0	55	4	0	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	93.2	6.8	0.0	0.0
学年	1年生	386	244	44	17	9	63	9	288	26
		100.0	63.2	11.4	4.4	2.3	16.3	2.3	74.6	6.7
	2年生	350	216	54	16	12	42	10	270	28
		100.0	61.7	15.4	4.6	3.4	12.0	2.9	77.1	8.0
	3年生	298	202	36	16	9	26	9	238	25
		100.0	67.8	12.1	5.4	3.0	8.7	3.0	79.9	8.4
	4年生	363	204	68	18	13	53	7	272	31
		100.0	56.2	18.7	5.0	3.6	14.6	1.9	74.9	8.5
	5・6年生	28	18	5	1	2	0	2	23	3
		100.0	64.3	17.9	3.6	7.1	0.0	7.1	82.1	10.7
在籍キャンパス	日吉	549	409	86	27	19	1	7	495	46
		100.0	74.5	15.7	4.9	3.5	0.2	1.3	90.2	8.4
	三田	492	349	85	31	17	1	9	434	48
		100.0	70.9	17.3	6.3	3.5	0.2	1.8	88.2	9.8
	矢上	92	72	15	2	1	1	1	87	3
		100.0	78.3	16.3	2.2	1.1	1.1	1.1	94.6	3.3
	信濃町	78	42	15	5	7	6	3	57	12
		100.0	53.8	19.2	6.4	9.0	7.7	3.8	73.1	15.4
	湘南藤沢	214	12	6	3	1	175	17	18	4
		100.0	5.6	2.8	1.4	0.5	81.8	7.9	8.4	1.9
性別	男性	858	560	126	44	36	72	20	686	80
		100.0	65.3	14.7	5.1	4.2	8.4	2.3	80.0	9.3
	女性	567	324	81	24	9	112	17	405	33
		100.0	57.1	14.3	4.2	1.6	19.8	3.0	71.4	5.8

問12. 日吉キャンパスのガイダンス・ウィークは秋学期にも必要だと思いますか。（1つだけ）

回答　　1. 必要　　2. どちらかといえば必要　　3. どちらかといえば不要　　4. 不要
選択肢：　5. 日吉キャンパスの授業を受けたことがない

		全体	1. 必要	2. やや必要	3. やや不要	4. 不要	5. 日吉授業受講無し	NA	必要計	不要計
合計		1425	544	266	198	196	184	37	810	394
		100.0	38.2	18.7	13.9	13.8	12.9	2.6	56.8	27.6
学部	文	215	66	50	49	46	1	3	116	95
		100.0	30.7	23.3	22.8	21.4	0.5	1.4	54.0	44.2
	経済	209	97	52	33	25	0	2	149	58
		100.0	46.4	24.9	15.8	12.0	0.0	1.0	71.3	27.8
	法・法	160	62	35	29	30	1	3	97	59
		100.0	38.8	21.9	18.1	18.8	0.6	1.9	60.6	36.9
	法・政	130	78	14	25	13	0	0	92	38
		100.0	60.0	10.8	19.2	10.0	0.0	0.0	70.8	29.2
	商	180	73	41	33	30	1	2	114	63
		100.0	40.6	22.8	18.3	16.7	0.6	1.1	63.3	35.0
	医	94	23	20	12	35	1	3	43	47
		100.0	24.5	21.3	12.8	37.2	1.1	3.2	45.7	50.0
	理工	216	134	48	17	10	1	6	182	27
		100.0	62.0	22.2	7.9	4.6	0.5	2.8	84.3	12.5
	環境情報	85	7	3	0	2	66	7	10	2
		100.0	8.2	3.5	0.0	2.4	77.6	8.2	11.8	2.4
	総合政策	75	4	2	0	4	58	7	6	4
		100.0	5.3	2.7	0.0	5.3	77.3	9.3	8.0	5.3
	看護医療	59	0	0	0	0	55	4	0	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	93.2	6.8	0.0	0.0
学年	1年生	386	130	75	64	44	64	9	205	108
		100.0	33.7	19.4	16.6	11.4	16.6	2.3	53.1	28.0
	2年生	350	146	67	37	48	42	10	213	85
		100.0	41.7	19.1	10.6	13.7	12.0	2.9	60.9	24.3
	3年生	298	128	54	44	38	26	8	182	82
		100.0	43.0	18.1	14.8	12.8	8.7	2.7	61.1	27.5
	4年生	363	135	62	50	56	52	8	197	106
		100.0	37.2	17.1	13.8	15.4	14.3	2.2	54.3	29.2
	5・6年生	28	5	8	3	10	0	2	13	13
		100.0	17.9	28.6	10.7	35.7	0.0	7.1	46.4	46.4
在籍キャンパス	日吉	549	256	125	88	71	2	7	381	159
		100.0	46.6	22.8	16.0	12.9	0.4	1.3	69.4	29.0
	三田	492	193	103	99	88	1	8	296	187
		100.0	39.2	20.9	20.1	17.9	0.2	1.6	60.2	38.0
	矢上	92	69	17	2	2	1	1	86	4
		100.0	75.0	18.5	2.2	2.2	1.1	1.1	93.5	4.3
	信濃町	78	15	16	9	29	5	4	31	38
		100.0	19.2	20.5	11.5	37.2	6.4	5.1	39.7	48.7
	湘南藤沢	214	11	5	0	6	175	17	16	6
		100.0	5.1	2.3	0.0	2.8	81.8	7.9	7.5	2.8
性別	男性	858	377	164	102	125	71	19	541	227
		100.0	43.9	19.1	11.9	14.6	8.3	2.2	63.1	26.5
	女性	567	167	102	96	71	113	18	269	167
		100.0	29.5	18.0	16.9	12.5	19.9	3.2	47.4	29.5

問13. あなたは、すべてのキャンパスの授業について秋学期開始時に履修登録ができるようにすべきだと思いますか。（1つだけ）

回答選択肢：　1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない

		全体	1. そう思う	2. まあそう思う	3. あまりそう思わない	4. そう思わない	NA	そう思う計	そう思わない計
合計		1425	845	310	119	113	38	1155	232
		100.0	59.3	21.8	8.4	7.9	2.7	81.1	16.3
学部	文	215	113	46	32	18	6	159	50
		100.0	52.6	21.4	14.9	8.4	2.8	74.0	23.3
	経済	209	141	39	13	14	2	180	27
		100.0	67.5	18.7	6.2	6.7	1.0	86.1	12.9
	法・法	160	88	31	24	13	4	119	37
		100.0	55.0	19.4	15.0	8.1	2.5	74.4	23.1
	法・政	130	79	35	11	5	0	114	16
		100.0	60.8	26.9	8.5	3.8	0.0	87.7	12.3
	商	180	115	44	8	11	2	159	19
		100.0	63.9	24.4	4.4	6.1	1.1	88.3	10.6
	医	94	33	18	12	25	6	51	37
		100.0	35.1	19.1	12.8	26.6	6.4	54.3	39.4
	理工	216	158	38	6	8	6	196	14
		100.0	73.1	17.6	2.8	3.7	2.8	90.7	6.5
	環境情報	85	47	23	3	5	7	70	8
		100.0	55.3	27.1	3.5	5.9	8.2	82.4	9.4
	総合政策	75	50	16	2	5	2	66	7
		100.0	66.7	21.3	2.7	6.7	2.7	88.0	9.3
	看護医療	59	21	19	8	8	3	40	16
		100.0	35.6	32.2	13.6	13.6	5.1	67.8	27.1
学年	1年生	386	195	109	36	38	8	304	74
		100.0	50.5	28.2	9.3	9.8	2.1	78.8	19.2
	2年生	350	206	78	30	26	10	284	56
		100.0	58.9	22.3	8.6	7.4	2.9	81.1	16.0
	3年生	298	188	56	26	17	11	244	43
		100.0	63.1	18.8	8.7	5.7	3.7	81.9	14.4
	4年生	363	242	64	23	27	7	306	50
		100.0	66.7	17.6	6.3	7.4	1.9	84.3	13.8
	5・6年生	28	14	3	4	5	2	17	9
		100.0	50.0	10.7	14.3	17.9	7.1	60.7	32.1
在籍キャンパス	日吉	549	318	135	44	43	9	453	87
		100.0	57.9	24.6	8.0	7.8	1.6	82.5	15.8
	三田	492	311	92	51	28	10	403	79
		100.0	63.2	18.7	10.4	5.7	2.0	81.9	16.1
	矢上	92	76	12	1	2	1	88	3
		100.0	82.6	13.0	1.1	2.2	1.1	95.7	3.3
	信濃町	78	24	14	10	23	7	38	33
		100.0	30.8	17.9	12.8	29.5	9.0	48.7	42.3
	湘南藤沢	214	116	57	13	17	11	173	30
		100.0	54.2	26.6	6.1	7.9	5.1	80.8	14.0
性別	男性	858	539	176	53	69	21	715	122
		100.0	62.8	20.5	6.2	8.0	2.4	83.3	14.2
	女性	567	306	134	66	44	17	440	110
		100.0	54.0	23.6	11.6	7.8	3.0	77.6	19.4

Ⅲ　個別の科目について

（外国語科目について）

問14. あなたはどの外国語科目を履修していますか。（いくつでも）

回答　　1. 英語　2. ドイツ語　3. フランス語　4. 中国語　5. スペイン語　6. ロシア語
選択肢：　7. 朝鮮語　8. その他

		全体	1. 英語	2. ドイツ語	3. フランス語	4. 中国語	5. スペイン語	6. ロシア語	7. 朝鮮語	8. その他	NA
合計		1425	1158	332	341	325	138	20	41	83	78
		100.0	81.3	23.3	23.9	22.8	9.7	1.4	2.9	5.8	5.5
学部	文	215	186	39	67	46	20	5	14	29	4
		100.0	86.5	18.1	31.2	21.4	9.3	2.3	6.5	13.5	1.9
	経済	209	173	38	53	72	33	1	1	3	5
		100.0	82.8	18.2	25.4	34.4	15.8	0.5	0.5	1.4	2.4
	法・法	160	129	33	38	44	21	0	8	8	12
		100.0	80.6	20.6	23.8	27.5	13.1	0.0	5.0	5.0	7.5
	法・政	130	112	18	37	34	32	2	2	7	3
		100.0	86.2	13.8	28.5	26.2	24.6	1.5	1.5	5.4	2.3
	商	180	162	40	41	74	18	0	2	4	3
		100.0	90.0	22.2	22.8	41.1	10.0	0.0	1.1	2.2	1.7
	医	94	77	39	19	1	0	1	0	2	10
		100.0	81.9	41.5	20.2	1.1	0.0	1.1	0.0	2.1	10.6
	理工	216	181	81	44	25	1	5	6	2	17
		100.0	83.8	37.5	20.4	11.6	0.5	2.3	2.8	0.9	7.9
	環境情報	85	50	16	19	12	6	4	4	13	8
		100.0	58.8	18.8	22.4	14.1	7.1	4.7	4.7	15.3	9.4
	総合政策	75	41	16	22	14	6	1	4	13	7
		100.0	54.7	21.3	29.3	18.7	8.0	1.3	5.3	17.3	9.3
	看護医療	59	46	11	1	2	1	1	0	2	9
		100.0	78.0	18.6	1.7	3.4	1.7	1.7	0.0	3.4	15.3
学年	1年生	386	295	97	92	91	48	3	12	13	17
		100.0	76.4	25.1	23.8	23.6	12.4	0.8	3.1	3.4	4.4
	2年生	350	298	76	75	81	36	3	9	20	11
		100.0	85.1	21.7	21.4	23.1	10.3	0.9	2.6	5.7	3.1
	3年生	298	236	54	81	58	23	4	5	17	31
		100.0	79.2	18.1	27.2	19.5	7.7	1.3	1.7	5.7	10.4
	4年生	363	307	91	88	94	31	9	15	31	14
		100.0	84.6	25.1	24.2	25.9	8.5	2.5	4.1	8.5	3.9
	5・6年生	28	22	14	5	1	0	1	0	2	5
		100.0	78.6	50.0	17.9	3.6	0.0	3.6	0.0	7.1	17.9
在籍キャンパス	日吉	549	481	133	128	154	72	5	14	14	9
		100.0	87.6	24.2	23.3	28.1	13.1	0.9	2.6	2.6	1.6
	三田	492	408	94	141	135	53	6	17	37	23
		100.0	82.9	19.1	28.7	27.4	10.8	1.2	3.5	7.5	4.7
	矢上	92	77	36	17	8	0	2	2	1	12
		100.0	83.7	39.1	18.5	8.7	0.0	2.2	2.2	1.1	13.0
	信濃町	78	59	26	12	0	0	1	0	2	12
		100.0	75.6	33.3	15.4	0.0	0.0	1.3	0.0	2.6	15.4
	湘南藤沢	214	133	43	43	28	13	6	8	29	22
		100.0	62.1	20.1	20.1	13.1	6.1	2.8	3.7	13.6	10.3
性別	男性	858	697	233	174	216	70	15	21	39	49
		100.0	81.2	27.2	20.3	25.2	8.2	1.7	2.4	4.5	5.7
	女性	567	461	99	167	109	68	5	20	44	29
		100.0	81.3	17.5	29.5	19.2	12.0	0.9	3.5	7.8	5.1

（外国語科目について）

問15. 英語の授業に満足していますか。（1つだけ）

回答選択肢:
1. 満足している　2. どちらかといえば満足している
3. どちらかといえば満足していない　4. 満足していない

		全体	1. 満足している	2. まあ満足している	3. あまり満足していない	4. 満足していない	NA	満足している計	満足していない計
合計		1425	237	507	395	175	111	744	570
		100.0	16.6	35.6	27.7	12.3	7.8	52.2	40.0
学部	文	215	32	81	69	22	11	113	91
		100.0	14.9	37.7	32.1	10.2	5.1	52.6	42.3
	経済	209	41	84	58	21	5	125	79
		100.0	19.6	40.2	27.8	10.0	2.4	59.8	37.8
	法・法	160	35	63	41	15	6	98	56
		100.0	21.9	39.4	25.6	9.4	3.8	61.3	35.0
	法・政	130	28	46	35	17	4	74	52
		100.0	21.5	35.4	26.9	13.1	3.1	56.9	40.0
	商	180	32	75	51	18	4	107	69
		100.0	17.8	41.7	28.3	10.0	2.2	59.4	38.3
	医	94	10	25	29	22	8	35	51
		100.0	10.6	26.6	30.9	23.4	8.5	37.2	54.3
	理工	216	27	80	67	30	12	107	97
		100.0	12.5	37.0	31.0	13.9	5.6	49.5	44.9
	環境情報	85	16	14	17	11	27	30	28
		100.0	18.8	16.5	20.0	12.9	31.8	35.3	32.9
	総合政策	75	5	15	13	14	28	20	27
		100.0	6.7	20.0	17.3	18.7	37.3	26.7	36.0
	看護医療	59	10	24	14	5	6	34	19
		100.0	16.9	40.7	23.7	8.5	10.2	57.6	32.2
学年	1年生	386	75	125	101	37	48	200	138
		100.0	19.4	32.4	26.2	9.6	12.4	51.8	35.8
	2年生	350	57	143	85	51	14	200	136
		100.0	16.3	40.9	24.3	14.6	4.0	57.1	38.9
	3年生	298	41	113	77	38	29	154	115
		100.0	13.8	37.9	25.8	12.8	9.7	51.7	38.6
	4年生	363	61	117	127	44	14	178	171
		100.0	16.8	32.2	35.0	12.1	3.9	49.0	47.1
	5・6年生	28	3	9	5	5	6	12	10
		100.0	10.7	32.1	17.9	17.9	21.4	42.9	35.7
在籍キャンパス	日吉	549	113	206	159	63	8	319	222
		100.0	20.6	37.5	29.0	11.5	1.5	58.1	40.4
	三田	492	76	198	142	50	26	274	192
		100.0	15.4	40.2	28.9	10.2	5.3	55.7	39.0
	矢上	92	10	30	32	13	7	40	45
		100.0	10.9	32.6	34.8	14.1	7.6	43.5	48.9
	信濃町	78	7	23	20	19	9	30	39
		100.0	9.0	29.5	25.6	24.4	11.5	38.5	50.0
	湘南藤沢	214	31	50	42	30	61	81	72
		100.0	14.5	23.4	19.6	14.0	28.5	37.9	33.6
性別	男性	858	138	291	246	122	61	429	368
		100.0	16.1	33.9	28.7	14.2	7.1	50.0	42.9
	女性	567	99	216	149	53	50	315	202
		100.0	17.5	38.1	26.3	9.3	8.8	55.6	35.6

問16. 英語のクラス編成やレベル分けの方法は妥当だと思いますか。（1つだけ）

回答　　1. 妥当である　　2. どちらかといえば妥当である
選択肢:　3. どちらかといえば妥当でない　4. 妥当でない

		全体	1. 妥当である	2. まあ妥当である	3. あまり妥当でない	4. 妥当でない	NA	妥当である計	妥当でない計
合計		1425	429	472	284	130	110	901	414
		100.0	30.1	33.1	19.9	9.1	7.7	63.2	29.1
学部	文	215	56	78	52	17	12	134	69
		100.0	26.0	36.3	24.2	7.9	5.6	62.3	32.1
	経済	209	67	68	46	23	5	135	69
		100.0	32.1	32.5	22.0	11.0	2.4	64.6	33.0
	法・法	160	51	59	33	10	7	110	43
		100.0	31.9	36.9	20.6	6.3	4.4	68.8	26.9
	法・政	130	36	48	29	13	4	84	42
		100.0	27.7	36.9	22.3	10.0	3.1	64.6	32.3
	商	180	71	58	30	16	5	129	46
		100.0	39.4	32.2	16.7	8.9	2.8	71.7	25.6
	医	94	23	21	17	21	12	44	38
		100.0	24.5	22.3	18.1	22.3	12.8	46.8	40.4
	理工	216	78	72	40	14	12	150	54
		100.0	36.1	33.3	18.5	6.5	5.6	69.4	25.0
	環境情報	85	18	20	14	7	26	38	21
		100.0	21.2	23.5	16.5	8.2	30.6	44.7	24.7
	総合政策	75	18	21	8	7	21	39	15
		100.0	24.0	28.0	10.7	9.3	28.0	52.0	20.0
	看護医療	59	10	27	14	2	6	37	16
		100.0	16.9	45.8	23.7	3.4	10.2	62.7	27.1
学年	1年生	386	116	129	66	33	42	245	99
		100.0	30.1	33.4	17.1	8.5	10.9	63.5	25.6
	2年生	350	109	113	78	36	14	222	114
		100.0	31.1	32.3	22.3	10.3	4.0	63.4	32.6
	3年生	298	92	99	50	26	31	191	76
		100.0	30.9	33.2	16.8	8.7	10.4	64.1	25.5
	4年生	363	107	123	86	30	17	230	116
		100.0	29.5	33.9	23.7	8.3	4.7	63.4	32.0
	5・6年生	28	5	8	4	5	6	13	9
		100.0	17.9	28.6	14.3	17.9	21.4	46.4	32.1
在籍キャンパス	日吉	549	193	187	111	49	9	380	160
		100.0	35.2	34.1	20.2	8.9	1.6	69.2	29.1
	三田	492	144	174	104	41	29	318	145
		100.0	29.3	35.4	21.1	8.3	5.9	64.6	29.5
	矢上	92	32	27	19	7	7	59	26
		100.0	34.8	29.3	20.7	7.6	7.6	64.1	28.3
	信濃町	78	17	18	14	17	12	35	31
		100.0	21.8	23.1	17.9	21.8	15.4	44.9	39.7
	湘南藤沢	214	43	66	36	16	53	109	52
		100.0	20.1	30.8	16.8	7.5	24.8	50.9	24.3
性別	男性	858	274	267	163	93	61	541	256
		100.0	31.9	31.1	19.0	10.8	7.1	63.1	29.8
	女性	567	155	205	121	37	49	360	158
		100.0	27.3	36.2	21.3	6.5	8.6	63.5	27.9

問17. レベル別クラス編成についてどう思いますか。（1つだけ）

回答　　1. 細かくレベル分けした方がよい　2. ある程度レベル分けした方がよい
選択肢:　3. できる学生もできない学生も同じ教室で学ぶ方がよい

		全体	1. 細かくレベル分け	2. ある程度レベル分け	3. 同じ教室	NA
合計		1425	339	915	63	108
		100.0	23.8	64.2	4.4	7.6
学部	文	215	40	150	15	10
		100.0	18.6	69.8	7.0	4.7
	経済	209	50	139	14	6
		100.0	23.9	66.5	6.7	2.9
	法・法	160	46	107	1	6
		100.0	28.8	66.9	0.6	3.8
	法・政	130	41	84	1	4
		100.0	31.5	64.6	0.8	3.1
	商	180	48	118	10	4
		100.0	26.7	65.6	5.6	2.2
	医	94	16	56	8	14
		100.0	17.0	59.6	8.5	14.9
	理工	216	53	148	3	12
		100.0	24.5	68.5	1.4	5.6
	環境情報	85	17	39	3	26
		100.0	20.0	45.9	3.5	30.6
	総合政策	75	21	32	2	20
		100.0	28.0	42.7	2.7	26.7
	看護医療	59	6	41	6	6
		100.0	10.2	69.5	10.2	10.2
学年	1年生	386	98	227	19	42
		100.0	25.4	58.8	4.9	10.9
	2年生	350	89	226	21	14
		100.0	25.4	64.6	6.0	4.0
	3年生	298	60	198	12	28
		100.0	20.1	66.4	4.0	9.4
	4年生	363	88	248	10	17
		100.0	24.2	68.3	2.8	4.7
	5・6年生	28	4	16	1	7
		100.0	14.3	57.1	3.6	25.0
在籍キャンパス	日吉	549	155	363	21	10
		100.0	28.2	66.1	3.8	1.8
	三田	492	110	332	24	26
		100.0	22.4	67.5	4.9	5.3
	矢上	92	20	64	1	7
		100.0	21.7	69.6	1.1	7.6
	信濃町	78	10	48	7	13
		100.0	12.8	61.5	9.0	16.7
	湘南藤沢	214	44	108	10	52
		100.0	20.6	50.5	4.7	24.3
性別	男性	858	214	545	39	60
		100.0	24.9	63.5	4.5	7.0
	女性	567	125	370	24	48
		100.0	22.0	65.3	4.2	8.5

問18. 同一レベル内の、あるいは授業内容が類似している英語の授業は統一された教材を用いるべきだと思いますか。（1つだけ）

回答選択肢：　1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない

		全体	1. そう思う	2. まあそう思う	3. あまりそう思わない	4. そう思わない	NA	そう思う計	そう思わない計
合計		1425	261	186	355	518	105	447	873
		100.0	18.3	13.1	24.9	36.4	7.4	31.4	61.3
学部	文	215	33	31	60	82	9	64	142
		100.0	15.3	14.4	27.9	38.1	4.2	29.8	66.0
	経済	209	43	31	51	79	5	74	130
		100.0	20.6	14.8	24.4	37.8	2.4	35.4	62.2
	法・法	160	24	13	43	74	6	37	117
		100.0	15.0	8.1	26.9	46.3	3.8	23.1	73.1
	法・政	130	27	12	33	54	4	39	87
		100.0	20.8	9.2	25.4	41.5	3.1	30.0	66.9
	商	180	36	21	48	71	4	57	119
		100.0	20.0	11.7	26.7	39.4	2.2	31.7	66.1
	医	94	25	16	19	21	13	41	40
		100.0	26.6	17.0	20.2	22.3	13.8	43.6	42.6
	理工	216	37	22	60	85	12	59	145
		100.0	17.1	10.2	27.8	39.4	5.6	27.3	67.1
	環境情報	85	12	7	11	29	26	19	40
		100.0	14.1	8.2	12.9	34.1	30.6	22.4	47.1
	総合政策	75	15	12	12	16	20	27	28
		100.0	20.0	16.0	16.0	21.3	26.7	36.0	37.3
	看護医療	59	9	20	18	6	6	29	24
		100.0	15.3	33.9	30.5	10.2	10.2	49.2	40.7
学年	1年生	386	79	61	93	112	41	140	205
		100.0	20.5	15.8	24.1	29.0	10.6	36.3	53.1
	2年生	350	61	44	93	139	13	105	232
		100.0	17.4	12.6	26.6	39.7	3.7	30.0	66.3
	3年生	298	46	31	78	116	27	77	194
		100.0	15.4	10.4	26.2	38.9	9.1	25.8	65.1
	4年生	363	69	48	87	142	17	117	229
		100.0	19.0	13.2	24.0	39.1	4.7	32.2	63.1
	5・6年生	28	6	2	4	9	7	8	13
		100.0	21.4	7.1	14.3	32.1	25.0	28.6	46.4
在籍キャンパス	日吉	549	108	72	145	215	9	180	360
		100.0	19.7	13.1	26.4	39.2	1.6	32.8	65.6
	三田	492	86	59	129	194	24	145	323
		100.0	17.5	12.0	26.2	39.4	4.9	29.5	65.7
	矢上	92	14	6	25	40	7	20	65
		100.0	15.2	6.5	27.2	43.5	7.6	21.7	70.7
	信濃町	78	17	11	17	20	13	28	37
		100.0	21.8	14.1	21.8	25.6	16.7	35.9	47.4
	湘南藤沢	214	36	38	39	49	52	74	88
		100.0	16.8	17.8	18.2	22.9	24.3	34.6	41.1
性別	男性	858	180	90	198	331	59	270	529
		100.0	21.0	10.5	23.1	38.6	6.9	31.5	61.7
	女性	567	81	96	157	187	46	177	344
		100.0	14.3	16.9	27.7	33.0	8.1	31.2	60.7

問19. 英語の授業で自分が学びたいものを得ることができましたか。（1つだけ）

回答　　1. できた　　2. どちらかといえばできた　　3. どちらかといえばできなかった
選択肢：　4. できなかった

		全体	1. できた	2. まあできた	3. あまりできなかった	4. できなかった	NA	できた計	できなかった計
合計		1425	125	507	459	220	114	632	679
		100.0	8.8	35.6	32.2	15.4	8.0	44.4	47.6
学部	文	215	13	82	75	36	9	95	111
		100.0	6.0	38.1	34.9	16.7	4.2	44.2	51.6
	経済	209	19	79	74	32	5	98	106
		100.0	9.1	37.8	35.4	15.3	2.4	46.9	50.7
	法・法	160	23	70	44	17	6	93	61
		100.0	14.4	43.8	27.5	10.6	3.8	58.1	38.1
	法・政	130	16	44	44	22	4	60	66
		100.0	12.3	33.8	33.8	16.9	3.1	46.2	50.8
	商	180	17	64	69	24	6	81	93
		100.0	9.4	35.6	38.3	13.3	3.3	45.0	51.7
	医	94	8	28	26	25	7	36	51
		100.0	8.5	29.8	27.7	26.6	7.4	38.3	54.3
	理工	216	10	77	76	40	13	87	116
		100.0	4.6	35.6	35.2	18.5	6.0	40.3	53.7
	環境情報	85	10	16	21	9	29	26	30
		100.0	11.8	18.8	24.7	10.6	34.1	30.6	35.3
	総合政策	75	3	20	13	10	29	23	23
		100.0	4.0	26.7	17.3	13.3	38.7	30.7	30.7
	看護医療	59	6	26	16	5	6	32	21
		100.0	10.2	44.1	27.1	8.5	10.2	54.2	35.6
学年	1年生	386	40	138	112	44	52	178	156
		100.0	10.4	35.8	29.0	11.4	13.5	46.1	40.4
	2年生	350	32	131	114	59	14	163	173
		100.0	9.1	37.4	32.6	16.9	4.0	46.6	49.4
	3年生	298	21	110	93	46	28	131	139
		100.0	7.0	36.9	31.2	15.4	9.4	44.0	46.6
	4年生	363	31	117	135	65	15	148	200
		100.0	8.5	32.2	37.2	17.9	4.1	40.8	55.1
	5・6年生	28	1	11	5	6	5	12	11
		100.0	3.6	39.3	17.9	21.4	17.9	42.9	39.3
在籍キャンパス	日吉	549	60	212	189	78	10	272	267
		100.0	10.9	38.6	34.4	14.2	1.8	49.5	48.6
	三田	492	35	187	164	81	25	222	245
		100.0	7.1	38.0	33.3	16.5	5.1	45.1	49.8
	矢上	92	7	27	36	15	7	34	51
		100.0	7.6	29.3	39.1	16.3	7.6	37.0	55.4
	信濃町	78	5	22	21	22	8	27	43
		100.0	6.4	28.2	26.9	28.2	10.3	34.6	55.1
	湘南藤沢	214	18	59	49	24	64	77	73
		100.0	8.4	27.6	22.9	11.2	29.9	36.0	34.1
性別	男性	858	68	289	277	161	63	357	438
		100.0	7.9	33.7	32.3	18.8	7.3	41.6	51.0
	女性	567	57	218	182	59	51	275	241
		100.0	10.1	38.4	32.1	10.4	9.0	48.5	42.5

問20. 英語の授業で何を改善するべきだと思いますか。(いくつでも)

回答選択肢: 1. 授業の質　2. 時間数を増やす　3. 内容の多様さ　4. 難易度やレベルを明確にする
5. 授業の目的や内容の明確化　6. 教員の資質　7. 教員の教え方の技術
8. 英語のクラスごとの負担に違いがありすぎる　9. クラスサイズ
10. 希望する授業が必ずしも履修できない点　11. その他　12. 特になし

		全体	1. 授業の質	2. 時間数増	3. 内容の多様さ	4. 難易度明確化	5. 目的・内容の明確化	6. 教員の資質	7. 教え方の技術	8. クラス負担相違大	9. クラスサイズ	10. 希望授業履修不可	11. その他	12. 特になし	NA
合計		1425	470	186	268	394	477	266	324	560	107	574	93	54	109
		100.0	33.0	13.1	18.8	27.6	33.5	18.7	22.7	39.3	7.5	40.3	6.5	3.8	7.6
学部	文	215	78	15	51	73	82	49	62	100	15	110	14	4	9
		100.0	36.3	7.0	23.7	34.0	38.1	22.8	28.8	46.5	7.0	51.2	6.5	1.9	4.2
	経済	209	52	24	38	74	78	30	38	93	17	86	14	11	6
		100.0	24.9	11.5	18.2	35.4	37.3	14.4	18.2	44.5	8.1	41.1	6.7	5.3	2.9
	法・法	160	45	18	27	60	53	24	29	76	11	81	13	3	7
		100.0	28.1	11.3	16.9	37.5	33.1	15.0	18.1	47.5	6.9	50.6	8.1	1.9	4.4
	法・政	130	52	19	23	39	49	28	31	62	17	67	8	5	4
		100.0	40.0	14.6	17.7	30.0	37.7	21.5	23.8	47.7	13.1	51.5	6.2	3.8	3.1
	商	180	65	13	37	56	66	34	39	90	18	92	9	6	4
		100.0	36.1	7.2	20.6	31.1	36.7	18.9	21.7	50.0	10.0	51.1	5.0	3.3	2.2
	医	94	44	13	15	13	30	32	34	15	6	9	6	5	7
		100.0	46.8	13.8	16.0	13.8	31.9	34.0	36.2	16.0	6.4	9.6	6.4	5.3	7.4
	理工	216	82	50	30	47	68	43	59	90	13	62	14	7	13
		100.0	38.0	23.1	13.9	21.8	31.5	19.9	27.3	41.7	6.0	28.7	6.5	3.2	6.0
	環境情報	85	15	13	21	10	19	11	10	14	4	30	5	2	26
		100.0	17.6	15.3	24.7	11.8	22.4	12.9	11.8	16.5	4.7	35.3	5.9	2.4	30.6
	総合政策	75	18	14	16	8	13	11	14	14	5	27	4	4	27
		100.0	24.0	18.7	21.3	10.7	17.3	14.7	18.7	18.7	6.7	36.0	5.3	5.3	36.0
	看護医療	59	18	7	10	14	19	3	7	6	1	9	5	7	6
		100.0	30.5	11.9	16.9	23.7	32.2	5.1	11.9	10.2	1.7	15.3	8.5	11.9	10.2
学年	1年生	386	125	49	56	92	112	64	80	124	23	126	19	24	47
		100.0	32.4	12.7	14.5	23.8	29.0	16.6	20.7	32.1	6.0	32.6	4.9	6.2	12.2
	2年生	350	128	37	66	113	121	72	76	171	29	178	36	13	14
		100.0	36.6	10.6	18.9	32.3	34.6	20.6	21.7	48.9	8.3	50.9	10.3	3.7	4.0
	3年生	298	101	40	67	80	98	51	67	123	20	118	12	7	27
		100.0	33.9	13.4	22.5	26.8	32.9	17.1	22.5	41.3	6.7	39.6	4.0	2.3	9.1
	4年生	363	108	55	75	105	138	71	94	137	32	149	24	8	16
		100.0	29.8	15.2	20.7	28.9	38.0	19.6	25.9	37.7	8.8	41.0	6.6	2.2	4.4
	5・6年生	28	8	5	4	4	8	8	7	5	3	3	2	2	5
		100.0	28.6	17.9	14.3	14.3	28.6	28.6	25.0	17.9	10.7	10.7	7.1	7.1	17.9
在籍キャンパス	日吉	549	205	76	88	166	192	114	129	253	47	254	40	25	9
		100.0	37.3	13.8	16.0	30.2	35.0	20.8	23.5	46.1	8.6	46.3	7.3	4.6	1.6
	三田	492	147	48	109	166	181	87	111	227	39	227	34	11	25
		100.0	29.9	9.8	22.2	33.7	36.8	17.7	22.6	46.1	7.9	46.1	6.9	2.2	5.1
	矢上	92	34	17	14	20	33	16	25	33	6	20	2	1	8
		100.0	37.0	18.5	15.2	21.7	35.9	17.4	27.2	35.9	6.5	21.7	2.2	1.1	8.7
	信濃町	78	33	13	12	11	21	24	28	13	5	8	4	4	8
		100.0	42.3	16.7	15.4	14.1	26.9	30.8	35.9	16.7	6.4	10.3	5.1	5.1	10.3
	湘南藤沢	214	51	32	45	31	50	25	31	34	10	65	13	13	59
		100.0	23.8	15.0	21.0	14.5	23.4	11.7	14.5	15.9	4.7	30.4	6.1	6.1	27.6
性別	男性	858	290	118	148	232	300	173	200	342	64	315	61	29	60
		100.0	33.8	13.8	17.2	27.0	35.0	20.2	23.3	39.9	7.5	36.7	7.1	3.4	7.0
	女性	567	180	68	120	162	177	93	124	218	43	259	32	25	49
		100.0	31.7	12.0	21.2	28.6	31.2	16.4	21.9	38.4	7.6	45.7	5.6	4.4	8.6

（英語以外の外国語について）

問21. 英語以外の外国語の授業に満足していますか。（1つだけ）

回答　　1. 満足している　　2. どちらかといえば満足している
選択肢:　3. どちらかといえば満足していない　4. 満足していない

		全体	1. 満足している	2. まあ満足している	3. あまり満足していない	4. 満足していない	NA	満足している計	満足していない計
合計		1425	419	595	194	102	115	1014	296
		100.0	29.4	41.8	13.6	7.2	8.1	71.2	20.8
学部	文	215	70	99	27	14	5	169	41
		100.0	32.6	46.0	12.6	6.5	2.3	78.6	19.1
	経済	209	53	106	33	12	5	159	45
		100.0	25.4	50.7	15.8	5.7	2.4	76.1	21.5
	法・法	160	59	71	18	6	6	130	24
		100.0	36.9	44.4	11.3	3.8	3.8	81.3	15.0
	法・政	130	47	50	20	9	4	97	29
		100.0	36.2	38.5	15.4	6.9	3.1	74.6	22.3
	商	180	50	90	24	14	2	140	38
		100.0	27.8	50.0	13.3	7.8	1.1	77.8	21.1
	医	94	14	35	18	13	14	49	31
		100.0	14.9	37.2	19.1	13.8	14.9	52.1	33.0
	理工	216	59	85	29	19	24	144	48
		100.0	27.3	39.4	13.4	8.8	11.1	66.7	22.2
	環境情報	85	30	27	10	7	11	57	17
		100.0	35.3	31.8	11.8	8.2	12.9	67.1	20.0
	総合政策	75	31	23	7	3	11	54	10
		100.0	41.3	30.7	9.3	4.0	14.7	72.0	13.3
	看護医療	59	5	9	7	5	33	14	12
		100.0	8.5	15.3	11.9	8.5	55.9	23.7	20.3
学年	1年生	386	145	150	41	21	29	295	62
		100.0	37.6	38.9	10.6	5.4	7.5	76.4	16.1
	2年生	350	87	148	48	36	31	235	84
		100.0	24.9	42.3	13.7	10.3	8.9	67.1	24.0
	3年生	298	85	132	33	16	32	217	49
		100.0	28.5	44.3	11.1	5.4	10.7	72.8	16.4
	4年生	363	93	161	67	24	18	254	91
		100.0	25.6	44.4	18.5	6.6	5.0	70.0	25.1
	5・6年生	28	9	4	5	5	5	13	10
		100.0	32.1	14.3	17.9	17.9	17.9	46.4	35.7
在籍キャンパス	日吉	549	179	243	71	40	16	422	111
		100.0	32.6	44.3	12.9	7.3	2.9	76.9	20.2
	三田	492	144	229	76	25	18	373	101
		100.0	29.3	46.5	15.4	5.1	3.7	75.8	20.5
	矢上	92	21	41	9	9	12	62	18
		100.0	22.8	44.6	9.8	9.8	13.0	67.4	19.6
	信濃町	78	10	24	15	13	16	34	28
		100.0	12.8	30.8	19.2	16.7	20.5	43.6	35.9
	湘南藤沢	214	65	58	23	15	53	123	38
		100.0	30.4	27.1	10.7	7.0	24.8	57.5	17.8
性別	男性	858	246	356	129	69	58	602	198
		100.0	28.7	41.5	15.0	8.0	6.8	70.2	23.1
	女性	567	173	239	65	33	57	412	98
		100.0	30.5	42.2	11.5	5.8	10.1	72.7	17.3

問22. 英語以外の外国語を学ぶ意義はあると思いますか。（1つだけ）

回答選択肢:　1. ある　2. どちらかといえばある　3. どちらかといえばない　4. ない

		全体	1. ある	2. まあある	3. あまりない	4. ない	NA	ある計	ない計
合計		1425	889	257	109	68	102	1146	177
		100.0	62.4	18.0	7.6	4.8	7.2	80.4	12.4
学部	文	215	155	36	13	6	5	191	19
		100.0	72.1	16.7	6.0	2.8	2.3	88.8	8.8
	経済	209	121	43	24	15	6	164	39
		100.0	57.9	20.6	11.5	7.2	2.9	78.5	18.7
	法・法	160	105	32	8	10	5	137	18
		100.0	65.6	20.0	5.0	6.3	3.1	85.6	11.3
	法・政	130	102	12	5	8	3	114	13
		100.0	78.5	9.2	3.8	6.2	2.3	87.7	10.0
	商	180	108	41	22	7	2	149	29
		100.0	60.0	22.8	12.2	3.9	1.1	82.8	16.1
	医	94	42	19	13	7	13	61	20
		100.0	44.7	20.2	13.8	7.4	13.8	64.9	21.3
	理工	216	112	49	19	12	24	161	31
		100.0	51.9	22.7	8.8	5.6	11.1	74.5	14.4
	環境情報	85	61	9	4	0	11	70	4
		100.0	71.8	10.6	4.7	0.0	12.9	82.4	4.7
	総合政策	75	61	4	0	2	8	65	2
		100.0	81.3	5.3	0.0	2.7	10.7	86.7	2.7
	看護医療	59	21	11	1	1	25	32	2
		100.0	35.6	18.6	1.7	1.7	42.4	54.2	3.4
学年	1年生	386	251	67	28	16	24	318	44
		100.0	65.0	17.4	7.3	4.1	6.2	82.4	11.4
	2年生	350	204	72	26	20	28	276	46
		100.0	58.3	20.6	7.4	5.7	8.0	78.9	13.1
	3年生	298.0	178.0	52.0	26.0	12.0	30.0	230.0	38.0
		100.0	59.7	17.4	8.7	4.0	10.1	77.2	12.8
	4年生	363	243	62	26	17	15	305	43
		100.0	66.9	17.1	7.2	4.7	4.1	84.0	11.8
	5・6年生	28	13	4	3	3	5	17	6
		100.0	46.4	14.3	10.7	10.7	17.9	60.7	21.4
在籍キャンパス	日吉	549	345	111	45	33	15	456	78
		100.0	62.8	20.2	8.2	6.0	2.7	83.1	14.2
	三田	492	324	89	42	19	18	413	61
		100.0	65.9	18.1	8.5	3.9	3.7	83.9	12.4
	矢上	92	50	17	7	6	12	67	13
		100.0	54.3	18.5	7.6	6.5	13.0	72.8	14.1
	信濃町	78	30	16	10	7	15	46	17
		100.0	38.5	20.5	12.8	9.0	19.2	59.0	21.8
	湘南藤沢	214	140	24	5	3	42	164	8
		100.0	65.4	11.2	2.3	1.4	19.6	76.6	3.7
性別	男性	858	511	156	78	58	55	667	136
		100.0	59.6	18.2	9.1	6.8	6.4	77.7	15.9
	女性	567	378	101	31	10	47	479	41
		100.0	66.7	17.8	5.5	1.8	8.3	84.5	7.2

問22-1.（前問で1．2と答えた方）英語以外の外国語を学ぶ意義は何だと思いますか。（いくつでも）

回答　　1. 専門課程で必要だから　2. 違う国の文化を学べるから
選択肢:　3. 英語圏以外の人とコミュニケーションができるから　4. 国際的視野を身につけるため
　　5. 将来国際的な仕事ができるようになる　6. 得意な言語の力を伸ばせるから　7. その他

		全体	1. 専門課程で必要	2. 違う国の文化を学習	3. コミュニケーション	4. 国際的視野	5. 国際的仕事が可能	6. 得意言語の力伸長	7. その他	NA
合計		1146	80	745	510	610	331	166	79	5
		100.0	7.0	65.0	44.5	53.2	28.9	14.5	6.9	0.4
学部	文	191	32	138	91	106	51	34	15	0
		100.0	16.8	72.3	47.6	55.5	26.7	17.8	7.9	0.0
	経済	164	8	103	67	76	58	23	12	0
		100.0	4.9	62.8	40.9	46.3	35.4	14.0	7.3	0.0
	法・法	137	5	98	67	76	40	28	8	0
		100.0	3.6	71.5	48.9	55.5	29.2	20.4	5.8	0.0
	法・政	114	7	70	54	63	46	18	9	2
		100.0	6.1	61.4	47.4	55.3	40.4	15.8	7.9	1.8
	商	149	4	78	65	80	47	17	11	2
		100.0	2.7	52.3	43.6	53.7	31.5	11.4	7.4	1.3
	医	61	4	42	22	26	7	4	4	1
		100.0	6.6	68.9	36.1	42.6	11.5	6.6	6.6	1.6
	理工	161	10	97	58	80	39	12	7	0
		100.0	6.2	60.2	36.0	49.7	24.2	7.5	4.3	0.0
	環境情報	70	4	44	32	40	15	11	7	0
		100.0	5.7	62.9	45.7	57.1	21.4	15.7	10.0	0.0
	総合政策	65	6	48	32	39	20	13	5	0
		100.0	9.2	73.8	49.2	60.0	30.8	20.0	7.7	0.0
	看護医療	32	0	26	22	23	8	6	0	0
		100.0	0.0	81.3	68.8	71.9	25.0	18.8	0.0	0.0
学年	1年生	318	22	181	156	176	121	35	17	2
		100.0	6.9	56.9	49.1	55.3	38.1	11.0	5.3	0.6
	2年生	276	16	174	126	146	76	44	20	3
		100.0	5.8	63.0	45.7	52.9	27.5	15.9	7.2	1.1
	3年生	230	24	158	84	123	55	35	19	0
		100.0	10.4	68.7	36.5	53.5	23.9	15.2	8.3	0.0
	4年生	305	17	217	138	162	77	50	23	0
		100.0	5.6	71.1	45.2	53.1	25.2	16.4	7.5	0.0
	5・6年生	17	1	15	6	3	2	2	0	0
		100.0	5.9	88.2	35.3	17.6	11.8	11.8	0.0	0.0
在籍キャンパス	日吉	456	23	265	210	247	162	60	28	5
		100.0	5.0	58.1	46.1	54.2	35.5	13.2	6.1	1.1
	三田	413	41	282	180	213	109	70	34	0
		100.0	9.9	68.3	43.6	51.6	26.4	16.9	8.2	0.0
	矢上	67	4	47	21	34	12	3	2	0
		100.0	6.0	70.1	31.3	50.7	17.9	4.5	3.0	0.0
	信濃町	46	1	36	15	17	6	3	3	0
		100.0	2.2	78.3	32.6	37.0	13.0	6.5	6.5	0.0
	湘南藤沢	164	11	115	84	99	42	30	12	0
		100.0	6.7	70.1	51.2	60.4	25.6	18.3	7.3	0.0
性別	男性	667	45	405	255	338	186	78	51	2
		100.0	6.7	60.7	38.2	50.7	27.9	11.7	7.6	0.3
	女性	479	35	340	255	272	145	88	28	3
		100.0	7.3	71.0	53.2	56.8	30.3	18.4	5.8	0.6

問23. あなたは英語以外の外国語の意義や選択に関する大学側の説明は十分だったと思いますか。(1つだけ)

回答選択肢: 1. 十分であった　2. どちらかといえば十分であった　3. どちらかといえば不十分であった　4. 不十分であった

		全体	1. 十分	2. やや十分	3. やや不十分	4. 不十分	NA	十分計	不十分計
合計		1425	189	366	485	285	100	555	770
		100.0	13.3	25.7	34.0	20.0	7.0	38.9	54.0
学部	文	215	23	57	87	43	5	80	130
		100.0	10.7	26.5	40.5	20.0	2.3	37.2	60.5
	経済	209	18	44	78	63	6	62	141
		100.0	8.6	21.1	37.3	30.1	2.9	29.7	67.5
	法・法	160	24	54	43	34	5	78	77
		100.0	15.0	33.8	26.9	21.3	3.1	48.8	48.1
	法・政	130	22	40	39	26	3	62	65
		100.0	16.9	30.8	30.0	20.0	2.3	47.7	50.0
	商	180	18	45	80	35	2	63	115
		100.0	10.0	25.0	44.4	19.4	1.1	35.0	63.9
	医	94	4	10	37	30	13	14	67
		100.0	4.3	10.6	39.4	31.9	13.8	14.9	71.3
	理工	216	25	55	80	33	23	80	113
		100.0	11.6	25.5	37.0	15.3	10.6	37.0	52.3
	環境情報	85	30	24	16	5	10	54	21
		100.0	35.3	28.2	18.8	5.9	11.8	63.5	24.7
	総合政策	75	25	23	14	6	7	48	20
		100.0	33.3	30.7	18.7	8.0	9.3	64.0	26.7
	看護医療	59	0	14	10	9	26	14	19
		100.0	0.0	23.7	16.9	15.3	44.1	23.7	32.2
学年	1年生	386	68	108	127	59	24	176	186
		100.0	17.6	28.0	32.9	15.3	6.2	45.6	48.2
	2年生	350	36	93	120	74	27	129	194
		100.0	10.3	26.6	34.3	21.1	7.7	36.9	55.4
	3年生	298	37	61	113	59	28	98	172
		100.0	12.4	20.5	37.9	19.8	9.4	32.9	57.7
	4年生	363	47	100	117	83	16	147	200
		100.0	12.9	27.5	32.2	22.9	4.4	40.5	55.1
	5・6年生	28	1	4	8	10	5	5	18
		100.0	3.6	14.3	28.6	35.7	17.9	17.9	64.3
在籍キャンパス	日吉	549	66	157	200	111	15	223	311
		100.0	12.0	28.6	36.4	20.2	2.7	40.6	56.6
	三田	492	54	122	184	114	18	176	298
		100.0	11.0	24.8	37.4	23.2	3.7	35.8	60.6
	矢上	92	12	19	36	14	11	31	50
		100.0	13.0	20.7	39.1	15.2	12.0	33.7	54.3
	信濃町	78	2	7	28	26	15	9	54
		100.0	2.6	9.0	35.9	33.3	19.2	11.5	69.2
	湘南藤沢	214	55	61	37	20	41	116	57
		100.0	25.7	28.5	17.3	9.3	19.2	54.2	26.6
性別	男性	858	108	204	294	199	53	312	493
		100.0	12.6	23.8	34.3	23.2	6.2	36.4	57.5
	女性	567	81	162	191	86	47	243	277
		100.0	14.3	28.6	33.7	15.2	8.3	42.9	48.9

問24. あなたは英語以外の外国語の授業で自分が学びたいものを得ることができましたか。（1つだけ）

回答選択肢:　1. できた　2. どちらかといえばできた　3. どちらかといえばできなかった　4. できなかった

		全体	1. できた	2. まあできた	3. あまりできなかった	4. できなかった	NA	できた計	できなかった計
合計		1425	306	595	279	134	111	901	413
		100.0	21.5	41.8	19.6	9.4	7.8	63.2	29.0
学部	文	215	43	110	39	18	5	153	57
		100.0	20.0	51.2	18.1	8.4	2.3	71.2	26.5
	経済	209	38	96	50	20	5	134	70
		100.0	18.2	45.9	23.9	9.6	2.4	64.1	33.5
	法・法	160	52	63	27	13	5	115	40
		100.0	32.5	39.4	16.9	8.1	3.1	71.9	25.0
	法・政	130	35	61	21	10	3	96	31
		100.0	26.9	46.9	16.2	7.7	2.3	73.8	23.8
	商	180	34	84	48	12	2	118	60
		100.0	18.9	46.7	26.7	6.7	1.1	65.6	33.3
	医	94	10	32	22	17	13	42	39
		100.0	10.6	34.0	23.4	18.1	13.8	44.7	41.5
	理工	216	38	83	46	25	24	121	71
		100.0	17.6	38.4	21.3	11.6	11.1	56.0	32.9
	環境情報	85	27	28	14	5	11	55	19
		100.0	31.8	32.9	16.5	5.9	12.9	64.7	22.4
	総合政策	75	26	25	9	5	10	51	14
		100.0	34.7	33.3	12.0	6.7	13.3	68.0	18.7
	看護医療	59	3	12	3	8	33	15	11
		100.0	5.1	20.3	5.1	13.6	55.9	25.4	18.6
学年	1年生	386	95	184	51	26	30	279	77
		100.0	24.6	47.7	13.2	6.7	7.8	72.3	19.9
	2年生	350	75	131	75	39	30	206	114
		100.0	21.4	37.4	21.4	11.1	8.6	58.9	32.6
	3年生	298	67	125	48	29	29	192	77
		100.0	22.5	41.9	16.1	9.7	9.7	64.4	25.8
	4年生	363	65	149	98	34	17	214	132
		100.0	17.9	41.0	27.0	9.4	4.7	59.0	36.4
	5・6年生	28	4	6	7	6	5	10	13
		100.0	14.3	21.4	25.0	21.4	17.9	35.7	46.4
在籍キャンパス	日吉	549	128	251	104	50	16	379	154
		100.0	23.3	45.7	18.9	9.1	2.9	69.0	28.1
	三田	492	104	222	110	39	17	326	149
		100.0	21.1	45.1	22.4	7.9	3.5	66.3	30.3
	矢上	92	13	36	22	10	11	49	32
		100.0	14.1	39.1	23.9	10.9	12.0	53.3	34.8
	信濃町	78	6	21	17	19	15	27	36
		100.0	7.7	26.9	21.8	24.4	19.2	34.6	46.2
	湘南藤沢	214	55	65	26	16	52	120	42
		100.0	25.7	30.4	12.1	7.5	24.3	56.1	19.6
性別	男性	858	162	361	177	102	56	523	279
		100.0	18.9	42.1	20.6	11.9	6.5	61.0	32.5
	女性	567	144	234	102	32	55	378	134
		100.0	25.4	41.3	18.0	5.6	9.7	66.7	23.6

問24-1.（前問で3．4と答えた方）英語以外の外国語の授業で何を改善するべきだと思いますか。（いくつでも）

回答　　1. 授業の質　2. 時間数を増やす　3. 内容の多様さ　4. 難易度やレベルを明確にする
選択肢:　5. 授業の目的や内容の明確化　6. 教員の資質　7. 教員の教え方の技術　8. クラスサイズ
9. 選択できる外国語の種類　10. 希望する授業が必ずしも履修できない点　11. その他　12. 特になし

		全体	1. 授業の質	2. 時間数増	3. 内容の多様さ	4. 難易度の明確化	5. 目的・内容の明確化	6. 教員の資質	7. 教え方の技術	8. クラスサイズ	9. 外国語の種類	10. 希望授業履修不可	11. その他	12. 特になし	NA
合計		413	154	41	83	137	148	117	132	36	66	113	56	22	1
		100.0	37.3	9.9	20.1	33.2	35.8	28.3	32.0	8.7	16.0	27.4	13.6	5.3	0.2
学部	文	57	23	4	15	22	19	22	23	7	7	19	11	3	0
		100.0	40.4	7.0	26.3	38.6	33.3	38.6	40.4	12.3	12.3	33.3	19.3	5.3	0.0
	経済	70	25	8	16	29	30	20	19	3	13	23	11	2	1
		100.0	35.7	11.4	22.9	41.4	42.9	28.6	27.1	4.3	18.6	32.9	15.7	2.9	1.4
	法・法	40	19	3	5	15	20	16	14	7	3	6	5	1	0
		100.0	47.5	7.5	12.5	37.5	50.0	40.0	35.0	17.5	7.5	15.0	12.5	2.5	0.0
	法・政	31	19	3	6	14	13	10	12	5	3	11	7	1	0
		100.0	61.3	9.7	19.4	45.2	41.9	32.3	38.7	16.1	9.7	35.5	22.6	3.2	0.0
	商	60	20	4	12	22	24	13	19	6	8	15	7	1	0
		100.0	33.3	6.7	20.0	36.7	40.0	21.7	31.7	10.0	13.3	25.0	11.7	1.7	0.0
	医	39	11	3	9	10	6	9	11	3	12	7	2	5	0
		100.0	28.2	7.7	23.1	25.6	15.4	23.1	28.2	7.7	30.8	17.9	5.1	12.8	0.0
	理工	71	24	7	12	16	24	16	23	2	17	16	6	6	0
		100.0	33.8	9.9	16.9	22.5	33.8	22.5	32.4	2.8	23.9	22.5	8.5	8.5	0.0
	環境情報	19	6	4	3	3	4	6	4	1	2	6	0	1	0
		100.0	31.6	21.1	15.8	15.8	21.1	31.6	21.1	5.3	10.5	31.6	0.0	5.3	0.0
	総合政策	14	6	2	3	4	5	3	5	2	0	4	4	1	0
		100.0	42.9	14.3	21.4	28.6	35.7	21.4	35.7	14.3	0.0	28.6	28.6	7.1	0.0
	看護医療	11	0	3	2	2	2	1	1	0	1	5	3	1	0
		100.0	0.0	27.3	18.2	18.2	18.2	9.1	9.1	0.0	9.1	45.5	27.3	9.1	0.0
学年	1年生	77	28	4	11	18	20	27	26	8	13	17	9	5	0
		100.0	36.4	5.2	14.3	23.4	26.0	35.1	33.8	10.4	16.9	22.1	11.7	6.5	0.0
	2年生	114	47	12	18	40	38	35	38	8	21	37	24	4	0
		100.0	41.2	10.5	15.8	35.1	33.3	30.7	33.3	7.0	18.4	32.5	21.1	3.5	0.0
	3年生	77	26	6	21	19	34	20	23	3	11	23	9	3	0
		100.0	33.8	7.8	27.3	24.7	44.2	26.0	29.9	3.9	14.3	29.9	11.7	3.9	0.0
	4年生	132	47	17	30	55	53	32	41	16	15	35	13	9	1
		100.0	35.6	12.9	22.7	41.7	40.2	24.2	31.1	12.1	11.4	26.5	9.8	6.8	0.8
	5・6年生	13	6	2	3	5	3	3	4	1	6	1	1	1	0
		100.0	46.2	15.4	23.1	38.5	23.1	23.1	30.8	7.7	46.2	7.7	7.7	7.7	0.0
在籍キャンパス	日吉	154	64	11	21	47	50	53	51	12	30	41	25	7	0
		100.0	41.6	7.1	13.6	30.5	32.5	34.4	33.1	7.8	19.5	26.6	16.2	4.5	0.0
	三田	149	58	15	36	63	65	41	51	17	14	44	21	7	1
		100.0	38.9	10.1	24.2	42.3	43.6	27.5	34.2	11.4	9.4	29.5	14.1	4.7	0.7
	矢上	32	10	3	10	9	16	5	10	1	8	7	1	1	0
		100.0	31.3	9.4	31.3	28.1	50.0	15.6	31.3	3.1	25.0	21.9	3.1	3.1	0.0
	信濃町	36	10	3	8	10	6	8	10	3	11	8	3	4	0
		100.0	27.8	8.3	22.2	27.8	16.7	22.2	27.8	8.3	30.6	22.2	8.3	11.1	0.0
	湘南藤沢	42	12	9	8	8	11	10	10	3	3	13	6	3	0
		100.0	28.6	21.4	19.0	19.0	26.2	23.8	23.8	7.1	7.1	31.0	14.3	7.1	0.0
性別	男性	279	100	22	56	95	99	75	83	21	45	75	30	17	1
		100.0	35.8	7.9	20.1	34.1	35.5	26.9	29.7	7.5	16.1	26.9	10.8	6.1	0.4
	女性	134	54	19	27	42	49	42	49	15	21	38	26	5	0
		100.0	40.3	14.2	20.1	31.3	36.6	31.3	36.6	11.2	15.7	28.4	19.4	3.7	0.0

問25. 英語以外の外国語の授業は統一された教材を使うのがよいと思いますか。（1つだけ）

回答選択肢：　1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない

		全体	1. そう思う	2. まあそう思う	3. あまりそう思わない	4. そう思わない	NA	そう思う計	そう思わない計
合計		1425	290	271	312	461	91	561	773
		100.0	20.4	19.0	21.9	32.4	6.4	39.4	54.2
学部	文	215	46	48	60	58	3	94	118
		100.0	21.4	22.3	27.9	27.0	1.4	43.7	54.9
	経済	209	39	29	58	78	5	68	136
		100.0	18.7	13.9	27.8	37.3	2.4	32.5	65.1
	法・法	160	26	31	32	67	4	57	99
		100.0	16.3	19.4	20.0	41.9	2.5	35.6	61.9
	法・政	130	20	22	30	54	4	42	84
		100.0	15.4	16.9	23.1	41.5	3.1	32.3	64.6
	商	180	48	41	35	55	1	89	90
		100.0	26.7	22.8	19.4	30.6	0.6	49.4	50.0
	医	94	17	17	20	25	15	34	45
		100.0	18.1	18.1	21.3	26.6	16.0	36.2	47.9
	理工	216	43	38	42	76	17	81	118
		100.0	19.9	17.6	19.4	35.2	7.9	37.5	54.6
	環境情報	85	26	18	13	21	7	44	34
		100.0	30.6	21.2	15.3	24.7	8.2	51.8	40.0
	総合政策	75	21	17	12	18	7	38	30
		100.0	28.0	22.7	16.0	24.0	9.3	50.7	40.0
	看護医療	59	4	9	10	8	28	13	18
		100.0	6.8	15.3	16.9	13.6	47.5	22.0	30.5
学年	1年生	386	99	92	80	92	23	191	172
		100.0	25.6	23.8	20.7	23.8	6.0	49.5	44.6
	2年生	350	66	72	76	113	23	138	189
		100.0	18.9	20.6	21.7	32.3	6.6	39.4	54.0
	3年生	298	58	46	64	107	23	104	171
		100.0	19.5	15.4	21.5	35.9	7.7	34.9	57.4
	4年生	363	63	57	88	138	17	120	226
		100.0	17.4	15.7	24.2	38.0	4.7	33.1	62.3
	5・6年生	28	4	4	4	11	5	8	15
		100.0	14.3	14.3	14.3	39.3	17.9	28.6	53.6
在籍キャンパス	日吉	549	121	125	128	165	10	246	293
		100.0	22.0	22.8	23.3	30.1	1.8	44.8	53.4
	三田	492	90	79	124	185	14	169	309
		100.0	18.3	16.1	25.2	37.6	2.8	34.3	62.8
	矢上	92	15	10	14	43	10	25	57
		100.0	16.3	10.9	15.2	46.7	10.9	27.2	62.0
	信濃町	78	12	13	13	23	17	25	36
		100.0	15.4	16.7	16.7	29.5	21.8	32.1	46.2
	湘南藤沢	214	52	44	33	45	40	96	78
		100.0	24.3	20.6	15.4	21.0	18.7	44.9	36.4
性別	男性	858	180	141	174	320	43	321	494
		100.0	21.0	16.4	20.3	37.3	5.0	37.4	57.6
	女性	567	110	130	138	141	48	240	279
		100.0	19.4	22.9	24.3	24.9	8.5	42.3	49.2

問26. 外国語のクラス編成は、試験の結果によって習熟度別に行なった方がよいと思いますか。（1つだけ）

回答選択肢：　1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない

		全体	1. そう思う	2. まあそう思う	3. あまりそう思わない	4. そう思わない	NA	そう思う計	そう思わない計
合計		1425	361	434	296	240	94	795	536
		100.0	25.3	30.5	20.8	16.8	6.6	55.8	37.6
学部	文	215	47	77	48	39	4	124	87
		100.0	21.9	35.8	22.3	18.1	1.9	57.7	40.5
	経済	209	53	62	54	35	5	115	89
		100.0	25.4	29.7	25.8	16.7	2.4	55.0	42.6
	法・法	160	44	43	45	25	3	87	70
		100.0	27.5	26.9	28.1	15.6	1.9	54.4	43.8
	法・政	130	38	43	23	22	4	81	45
		100.0	29.2	33.1	17.7	16.9	3.1	62.3	34.6
	商	180	41	65	38	35	1	106	73
		100.0	22.8	36.1	21.1	19.4	0.6	58.9	40.6
	医	94	26	18	18	14	18	44	32
		100.0	27.7	19.1	19.1	14.9	19.1	46.8	34.0
	理工	216	49	62	44	44	17	111	88
		100.0	22.7	28.7	20.4	20.4	7.9	51.4	40.7
	環境情報	85	31	23	12	12	7	54	24
		100.0	36.5	27.1	14.1	14.1	8.2	63.5	28.2
	総合政策	75	21	24	10	12	8	45	22
		100.0	28.0	32.0	13.3	16.0	10.7	60.0	29.3
	看護医療	59	10	16	4	2	27	26	6
		100.0	16.9	27.1	6.8	3.4	45.8	44.1	10.2
学年	1年生	386	104	112	77	67	26	216	144
		100.0	26.9	29.0	19.9	17.4	6.7	56.0	37.3
	2年生	350	78	107	77	64	24	185	141
		100.0	22.3	30.6	22.0	18.3	6.9	52.9	40.3
	3年生	298	83	85	60	47	23	168	107
		100.0	27.9	28.5	20.1	15.8	7.7	56.4	35.9
	4年生	363	86	124	80	57	16	210	137
		100.0	23.7	34.2	22.0	15.7	4.4	57.9	37.7
	5・6年生	28	10	6	2	5	5	16	7
		100.0	35.7	21.4	7.1	17.9	17.9	57.1	25.0
在籍キャンパス	日吉	549	136	173	125	102	13	309	227
		100.0	24.8	31.5	22.8	18.6	2.4	56.3	41.3
	三田	492	125	159	111	84	13	284	195
		100.0	25.4	32.3	22.6	17.1	2.6	57.7	39.6
	矢上	92	20	24	21	17	10	44	38
		100.0	21.7	26.1	22.8	18.5	10.9	47.8	41.3
	信濃町	78	20	15	14	11	18	35	25
		100.0	25.6	19.2	17.9	14.1	23.1	44.9	32.1
	湘南藤沢	214	60	63	25	26	40	123	51
		100.0	28.0	29.4	11.7	12.1	18.7	57.5	23.8
性別	男性	858	236	251	172	154	45	487	326
		100.0	27.5	29.3	20.0	17.9	5.2	56.8	38.0
	女性	567	125	183	124	86	49	308	210
		100.0	22.0	32.3	21.9	15.2	8.6	54.3	37.0

問27. あなたは自分が選択した外国語を選択して良かったと思いますか。（1つだけ）

回答選択肢:　1. 良かった　2. どちらかといえば良かった　3. どちらかといえば良くなかった　4. 良くなかった

		全体	1. 良かった	2. まあ良かった	3. あまり良くなかった	4. 良くなかった	NA	良かった計	良くなかった計
合計		1425	707	422	113	83	100	1129	196
		100.0	49.6	29.6	7.9	5.8	7.0	79.2	13.8
学部	文	215	117	66	16	13	3	183	29
		100.0	54.4	30.7	7.4	6.0	1.4	85.1	13.5
	経済	209	99	79	13	12	6	178	25
		100.0	47.4	37.8	6.2	5.7	2.9	85.2	12.0
	法・法	160	94	45	12	5	4	139	17
		100.0	58.8	28.1	7.5	3.1	2.5	86.9	10.6
	法・政	130	73	36	8	9	4	109	17
		100.0	56.2	27.7	6.2	6.9	3.1	83.8	13.1
	商	180	100	52	14	13	1	152	27
		100.0	55.6	28.9	7.8	7.2	0.6	84.4	15.0
	医	94	29	26	16	7	16	55	23
		100.0	30.9	27.7	17.0	7.4	17.0	58.5	24.5
	理工	216	89	78	19	13	17	167	32
		100.0	41.2	36.1	8.8	6.0	7.9	77.3	14.8
	環境情報	85	49	16	8	4	8	65	12
		100.0	57.6	18.8	9.4	4.7	9.4	76.5	14.1
	総合政策	75	45	12	4	4	10	57	8
		100.0	60.0	16.0	5.3	5.3	13.3	76.0	10.7
	看護医療	59	11	12	2	3	31	23	5
		100.0	18.6	20.3	3.4	5.1	52.5	39.0	8.5
学年	1年生	386	196	106	30	26	28	302	56
		100.0	50.8	27.5	7.8	6.7	7.3	78.2	14.5
	2年生	350	169	101	29	25	26	270	54
		100.0	48.3	28.9	8.3	7.1	7.4	77.1	15.4
	3年生	298	146	100	19	9	24	246	28
		100.0	49.0	33.6	6.4	3.0	8.1	82.6	9.4
	4年生	363	186	110	31	19	17	296	50
		100.0	51.2	30.3	8.5	5.2	4.7	81.5	13.8
	5・6年生	28	10	5	4	4	5	15	8
		100.0	35.7	17.9	14.3	14.3	17.9	53.6	28.6
在籍キャンパス	日吉	549	277	173	46	40	13	450	86
		100.0	50.5	31.5	8.4	7.3	2.4	82.0	15.7
	三田	492	269	156	31	23	13	425	54
		100.0	54.7	31.7	6.3	4.7	2.6	86.4	11.0
	矢上	92	38	32	9	3	10	70	12
		100.0	41.3	34.8	9.8	3.3	10.9	76.1	13.0
	信濃町	78	19	22	13	7	17	41	20
		100.0	24.4	28.2	16.7	9.0	21.8	52.6	25.6
	湘南藤沢	214	104	39	14	10	47	143	24
		100.0	48.6	18.2	6.5	4.7	22.0	66.8	11.2
性別	男性	858	407	274	68	61	48	681	129
		100.0	47.4	31.9	7.9	7.1	5.6	79.4	15.0
	女性	567	300	148	45	22	52	448	67
		100.0	52.9	26.1	7.9	3.9	9.2	79.0	11.8

（総合教育科目について）

問28. 全般的に、総合教育科目の授業に満足していますか。（1つだけ）

回答　　1. 満足している授業が多い　2. どちらかといえば満足している授業が多い
選択肢:　3. どちらかといえば満足していない授業が多い　4. 満足していない授業が多い

		全体	1. 満足している	2. まあ満足している	3. あまり満足していない	4. 満足していない	NA	満足している計	満足していない計
合計		1425	259	644	363	119	40	903	482
		100.0	18.2	45.2	25.5	8.4	2.8	63.4	33.8
学部	文	215	33	104	58	19	1	137	77
		100.0	15.3	48.4	27.0	8.8	0.5	63.7	35.8
	経済	209	37	81	66	22	3	118	88
		100.0	17.7	38.8	31.6	10.5	1.4	56.5	42.1
	法・法	160	36	78	37	8	1	114	45
		100.0	22.5	48.8	23.1	5.0	0.6	71.3	28.1
	法・政	130	28	60	29	10	3	88	39
		100.0	21.5	46.2	22.3	7.7	2.3	67.7	30.0
	商	180	30	85	47	17	1	115	64
		100.0	16.7	47.2	26.1	9.4	0.6	63.9	35.6
	医	94	12	33	25	14	10	45	39
		100.0	12.8	35.1	26.6	14.9	10.6	47.9	41.5
	理工	216	40	106	50	18	2	146	68
		100.0	18.5	49.1	23.1	8.3	0.9	67.6	31.5
	環境情報	85	22	34	17	5	7	56	22
		100.0	25.9	40.0	20.0	5.9	8.2	65.9	25.9
	総合政策	75	13	32	17	5	8	45	22
		100.0	17.3	42.7	22.7	6.7	10.7	60.0	29.3
	看護医療	59	8	31	15	1	4	39	16
		100.0	13.6	52.5	25.4	1.7	6.8	66.1	27.1
学年	1年生	386	71	164	99	41	11	235	140
		100.0	18.4	42.5	25.6	10.6	2.8	60.9	36.3
	2年生	350	73	150	98	18	11	223	116
		100.0	20.9	42.9	28.0	5.1	3.1	63.7	33.1
	3年生	298	44	153	68	25	8	197	93
		100.0	14.8	51.3	22.8	8.4	2.7	66.1	31.2
	4年生	363	69	168	91	28	7	237	119
		100.0	19.0	46.3	25.1	7.7	1.9	65.3	32.8
	5・6年生	28	2	9	7	7	3	11	14
		100.0	7.1	32.1	25.0	25.0	10.7	39.3	50.0
在籍キャンパス	日吉	549	105	240	149	49	6	345	198
		100.0	19.1	43.7	27.1	8.9	1.1	62.8	36.1
	三田	492	85	246	116	41	4	331	157
		100.0	17.3	50.0	23.6	8.3	0.8	67.3	31.9
	矢上	92	19	40	26	6	1	59	32
		100.0	20.7	43.5	28.3	6.5	1.1	64.1	34.8
	信濃町	78	7	25	23	12	11	32	35
		100.0	9.0	32.1	29.5	15.4	14.1	41.0	44.9
	湘南藤沢	214	43	93	49	11	18	136	60
		100.0	20.1	43.5	22.9	5.1	8.4	63.6	28.0
性別	男性	858	158	354	241	84	21	512	325
		100.0	18.4	41.3	28.1	9.8	2.4	59.7	37.9
	女性	567	101	290	122	35	19	391	157
		100.0	17.8	51.1	21.5	6.2	3.4	69.0	27.7

問29. 学部の専門科目以外に、一般教養を大学で学ぶ意義はあると思いますか。（1つだけ）

回答　　1. あると思う　2. どちらかといえばあると思う　3. どちらかといえばあるとは思わない
選択肢:　4. あるとは思わない

		全体	1. あると思う	2. まあると思う	3. あまりあるとは思わない	4. あるとは思わない	NA	あると思う計	あるとは思わない計
合計		1425	940	291	112	57	25	1231	169
		100.0	66.0	20.4	7.9	4.0	1.8	86.4	11.9
学部	文	215	142	51	11	10	1	193	21
		100.0	66.0	23.7	5.1	4.7	0.5	89.8	9.8
	経済	209	132	43	23	9	2	175	32
		100.0	63.2	20.6	11.0	4.3	1.0	83.7	15.3
	法・法	160	116	28	9	6	1	144	15
		100.0	72.5	17.5	5.6	3.8	0.6	90.0	9.4
	法・政	130	92	27	5	4	2	119	9
		100.0	70.8	20.8	3.8	3.1	1.5	91.5	6.9
	商	180	115	43	14	7	1	158	21
		100.0	63.9	23.9	7.8	3.9	0.6	87.8	11.7
	医	94	49	18	13	6	8	67	19
		100.0	52.1	19.1	13.8	6.4	8.5	71.3	20.2
	理工	216	165	36	9	6	0	201	15
		100.0	76.4	16.7	4.2	2.8	0.0	93.1	6.9
	環境情報	85	46	17	15	3	4	63	18
		100.0	54.1	20.0	17.6	3.5	4.7	74.1	21.2
	総合政策	75	46	14	6	5	4	60	11
		100.0	61.3	18.7	8.0	6.7	5.3	80.0	14.7
	看護医療	59	37	14	6	0	2	51	6
		100.0	62.7	23.7	10.2	0.0	3.4	86.4	10.2
学年	1年生	386	232	96	32	20	6	328	52
		100.0	60.1	24.9	8.3	5.2	1.6	85.0	13.5
	2年生	350	236	70	24	14	6	306	38
		100.0	67.4	20.0	6.9	4.0	1.7	87.4	10.9
	3年生	298	207	53	22	11	5	260	33
		100.0	69.5	17.8	7.4	3.7	1.7	87.2	11.1
	4年生	363	250	67	31	9	6	317	40
		100.0	68.9	18.5	8.5	2.5	1.7	87.3	11.0
	5・6年生	28	15	5	3	3	2	20	6
		100.0	53.6	17.9	10.7	10.7	7.1	71.4	21.4
在籍キャンパス	日吉	549	363	120	38	24	4	483	62
		100.0	66.1	21.9	6.9	4.4	0.7	88.0	11.3
	三田	492	340	97	36	16	3	437	52
		100.0	69.1	19.7	7.3	3.3	0.6	88.8	10.6
	矢上	92	72	14	3	3	0	86	6
		100.0	78.3	15.2	3.3	3.3	0.0	93.5	6.5
	信濃町	78	39	15	9	6	9	54	15
		100.0	50.0	19.2	11.5	7.7	11.5	69.2	19.2
	湘南藤沢	214	126	45	26	8	9	171	34
		100.0	58.9	21.0	12.1	3.7	4.2	79.9	15.9
性別	男性	858	569	169	64	43	13	738	107
		100.0	66.3	19.7	7.5	5.0	1.5	86.0	12.5
	女性	567	371	122	48	14	12	493	62
		100.0	65.4	21.5	8.5	2.5	2.1	86.9	10.9

問30. 総合教育科目を選択する際に、単位の取り易さと授業に対する興味のどちらを優先させますか。あるいはさせましたか。（1つだけ）

回答　　1. 単位の取り易さを優先　2. どちらかといえば単位の取り易さを優先
選択肢:　3. どちらかといえば授業に対する興味を優先　4. 授業に対する興味を優先

		全体	1. 取り易さ優先	2. やや取り易さ優先	3. やや授業興味優先	4. 授業興味優先	NA	単位の取り易さ優先計	授業興味優先計
合計		1425	191	319	538	349	28	510	887
		100.0	13.4	22.4	37.8	24.5	2.0	35.8	62.2
学部	文	215	22	31	99	62	1	53	161
		100.0	10.2	14.4	46.0	28.8	0.5	24.7	74.9
	経済	209	39	57	71	40	2	96	111
		100.0	18.7	27.3	34.0	19.1	1.0	45.9	53.1
	法・法	160	19	41	64	35	1	60	99
		100.0	11.9	25.6	40.0	21.9	0.6	37.5	61.9
	法・政	130	21	39	42	27	1	60	69
		100.0	16.2	30.0	32.3	20.8	0.8	46.2	53.1
	商	180	35	43	61	40	1	78	101
		100.0	19.4	23.9	33.9	22.2	0.6	43.3	56.1
	医	94	11	32	29	14	8	43	43
		100.0	11.7	34.0	30.9	14.9	8.5	45.7	45.7
	理工	216	26	44	89	57	0	70	146
		100.0	12.0	20.4	41.2	26.4	0.0	32.4	67.6
	環境情報	85	7	11	35	26	6	18	61
		100.0	8.2	12.9	41.2	30.6	7.1	21.2	71.8
	総合政策	75	5	10	27	27	6	15	54
		100.0	6.7	13.3	36.0	36.0	8.0	20.0	72.0
	看護医療	59	5	11	20	21	2	16	41
		100.0	8.5	18.6	33.9	35.6	3.4	27.1	69.5
学年	1年生	386	53	71	151	104	7	124	255
		100.0	13.7	18.4	39.1	26.9	1.8	32.1	66.1
	2年生	350	36	68	140	99	7	104	239
		100.0	10.3	19.4	40.0	28.3	2.0	29.7	68.3
	3年生	298	41	75	116	60	6	116	176
		100.0	13.8	25.2	38.9	20.1	2.0	38.9	59.1
	4年生	363	57	96	124	80	6	153	204
		100.0	15.7	26.4	34.2	22.0	1.7	42.1	56.2
	5・6年生	28	4	9	7	6	2	13	13
		100.0	14.3	32.1	25.0	21.4	7.1	46.4	46.4
在籍キャンパス	日吉	549	67	116	213	150	3	183	363
		100.0	12.2	21.1	38.8	27.3	0.5	33.3	66.1
	三田	492	85	124	184	96	3	209	280
		100.0	17.3	25.2	37.4	19.5	0.6	42.5	56.9
	矢上	92	12	22	37	21	0	34	58
		100.0	13.0	23.9	40.2	22.8	0.0	37.0	63.0
	信濃町	78	10	27	22	10	9	37	32
		100.0	12.8	34.6	28.2	12.8	11.5	47.4	41.0
	湘南藤沢	214	17	30	82	72	13	47	154
		100.0	7.9	14.0	38.3	33.6	6.1	22.0	72.0
性別	男性	858	143	197	284	221	13	340	505
		100.0	16.7	23.0	33.1	25.8	1.5	39.6	58.9
	女性	567	48	122	254	128	15	170	382
		100.0	8.5	21.5	44.8	22.6	2.6	30.0	67.4

問31. 履修したい授業は希望通りとれましたか。（1つだけ）

回答　　1. だいたいとれた　2. 半分以上はとれた　3. 半分以上はとれなかった
選択肢:　4. まったく希望通りにはとれなかった

		全体	1. だいたいとれた	2. 半分以上とれた	3. 半分以上とれなかった	4. まったくとれなかった	NA	とれた計	とれなかった計
合計		1425	986	311	75	20	33	1297	95
		100.0	69.2	21.8	5.3	1.4	2.3	91.0	6.7
学部	文	215	158	45	11	0	1	203	11
		100.0	73.5	20.9	5.1	0.0	0.5	94.4	5.1
	経済	209	129	67	9	1	3	196	10
		100.0	61.7	32.1	4.3	0.5	1.4	93.8	4.8
	法・法	160	131	19	5	4	1	150	9
		100.0	81.9	11.9	3.1	2.5	0.6	93.8	5.6
	法・政	130	97	27	4	1	1	124	5
		100.0	74.6	20.8	3.1	0.8	0.8	95.4	3.8
	商	180	136	31	8	4	1	167	12
		100.0	75.6	17.2	4.4	2.2	0.6	92.8	6.7
	医	94	55	20	6	2	11	75	8
		100.0	58.5	21.3	6.4	2.1	11.7	79.8	8.5
	理工	216	143	48	20	3	2	191	23
		100.0	66.2	22.2	9.3	1.4	0.9	88.4	10.6
	環境情報	85	52	22	4	2	5	74	6
		100.0	61.2	25.9	4.7	2.4	5.9	87.1	7.1
	総合政策	75	43	20	5	2	5	63	7
		100.0	57.3	26.7	6.7	2.7	6.7	84.0	9.3
	看護医療	59	41	11	3	1	3	52	4
		100.0	69.5	18.6	5.1	1.7	5.1	88.1	6.8
学年	1年生	386	266	80	28	5	7	346	33
		100.0	68.9	20.7	7.3	1.3	1.8	89.6	8.5
	2年生	350	237	79	19	6	9	316	25
		100.0	67.7	22.6	5.4	1.7	2.6	90.3	7.1
	3年生	298	209	65	13	5	6	274	18
		100.0	70.1	21.8	4.4	1.7	2.0	91.9	6.0
	4年生	363	260	79	13	3	8	339	16
		100.0	71.6	21.8	3.6	0.8	2.2	93.4	4.4
	5・6年生	28	14	8	2	1	3	22	3
		100.0	50.0	28.6	7.1	3.6	10.7	78.6	10.7
在籍キャンパス	日吉	549	373	125	38	9	4	498	47
		100.0	67.9	22.8	6.9	1.6	0.7	90.7	8.6
	三田	492	370	100	15	4	3	470	19
		100.0	75.2	20.3	3.0	0.8	0.6	95.5	3.9
	矢上	92	69	15	6	0	2	84	6
		100.0	75.0	16.3	6.5	0.0	2.2	91.3	6.5
	信濃町	78	40	20	4	2	12	60	6
		100.0	51.3	25.6	5.1	2.6	15.4	76.9	7.7
	湘南藤沢	214	134	51	12	5	12	185	17
		100.0	62.6	23.8	5.6	2.3	5.6	86.4	7.9
性別	男性	858	567	209	50	15	17	776	65
		100.0	66.1	24.4	5.8	1.7	2.0	90.4	7.6
	女性	567	419	102	25	5	16	521	30
		100.0	73.9	18.0	4.4	0.9	2.8	91.9	5.3

問32. 履修して良かったと考える授業に関して何が良かったと思いますか。(いくつでも)

回答選択肢: 1. 単位が楽にとれた　2. 教員とのつながりができた　3. 良い成績がもらえた　4. 新たな視点が獲得できた　5. 教養が身についた　6. 友人と仲良くできた　7. 授業が面白かった　8. 知的好奇心が満たされた　9. 恋人・新しい友人ができた　10. その他　11. 良かったと考える授業はない

		全体	1. 単位が楽にとれた	2. 教員とのつながり	3. 良い成績がもらえた	4. 新たな視点の獲得	5. 教養が身についた	6. 友人と仲良くできた	7. 授業が面白かった	8. 知的好奇心の満足	9. 恋人・友人ができた	10. その他	11. 良かった授業なし	NA
合計		1425	445	130	294	717	835	266	999	743	147	18	22	28
		100.0	31.2	9.1	20.6	50.3	58.6	18.7	70.1	52.1	10.3	1.3	1.5	2.0
学部	文	215	60	24	47	117	129	56	169	124	37	3	3	2
		100.0	27.9	11.2	21.9	54.4	60.0	26.0	78.6	57.7	17.2	1.4	1.4	0.9
	経済	209	87	14	53	98	124	35	152	112	18	3	3	2
		100.0	41.6	6.7	25.4	46.9	59.3	16.7	72.7	53.6	8.6	1.4	1.4	1.0
	法・法	160	53	14	49	81	102	30	118	91	13	1	2	1
		100.0	33.1	8.8	30.6	50.6	63.8	18.8	73.8	56.9	8.1	0.6	1.3	0.6
	法・政	130	46	14	33	77	78	26	96	61	11	1	2	1
		100.0	35.4	10.8	25.4	59.2	60.0	20.0	73.8	46.9	8.5	0.8	1.5	0.8
	商	180	61	20	34	83	103	41	124	99	23	1	4	1
		100.0	33.9	11.1	18.9	46.1	57.2	22.8	68.9	55.0	12.8	0.6	2.2	0.6
	医	94	36	1	5	25	44	4	38	35	5	0	3	10
		100.0	38.3	1.1	5.3	26.6	46.8	4.3	40.4	37.2	5.3	0.0	3.2	10.6
	理工	216	62	9	37	94	129	32	139	110	15	6	5	0
		100.0	28.7	4.2	17.1	43.5	59.7	14.8	64.4	50.9	6.9	2.8	2.3	0.0
	環境情報	85	13	12	18	54	47	19	64	42	15	2	0	4
		100.0	15.3	14.1	21.2	63.5	55.3	22.4	75.3	49.4	17.6	2.4	0.0	4.7
	総合政策	75	14	9	12	46	43	10	53	41	5	0	0	5
		100.0	18.7	12.0	16.0	61.3	57.3	13.3	70.7	54.7	6.7	0.0	0.0	6.7
	看護医療	59	12	13	6	42	36	12	45	27	5	1	0	2
		100.0	20.3	22.0	10.2	71.2	61.0	20.3	76.3	45.8	8.5	1.7	0.0	3.4
学年	1年生	386	45	24	8	157	193	74	245	174	42	6	12	8
		100.0	11.7	6.2	2.1	40.7	50.0	19.2	63.5	45.1	10.9	1.6	3.1	2.1
	2年生	350	125	36	94	195	223	72	255	193	40	6	2	6
		100.0	35.7	10.3	26.9	55.7	63.7	20.6	72.9	55.1	11.4	1.7	0.6	1.7
	3年生	298	118	27	98	152	187	63	214	153	29	3	3	5
		100.0	39.6	9.1	32.9	51.0	62.8	21.1	71.8	51.3	9.7	1.0	1.0	1.7
	4年生	363	143	43	91	204	222	55	271	212	33	3	5	7
		100.0	39.4	11.8	25.1	56.2	61.2	15.2	74.7	58.4	9.1	0.8	1.4	1.9
	5・6年生	28	14	0	3	9	10	2	14	11	3	0	0	2
		100.0	50.0	0.0	10.7	32.1	35.7	7.1	50.0	39.3	10.7	0.0	0.0	7.1
在籍キャンパス	日吉	549	125	35	71	254	320	105	368	282	59	11	14	5
		100.0	22.8	6.4	12.9	46.3	58.3	19.1	67.0	51.4	10.7	2.0	2.6	0.9
	三田	492	213	59	156	266	302	106	375	278	56	3	3	3
		100.0	43.3	12.0	31.7	54.1	61.4	21.5	76.2	56.5	11.4	0.6	0.6	0.6
	矢上	92	37	1	25	41	57	11	63	46	3	1	2	0
		100.0	40.2	1.1	27.2	44.6	62.0	12.0	68.5	50.0	3.3	1.1	2.2	0.0
	信濃町	78	31	3	6	18	34	4	33	29	4	0	3	10
		100.0	39.7	3.8	7.7	23.1	43.6	5.1	42.3	37.2	5.1	0.0	3.8	12.8
	湘南藤沢	214	39	32	36	138	122	40	160	108	25	3	0	10
		100.0	18.2	15.0	16.8	64.5	57.0	18.7	74.8	50.5	11.7	1.4	0.0	4.7
性別	男性	858	275	60	160	401	498	132	569	454	71	11	18	14
		100.0	32.1	7.0	18.6	46.7	58.0	15.4	66.3	52.9	8.3	1.3	2.1	1.6
	女性	567	170	70	134	316	337	134	430	289	76	7	4	14
		100.0	30.0	12.3	23.6	55.7	59.4	23.6	75.8	51.0	13.4	1.2	0.7	2.5

問33. 選択して良くなかったと考える授業に関して、その大きな問題は何でしたか。（いくつでも）

回答選択肢: 1. 授業の内容が面白くなかったから　2. 授業が難しすぎたから　3. 授業が易しすぎたから　4. 教員の自己満足的授業だから　5. 教員の一方的な授業だから　6. 休講が多かったから　7. 成績が思わしくなかったから　8. その他　9. 良くなかったと考える授業はない

		全体	1. 内容が面白くなかった	2. 授業が難しすぎた	3. 授業が易しすぎた	4. 自己満足的授業	5. 一方的な授業	6. 休講が多かった	7. 成績が思わしくなかった	8. その他	9. 良くなかった授業なし	NA
合計		1425	863	366	54	668	518	32	184	90	90	40
		100.0	60.6	25.7	3.8	46.9	36.4	2.2	12.9	6.3	6.3	2.8
学部	文	215	158	59	12	108	78	4	27	20	6	1
		100.0	73.5	27.4	5.6	50.2	36.3	1.9	12.6	9.3	2.8	0.5
	経済	209	131	57	11	112	91	3	44	19	7	2
		100.0	62.7	27.3	5.3	53.6	43.5	1.4	21.1	9.1	3.3	1.0
	法・法	160	91	31	5	79	50	3	30	9	12	3
		100.0	56.9	19.4	3.1	49.4	31.3	1.9	18.8	5.6	7.5	1.9
	法・政	130	82	34	3	65	46	2	17	8	11	1
		100.0	63.1	26.2	2.3	50.0	35.4	1.5	13.1	6.2	8.5	0.8
	商	180	120	59	4	101	71	1	21	7	11	1
		100.0	66.7	32.8	2.2	56.1	39.4	0.6	11.7	3.9	6.1	0.6
	医	94	41	13	5	33	22	4	1	2	10	15
		100.0	43.6	13.8	5.3	35.1	23.4	4.3	1.1	2.1	10.6	16.0
	理工	216	114	50	5	73	74	1	26	10	21	6
		100.0	52.8	23.1	2.3	33.8	34.3	0.5	12.0	4.6	9.7	2.8
	環境情報	85	51	29	5	41	34	7	11	8	6	4
		100.0	60.0	34.1	5.9	48.2	40.0	8.2	12.9	9.4	7.1	4.7
	総合政策	75	39	17	3	31	29	4	4	4	2	5
		100.0	52.0	22.7	4.0	41.3	38.7	5.3	5.3	5.3	2.7	6.7
	看護医療	59	34	17	1	23	21	3	3	3	4	2
		100.0	57.6	28.8	1.7	39.0	35.6	5.1	5.1	5.1	6.8	3.4
学年	1年生	386	207	89	16	163	132	7	12	27	38	15
		100.0	53.6	23.1	4.1	42.2	34.2	1.8	3.1	7.0	9.8	3.9
	2年生	350	225	104	10	175	149	6	49	25	19	8
		100.0	64.3	29.7	2.9	50.0	42.6	1.7	14.0	7.1	5.4	2.3
	3年生	298	183	84	10	143	110	5	62	16	15	5
		100.0	61.4	28.2	3.4	48.0	36.9	1.7	20.8	5.4	5.0	1.7
	4年生	363	232	82	16	177	123	14	59	20	17	9
		100.0	63.9	22.6	4.4	48.8	33.9	3.9	16.3	5.5	4.7	2.5
	5・6年生	28	16	7	2	10	4	0	2	2	1	3
		100.0	57.1	25.0	7.1	35.7	14.3	0.0	7.1	7.1	3.6	10.7
在籍キャンパス	日吉	549	325	141	17	261	213	2	44	38	42	13
		100.0	59.2	25.7	3.1	47.5	38.8	0.4	8.0	6.9	7.7	2.4
	三田	492	330	133	21	251	179	11	107	32	22	3
		100.0	67.1	27.0	4.3	51.0	36.4	2.2	21.7	6.5	4.5	0.6
	矢上	92	51	21	3	34	25	1	14	3	7	1
		100.0	55.4	22.8	3.3	37.0	27.2	1.1	15.2	3.3	7.6	1.1
	信濃町	78	34	10	4	29	17	4	1	2	7	13
		100.0	43.6	12.8	5.1	37.2	21.8	5.1	1.3	2.6	9.0	16.7
	湘南藤沢	214	123	61	9	93	84	14	18	15	12	10
		100.0	57.5	28.5	4.2	43.5	39.3	6.5	8.4	7.0	5.6	4.7
性別	男性	858	507	225	40	384	299	14	107	60	60	23
		100.0	59.1	26.2	4.7	44.8	34.8	1.6	12.5	7.0	7.0	2.7
	女性	567	356	141	14	284	219	18	77	30	30	17
		100.0	62.8	24.9	2.5	50.1	38.6	3.2	13.6	5.3	5.3	3.0

問34. あなたは一般教養の少人数制のセミナー授業を履修していますか、あるいは履修しましたか。

回答選択肢:　1. はい　2. いいえ

		全体	1. はい	2. いいえ	NA
合計		1425	299	1103	23
		100.0	21.0	77.4	1.6
学部	文	215	48	166	1
		100.0	22.3	77.2	0.5
	経済	209	47	161	1
		100.0	22.5	77.0	0.5
	法・法	160	21	137	2
		100.0	13.1	85.6	1.3
	法・政	130	25	104	1
		100.0	19.2	80.0	0.8
	商	180	60	120	0
		100.0	33.3	66.7	0.0
	医	94	2	85	7
		100.0	2.1	90.4	7.4
	理工	216	75	141	0
		100.0	34.7	65.3	0.0
	環境情報	85	6	76	3
		100.0	7.1	89.4	3.5
	総合政策	75	12	57	6
		100.0	16.0	76.0	8.0
	看護医療	59	2	55	2
		100.0	3.4	93.2	3.4
学年	1年生	386	58	323	5
		100.0	15.0	83.7	1.3
	2年生	350	83	261	6
		100.0	23.7	74.6	1.7
	3年生	298	81	213	4
		100.0	27.2	71.5	1.3
	4年生	363	76	281	6
		100.0	20.9	77.4	1.7
	5・6年生	28	1	25	2
		100.0	3.6	89.3	7.1
在籍キャンパス	日吉	549	122	425	2
		100.0	22.2	77.4	0.4
	三田	492	129	360	3
		100.0	26.2	73.2	0.6
	矢上	92	26	66	0
		100.0	28.3	71.7	0.0
	信濃町	78	2	68	8
		100.0	2.6	87.2	10.3
	湘南藤沢	214	20	184	10
		100.0	9.3	86.0	4.7
性別	男性	858	181	668	9
		100.0	21.1	77.9	1.0
	女性	567	118	435	14
		100.0	20.8	76.7	2.5

問34-1.（前問で1. と答えた方）少人数制の授業に満足していますか。（1つだけ）

回答　　1. 満足している　　2. どちらかといえば満足している　　3. どちらかといえば満足していない
選択肢:　4. 満足していない

		全体	1. 満足している	2. まあ満足している	3. あまり満足していない	4. 満足していない	NA	満足している計	満足していない計
合計		299	171	77	32	11	8	248	43
		100.0	57.2	25.8	10.7	3.7	2.7	82.9	14.4
学部	文	48	25	13	3	5	2	38	8
		100.0	52.1	27.1	6.3	10.4	4.2	79.2	16.7
	経済	47	29	14	3	0	1	43	3
		100.0	61.7	29.8	6.4	0.0	2.1	91.5	6.4
	法・法	21	16	4	0	0	1	20	0
		100.0	76.2	19.0	0.0	0.0	4.8	95.2	0.0
	法・政	25	14	7	3	1	0	21	4
		100.0	56.0	28.0	12.0	4.0	0.0	84.0	16.0
	商	60	35	11	11	2	1	46	13
		100.0	58.3	18.3	18.3	3.3	1.7	76.7	21.7
	医	2	1	0	0	0	1	1	0
		100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0
	理工	75	34	24	12	3	2	58	15
		100.0	45.3	32.0	16.0	4.0	2.7	77.3	20.0
	環境情報	6	5	1	0	0	0	6	0
		100.0	83.3	16.7	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	総合政策	12	11	1	0	0	0	12	0
		100.0	91.7	8.3	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	看護医療	2	1	1	0	0	0	2	0
		100.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
学年	1年生	58	17	19	12	7	3	36	19
		100.0	29.3	32.8	20.7	12.1	5.2	62.1	32.8
	2年生	83	50	23	5	2	3	73	7
		100.0	60.2	27.7	6.0	2.4	3.6	88.0	8.4
	3年生	81	47	23	11	0	0	70	11
		100.0	58.0	28.4	13.6	0.0	0.0	86.4	13.6
	4年生	76	56	12	4	2	2	68	6
		100.0	73.7	15.8	5.3	2.6	2.6	89.5	7.9
	5・6年生	1	1	0	0	0	0	1	0
		100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
在籍キャンパス	日吉	122	53	39	16	8	6	92	24
		100.0	43.4	32.0	13.1	6.6	4.9	75.4	19.7
	三田	129	82	31	12	3	1	113	15
		100.0	63.6	24.0	9.3	2.3	0.8	87.6	11.6
	矢上	26	18	4	4	0	0	22	4
		100.0	69.2	15.4	15.4	0.0	0.0	84.6	15.4
	信濃町	2	1	0	0	0	1	1	0
		100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0
	湘南藤沢	20	17	3	0	0	0	20	0
		100.0	85.0	15.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
性別	男性	181	98	46	24	8	5	144	32
		100.0	54.1	25.4	13.3	4.4	2.8	79.6	17.7
	女性	118	73	31	8	3	3	104	11
		100.0	61.9	26.3	6.8	2.5	2.5	88.1	9.3

問35. 学部の専門の勉強以外の領域をより高いレベルまで学ぶことのできるような制度（例えば副専攻制度）があれば、履修してみたい、あるいは履修してみたかったと思いますか。（1つだけ）

回答選択肢：　1. ぜひ履修してみたい　2. どちらかといえば履修してみたい　3. どちらかといえば履修したくない　4. 履修したくない　5.すでに専門以外の分野を重点的に履修している

		全体	1. ぜひ履修してみたい	2. まあ履修してみたい	3. あまり履修したくない	4. 履修したくない	5. すでに専門以外履修	NA	履修してみたい計	履修したくない計
合計		1425	525	571	172	84	33	40	1096	256
		100.0	36.8	40.1	12.1	5.9	2.3	2.8	76.9	18.0
学部	文	215	85	89	23	12	3	3	174	35
		100.0	39.5	41.4	10.7	5.6	1.4	1.4	80.9	16.3
	経済	209	78	83	29	16	1	2	161	45
		100.0	37.3	39.7	13.9	7.7	0.5	1.0	77.0	21.5
	法・法	160	51	67	28	9	3	2	118	37
		100.0	31.9	41.9	17.5	5.6	1.9	1.3	73.8	23.1
	法・政	130	44	53	13	9	9	2	97	22
		100.0	33.8	40.8	10.0	6.9	6.9	1.5	74.6	16.9
	商	180	57	87	26	7	1	2	144	33
		100.0	31.7	48.3	14.4	3.9	0.6	1.1	80.0	18.3
	医	94	35	25	13	10	0	11	60	23
		100.0	37.2	26.6	13.8	10.6	0.0	11.7	63.8	24.5
	理工	216	94	80	25	15	1	1	174	40
		100.0	43.5	37.0	11.6	6.9	0.5	0.5	80.6	18.5
	環境情報	85	29	38	5	1	6	6	67	6
		100.0	34.1	44.7	5.9	1.2	7.1	7.1	78.8	7.1
	総合政策	75	35	22	2	2	9	5	57	4
		100.0	46.7	29.3	2.7	2.7	12.0	6.7	76.0	5.3
	看護医療	59	17	26	8	3	0	5	43	11
		100.0	28.8	44.1	13.6	5.1	0.0	8.5	72.9	18.6
学年	1年生	386	136	156	48	28	4	14	292	76
		100.0	35.2	40.4	12.4	7.3	1.0	3.6	75.6	19.7
	2年生	350	124	152	39	22	6	7	276	61
		100.0	35.4	43.4	11.1	6.3	1.7	2.0	78.9	17.4
	3年生	298	110	118	39	12	11	8	228	51
		100.0	36.9	39.6	13.1	4.0	3.7	2.7	76.5	17.1
	4年生	363	144	139	40	19	12	9	283	59
		100.0	39.7	38.3	11.0	5.2	3.3	2.5	78.0	16.3
	5・6年生	28	11	6	6	3	0	2	17	9
		100.0	39.3	21.4	21.4	10.7	0.0	7.1	60.7	32.1
在籍キャンパス	日吉	549	193	227	71	42	7	9	420	113
		100.0	35.2	41.3	12.9	7.7	1.3	1.6	76.5	20.6
	三田	492	182	206	65	23	11	5	388	88
		100.0	37.0	41.9	13.2	4.7	2.2	1.0	78.9	17.9
	矢上	92	47	31	8	6	0	0	78	14
		100.0	51.1	33.7	8.7	6.5	0.0	0.0	84.8	15.2
	信濃町	78	24	22	13	8	0	11	46	21
		100.0	30.8	28.2	16.7	10.3	0.0	14.1	59.0	26.9
	湘南藤沢	214	79	85	15	5	15	15	164	20
		100.0	36.9	39.7	7.0	2.3	7.0	7.0	76.6	9.3
性別	男性	858	335	316	109	58	22	18	651	167
		100.0	39.0	36.8	12.7	6.8	2.6	2.1	75.9	19.5
	女性	567	190	255	63	26	11	22	445	89
		100.0	33.5	45.0	11.1	4.6	1.9	3.9	78.5	15.7

問35-1.（前問で3．4と答えた方）なぜとりたくないのですか。（1つだけ）

回答　　1. 大学は専門の知識を身につけるところだから　2. 複数の専攻は両立できないから
選択肢:　3. 興味がないから　4. その他

		全体	1. 専門知識習得の場	2. 複数専攻両立不可	3. 興味がない	4. その他	NA
合計		256	13	151	71	7	14
		100.0	5.1	59.0	27.7	2.7	5.5
学部	文	35	2	21	7	0	5
		100.0	5.7	60.0	20.0	0.0	14.3
	経済	45	3	25	14	2	1
		100.0	6.7	55.6	31.1	4.4	2.2
	法・法	37	4	25	7	1	0
		100.0	10.8	67.6	18.9	2.7	0.0
	法・政	22	0	13	7	0	2
		100.0	0.0	59.1	31.8	0.0	9.1
	商	33	2	18	11	0	2
		100.0	6.1	54.5	33.3	0.0	6.1
	医	23	0	16	5	1	1
		100.0	0.0	69.6	21.7	4.3	4.3
	理工	40	1	22	12	2	3
		100.0	2.5	55.0	30.0	5.0	7.5
	環境情報	6	1	2	3	0	0
		100.0	16.7	33.3	50.0	0.0	0.0
	総合政策	4	0	1	3	0	0
		100.0	0.0	25.0	75.0	0.0	0.0
	看護医療	11	0	8	2	1	0
		100.0	0.0	72.7	18.2	9.1	0.0
学年	1年生	76	1	39	30	2	4
		100.0	1.3	51.3	39.5	2.6	5.3
	2年生	61	6	40	10	1	4
		100.0	9.8	65.6	16.4	1.6	6.6
	3年生	51	3	33	12	1	2
		100.0	5.9	64.7	23.5	2.0	3.9
	4年生	59	3	33	17	3	3
		100.0	5.1	55.9	28.8	5.1	5.1
	5・6年生	9	0	6	2	0	1
		100.0	0.0	66.7	22.2	0.0	11.1
在籍キャンパス	日吉	113	6	64	32	3	8
		100.0	5.3	56.6	28.3	2.7	7.1
	三田	88	6	56	21	1	4
		100.0	6.8	63.6	23.9	1.1	4.5
	矢上	14	0	7	5	1	1
		100.0	0.0	50.0	35.7	7.1	7.1
	信濃町	21	0	14	5	1	1
		100.0	0.0	66.7	23.8	4.8	4.8
	湘南藤沢	20	1	10	8	1	0
		100.0	5.0	50.0	40.0	5.0	0.0
性別	男性	167	7	89	55	6	10
		100.0	4.2	53.3	32.9	3.6	6.0
	女性	89	6	62	16	1	4
		100.0	6.7	69.7	18.0	1.1	4.5

問36. 楽勝科目といわれている科目を履修しましたか。（1つだけ）

回答選択肢:　1. はい　2. いいえ　3. 楽勝科目が何か知らない

		全体	1. はい	2. いいえ	3. 楽勝科目不明	NA
合計		1425	759	260	376	30
		100.0	53.3	18.2	26.4	2.1
学部	文	215	111	35	66	3
		100.0	51.6	16.3	30.7	1.4
	経済	209	123	43	43	0
		100.0	58.9	20.6	20.6	0.0
	法・法	160	113	25	21	1
		100.0	70.6	15.6	13.1	0.6
	法・政	130	73	38	18	1
		100.0	56.2	29.2	13.8	0.8
	商	180	110	32	37	1
		100.0	61.1	17.8	20.6	0.6
	医	94	45	15	24	10
		100.0	47.9	16.0	25.5	10.6
	理工	216	86	53	77	0
		100.0	39.8	24.5	35.6	0.0
	環境情報	85	52	6	23	4
		100.0	61.2	7.1	27.1	4.7
	総合政策	75	32	8	29	6
		100.0	42.7	10.7	38.7	8.0
	看護医療	59	13	5	38	3
		100.0	22.0	8.5	64.4	5.1
学年	1年生	386	100	98	178	10
		100.0	25.9	25.4	46.1	2.6
	2年生	350	170	88	87	5
		100.0	48.6	25.1	24.9	1.4
	3年生	298	202	40	49	7
		100.0	67.8	13.4	16.4	2.3
	4年生	363	274	29	55	5
		100.0	75.5	8.0	15.2	1.4
	5・6年生	28	13	5	7	3
		100.0	46.4	17.9	25.0	10.7
在籍キャンパス	日吉	549	203	158	184	4
		100.0	37.0	28.8	33.5	0.7
	三田	492	365	59	65	3
		100.0	74.2	12.0	13.2	0.6
	矢上	92	58	15	19	0
		100.0	63.0	16.3	20.7	0.0
	信濃町	78	38	8	21	11
		100.0	48.7	10.3	26.9	14.1
	湘南藤沢	214	95	20	87	12
		100.0	44.4	9.3	40.7	5.6
性別	男性	858	451	158	235	14
		100.0	52.6	18.4	27.4	1.6
	女性	567	308	102	141	16
		100.0	54.3	18.0	24.9	2.8

問36-1.（前問で1. と答えた方）実際それらの科目は楽勝でしたか。（1つだけ）

回答選択肢:　1. だいたい楽勝だった　2. 楽勝のものは少なかった

		全体	1. だいたい楽勝	2. 楽勝は少なかった	NA
合計		759 100.0	642 84.6	102 13.4	15 2.0
学部	文	111 100.0	89 80.2	20 18.0	2 1.8
	経済	123 100.0	100 81.3	21 17.1	2 1.6
	法・法	113 100.0	98 86.7	12 10.6	3 2.7
	法・政	73 100.0	63 86.3	9 12.3	1 1.4
	商	110 100.0	94 85.5	15 13.6	1 0.9
	医	45 100.0	38 84.4	6 13.3	1 2.2
	理工	86 100.0	75 87.2	8 9.3	3 3.5
	環境情報	52 100.0	47 90.4	4 7.7	1 1.9
	総合政策	32 100.0	27 84.4	5 15.6	0 0.0
	看護医療	13 100.0	10 76.9	2 15.4	1 7.7
学年	1年生	100 100.0	66 66.0	27 27.0	7 7.0
	2年生	170 100.0	143 84.1	25 14.7	2 1.2
	3年生	202 100.0	176 87.1	23 11.4	3 1.5
	4年生	274 100.0	246 89.8	25 9.1	3 1.1
	5・6年生	13 100.0	11 84.6	2 15.4	0 0.0
在籍キャンパス	日吉	203 100.0	155 76.4	39 19.2	9 4.4
	三田	365 100.0	320 87.7	43 11.8	2 0.5
	矢上	58 100.0	51 87.9	5 8.6	2 3.4
	信濃町	38 100.0	34 89.5	4 10.5	0 0.0
	湘南藤沢	95 100.0	82 86.3	11 11.6	2 2.1
性別	男性	451 100.0	380 84.3	62 13.7	9 2.0
	女性	308 100.0	262 85.1	40 13.0	6 1.9

（専門の科目、学部について）

問37. あなたは希望の学部に入ることができましたか。

回答　　1. はい　2. いいえ
選択肢:

		全体	1. はい	2. いいえ	NA
合計		1425	1270	147	8
		100.0	89.1	10.3	0.6
学部	文	215	193	20	2
		100.0	89.8	9.3	0.9
	経済	209	181	28	0
		100.0	86.6	13.4	0.0
	法・法	160	154	5	1
		100.0	96.3	3.1	0.6
	法・政	130	121	8	1
		100.0	93.1	6.2	0.8
	商	180	130	50	0
		100.0	72.2	27.8	0.0
	医	94	93	0	1
		100.0	98.9	0.0	1.1
	理工	216	212	3	1
		100.0	98.1	1.4	0.5
	環境情報	85	73	10	2
		100.0	85.9	11.8	2.4
	総合政策	75	59	16	0
		100.0	78.7	21.3	0.0
	看護医療	59	53	6	0
		100.0	89.8	10.2	0.0
学年	1年生	386	333	50	3
		100.0	86.3	13.0	0.8
	2年生	350	312	36	2
		100.0	89.1	10.3	0.6
	3年生	298	261	35	2
		100.0	87.6	11.7	0.7
	4年生	363	336	26	1
		100.0	92.6	7.2	0.3
	5・6年生	28	28	0	0
		100.0	100.0	0.0	0.0
在籍キャンパス	日吉	549	481	64	4
		100.0	87.6	11.7	0.7
	三田	492	440	51	1
		100.0	89.4	10.4	0.2
	矢上	92	92	0	0
		100.0	100.0	0.0	0.0
	信濃町	78	75	2	1
		100.0	96.2	2.6	1.3
	湘南藤沢	214	182	30	2
		100.0	85.0	14.0	0.9
性別	男性	858	759	95	4
		100.0	88.5	11.1	0.5
	女性	567	511	52	4
		100.0	90.1	9.2	0.7

問38. あなたの学部の専門の授業に満足していますか。（1つだけ）

回答選択肢: 1. 満足している　2. どちらかといえば満足している　3. どちらかといえば満足していない　4. 満足していない

		全体	1. 満足している	2. まあ満足している	3. あまり満足していない	4. 満足していない	NA	満足している計	満足していない計
合計		1425	374	653	264	123	11	1027	387
		100.0	26.2	45.8	18.5	8.6	0.8	72.1	27.2
学部	文	215	63	96	37	16	3	159	53
		100.0	29.3	44.7	17.2	7.4	1.4	74.0	24.7
	経済	209	36	96	60	16	1	132	76
		100.0	17.2	45.9	28.7	7.7	0.5	63.2	36.4
	法・法	160	34	76	29	21	0	110	50
		100.0	21.3	47.5	18.1	13.1	0.0	68.8	31.3
	法・政	130	38	57	18	16	1	95	34
		100.0	29.2	43.8	13.8	12.3	0.8	73.1	26.2
	商	180	55	87	28	10	0	142	38
		100.0	30.6	48.3	15.6	5.6	0.0	78.9	21.1
	医	94	20	46	15	11	2	66	26
		100.0	21.3	48.9	16.0	11.7	2.1	70.2	27.7
	理工	216	51	106	39	18	2	157	57
		100.0	23.6	49.1	18.1	8.3	0.9	72.7	26.4
	環境情報	85	29	35	12	7	2	64	19
		100.0	34.1	41.2	14.1	8.2	2.4	75.3	22.4
	総合政策	75	31	31	11	2	0	62	13
		100.0	41.3	41.3	14.7	2.7	0.0	82.7	17.3
	看護医療	59	17	23	14	5	0	40	19
		100.0	28.8	39.0	23.7	8.5	0.0	67.8	32.2
学年	1年生	386	89	162	85	44	6	251	129
		100.0	23.1	42.0	22.0	11.4	1.6	65.0	33.4
	2年生	350	104	151	69	25	1	255	94
		100.0	29.7	43.1	19.7	7.1	0.3	72.9	26.9
	3年生	298	75	149	53	21	0	224	74
		100.0	25.2	50.0	17.8	7.0	0.0	75.2	24.8
	4年生	363	101	181	51	26	4	282	77
		100.0	27.8	49.9	14.0	7.2	1.1	77.7	21.2
	5・6年生	28	5	10	6	7	0	15	13
		100.0	17.9	35.7	21.4	25.0	0.0	53.6	46.4
在籍キャンパス	日吉	549	127	235	120	62	5	362	182
		100.0	23.1	42.8	21.9	11.3	0.9	65.9	33.2
	三田	492	130	243	85	33	1	373	118
		100.0	26.4	49.4	17.3	6.7	0.2	75.8	24.0
	矢上	92	26	53	9	3	1	79	12
		100.0	28.3	57.6	9.8	3.3	1.1	85.9	13.0
	信濃町	78	15	35	14	12	2	50	26
		100.0	19.2	44.9	17.9	15.4	2.6	64.1	33.3
	湘南藤沢	214	76	87	36	13	2	163	49
		100.0	35.5	40.7	16.8	6.1	0.9	76.2	22.9
性別	男性	858	213	384	169	86	6	597	255
		100.0	24.8	44.8	19.7	10.0	0.7	69.6	29.7
	女性	567	161	269	95	37	5	430	132
		100.0	28.4	47.4	16.8	6.5	0.9	75.8	23.3

問39. あなたの学部を選んだ動機のうち最も重要だったのは何ですか。（1つだけ）

回答　　1. 専門分野に興味があったから　2. 就職に有利だと思ったから　3. 志望する職業を見据えて
選択肢:　4. 消去法的に　5. 入試や偏差値の都合で　6. ただなんとなく　7. 親に強く薦められて　8. その他

		全体	1. 専門分野に興味	2. 就職に有利	3. 職業を見据えて	4. 消去法的に	5. 入試や偏差値の都合	6. ただなんとなく	7. 親に薦められて	8. その他	NA
合計		1425	634	76	249	80	130	59	12	48	137
		100.0	44.5	5.3	17.5	5.6	9.1	4.1	0.8	3.4	9.6
学部	文	215	132	0	23	7	22	4	1	10	16
		100.0	61.4	0.0	10.7	3.3	10.2	1.9	0.5	4.7	7.4
	経済	209	50	20	30	27	29	17	5	8	23
		100.0	23.9	9.6	14.4	12.9	13.9	8.1	2.4	3.8	11.0
	法・法	160	49	15	47	11	12	11	2	1	12
		100.0	30.6	9.4	29.4	6.9	7.5	6.9	1.3	0.6	7.5
	法・政	130	57	5	32	8	5	7	0	6	10
		100.0	43.8	3.8	24.6	6.2	3.8	5.4	0.0	4.6	7.7
	商	180	66	9	27	8	28	11	2	5	24
		100.0	36.7	5.0	15.0	4.4	15.6	6.1	1.1	2.8	13.3
	医	94	40	3	33	0	0	3	1	1	13
		100.0	42.6	3.2	35.1	0.0	0.0	3.2	1.1	1.1	13.8
	理工	216	134	17	23	11	9	3	0	1	18
		100.0	62.0	7.9	10.6	5.1	4.2	1.4	0.0	0.5	8.3
	環境情報	85	49	2	6	5	11	0	0	6	6
		100.0	57.6	2.4	7.1	5.9	12.9	0.0	0.0	7.1	7.1
	総合政策	75	28	0	9	3	12	3	1	10	9
		100.0	37.3	0.0	12.0	4.0	16.0	4.0	1.3	13.3	12.0
	看護医療	59	28	5	19	0	1	0	0	0	6
		100.0	47.5	8.5	32.2	0.0	1.7	0.0	0.0	0.0	10.2
学年	1年生	386	160	24	83	20	35	11	4	17	32
		100.0	41.5	6.2	21.5	5.2	9.1	2.8	1.0	4.4	8.3
	2年生	350	164	25	52	18	29	14	3	11	34
		100.0	46.9	7.1	14.9	5.1	8.3	4.0	0.9	3.1	9.7
	3年生	298	125	18	52	24	27	12	2	9	29
		100.0	41.9	6.0	17.4	8.1	9.1	4.0	0.7	3.0	9.7
	4年生	363	175	8	55	18	38	19	2	11	37
		100.0	48.2	2.2	15.2	5.0	10.5	5.2	0.6	3.0	10.2
	5・6年生	28	10	1	7	0	1	3	1	0	5
		100.0	35.7	3.6	25.0	0.0	3.6	10.7	3.6	0.0	17.9
在籍キャンパス	日吉	549	225	43	104	34	49	23	6	15	50
		100.0	41.0	7.8	18.9	6.2	8.9	4.2	1.1	2.7	9.1
	三田	492	205	19	84	36	55	28	4	16	45
		100.0	41.7	3.9	17.1	7.3	11.2	5.7	0.8	3.3	9.1
	矢上	92	67	4	7	2	2	2	0	0	8
		100.0	72.8	4.3	7.6	2.2	2.2	2.2	0.0	0.0	8.7
	信濃町	78	34	3	22	0	0	3	1	1	14
		100.0	43.6	3.8	28.2	0.0	0.0	3.8	1.3	1.3	17.9
	湘南藤沢	214	103	7	32	8	24	3	1	16	20
		100.0	48.1	3.3	15.0	3.7	11.2	1.4	0.5	7.5	9.3
性別	男性	858	360	51	135	65	77	43	5	31	91
		100.0	42.0	5.9	15.7	7.6	9.0	5.0	0.6	3.6	10.6
	女性	567	274	25	114	15	53	16	7	17	46
		100.0	48.3	4.4	20.1	2.6	9.3	2.8	1.2	3.0	8.1

問40. あなたのいま所属する学部に入って良かったと思いますか。（1つだけ）

回答選択肢:　1. 良かった　2. どちらかといえば良かった　3. どちらかといえば良くなかった　4. 良くなかった

		全体	1. 良かった	2. まあ良かった	3. あまり良くなかった	4. 良くなかった	NA	良かった計	良くなかった計
合計		1425	839	432	103	44	7	1271	147
		100.0	58.9	30.3	7.2	3.1	0.5	89.2	10.3
学部	文	215	128	60	20	6	1	188	26
		100.0	59.5	27.9	9.3	2.8	0.5	87.4	12.1
	経済	209	101	79	25	3	1	180	28
		100.0	48.3	37.8	12.0	1.4	0.5	86.1	13.4
	法・法	160	97	45	9	9	0	142	18
		100.0	60.6	28.1	5.6	5.6	0.0	88.8	11.3
	法・政	130	80	38	8	3	1	118	11
		100.0	61.5	29.2	6.2	2.3	0.8	90.8	8.5
	商	180	102	66	6	6	0	168	12
		100.0	56.7	36.7	3.3	3.3	0.0	93.3	6.7
	医	94	67	19	6	1	1	86	7
		100.0	71.3	20.2	6.4	1.1	1.1	91.5	7.4
	理工	216	111	76	18	10	1	187	28
		100.0	51.4	35.2	8.3	4.6	0.5	86.6	13.0
	環境情報	85	58	18	6	2	1	76	8
		100.0	68.2	21.2	7.1	2.4	1.2	89.4	9.4
	総合政策	75	55	15	2	2	1	70	4
		100.0	73.3	20.0	2.7	2.7	1.3	93.3	5.3
	看護医療	59	40	15	2	2	0	55	4
		100.0	67.8	25.4	3.4	3.4	0.0	93.2	6.8
学年	1年生	386	209	132	26	14	5	341	40
		100.0	54.1	34.2	6.7	3.6	1.3	88.3	10.4
	2年生	350	205	106	26	12	1	311	38
		100.0	58.6	30.3	7.4	3.4	0.3	88.9	10.9
	3年生	298	172	93	26	7	0	265	33
		100.0	57.7	31.2	8.7	2.3	0.0	88.9	11.1
	4年生	363	235	94	23	10	1	329	33
		100.0	64.7	25.9	6.3	2.8	0.3	90.6	9.1
	5・6年生	28	18	7	2	1	0	25	3
		100.0	64.3	25.0	7.1	3.6	0.0	89.3	10.7
在籍キャンパス	日吉	549	287	195	39	24	4	482	63
		100.0	52.3	35.5	7.1	4.4	0.7	87.8	11.5
	三田	492	292	147	42	11	0	439	53
		100.0	59.3	29.9	8.5	2.2	0.0	89.2	10.8
	矢上	92	57	27	6	2	0	84	8
		100.0	62.0	29.3	6.5	2.2	0.0	91.3	8.7
	信濃町	78	54	15	6	2	1	69	8
		100.0	69.2	19.2	7.7	2.6	1.3	88.5	10.3
	湘南藤沢	214	149	48	10	5	2	197	15
		100.0	69.6	22.4	4.7	2.3	0.9	92.1	7.0
性別	男性	858	476	278	66	33	5	754	99
		100.0	55.5	32.4	7.7	3.8	0.6	87.9	11.5
	女性	567	363	154	37	11	2	517	48
		100.0	64.0	27.2	6.5	1.9	0.4	91.2	8.5

※日吉の学生は、以下の質問をとばして、問45に進んでください。
※1年生は問52に進んでください。

問41. あなたは所属している専攻、学科やゼミに満足していますか。（1つだけ）

回答選択肢:　1. 満足している　2. どちらかといえば満足している　3. どちらかといえば満足していない　4. 満足していない

		全体	1.満足している	2.まあ満足している	3.あまり満足していない	4.満足していない	NA	満足している計	満足していない計
合計		806	361	273	106	46	20	634	152
		100.0	44.8	33.9	13.2	5.7	2.5	78.7	18.9
学部	文	161	73	57	23	7	1	130	30
		100.0	45.3	35.4	14.3	4.3	0.6	80.7	18.6
	経済	102	32	35	24	8	3	67	32
		100.0	31.4	34.3	23.5	7.8	2.9	65.7	31.4
	法・法	82	44	21	10	7	0	65	17
		100.0	53.7	25.6	12.2	8.5	0.0	79.3	20.7
	法・政	56	27	19	4	5	1	46	9
		100.0	48.2	33.9	7.1	8.9	1.8	82.1	16.1
	商	91	39	29	14	5	4	68	19
		100.0	42.9	31.9	15.4	5.5	4.4	74.7	20.9
	医	73	35	21	6	4	7	56	10
		100.0	47.9	28.8	8.2	5.5	9.6	76.7	13.7
	理工	91	46	32	9	3	1	78	12
		100.0	50.5	35.2	9.9	3.3	1.1	85.7	13.2
	環境情報	61	25	22	10	3	1	47	13
		100.0	41.0	36.1	16.4	4.9	1.6	77.0	21.3
	総合政策	46	22	17	4	2	1	39	6
		100.0	47.8	37.0	8.7	4.3	2.2	84.8	13.0
	看護医療	42	18	19	2	2	1	37	4
		100.0	42.9	45.2	4.8	4.8	2.4	88.1	9.5
学年	1年生	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2年生	120	60	42	14	2	2	102	16
		100.0	50.0	35.0	11.7	1.7	1.7	85.0	13.3
	3年生	297	133	97	41	20	6	230	61
		100.0	44.8	32.7	13.8	6.7	2.0	77.4	20.5
	4年生	361	156	127	48	22	8	283	70
		100.0	43.2	35.2	13.3	6.1	2.2	78.4	19.4
	5・6年生	28	12	7	3	2	4	19	5
		100.0	42.9	25.0	10.7	7.1	14.3	67.9	17.9
在籍キャンパス	日吉	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	三田	492	214	162	75	32	9	376	107
		100.0	43.5	32.9	15.2	6.5	1.8	76.4	21.7
	矢上	92	47	32	9	3	1	79	12
		100.0	51.1	34.8	9.8	3.3	1.1	85.9	13.0
	信濃町	78	37	23	6	5	7	60	11
		100.0	47.4	29.5	7.7	6.4	9.0	76.9	14.1
	湘南藤沢	144	63	56	16	6	3	119	22
		100.0	43.8	38.9	11.1	4.2	2.1	82.6	15.3
性別	男性	456	192	152	66	32	14	344	98
		100.0	42.1	33.3	14.5	7.0	3.1	75.4	21.5
	女性	350	169	121	40	14	6	290	54
		100.0	48.3	34.6	11.4	4.0	1.7	82.9	15.4

問42. あなたは希望の専攻や学科、ゼミに入ることができましたか。（1つだけ）

回答　　1. はい　2. どちらかといえば、はい　3. どちらかといえば、いいえ　4. いいえ
選択肢:　5. もともと希望しなかった

		全体	1. はい	2. ややはい	3. ややいいえ	4. いいえ	5. 希望しなかった	NA	はい計	いいえ計
合計		806	575	86	30	48	48	19	661	78
		100.0	71.3	10.7	3.7	6.0	6.0	2.4	82.0	9.7
学部	文	161	135	16	3	5	0	2	151	8
		100.0	83.9	9.9	1.9	3.1	0.0	1.2	93.8	5.0
	経済	102	55	6	10	16	13	2	61	26
		100.0	53.9	5.9	9.8	15.7	12.7	2.0	59.8	25.5
	法・法	82	65	11	2	1	3	0	76	3
		100.0	79.3	13.4	2.4	1.2	3.7	0.0	92.7	3.7
	法・政	56	38	4	3	4	6	1	42	7
		100.0	67.9	7.1	5.4	7.1	10.7	1.8	75.0	12.5
	商	91	50	11	3	12	13	2	61	15
		100.0	54.9	12.1	3.3	13.2	14.3	2.2	67.0	16.5
	医	73	51	7	0	2	5	8	58	2
		100.0	69.9	9.6	0.0	2.7	6.8	11.0	79.5	2.7
	理工	91	82	6	0	2	0	1	88	2
		100.0	90.1	6.6	0.0	2.2	0.0	1.1	96.7	2.2
	環境情報	61	42	6	5	3	4	1	48	8
		100.0	68.9	9.8	8.2	4.9	6.6	1.6	78.7	13.1
	総合政策	46	25	13	3	2	2	1	38	5
		100.0	54.3	28.3	6.5	4.3	4.3	2.2	82.6	10.9
	看護医療	42	32	5	1	1	2	1	37	2
		100.0	76.2	11.9	2.4	2.4	4.8	2.4	88.1	4.8
学年	1年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2年生	120	94	14	3	4	2	3	108	7
		100.0	78.3	11.7	2.5	3.3	1.7	2.5	90.0	5.8
	3年生	297	213	26	14	21	18	5	239	35
		100.0	71.7	8.8	4.7	7.1	6.1	1.7	80.5	11.8
	4年生	361	252	41	13	22	25	8	293	35
		100.0	69.8	11.4	3.6	6.1	6.9	2.2	81.2	9.7
	5・6年生	28	16	5	0	1	3	3	21	1
		100.0	57.1	17.9	0.0	3.6	10.7	10.7	75.0	3.6
在籍キャンパス	日吉	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	三田	492	342	49	21	38	35	7	391	59
		100.0	69.5	10.0	4.3	7.7	7.1	1.4	79.5	12.0
	矢上	92	83	6	0	2	0	1	89	2
		100.0	90.2	6.5	0.0	2.2	0.0	1.1	96.7	2.2
	信濃町	78	54	7	1	2	6	8	61	3
		100.0	69.2	9.0	1.3	2.6	7.7	10.3	78.2	3.8
	湘南藤沢	144	96	24	8	6	7	3	120	14
		100.0	66.7	16.7	5.6	4.2	4.9	2.1	83.3	9.7
性別	男性	456	297	50	22	38	34	15	347	60
		100.0	65.1	11.0	4.8	8.3	7.5	3.3	76.1	13.2
	女性	350	278	36	8	10	14	4	314	18
		100.0	79.4	10.3	2.3	2.9	4.0	1.1	89.7	5.1

問43. 専攻や学科、ゼミは自分にあっていましたか。（1つだけ）

回答選択肢:　1. はい　2. どちらかといえば、はい　3. どちらかといえば、いいえ　4. いいえ

		全体	1. はい	2. ややはい	3. ややいいえ	4. いいえ	NA	はい計	いいえ計
合計		806	360	284	77	50	35	644	127
		100.0	44.7	35.2	9.6	6.2	4.3	79.9	15.8
学部	文	161	78	61	14	7	1	139	21
		100.0	48.4	37.9	8.7	4.3	0.6	86.3	13.0
	経済	102	28	40	15	9	10	68	24
		100.0	27.5	39.2	14.7	8.8	9.8	66.7	23.5
	法・法	82	40	29	7	5	1	69	12
		100.0	48.8	35.4	8.5	6.1	1.2	84.1	14.6
	法・政	56	27	19	4	5	1	46	9
		100.0	48.2	33.9	7.1	8.9	1.8	82.1	16.1
	商	91	40	27	8	11	5	67	19
		100.0	44.0	29.7	8.8	12.1	5.5	73.6	20.9
	医	73	31	22	3	5	12	53	8
		100.0	42.5	30.1	4.1	6.8	16.4	72.6	11.0
	理工	91	48	30	8	4	1	78	12
		100.0	52.7	33.0	8.8	4.4	1.1	85.7	13.2
	環境情報	61	27	22	9	2	1	49	11
		100.0	44.3	36.1	14.8	3.3	1.6	80.3	18.0
	総合政策	46	22	12	8	2	2	34	10
		100.0	47.8	26.1	17.4	4.3	4.3	73.9	21.7
	看護医療	42	19	21	1	0	1	40	1
		100.0	45.2	50.0	2.4	0.0	2.4	95.2	2.4
学年	1年生	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2年生	120	52	50	9	5	4	102	14
		100.0	43.3	41.7	7.5	4.2	3.3	85.0	11.7
	3年生	297	125	103	43	15	11	228	58
		100.0	42.1	34.7	14.5	5.1	3.7	76.8	19.5
	4年生	361	169	124	25	28	15	293	53
		100.0	46.8	34.3	6.9	7.8	4.2	81.2	14.7
	5・6年生	28	14	7	0	2	5	21	2
		100.0	50.0	25.0	0.0	7.1	17.9	75.0	7.1
在籍キャンパス	日吉	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	三田	492	212	177	48	37	18	389	85
		100.0	43.1	36.0	9.8	7.5	3.7	79.1	17.3
	矢上	92	49	30	8	4	1	79	12
		100.0	53.3	32.6	8.7	4.3	1.1	85.9	13.0
	信濃町	78	33	24	4	5	12	57	9
		100.0	42.3	30.8	5.1	6.4	15.4	73.1	11.5
	湘南藤沢	144	66	53	17	4	4	119	21
		100.0	45.8	36.8	11.8	2.8	2.8	82.6	14.6
性別	男性	456	191	154	47	39	25	345	86
		100.0	41.9	33.8	10.3	8.6	5.5	75.7	18.9
	女性	350	169	130	30	11	10	299	41
		100.0	48.3	37.1	8.6	3.1	2.9	85.4	11.7

問44. 同一のゼミや研究会に2年間在籍することはどう思いますか。（1つだけ）

回答選択肢:　1. 適当である　2. 長すぎる　3. 短すぎる　4. 自分の学部の在籍期間は2年間ではない

		全体	1. 適当である	2. 長すぎる	3. 短すぎる	4. 在籍2年間ではない	NA
合計		806	469	60	42	194	41
		100.0	58.2	7.4	5.2	24.1	5.1
学部	文	161	122	11	7	17	4
		100.0	75.8	6.8	4.3	10.6	2.5
	経済	102	75	8	9	2	8
		100.0	73.5	7.8	8.8	2.0	7.8
	法・法	82	66	11	4	0	1
		100.0	80.5	13.4	4.9	0.0	1.2
	法・政	56	43	3	8	0	2
		100.0	76.8	5.4	14.3	0.0	3.6
	商	91	67	16	5	1	2
		100.0	73.6	17.6	5.5	1.1	2.2
	医	73	7	2	0	48	16
		100.0	9.6	2.7	0.0	65.8	21.9
	理工	91	35	3	2	50	1
		100.0	38.5	3.3	2.2	54.9	1.1
	環境情報	61	30	0	2	26	3
		100.0	49.2	0.0	3.3	42.6	4.9
	総合政策	46	14	4	4	22	2
		100.0	30.4	8.7	8.7	47.8	4.3
	看護医療	42.0	9.0	2.0	1.0	28.0	2.0
		100.0	21.4	4.8	2.4	66.7	4.8
学年	1年生	0	0	0	0	0	0
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2年生	120	59	8	5	39	9
		100.0	49.2	6.7	4.2	32.5	7.5
	3年生	297	194	20	11	62	10
		100.0	65.3	6.7	3.7	20.9	3.4
	4年生	361	208	32	26	78	17
		100.0	57.6	8.9	7.2	21.6	4.7
	5・6年生	28	8	0	0	15	5
		100.0	28.6	0.0	0.0	53.6	17.9
在籍キャンパス	日吉	0	0	0	0	0	0
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	三田	492	374	49	33	19	17
		100.0	76.0	10.0	6.7	3.9	3.5
	矢上	92	36	3	2	50	1
		100.0	39.1	3.3	2.2	54.3	1.1
	信濃町	78	9	2	0	51	16
		100.0	11.5	2.6	0.0	65.4	20.5
	湘南藤沢	144	50	6	7	74	7
		100.0	34.7	4.2	4.9	51.4	4.9
性別	男性	456	259	34	28	108	27
		100.0	56.8	7.5	6.1	23.7	5.9
	女性	350	210	26	14	86	14
		100.0	60.0	7.4	4.0	24.6	4.0

Ⅳ　成績評価について

問45. 大学の授業の成績評価の基準は示されていますか。（1つだけ）

回答　　1. ほとんどの授業で示されている　2. どちらかといえば示されている授業が多い
選択肢：　3. どちらかといえば示されていない授業が多い　　4. ほとんどの授業で示されていない

		全体	1. 示されている	2. まあ示されている	3. あまり示されていない	4. 示されていない	NA	示されている計	示されていない計
合計		1039	258	407	271	84	19	665	355
		100.0	24.8	39.2	26.1	8.1	1.8	64.0	34.2
学部	文	161	46	64	46	5	0	110	51
		100.0	28.6	39.8	28.6	3.1	0.0	68.3	31.7
	経済	155	28	72	43	9	3	100	52
		100.0	18.1	46.5	27.7	5.8	1.9	64.5	33.5
	法・法	126	13	48	45	16	4	61	61
		100.0	10.3	38.1	35.7	12.7	3.2	48.4	48.4
	法・政	92	14	36	31	11	0	50	42
		100.0	15.2	39.1	33.7	12.0	0.0	54.3	45.7
	商	130	31	61	26	11	1	92	37
		100.0	23.8	46.9	20.0	8.5	0.8	70.8	28.5
	医	74	16	19	20	18	1	35	38
		100.0	21.6	25.7	27.0	24.3	1.4	47.3	51.4
	理工	151	50	49	34	12	6	99	46
		100.0	33.1	32.5	22.5	7.9	4.0	65.6	30.5
	環境情報	61	23	23	13	1	1	46	14
		100.0	37.7	37.7	21.3	1.6	1.6	75.4	23.0
	総合政策	46	16	18	10	0	2	34	10
		100.0	34.8	39.1	21.7	0.0	4.3	73.9	21.7
	看護医療	42	21	17	3	1	0	38	4
		100.0	50.0	40.5	7.1	2.4	0.0	90.5	9.5
学年	1年生	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2年生	350	90	128	102	19	11	218	121
		100.0	25.7	36.6	29.1	5.4	3.1	62.3	34.6
	3年生	298	75	121	69	31	2	196	100
		100.0	25.2	40.6	23.2	10.4	0.7	65.8	33.6
	4年生	363	87	153	91	26	6	240	117
		100.0	24.0	42.1	25.1	7.2	1.7	66.1	32.2
	5・6年生	28	6	5	9	8	0	11	17
		100.0	21.4	17.9	32.1	28.6	0.0	39.3	60.7
在籍キャンパス	日吉	233	53	81	73	17	9	134	90
		100.0	22.7	34.8	31.3	7.3	3.9	57.5	38.6
	三田	492	99	220	131	38	4	319	169
		100.0	20.1	44.7	26.6	7.7	0.8	64.8	34.3
	矢上	92	30	30	21	9	2	60	30
		100.0	32.6	32.6	22.8	9.8	2.2	65.2	32.6
	信濃町	78	19	19	20	19	1	38	39
		100.0	24.4	24.4	25.6	24.4	1.3	48.7	50.0
	湘南藤沢	144	57	57	26	1	3	114	27
		100.0	39.6	39.6	18.1	0.7	2.1	79.2	18.8
性別	男性	622	147	237	160	63	15	384	223
		100.0	23.6	38.1	25.7	10.1	2.4	61.7	35.9
	女性	417	111	170	111	21	4	281	132
		100.0	26.6	40.8	26.6	5.0	1.0	67.4	31.7

問46. 成績の基準が明確な場合、その基準と結果は合致していると思いますか。（1つだけ）

回答選択肢:　1. ほとんど合致している　2. どちらかといえば合致している　3. どちらかといえば合致していない　4. ほとんど合致していない

		全体	1. ほとんど合致	2. まあ合致	3. あまり合致せず	4. ほとんど合致せず	NA	合致している計	合致していない計
合計		1039	303	550	131	25	30	853	156
		100.0	29.2	52.9	12.6	2.4	2.9	82.1	15.0
学部	文	161	67	76	17	0	1	143	17
		100.0	41.6	47.2	10.6	0.0	0.6	88.8	10.6
	経済	155	40	86	21	5	3	126	26
		100.0	25.8	55.5	13.5	3.2	1.9	81.3	16.8
	法・法	126	34	66	17	4	5	100	21
		100.0	27.0	52.4	13.5	3.2	4.0	79.4	16.7
	法・政	92	21	53	14	1	3	74	15
		100.0	22.8	57.6	15.2	1.1	3.3	80.4	16.3
	商	130	46	67	12	3	2	113	15
		100.0	35.4	51.5	9.2	2.3	1.5	86.9	11.5
	医	74	10	45	10	4	5	55	14
		100.0	13.5	60.8	13.5	5.4	6.8	74.3	18.9
	理工	151	39	78	23	5	6	117	28
		100.0	25.8	51.7	15.2	3.3	4.0	77.5	18.5
	環境情報	61	23	33	3	1	1	56	4
		100.0	37.7	54.1	4.9	1.6	1.6	91.8	6.6
	総合政策	46	10	25	6	1	4	35	7
		100.0	21.7	54.3	13.0	2.2	8.7	76.1	15.2
	看護医療	42	13	21	7	1	0	34	8
		100.0	31.0	50.0	16.7	2.4	0.0	81.0	19.0
学年	1年生	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2年生	350	109	177	48	4	12	286	52
		100.0	31.1	50.6	13.7	1.1	3.4	81.7	14.9
	3年生	298	87	152	41	9	9	239	50
		100.0	29.2	51.0	13.8	3.0	3.0	80.2	16.8
	4年生	363	103	203	38	11	8	306	49
		100.0	28.4	55.9	10.5	3.0	2.2	84.3	13.5
	5・6年生	28	4	18	4	1	1	22	5
		100.0	14.3	64.3	14.3	3.6	3.6	78.6	17.9
在籍キャンパス	日吉	233	63	129	28	4	9	192	32
		100.0	27.0	55.4	12.0	1.7	3.9	82.4	13.7
	三田	492	156	253	65	10	8	409	75
		100.0	31.7	51.4	13.2	2.0	1.6	83.1	15.2
	矢上	92	28	45	12	4	3	73	16
		100.0	30.4	48.9	13.0	4.3	3.3	79.3	17.4
	信濃町	78	11	46	11	5	5	57	16
		100.0	14.1	59.0	14.1	6.4	6.4	73.1	20.5
	湘南藤沢	144	45	77	15	2	5	122	17
		100.0	31.3	53.5	10.4	1.4	3.5	84.7	11.8
性別	男性	622	172	318	90	20	22	490	110
		100.0	27.7	51.1	14.5	3.2	3.5	78.8	17.7
	女性	417	131	232	41	5	8	363	46
		100.0	31.4	55.6	9.8	1.2	1.9	87.1	11.0

問47. 成績評価は、プロセスを重視して良い成績をつける方法と、結果重視で成績をつける方法とどちらが良いと思いますか。（1つだけ）

回答　　1. プロセスを重視が良い　　2. どちらかといえばプロセスを重視が良い
選択肢:　3. どちらかといえば結果重視が良い　　4. 結果重視が良い

		全体	1. プロセス重視	2. ややプロセス重視	3. やや結果重視	4. 結果重視	NA	プロセス重視が良い計	結果重視が良い計
合計		1039	251	373	265	129	21	624	394
		100.0	24.2	35.9	25.5	12.4	2.0	60.1	37.9
学部	文	161	51	71	27	12	0	122	39
		100.0	31.7	44.1	16.8	7.5	0.0	75.8	24.2
	経済	155	35	64	37	17	2	99	54
		100.0	22.6	41.3	23.9	11.0	1.3	63.9	34.8
	法・法	126	33	35	33	21	4	68	54
		100.0	26.2	27.8	26.2	16.7	3.2	54.0	42.9
	法・政	92	17	26	39	10	0	43	49
		100.0	18.5	28.3	42.4	10.9	0.0	46.7	53.3
	商	130	29	57	30	13	1	86	43
		100.0	22.3	43.8	23.1	10.0	0.8	66.2	33.1
	医	74	7	11	30	21	5	18	51
		100.0	9.5	14.9	40.5	28.4	6.8	24.3	68.9
	理工	151	44	49	31	22	5	93	53
		100.0	29.1	32.5	20.5	14.6	3.3	61.6	35.1
	環境情報	61	13	27	16	4	1	40	20
		100.0	21.3	44.3	26.2	6.6	1.6	65.6	32.8
	総合政策	46	7	16	13	7	3	23	20
		100.0	15.2	34.8	28.3	15.2	6.5	50.0	43.5
	看護医療	42	14	17	9	2	0	31	11
		100.0	33.3	40.5	21.4	4.8	0.0	73.8	26.2
学年	1年生	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2年生	350	102	126	76	37	9	228	113
		100.0	29.1	36.0	21.7	10.6	2.6	65.1	32.3
	3年生	298	78	109	75	33	3	187	108
		100.0	26.2	36.6	25.2	11.1	1.0	62.8	36.2
	4年生	363	68	133	103	50	9	201	153
		100.0	18.7	36.6	28.4	13.8	2.5	55.4	42.1
	5・6年生	28	3	5	11	9	0	8	20
		100.0	10.7	17.9	39.3	32.1	0.0	28.6	71.4
在籍キャンパス	日吉	233	66	81	54	25	7	147	79
		100.0	28.3	34.8	23.2	10.7	3.0	63.1	33.9
	三田	492	123	187	127	52	3	310	179
		100.0	25.0	38.0	25.8	10.6	0.6	63.0	36.4
	矢上	92	21	35	15	19	2	56	34
		100.0	22.8	38.0	16.3	20.7	2.2	60.9	37.0
	信濃町	78	10	12	30	21	5	22	51
		100.0	12.8	15.4	38.5	26.9	6.4	28.2	65.4
	湘南藤沢	144	31	58	39	12	4	89	51
		100.0	21.5	40.3	27.1	8.3	2.8	61.8	35.4
性別	男性	622	133	198	168	107	16	331	275
		100.0	21.4	31.8	27.0	17.2	2.6	53.2	44.2
	女性	417	118	175	97	22	5	293	119
		100.0	28.3	42.0	23.3	5.3	1.2	70.3	28.5

問48. 授業ごとに成績評価の方法にばらつきがあることについてどう思いますか。（1つだけ）

回答選択肢：　1. 問題ない　2. 問題はあるが仕方がない　3. 不公平だと思う　4. とても不公平だと思う

		全体	1. 問題ない	2. 仕方がない	3. 不公平	4. とても不公平	NA
合計		1039	231	463	194	135	16
		100.0	22.2	44.6	18.7	13.0	1.5
学部	文	161	46	75	27	13	0
		100.0	28.6	46.6	16.8	8.1	0.0
	経済	155	20	61	36	36	2
		100.0	12.9	39.4	23.2	23.2	1.3
	法・法	126	24	53	30	15	4
		100.0	19.0	42.1	23.8	11.9	3.2
	法・政	92	17	42	17	16	0
		100.0	18.5	45.7	18.5	17.4	0.0
	商	130	31	51	32	15	1
		100.0	23.8	39.2	24.6	11.5	0.8
	医	74	14	41	12	6	1
		100.0	18.9	55.4	16.2	8.1	1.4
	理工	151	32	67	25	22	5
		100.0	21.2	44.4	16.6	14.6	3.3
	環境情報	61	23	26	8	3	1
		100.0	37.7	42.6	13.1	4.9	1.6
	総合政策	46	16	20	3	5	2
		100.0	34.8	43.5	6.5	10.9	4.3
	看護医療	42	8	26	4	4	0
		100.0	19.0	61.9	9.5	9.5	0.0
学年	1年生	0	0	0	0	0	0
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2年生	350	66	140	83	52	9
		100.0	18.9	40.0	23.7	14.9	2.6
	3年生	298	64	134	55	43	2
		100.0	21.5	45.0	18.5	14.4	0.7
	4年生	363	95	173	51	39	5
		100.0	26.2	47.7	14.0	10.7	1.4
	5・6年生	28	6	16	5	1	0
		100.0	21.4	57.1	17.9	3.6	0.0
在籍キャンパス	日吉	233	33	91	60	42	7
		100.0	14.2	39.1	25.8	18.0	3.0
	三田	492	113	219	95	62	3
		100.0	23.0	44.5	19.3	12.6	0.6
	矢上	92	24	41	12	13	2
		100.0	26.1	44.6	13.0	14.1	2.2
	信濃町	78	14	43	12	8	1
		100.0	17.9	55.1	15.4	10.3	1.3
	湘南藤沢	144	47	69	15	10	3
		100.0	32.6	47.9	10.4	6.9	2.1
性別	男性	622	136	261	112	100	13
		100.0	21.9	42.0	18.0	16.1	2.1
	女性	417	95	202	82	35	3
		100.0	22.8	48.4	19.7	8.4	0.7

問49. A・B・Cの人数割合をはじめから決めておく相対評価と、一定の基準に従って割合を決めない絶対評価のどちらが好ましいと思いますか。（1つだけ）

回答選択肢:　1. 相対評価　2. どちらかといえば相対評価　3. どちらかといえば絶対評価　4. 絶対評価

		全体	1. 相対評価	2. やや相対評価	3. やや絶対評価	4. 絶対評価	NA	相対評価計	絶対評価
合計		1039	110	101	316	494	18	211	810
		100.0	10.6	9.7	30.4	47.5	1.7	20.3	78.0
学部	文	161	6	8	48	99	0	14	147
		100.0	3.7	5.0	29.8	61.5	0.0	8.7	91.3
	経済	155	22	18	40	73	2	40	113
		100.0	14.2	11.6	25.8	47.1	1.3	25.8	72.9
	法・法	126	13	11	33	65	4	24	98
		100.0	10.3	8.7	26.2	51.6	3.2	19.0	77.8
	法・政	92	9	12	40	31	0	21	71
		100.0	9.8	13.0	43.5	33.7	0.0	22.8	77.2
	商	130	13	14	34	67	2	27	101
		100.0	10.0	10.8	26.2	51.5	1.5	20.8	77.7
	医	74	11	9	22	30	2	20	52
		100.0	14.9	12.2	29.7	40.5	2.7	27.0	70.3
	理工	151	19	12	45	71	4	31	116
		100.0	12.6	7.9	29.8	47.0	2.6	20.5	76.8
	環境情報	61	8	6	20	26	1	14	46
		100.0	13.1	9.8	32.8	42.6	1.6	23.0	75.4
	総合政策	46	4	7	18	14	3	11	32
		100.0	8.7	15.2	39.1	30.4	6.5	23.9	69.6
	看護医療	42	5	4	15	18	0	9	33
		100.0	11.9	9.5	35.7	42.9	0.0	21.4	78.6
学年	1年生	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2年生	350	34	34	104	170	8	68	274
		100.0	9.7	9.7	29.7	48.6	2.3	19.4	78.3
	3年生	298	37	35	91	132	3	72	223
		100.0	12.4	11.7	30.5	44.3	1.0	24.2	74.8
	4年生	363	36	28	114	178	7	64	292
		100.0	9.9	7.7	31.4	49.0	1.9	17.6	80.4
	5・6年生	28	3	4	7	14	0	7	21
		100.0	10.7	14.3	25.0	50.0	0.0	25.0	75.0
在籍キャンパス	日吉	233	24	23	67	113	6	47	180
		100.0	10.3	9.9	28.8	48.5	2.6	20.2	77.3
	三田	492	47	44	150	247	4	91	397
		100.0	9.6	8.9	30.5	50.2	0.8	18.5	80.7
	矢上	92	11	8	25	46	2	19	71
		100.0	12.0	8.7	27.2	50.0	2.2	20.7	77.2
	信濃町	78	12	9	23	32	2	21	55
		100.0	15.4	11.5	29.5	41.0	2.6	26.9	70.5
	湘南藤沢	144	16	17	51	56	4	33	107
		100.0	11.1	11.8	35.4	38.9	2.8	22.9	74.3
性別	男性	622	74	66	175	294	13	140	469
		100.0	11.9	10.6	28.1	47.3	2.1	22.5	75.4
	女性	417	36	35	141	200	5	71	341
		100.0	8.6	8.4	33.8	48.0	1.2	17.0	81.8

問50. これまで履修した科目の成績評価は納得がいきますか。（1つだけ）

回答　　1. 納得のいく科目がほとんどである　2. どちらかといえば納得のいく科目が多い
選択肢:　3. 納得のいく科目といかない科目がほぼ半数　4. どちらかといえば納得のいかない科目が多い
5. 納得のいかない科目がほとんどである

		全体	1. 納得がいく	2. まあ納得がいく	3. ほぼ半数	4. あまり納得がいかない	5. 納得がいかない	NA	納得がいく計	納得がいかない計
合計		1039	248	483	202	73	17	16	731	90
		100.0	23.9	46.5	19.4	7.0	1.6	1.5	70.4	8.7
学部	文	161	62	69	23	6	1	0	131	7
		100.0	38.5	42.9	14.3	3.7	0.6	0.0	81.4	4.3
	経済	155	23	73	31	20	6	2	96	26
		100.0	14.8	47.1	20.0	12.9	3.9	1.3	61.9	16.8
	法・法	126	27	59	24	11	1	4	86	12
		100.0	21.4	46.8	19.0	8.7	0.8	3.2	68.3	9.5
	法・政	92	24	37	24	6	1	0	61	7
		100.0	26.1	40.2	26.1	6.5	1.1	0.0	66.3	7.6
	商	130	33	57	29	7	2	2	90	9
		100.0	25.4	43.8	22.3	5.4	1.5	1.5	69.2	6.9
	医	74	11	40	15	5	2	1	51	7
		100.0	14.9	54.1	20.3	6.8	2.7	1.4	68.9	9.5
	理工	151	34	72	30	8	3	4	106	11
		100.0	22.5	47.7	19.9	5.3	2.0	2.6	70.2	7.3
	環境情報	61	20	30	8	2	0	1	50	2
		100.0	32.8	49.2	13.1	3.3	0.0	1.6	82.0	3.3
	総合政策	46	6	24	9	4	1	2	30	5
		100.0	13.0	52.2	19.6	8.7	2.2	4.3	65.2	10.9
	看護医療	42	8	22	8	4	0	0	30	4
		100.0	19.0	52.4	19.0	9.5	0.0	0.0	71.4	9.5
学年	1年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2年生	350	94	156	66	20	6	8	250	26
		100.0	26.9	44.6	18.9	5.7	1.7	2.3	71.4	7.4
	3年生	298	67	133	59	33	4	2	200	37
		100.0	22.5	44.6	19.8	11.1	1.3	0.7	67.1	12.4
	4年生	363	84	181	67	19	6	6	265	25
		100.0	23.1	49.9	18.5	5.2	1.7	1.7	73.0	6.9
	5・6年生	28	3	13	10	1	1	0	16	2
		100.0	10.7	46.4	35.7	3.6	3.6	0.0	57.1	7.1
在籍キャンパス	日吉	233	54	101	49	18	5	6	155	23
		100.0	23.2	43.3	21.0	7.7	2.1	2.6	66.5	9.9
	三田	492	129	220	94	37	8	4	349	45
		100.0	26.2	44.7	19.1	7.5	1.6	0.8	70.9	9.1
	矢上	92	21	46	19	3	1	2	67	4
		100.0	22.8	50.0	20.7	3.3	1.1	2.2	72.8	4.3
	信濃町	78	11	40	17	7	2	1	51	9
		100.0	14.1	51.3	21.8	9.0	2.6	1.3	65.4	11.5
	湘南藤沢	144	33	76	23	8	1	3	109	9
		100.0	22.9	52.8	16.0	5.6	0.7	2.1	75.7	6.3
性別	男性	622	132	274	135	56	13	12	406	69
		100.0	21.2	44.1	21.7	9.0	2.1	1.9	65.3	11.1
	女性	417	116	209	67	17	4	4	325	21
		100.0	27.8	50.1	16.1	4.1	1.0	1.0	77.9	5.0

問50-1.（前問で3．4．5と答えた方）成績に疑問を抱いた時、評価について教員に質問するという体制が整っていると思いますか。（1つだけ）

回答選択肢：　1. 整っている　2. どちらかといえば整っている　3. どちらかといえば整っていない　4. 整っていない

		全体	1. 整っている	2. まあ整っている	3. あまり整っていない	4. 整っていない	NA	整っている計	整っていない計
合計		292	10	29	93	158	2	39	251
		100.0	3.4	9.9	31.8	54.1	0.7	13.4	86.0
学部	文	30	2	3	11	13	1	5	24
		100.0	6.7	10.0	36.7	43.3	3.3	16.7	80.0
	経済	57	2	6	20	29	0	8	49
		100.0	3.5	10.5	35.1	50.9	0.0	14.0	86.0
	法・法	36	1	1	8	26	0	2	34
		100.0	2.8	2.8	22.2	72.2	0.0	5.6	94.4
	法・政	31	0	3	8	20	0	3	28
		100.0	0.0	9.7	25.8	64.5	0.0	9.7	90.3
	商	38	2	7	11	18	0	9	29
		100.0	5.3	18.4	28.9	47.4	0.0	23.7	76.3
	医	22	0	1	5	16	0	1	21
		100.0	0.0	4.5	22.7	72.7	0.0	4.5	95.5
	理工	41	0	5	18	18	0	5	36
		100.0	0.0	12.2	43.9	43.9	0.0	12.2	87.8
	環境情報	10	1	1	1	6	1	2	7
		100.0	10.0	10.0	10.0	60.0	10.0	20.0	70.0
	総合政策	14	2	1	5	6	0	3	11
		100.0	14.3	7.1	35.7	42.9	0.0	21.4	78.6
	看護医療	12	0	1	5	6	0	1	11
		100.0	0.0	8.3	41.7	50.0	0.0	8.3	91.7
学年	1年生	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2年生	92	1	11	23	56	1	12	79
		100.0	1.1	12.0	25.0	60.9	1.1	13.0	85.9
	3年生	96	3	6	42	45	0	9	87
		100.0	3.1	6.3	43.8	46.9	0.0	9.4	90.6
	4年生	92	6	10	27	48	1	16	75
		100.0	6.5	10.9	29.3	52.2	1.1	17.4	81.5
	5・6年生	12	0	2	1	9	0	2	10
		100.0	0.0	16.7	8.3	75.0	0.0	16.7	83.3
在籍キャンパス	日吉	72	1	8	19	44	0	9	63
		100.0	1.4	11.1	26.4	61.1	0.0	12.5	87.5
	三田	139	6	14	46	72	1	20	118
		100.0	4.3	10.1	33.1	51.8	0.7	14.4	84.9
	矢上	23	0	3	12	8	0	3	20
		100.0	0.0	13.0	52.2	34.8	0.0	13.0	87.0
	信濃町	26	0	1	7	18	0	1	25
		100.0	0.0	3.8	26.9	69.2	0.0	3.8	96.2
	湘南藤沢	32.0	3.0	3.0	9.0	16.0	1.0	6.0	25.0
		100.0	9.4	9.4	28.1	50.0	3.1	18.8	78.1
性別	男性	204	10	21	56	116	1	31	172
		100.0	4.9	10.3	27.5	56.9	0.5	15.2	84.3
	女性	88	0	8	37	42	1	8	79
		100.0	0.0	9.1	42.0	47.7	1.1	9.1	89.8

V　学生の授業評価について

問51. 学生の教員に対する授業評価について、行なうべきだと思いますか。（1つだけ）

回答　　1. 行なうべき　2. どちらかというと行なうべき　3. どちらかというと行なうべきでない
選択肢:　4. 行なうべきでない

		全体	1. 行なうべき	2. まあ行なうべき	3. あまり行なうべきでない	4. 行なうべきでない	NA	行なうべき計	行なうべきでない計
合計		1039	581	316	95	34	13	897	129
		100.0	55.9	30.4	9.1	3.3	1.3	86.3	12.4
学部	文	161	82	57	17	5	0	139	22
		100.0	50.9	35.4	10.6	3.1	0.0	86.3	13.7
	経済	155	77	51	20	7	0	128	27
		100.0	49.7	32.9	12.9	4.5	0.0	82.6	17.4
	法・法	126	67	39	18	0	2	106	18
		100.0	53.2	31.0	14.3	0.0	1.6	84.1	14.3
	法・政	92	51	34	6	1	0	85	7
		100.0	55.4	37.0	6.5	1.1	0.0	92.4	7.6
	商	130	71	30	12	14	3	101	26
		100.0	54.6	23.1	9.2	10.8	2.3	77.7	20.0
	医	74	39	23	10	1	1	62	11
		100.0	52.7	31.1	13.5	1.4	1.4	83.8	14.9
	理工	151	85	50	8	5	3	135	13
		100.0	56.3	33.1	5.3	3.3	2.0	89.4	8.6
	環境情報	61	46	12	1	1	1	58	2
		100.0	75.4	19.7	1.6	1.6	1.6	95.1	3.3
	総合政策	46	37	5	1	0	3	42	1
		100.0	80.4	10.9	2.2	0.0	6.5	91.3	2.2
	看護医療	42	25	15	2	0	0	40	2
		100.0	59.5	35.7	4.8	0.0	0.0	95.2	4.8
学年	1年生	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2年生	350	203	111	26	6	4	314	32
		100.0	58.0	31.7	7.4	1.7	1.1	89.7	9.1
	3年生	298	161	88	32	13	4	249	45
		100.0	54.0	29.5	10.7	4.4	1.3	83.6	15.1
	4年生	363	206	106	32	14	5	312	46
		100.0	56.7	29.2	8.8	3.9	1.4	86.0	12.7
	5・6年生	28	11	11	5	1	0	22	6
		100.0	39.3	39.3	17.9	3.6	0.0	78.6	21.4
在籍キャンパス	日吉	233	128	82	16	4	3	210	20
		100.0	54.9	35.2	6.9	1.7	1.3	90.1	8.6
	三田	492	255	150	60	24	3	405	84
		100.0	51.8	30.5	12.2	4.9	0.6	82.3	17.1
	矢上	92	53	29	4	4	2	82	8
		100.0	57.6	31.5	4.3	4.3	2.2	89.1	8.7
	信濃町	78	40	24	12	1	1	64	13
		100.0	51.3	30.8	15.4	1.3	1.3	82.1	16.7
	湘南藤沢	144	105	31	3	1	4	136	4
		100.0	72.9	21.5	2.1	0.7	2.8	94.4	2.8
性別	男性	622	338	184	64	28	8	522	92
		100.0	54.3	29.6	10.3	4.5	1.3	83.9	14.8
	女性	417	243	132	31	6	5	375	37
		100.0	58.3	31.7	7.4	1.4	1.2	89.9	8.9

問51-1.（前問で1．2と答えた方）その理由はなぜですか。（いくつでも）

回答選択肢：
1. やる気のない教員がいるから　2. 授業内容の向上を期待できるから
3. 学生の声を反映した授業を行なうべきだから　4. 現状を把握して欲しいから
5. 顧客（学生）中心主義を徹底すべきだから　6. その他

		全体	1. やる気のない教員	2. 授業内容向上期待	3. 声を反映した授業	4. 現状把握	5. 顧客中心主義の徹底	6. その他	NA
合計		897	232	567	445	518	104	45	5
		100.0	25.9	63.2	49.6	57.7	11.6	5.0	0.6
学部	文	139	34	97	71	90	12	6	1
		100.0	24.5	69.8	51.1	64.7	8.6	4.3	0.7
	経済	128	28	73	66	75	11	7	0
		100.0	21.9	57.0	51.6	58.6	8.6	5.5	0.0
	法・法	106	27	61	54	57	14	6	0
		100.0	25.5	57.5	50.9	53.8	13.2	5.7	0.0
	法・政	85	20	55	46	43	10	5	0
		100.0	23.5	64.7	54.1	50.6	11.8	5.9	0.0
	商	101	34	61	51	66	20	8	0
		100.0	33.7	60.4	50.5	65.3	19.8	7.9	0.0
	医	62	23	34	26	28	4	2	0
		100.0	37.1	54.8	41.9	45.2	6.5	3.2	0.0
	理工	135	38	83	61	78	17	5	1
		100.0	28.1	61.5	45.2	57.8	12.6	3.7	0.7
	環境情報	58	11	41	29	27	6	4	2
		100.0	19.0	70.7	50.0	46.6	10.3	6.9	3.4
	総合政策	42	10	27	17	25	7	2	1
		100.0	23.8	64.3	40.5	59.5	16.7	4.8	2.4
	看護医療	40	6	34	23	28	3	0	0
		100.0	15.0	85.0	57.5	70.0	7.5	0.0	0.0
学年	1年生	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2年生	314	81	203	155	171	34	20	2
		100.0	25.8	64.6	49.4	54.5	10.8	6.4	0.6
	3年生	249	61	145	119	152	29	7	3
		100.0	24.5	58.2	47.8	61.0	11.6	2.8	1.2
	4年生	312	82	206	162	182	39	18	0
		100.0	26.3	66.0	51.9	58.3	12.5	5.8	0.0
	5・6年生	22	8	13	9	13	2	0	0
		100.0	36.4	59.1	40.9	59.1	9.1	0.0	0.0
在籍キャンパス	日吉	210	64	130	104	121	28	14	0
		100.0	30.5	61.9	49.5	57.6	13.3	6.7	0.0
	三田	405	98	252	209	251	47	19	1
		100.0	24.2	62.2	51.6	62.0	11.6	4.7	0.2
	矢上	82	20	50	39	39	9	4	1
		100.0	24.4	61.0	47.6	47.6	11.0	4.9	1.2
	信濃町	64	23	34	27	29	4	2	0
		100.0	35.9	53.1	42.2	45.3	6.3	3.1	0.0
	湘南藤沢	136	27	101	66	78	16	6	3
		100.0	19.9	74.3	48.5	57.4	11.8	4.4	2.2
性別	男性	522	151	312	247	301	71	27	1
		100.0	28.9	59.8	47.3	57.7	13.6	5.2	0.2
	女性	375	81	255	198	217	33	18	4
		100.0	21.6	68.0	52.8	57.9	8.8	4.8	1.1

Ⅵ　その他

問52. 現在、あなたの授業以外の１日の勉強時間を教えてください。

		全体	0～1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3～4時間未満	4～5時間未満	5～6時間未満	6～8時間未満	8～10時間未満	10～12時間未満	12～15時間未満	15時間以上	NA	平均(時間)
合計		1425	231	489	318	183	71	45	38	14	14	4	0	18	2.0
		100.0	16.2	34.3	22.3	12.8	5.0	3.2	2.7	1.0	1.0	0.3	0.0	1.3	
学部	文	215	37	93	47	20	8	5	2	1	1	0	0	1	1.7
		100.0	17.2	43.3	21.9	9.3	3.7	2.3	0.9	0.5	0.5	0.0	0.0	0.5	
	経済	209	49	76	39	21	8	3	3	4	2	1	0	3	1.8
		100.0	23.4	36.4	18.7	10.0	3.8	1.4	1.4	1.9	1.0	0.5	0.0	1.4	
	法・法	160	26	47	31	20	7	7	12	2	3	2	0	3	2.5
		100.0	16.3	29.4	19.4	12.5	4.4	4.4	7.5	1.3	1.9	1.3	0.0	1.9	
	法・政	130	25	47	26	15	5	1	6	3	1	0	0	1	2.0
		100.0	19.2	36.2	20.0	11.5	3.8	0.8	4.6	2.3	0.8	0.0	0.0	0.8	
	商	180	33	57	43	16	13	4	5	3	4	0	0	2	2.1
		100.0	18.3	31.7	23.9	8.9	7.2	2.2	2.8	1.7	2.2	0.0	0.0	1.1	
	医	94	7	31	29	12	6	5	2	0	0	0	0	2	2.0
		100.0	7.4	33.0	30.9	12.8	6.4	5.3	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1	
	理工	216	27	71	47	39	13	11	5	0	1	0	0	2	2.1
		100.0	12.5	32.9	21.8	18.1	6.0	5.1	2.3	0.0	0.5	0.0	0.0	0.9	
	環境情報	85	10	24	24	12	3	3	3	1	2	1	0	2	2.4
		100.0	11.8	28.2	28.2	14.1	3.5	3.5	3.5	1.2	2.4	1.2	0.0	2.4	
	総合政策	75	6	20	18	20	3	6	0	0	0	0	0	2	2.2
		100.0	8.0	26.7	24.0	26.7	4.0	8.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.7	
	看護医療	59	11	23	13	7	5	0	0	0	0	0	0	0	1.6
		100.0	18.6	39.0	22.0	11.9	8.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
学年	1年生	386	73	146	96	47	12	4	2	1	0	0	0	5	1.6
		100.0	18.9	37.8	24.9	12.2	3.1	1.0	0.5	0.3	0.0	0.0	0.0	1.3	
	2年生	350	49	133	80	40	23	9	8	2	1	0	0	5	1.9
		100.0	14.0	38.0	22.9	11.4	6.6	2.6	2.3	0.6	0.3	0.0	0.0	1.4	
	3年生	298	35	92	75	44	15	14	11	5	5	0	0	2	2.3
		100.0	11.7	30.9	25.2	14.8	5.0	4.7	3.7	1.7	1.7	0.0	0.0	0.7	
	4年生	363	74	111	58	47	18	16	15	6	8	4	0	6	2.3
		100.0	20.4	30.6	16.0	12.9	5.0	4.4	4.1	1.7	2.2	1.1	0.0	1.7	
	5・6年生	28	0	7	9	5	3	2	2	0	0	0	0	0	2.7
		100.0	0.0	25.0	32.1	17.9	10.7	7.1	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
在籍キャンパス	日吉	549	99	217	122	62	25	8	8	2	0	0	0	6	1.7
		100.0	18.0	39.5	22.2	11.3	4.6	1.5	1.5	0.4	0.0	0.0	0.0	1.1	
	三田	492	95	150	101	54	25	14	23	11	11	3	0	5	2.3
		100.0	19.3	30.5	20.5	11.0	5.1	2.8	4.7	2.2	2.2	0.6	0.0	1.0	
	矢上	92	4	26	23	20	6	9	2	0	1	0	0	1	2.5
		100.0	4.3	28.3	25.0	21.7	6.5	9.8	2.2	0.0	1.1	0.0	0.0	1.1	
	信濃町	78	7	31	17	10	4	5	2	0	0	0	0	2	2.0
		100.0	9.0	39.7	21.8	12.8	5.1	6.4	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6	
	湘南藤沢	214	26	65	55	37	11	9	3	1	2	1	0	4	2.1
		100.0	12.1	30.4	25.7	17.3	5.1	4.2	1.4	0.5	0.9	0.5	0.0	1.9	
性別	男性	858	147	273	184	119	39	35	28	8	11	2	0	12	2.1
		100.0	17.1	31.8	21.4	13.9	4.5	4.1	3.3	0.9	1.3	0.2	0.0	1.4	
	女性	567	84	216	134	64	32	10	10	6	3	2	0	6	1.9
		100.0	14.8	38.1	23.6	11.3	5.6	1.8	1.8	1.1	0.5	0.4	0.0	1.1	

問52-1.（2年生以上がお答えください）テスト前の勉強時間はどの位ですか。

		全体	0～1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3～4時間未満	4～5時間未満	5～6時間未満	6～8時間未満	8～10時間未満	10～12時間未満	12～15時間未満	15時間以上	NA	平均(時間)
合計		1039	12	16	57	143	132	196	190	105	92	26	12	58	5.7
		100.0	1.2	1.5	5.5	13.8	12.7	18.9	18.3	10.1	8.9	2.5	1.2	5.6	
学部	文	161	3	6	16	43	24	27	20	8	4	3	0	7	4.4
		100.0	1.9	3.7	9.9	26.7	14.9	16.8	12.4	5.0	2.5	1.9	0.0	4.3	
	経済	155	1	3	11	18	25	23	31	16	12	2	1	12	5.5
		100.0	0.6	1.9	7.1	11.6	16.1	14.8	20.0	10.3	7.7	1.3	0.6	7.7	
	法・法	126	0	0	2	12	9	25	28	19	17	3	2	9	6.6
		100.0	0.0	0.0	1.6	9.5	7.1	19.8	22.2	15.1	13.5	2.4	1.6	7.1	
	法・政	92	0	0	2	6	12	18	28	13	6	3	1	3	6.2
		100.0	0.0	0.0	2.2	6.5	13.0	19.6	30.4	14.1	6.5	3.3	1.1	3.3	
	商	130	1	3	7	17	15	35	18	11	15	0	0	8	5.4
		100.0	0.8	2.3	5.4	13.1	11.5	26.9	13.8	8.5	11.5	0.0	0.0	6.2	
	医	74	0	0	1	3	7	9	11	10	13	10	6	4	8.3
		100.0	0.0	0.0	1.4	4.1	9.5	12.2	14.9	13.5	17.6	13.5	8.1	5.4	
	理工	151	3	1	6	19	15	27	36	16	13	4	1	10	5.9
		100.0	2.0	0.7	4.0	12.6	9.9	17.9	23.8	10.6	8.6	2.6	0.7	6.6	
	環境情報	61	3	2	7	12	9	11	5	2	6	1	1	2	4.8
		100.0	4.9	3.3	11.5	19.7	14.8	18.0	8.2	3.3	9.8	1.6	1.6	3.3	
	総合政策	46	0	1	4	8	11	9	6	5	0	0	0	2	4.6
		100.0	0.0	2.2	8.7	17.4	23.9	19.6	13.0	10.9	0.0	0.0	0.0	4.3	
	看護医療	42	1	0	1	5	4	12	7	5	6	0	0	1	5.8
		100.0	2.4	0.0	2.4	11.9	9.5	28.6	16.7	11.9	14.3	0.0	0.0	2.4	
学年	1年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	2年生	350	3	2	24	54	57	77	62	30	17	4	2	18	5.2
		100.0	0.9	0.6	6.9	15.4	16.3	22.0	17.7	8.6	4.9	1.1	0.6	5.1	
	3年生	298	3	4	16	36	39	49	62	40	25	5	2	17	5.8
		100.0	1.0	1.3	5.4	12.1	13.1	16.4	20.8	13.4	8.4	1.7	0.7	5.7	
	4年生	363	6	10	16	53	33	68	60	32	46	13	4	22	5.9
		100.0	1.7	2.8	4.4	14.6	9.1	18.7	16.5	8.8	12.7	3.6	1.1	6.1	
	5・6年生	28	0	0	1	0	3	2	6	3	4	4	4	1	8.8
		100.0	0.0	0.0	3.6	0.0	10.7	7.1	21.4	10.7	14.3	14.3	14.3	3.6	
在籍キャンパス	日吉	233	0	1	14	30	39	50	47	20	12	3	2	15	5.4
		100.0	0.0	0.4	6.0	12.9	16.7	21.5	20.2	8.6	5.2	1.3	0.9	6.4	
	三田	492	5	11	27	76	52	89	92	52	48	10	3	27	5.6
		100.0	1.0	2.2	5.5	15.4	10.6	18.1	18.7	10.6	9.8	2.0	0.6	5.5	
	矢上	92	3	1	3	9	10	17	22	11	8	2	0	6	5.8
		100.0	3.3	1.1	3.3	9.8	10.9	18.5	23.9	12.0	8.7	2.2	0.0	6.5	
	信濃町	78	0	0	2	3	7	10	13	10	13	10	6	4	8.1
		100.0	0.0	0.0	2.6	3.8	9.0	12.8	16.7	12.8	16.7	12.8	7.7	5.1	
	湘南藤沢	144	4	3	11	25	24	30	16	12	11	1	1	6	5.0
		100.0	2.8	2.1	7.6	17.4	16.7	20.8	11.1	8.3	7.6	0.7	0.7	4.2	
性別	男性	622	8	9	41	76	77	115	123	59	52	16	10	36	5.7
		100.0	1.3	1.4	6.6	12.2	12.4	18.5	19.8	9.5	8.4	2.6	1.6	5.8	
	女性	417	4	7	16	67	55	81	67	46	40	10	2	22	5.7
		100.0	1.0	1.7	3.8	16.1	13.2	19.4	16.1	11.0	9.6	2.4	0.5	5.3	

問52-2.（2年生以上がお答えください）夏休み、春休み期間中の勉強時間はどの位ですか。

		全体	0～1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3～4時間未満	4～5時間未満	5～6時間未満	6～8時間未満	8～10時間未満	10～12時間未満	12～15時間未満	15時間以上	NA	平均（時間）
合計		1039	364	248	147	74	29	27	37	20	25	8	2	58	1.9
		100.0	35.0	23.9	14.1	7.1	2.8	2.6	3.6	1.9	2.4	0.8	0.2	5.6	
学部	文	161	46	45	30	12	3	4	3	1	3	0	0	14	1.6
		100.0	28.6	28.0	18.6	7.5	1.9	2.5	1.9	0.6	1.9	0.0	0.0	8.7	
	経済	155	56	34	21	8	5	4	5	4	8	0	1	9	2.1
		100.0	36.1	21.9	13.5	5.2	3.2	2.6	3.2	2.6	5.2	0.0	0.6	5.8	
	法・法	126	36	19	13	10	9	6	11	3	6	5	0	8	3.1
		100.0	28.6	15.1	10.3	7.9	7.1	4.8	8.7	2.4	4.8	4.0	0.0	6.3	
	法・政	92	29	28	13	7	0	1	2	3	3	1	1	4	2.1
		100.0	31.5	30.4	14.1	7.6	0.0	1.1	2.2	3.3	3.3	1.1	1.1	4.3	
	商	130	39	34	22	8	5	3	3	6	2	2	0	6	2.1
		100.0	30.0	26.2	16.9	6.2	3.8	2.3	2.3	4.6	1.5	1.5	0.0	4.6	
	医	74	26	23	5	8	3	0	1	3	1	0	0	4	1.6
		100.0	35.1	31.1	6.8	10.8	4.1	0.0	1.4	4.1	1.4	0.0	0.0	5.4	
	理工	151	83	25	19	8	2	3	5	0	0	0	0	6	1.1
		100.0	55.0	16.6	12.6	5.3	1.3	2.0	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	
	環境情報	61	19	15	10	5	0	2	5	0	1	0	0	4	1.9
		100.0	31.1	24.6	16.4	8.2	0.0	3.3	8.2	0.0	1.6	0.0	0.0	6.6	
	総合政策	46	11	15	5	5	2	3	2	0	0	0	0	3	1.8
		100.0	23.9	32.6	10.9	10.9	4.3	6.5	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	6.5	
	看護医療	42	19	10	8	3	0	1	0	0	1	0	0	0	1.3
		100.0	45.2	23.8	19.0	7.1	0.0	2.4	0.0	0.0	2.4	0.0	0.0	0.0	
学年	1年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	2年生	350	121	95	52	21	10	11	13	0	5	2	0	20	1.6
		100.0	34.6	27.1	14.9	6.0	2.9	3.1	3.7	0.0	1.4	0.6	0.0	5.7	
	3年生	298	93	79	45	21	9	5	10	9	9	2	0	16	2.0
		100.0	31.2	26.5	15.1	7.0	3.0	1.7	3.4	3.0	3.0	0.7	0.0	5.4	
	4年生	363	143	69	46	29	5	11	13	9	10	4	2	22	2.0
		100.0	39.4	19.0	12.7	8.0	1.4	3.0	3.6	2.5	2.8	1.1	0.6	6.1	
	5・6年生	28	7	5	4	3	5	0	1	2	1	0	0	0	2.7
		100.0	25.0	17.9	14.3	10.7	17.9	0.0	3.6	7.1	3.6	0.0	0.0	0.0	
在籍キャンパス	日吉	233	85	59	36	11	7	8	9	0	2	2	0	14	1.6
		100.0	36.5	25.3	15.5	4.7	3.0	3.4	3.9	0.0	0.9	0.9	0.0	6.0	
	三田	492	154	112	69	37	15	12	18	17	20	6	2	30	2.3
		100.0	31.3	22.8	14.0	7.5	3.0	2.4	3.7	3.5	4.1	1.2	0.4	6.1	
	矢上	92	50	16	13	5	2	1	2	0	0	0	0	3	1.0
		100.0	54.3	17.4	14.1	5.4	2.2	1.1	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	
	信濃町	78	28	22	7	9	3	0	1	3	1	0	0	4	1.6
		100.0	35.9	28.2	9.0	11.5	3.8	0.0	1.3	3.8	1.3	0.0	0.0	5.1	
	湘南藤沢	144	47	39	22	12	2	6	7	0	2	0	0	7	1.7
		100.0	32.6	27.1	15.3	8.3	1.4	4.2	4.9	0.0	1.4	0.0	0.0	4.9	
性別	男性	622	228	145	77	40	19	18	27	14	15	6	1	32	2.0
		100.0	36.7	23.3	12.4	6.4	3.1	2.9	4.3	2.3	2.4	1.0	0.2	5.1	
	女性	417	136	103	70	34	10	9	10	6	10	2	1	26	1.8
		100.0	32.6	24.7	16.8	8.2	2.4	2.2	2.4	1.4	2.4	0.5	0.2	6.2	

問53. あなたは授業にどの位出席していますか。（1つだけ）

回答　　1. ほとんど出席している　2. だいたい出席している　3. あまり出席していない
選択肢：　4. ほとんど出席していない

		全体	1. 出席している	2. だいたい出席している	3. あまり出席していない	4. 出席していない	NA	出席している計	出席していない計
合計		1425	831	375	148	62	9	1206	210
		100.0	58.3	26.3	10.4	4.4	0.6	84.6	14.7
学部	文	215	142	54	16	3	0	196	19
		100.0	66.0	25.1	7.4	1.4	0.0	91.2	8.8
	経済	209	95	72	26	16	0	167	42
		100.0	45.5	34.4	12.4	7.7	0.0	79.9	20.1
	法・法	160	88	43	24	5	0	131	29
		100.0	55.0	26.9	15.0	3.1	0.0	81.9	18.1
	法・政	130	66	40	20	4	0	106	24
		100.0	50.8	30.8	15.4	3.1	0.0	81.5	18.5
	商	180	91	44	29	15	1	135	44
		100.0	50.6	24.4	16.1	8.3	0.6	75.0	24.4
	医	94	41	25	15	11	2	66	26
		100.0	43.6	26.6	16.0	11.7	2.1	70.2	27.7
	理工	216	160	39	10	3	4	199	13
		100.0	74.1	18.1	4.6	1.4	1.9	92.1	6.0
	環境情報	85	46	31	3	4	1	77	7
		100.0	54.1	36.5	3.5	4.7	1.2	90.6	8.2
	総合政策	75	53	17	3	1	1	70	4
		100.0	70.7	22.7	4.0	1.3	1.3	93.3	5.3
	看護医療	59	48	10	1	0	0	58	1
		100.0	81.4	16.9	1.7	0.0	0.0	98.3	1.7
学年	1年生	386	275	93	15	0	3	368	15
		100.0	71.2	24.1	3.9	0.0	0.8	95.3	3.9
	2年生	350	228	87	29	5	1	315	34
		100.0	65.1	24.9	8.3	1.4	0.3	90.0	9.7
	3年生	298	163	87	31	16	1	250	47
		100.0	54.7	29.2	10.4	5.4	0.3	83.9	15.8
	4年生	363	159	103	64	33	4	262	97
		100.0	43.8	28.4	17.6	9.1	1.1	72.2	26.7
	5・6年生	28	6	5	9	8	0	11	17
		100.0	21.4	17.9	32.1	28.6	0.0	39.3	60.7
在籍キャンパス	日吉	549	369	137	37	3	3	506	40
		100.0	67.2	25.0	6.7	0.5	0.5	92.2	7.3
	三田	492	222	143	86	40	1	365	126
		100.0	45.1	29.1	17.5	8.1	0.2	74.2	25.6
	矢上	92	67	18	3	3	1	85	6
		100.0	72.8	19.6	3.3	3.3	1.1	92.4	6.5
	信濃町	78	31	19	15	11	2	50	26
		100.0	39.7	24.4	19.2	14.1	2.6	64.1	33.3
	湘南藤沢	214	142	58	7	5	2	200	12
		100.0	66.4	27.1	3.3	2.3	0.9	93.5	5.6
性別	男性	858	452	244	103	53	6	696	156
		100.0	52.7	28.4	12.0	6.2	0.7	81.1	18.2
	女性	567	379	131	45	9	3	510	54
		100.0	66.8	23.1	7.9	1.6	0.5	89.9	9.5

問54. 大学生活であなたが本来、最も大切だと思うことは何だと思いますか。（1つだけ）

回答選択肢:
1. 専門の知識を身につける　2. 幅広い教養を身につける
3. 専門の知識と幅広い教養をバランス良く身につける　4. 資格を取得する
5. 好きな活動に没頭する　6. 大学卒業の肩書きを身につける　7. 師弟関係の形成
8. 友人関係の形成　9. その他

		全体	1. 専門知識習得	2. 幅広い教養の習得	3. 専門知識と教養	4. 資格取得	5. 好きな活動に没頭	6. 大学卒の肩書き取得	7. 師弟関係の形成	8. 友人関係の形成	9. その他	NA
合計		1425	249	167	589	22	119	34	8	118	31	88
		100.0	17.5	11.7	41.3	1.5	8.4	2.4	0.6	8.3	2.2	6.2
学部	文	215	31	34	93	1	18	4	1	11	5	17
		100.0	14.4	15.8	43.3	0.5	8.4	1.9	0.5	5.1	2.3	7.9
	経済	209	27	25	86	6	21	8	0	21	3	12
		100.0	12.9	12.0	41.1	2.9	10.0	3.8	0.0	10.0	1.4	5.7
	法・法	160	25	14	74	2	15	4	3	15	4	4
		100.0	15.6	8.8	46.3	1.3	9.4	2.5	1.9	9.4	2.5	2.5
	法・政	130	17	22	49	2	13	2	0	16	2	7
		100.0	13.1	16.9	37.7	1.5	10.0	1.5	0.0	12.3	1.5	5.4
	商	180	28	21	73	5	12	5	1	18	8	9
		100.0	15.6	11.7	40.6	2.8	6.7	2.8	0.6	10.0	4.4	5.0
	医	94	28	7	32	3	3	1	0	4	1	15
		100.0	29.8	7.4	34.0	3.2	3.2	1.1	0.0	4.3	1.1	16.0
	理工	216	61	19	92	0	9	4	1	17	2	11
		100.0	28.2	8.8	42.6	0.0	4.2	1.9	0.5	7.9	0.9	5.1
	環境情報	85	11	6	34	0	14	5	1	7	2	5
		100.0	12.9	7.1	40.0	0.0	16.5	5.9	1.2	8.2	2.4	5.9
	総合政策	75	5	14	31	1	8	0	1	8	2	5
		100.0	6.7	18.7	41.3	1.3	10.7	0.0	1.3	10.7	2.7	6.7
	看護医療	59	15	5	24	2	6	1	0	1	2	3
		100.0	25.4	8.5	40.7	3.4	10.2	1.7	0.0	1.7	3.4	5.1
学年	1年生	386	62	50	161	9	30	9	2	35	5	23
		100.0	16.1	13.0	41.7	2.3	7.8	2.3	0.5	9.1	1.3	6.0
	2年生	350	72	41	150	3	26	8	1	26	9	14
		100.0	20.6	11.7	42.9	0.9	7.4	2.3	0.3	7.4	2.6	4.0
	3年生	298	49	34	129	4	26	8	3	21	3	21
		100.0	16.4	11.4	43.3	1.3	8.7	2.7	1.0	7.0	1.0	7.0
	4年生	363	58	41	143	5	35	9	2	32	14	24
		100.0	16.0	11.3	39.4	1.4	9.6	2.5	0.6	8.8	3.9	6.6
	5・6年生	28	8	1	6	1	2	0	0	4	0	6
		100.0	28.6	3.6	21.4	3.6	7.1	0.0	0.0	14.3	0.0	21.4
在籍キャンパス	日吉	549	100	66	237	9	37	14	2	52	7	25
		100.0	18.2	12.0	43.2	1.6	6.7	2.6	0.4	9.5	1.3	4.6
	三田	492	67	65	206	7	46	12	4	40	17	28
		100.0	13.6	13.2	41.9	1.4	9.3	2.4	0.8	8.1	3.5	5.7
	矢上	92	28	7	35	0	5	1	0	6	1	9
		100.0	30.4	7.6	38.0	0.0	5.4	1.1	0.0	6.5	1.1	9.8
	信濃町	78	24	4	24	4	3	2	0	4	0	13
		100.0	30.8	5.1	30.8	5.1	3.8	2.6	0.0	5.1	0.0	16.7
	湘南藤沢	214	30	25	87	2	28	5	2	16	6	13
		100.0	14.0	11.7	40.7	0.9	13.1	2.3	0.9	7.5	2.8	6.1
性別	男性	858	159	97	309	15	82	26	8	84	23	55
		100.0	18.5	11.3	36.0	1.7	9.6	3.0	0.9	9.8	2.7	6.4
	女性	567	90	70	280	7	37	8	0	34	8	33
		100.0	15.9	12.3	49.4	1.2	6.5	1.4	0.0	6.0	1.4	5.8

問55. あなた自身が実際の大学生活で最も重視していることは何ですか。（1つだけ）

回答　　1. 専門の知識を身につける　2. 幅広い教養を身につける
選択肢:　3. 専門の知識と幅広い教養をバランス良く身につける　4. 資格を取得する
5. 好きな活動に没頭する　6. 大学卒業の肩書きを身につける　7. 師弟関係の形成
8. 友人関係の形成　9. その他

		全体	1. 専門知識習得	2. 幅広い教養の習得	3. 専門知識と教養	4. 資格取得	5. 好きな活動に没頭	6. 大学卒の肩書き取得	7. 師弟関係の形成	8. 友人関係の形成	9. その他	NA
合計		1425	185	147	382	78	253	48	10	217	43	62
		100.0	13.0	10.3	26.8	5.5	17.8	3.4	0.7	15.2	3.0	4.4
学部	文	215	22	27	61	4	40	9	2	28	9	13
		100.0	10.2	12.6	28.4	1.9	18.6	4.2	0.9	13.0	4.2	6.0
	経済	209	17	27	46	23	36	8	1	38	4	9
		100.0	8.1	12.9	22.0	11.0	17.2	3.8	0.5	18.2	1.9	4.3
	法・法	160	16	13	44	18	29	6	3	25	4	2
		100.0	10.0	8.1	27.5	11.3	18.1	3.8	1.9	15.6	2.5	1.3
	法・政	130	13	17	37	5	22	4	0	25	4	3
		100.0	10.0	13.1	28.5	3.8	16.9	3.1	0.0	19.2	3.1	2.3
	商	180	13	18	43	17	31	5	1	39	5	8
		100.0	7.2	10.0	23.9	9.4	17.2	2.8	0.6	21.7	2.8	4.4
	医	94	25	4	25	3	14	2	1	6	3	11
		100.0	26.6	4.3	26.6	3.2	14.9	2.1	1.1	6.4	3.2	11.7
	理工	216	48	18	64	0	31	12	1	28	7	7
		100.0	22.2	8.3	29.6	0.0	14.4	5.6	0.5	13.0	3.2	3.2
	環境情報	85	10	8	22	1	29	2	1	5	3	4
		100.0	11.8	9.4	25.9	1.2	34.1	2.4	1.2	5.9	3.5	4.7
	総合政策	75	7	10	24	1	13	0	0	13	3	4
		100.0	9.3	13.3	32.0	1.3	17.3	0.0	0.0	17.3	4.0	5.3
	看護医療	59	14	4	16	6	8	0	0	9	1	1
		100.0	23.7	6.8	27.1	10.2	13.6	0.0	0.0	15.3	1.7	1.7
学年	1年生	386	42	46	105	18	72	12	2	67	6	16
		100.0	10.9	11.9	27.2	4.7	18.7	3.1	0.5	17.4	1.6	4.1
	2年生	350	54	40	95	16	55	17	2	44	18	9
		100.0	15.4	11.4	27.1	4.6	15.7	4.9	0.6	12.6	5.1	2.6
	3年生	298	41	30	85	22	53	8	2	33	6	18
		100.0	13.8	10.1	28.5	7.4	17.8	2.7	0.7	11.1	2.0	6.0
	4年生	363	41	30	95	20	67	11	4	70	12	13
		100.0	11.3	8.3	26.2	5.5	18.5	3.0	1.1	19.3	3.3	3.6
	5・6年生	28	7	1	2	2	6	0	0	3	1	6
		100.0	25.0	3.6	7.1	7.1	21.4	0.0	0.0	10.7	3.6	21.4
在籍キャンパス	日吉	549	68	67	152	28	86	24	3	91	14	16
		100.0	12.4	12.2	27.7	5.1	15.7	4.4	0.5	16.6	2.6	2.9
	三田	492	41	49	127	39	92	17	6	82	18	21
		100.0	8.3	10.0	25.8	7.9	18.7	3.5	1.2	16.7	3.7	4.3
	矢上	92	25	7	25	0	13	3	0	11	3	5
		100.0	27.2	7.6	27.2	0.0	14.1	3.3	0.0	12.0	3.3	5.4
	信濃町	78	22	3	16	5	12	2	0	6	1	11
		100.0	28.2	3.8	20.5	6.4	15.4	2.6	0.0	7.7	1.3	14.1
	湘南藤沢	214	29	21	62	6	50	2	1	27	7	9
		100.0	13.6	9.8	29.0	2.8	23.4	0.9	0.5	12.6	3.3	4.2
性別	男性	858	113	99	199	53	160	33	7	126	29	39
		100.0	13.2	11.5	23.2	6.2	18.6	3.8	0.8	14.7	3.4	4.5
	女性	567	72	48	183	25	93	15	3	91	14	23
		100.0	12.7	8.5	32.3	4.4	16.4	2.6	0.5	16.0	2.5	4.1

問56. あなたは現在大学以外の学校などに通っていますか（いわゆるダブルスクール）。
通っている場合はどのような種類の学校に通っていますか。
（通っている場合はいくつでも）

回答　　1. 通っていない　2. 公認会計士資格取得のための学校
選択肢:　3. 司法試験または法科大学院受験のための学校　4. 公務員試験受験のための学校
5. その他の専門資格関連の学校　6. 英会話学校やその他語学学校
7. スポーツ・芸術関連の学校　8. その他（専門資格関連以外に）

		全体	1. 通っていない	2. 公認会計士資格取得学校	3. 司法試験受験学校	4. 公務員試験受験学校	5. 他専門資格関連学校	6. 英会話、他語学学校	7. スポーツ・芸術関連学校	8. その他	NA
合計		1425	1070	74	67	36	35	73	20	15	55
		100.0	75.1	5.2	4.7	2.5	2.5	5.1	1.4	1.1	3.9
学部	文	215	174	0	2	4	2	18	8	5	6
		100.0	80.9	0.0	0.9	1.9	0.9	8.4	3.7	2.3	2.8
	経済	209	137	36	3	5	9	9	3	1	10
		100.0	65.6	17.2	1.4	2.4	4.3	4.3	1.4	0.5	4.8
	法・法	160	84	4	45	7	4	5	4	2	8
		100.0	52.5	2.5	28.1	4.4	2.5	3.1	2.5	1.3	5.0
	法・政	130	91	1	11	12	3	12	1	1	1
		100.0	70.0	0.8	8.5	9.2	2.3	9.2	0.8	0.8	0.8
	商	180	123	29	1	4	8	6	2	2	7
		100.0	68.3	16.1	0.6	2.2	4.4	3.3	1.1	1.1	3.9
	医	94	83	0	1	0	1	4	0	0	5
		100.0	88.3	0.0	1.1	0.0	1.1	4.3	0.0	0.0	5.3
	理工	216	201	1	0	0	1	3	1	0	9
		100.0	93.1	0.5	0.0	0.0	0.5	1.4	0.5	0.0	4.2
	環境情報	85	72	2	1	2	2	3	0	0	4
		100.0	84.7	2.4	1.2	2.4	2.4	3.5	0.0	0.0	4.7
	総合政策	75	51	1	2	2	3	9	1	4	4
		100.0	68.0	1.3	2.7	2.7	4.0	12.0	1.3	5.3	5.3
	看護医療	59	54	0	0	0	0	4	0	0	1
		100.0	91.5	0.0	0.0	0.0	0.0	6.8	0.0	0.0	1.7
学年	1年生	386	332	10	8	0	5	13	3	3	14
		100.0	86.0	2.6	2.1	0.0	1.3	3.4	0.8	0.8	3.6
	2年生	350	272	25	16	3	5	15	5	3	10
		100.0	77.7	7.1	4.6	0.9	1.4	4.3	1.4	0.9	2.9
	3年生	298	188	16	21	22	14	18	5	6	13
		100.0	63.1	5.4	7.0	7.4	4.7	6.0	1.7	2.0	4.4
	4年生	363	254	23	21	11	11	25	7	2	18
		100.0	70.0	6.3	5.8	3.0	3.0	6.9	1.9	0.6	5.0
	5・6年生	28	24	0	1	0	0	2	0	1	0
		100.0	85.7	0.0	3.6	0.0	0.0	7.1	0.0	3.6	0.0
在籍キャンパス	日吉	549	441	33	23	3	7	19	7	2	18
		100.0	80.3	6.0	4.2	0.5	1.3	3.5	1.3	0.4	3.3
	三田	492	303	37	40	29	23	34	12	9	18
		100.0	61.6	7.5	8.1	5.9	4.7	6.9	2.4	1.8	3.7
	矢上	92	84	1	0	0	0	1	0	0	6
		100.0	91.3	1.1	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	6.5
	信濃町	78	69	0	1	0	0	4	0	0	4
		100.0	88.5	0.0	1.3	0.0	0.0	5.1	0.0	0.0	5.1
	湘南藤沢	214	173	3	3	4	5	15	1	4	9
		100.0	80.8	1.4	1.4	1.9	2.3	7.0	0.5	1.9	4.2
性別	男性	858	650	59	47	16	15	23	10	4	40
		100.0	75.8	6.9	5.5	1.9	1.7	2.7	1.2	0.5	4.7
	女性	567	420	15	20	20	20	50	10	11	15
		100.0	74.1	2.6	3.5	3.5	3.5	8.8	1.8	1.9	2.6

問57. あなたは慶應義塾大学の学生であることに満足していますか。（1つだけ）

回答選択肢:　1. 満足している　2. どちらかといえば満足している　3. どちらかといえば満足していない　4. 満足していない

		全体	1.満足している	2.まあ満足している	3.あまり満足していない	4.満足していない	NA	満足している計	満足していない計
合計		1425	881	430	65	43	6	1311	108
		100.0	61.8	30.2	4.6	3.0	0.4	92.0	7.6
学部	文	215	137	64	8	5	1	201	13
		100.0	63.7	29.8	3.7	2.3	0.5	93.5	6.0
	経済	209	121	74	8	6	0	195	14
		100.0	57.9	35.4	3.8	2.9	0.0	93.3	6.7
	法・法	160	115	33	7	3	2	148	10
		100.0	71.9	20.6	4.4	1.9	1.3	92.5	6.3
	法・政	130	84	40	4	2	0	124	6
		100.0	64.6	30.8	3.1	1.5	0.0	95.4	4.6
	商	180	112	52	8	8	0	164	16
		100.0	62.2	28.9	4.4	4.4	0.0	91.1	8.9
	医	94	57	26	5	5	1	83	10
		100.0	60.6	27.7	5.3	5.3	1.1	88.3	10.6
	理工	216	111	82	14	9	0	193	23
		100.0	51.4	38.0	6.5	4.2	0.0	89.4	10.6
	環境情報	85	59	19	4	2	1	78	6
		100.0	69.4	22.4	4.7	2.4	1.2	91.8	7.1
	総合政策	75	48	21	3	3	0	69	6
		100.0	64.0	28.0	4.0	4.0	0.0	92.0	8.0
	看護医療	59	37	18	3	0	1	55	3
		100.0	62.7	30.5	5.1	0.0	1.7	93.2	5.1
学年	1年生	386	233	113	25	13	2	346	38
		100.0	60.4	29.3	6.5	3.4	0.5	89.6	9.8
	2年生	350	212	115	12	10	1	327	22
		100.0	60.6	32.9	3.4	2.9	0.3	93.4	6.3
	3年生	298	180	93	16	9	0	273	25
		100.0	60.4	31.2	5.4	3.0	0.0	91.6	8.4
	4年生	363	239	98	12	11	3	337	23
		100.0	65.8	27.0	3.3	3.0	0.8	92.8	6.3
	5・6年生	28	17	11	0	0	0	28	0
		100.0	60.7	39.3	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
在籍キャンパス	日吉	549	334	164	30	19	2	498	49
		100.0	60.8	29.9	5.5	3.5	0.4	90.7	8.9
	三田	492	309	154	14	14	1	463	28
		100.0	62.8	31.3	2.8	2.8	0.2	94.1	5.7
	矢上	92	52	32	7	1	0	84	8
		100.0	56.5	34.8	7.6	1.1	0.0	91.3	8.7
	信濃町	78	45	23	5	4	1	68	9
		100.0	57.7	29.5	6.4	5.1	1.3	87.2	11.5
	湘南藤沢	214	141	57	9	5	2	198	14
		100.0	65.9	26.6	4.2	2.3	0.9	92.5	6.5
性別	男性	858	503	264	48	41	2	767	89
		100.0	58.6	30.8	5.6	4.8	0.2	89.4	10.4
	女性	567	378	166	17	2	4	544	19
		100.0	66.7	29.3	3.0	0.4	0.7	95.9	3.4

問58. あなたは慶應義塾大学に対して満足していますか。（1つだけ）

回答選択肢:　1. 満足している　2. どちらかといえば満足している　3. どちらかといえば満足していない　4. 満足していない

		全体	1. 満足している	2. まあ満足している	3. あまり満足していない	4. 満足していない	NA	満足している計	満足していない計
合計		1425	567	636	152	64	6	1203	216
		100.0	39.8	44.6	10.7	4.5	0.4	84.4	15.2
学部	文	215	85	99	25	5	1	184	30
		100.0	39.5	46.0	11.6	2.3	0.5	85.6	14.0
	経済	209	75	98	25	11	0	173	36
		100.0	35.9	46.9	12.0	5.3	0.0	82.8	17.2
	法・法	160	75	69	11	3	2	144	14
		100.0	46.9	43.1	6.9	1.9	1.3	90.0	8.8
	法・政	130	49	60	13	8	0	109	21
		100.0	37.7	46.2	10.0	6.2	0.0	83.8	16.2
	商	180	69	81	21	9	0	150	30
		100.0	38.3	45.0	11.7	5.0	0.0	83.3	16.7
	医	94	44	35	11	3	1	79	14
		100.0	46.8	37.2	11.7	3.2	1.1	84.0	14.9
	理工	216	70	101	30	15	0	171	45
		100.0	32.4	46.8	13.9	6.9	0.0	79.2	20.8
	環境情報	85	43	33	6	2	1	76	8
		100.0	50.6	38.8	7.1	2.4	1.2	89.4	9.4
	総合政策	75	33	30	5	7	0	63	12
		100.0	44.0	40.0	6.7	9.3	0.0	84.0	16.0
	看護医療	59	24	30	4	0	1	54	4
		100.0	40.7	50.8	6.8	0.0	1.7	91.5	6.8
学年	1年生	386	158	163	46	17	2	321	63
		100.0	40.9	42.2	11.9	4.4	0.5	83.2	16.3
	2年生	350	135	155	42	16	2	290	58
		100.0	38.6	44.3	12.0	4.6	0.6	82.9	16.6
	3年生	298	109	144	33	12	0	253	45
		100.0	36.6	48.3	11.1	4.0	0.0	84.9	15.1
	4年生	363	151	163	28	19	2	314	47
		100.0	41.6	44.9	7.7	5.2	0.6	86.5	12.9
	5・6年生	28	14	11	3	0	0	25	3
		100.0	50.0	39.3	10.7	0.0	0.0	89.3	10.7
在籍キャンパス	日吉	549	210	237	74	26	2	447	100
		100.0	38.3	43.2	13.5	4.7	0.4	81.4	18.2
	三田	492	195	231	44	21	1	426	65
		100.0	39.6	47.0	8.9	4.3	0.2	86.6	13.2
	矢上	92	30	48	9	5	0	78	14
		100.0	32.6	52.2	9.8	5.4	0.0	84.8	15.2
	信濃町	78	35	28	11	3	1	63	14
		100.0	44.9	35.9	14.1	3.8	1.3	80.8	17.9
	湘南藤沢	214	97	92	14	9	2	189	23
		100.0	45.3	43.0	6.5	4.2	0.9	88.3	10.7
性別	男性	858	316	376	104	60	2	692	164
		100.0	36.8	43.8	12.1	7.0	0.2	80.7	19.1
	女性	567	251	260	48	4	4	511	52
		100.0	44.3	45.9	8.5	0.7	0.7	90.1	9.2

活動記録

１．活動の記録

2005 年度

１）2005 年 6 月 14 日（火）　18:00 ～ 20:30
幹事会　（来往舎応接会議室）
・基盤研究立ち上げについて

２）2005 年 6 月 29 日（水）　18:00 ～ 20:30
幹事会　（来往舎応接会議室）
・幹事役割分担，研究スケジュールについて

３）2005 年 7 月 4 日（月）　14:30 ～ 16:30
勉強会（来往舎シンポジウムスペース）
・遠山敦子 氏（元文部科学大臣）
安西祐一郎 氏（慶應義塾塾長）特別公開対談
「教養教育の将来を見据えて
－次世代に何をどう伝えるか－」
司会：伊藤行雄 氏（本研究会座長）

４）2005 年 7 月 16 日（土）13:00 ～ 16:30
昨年度基盤研究報告会(来往舎シンポジウムスペース)
「日吉設置学部共通総合教育科目の現状と問題点」
報告：納富信留 氏，種村和史 氏，佐藤望 氏
ディスカッサント：黒田昌裕 氏
（慶應義塾前学務担当理事）
西村太良 氏
（慶應義塾学務担当理事）

５）2005年7月23日(土)10:00～24日(日)12:30
第２回勉強会＋研究会（合宿）
（セミナーハウス　クロス・ウェーブ東中野）
・講演　出口雅久 氏（立命館大学法学部教授）
「大学カリキュラムにおける国際教育
―専門教育と語学教育の融合の問題」
・講演　大西直樹 氏（国際基督教大学教授）
「大学カリキュラムにおける履修登録制度と GPA 制度
―大学教育の質を確保するための戦略」
・全体討議研究の進め方について
・グループ分けとグループ・ディスカッション
（プレーン・ストーミング）

６）2005 年 7 月 24 日（日）12:30 ～ 13:30
幹事会
・今後のスケジュールについて

７）2005 年 10 月 4 日（火) 18:00 ～ 20:30
幹事会（来往舎応接会議室）
・グループの研究活動報告
・今後の活動予定について

８）2005 年 10 月 15 日（土）10:00 ～ 17:30
勉強会＋研究会（来往舎 101/102）
・グループ活動報告
・グループ・ワーク
・講演　米澤彰純 氏
（大学評価・学位授与機構　評価研究部助教授）
「大学評価と質保証政策の国際的動向」
・講演　高橋義人 氏
（京都大学大学院・人間・環境学研究科　教授）
「国立大学改革と今後の大学教育
～京都大学を例として」

9）2005 年 11 月 15 日（火）18:15 ～ 20:45
研究会（来往舎 101/102）
・講演　境一三 氏
（慶應義塾大学外国語研究センター　副所長）
「慶應義塾大学における外国語教育の現状と改革の展望について」

10）2005 年 12 月 3 日（土）10:00 ～ 17:00
研究会（来往舎 103/104）
・報告「能力別クラス編成とプレイスメント・テストについて」（坂本光幹事）
・講演　小宮英敏 氏（慶應義塾大学商学部・教授）
「商学部における数学のクラス編成について」
・講演　小尾晋之介 氏
（慶應義塾大学国際センター所長）
「慶應義塾における国際連携プログラムの展開シナリオ」
・ディスカッション／グループ作業

11）2006 年 1 月 21 日（土）13:00 ～ 17:00
研究会（来往舎 101/102）
・報告「アメリカのリベラル・アーツ教育カリキュラムについて」（石井明幹事）
・学生アンケート調査内容検討

12）2006 年 2 月 2 日（木）13:30 ～ 17:00
研究会（来往舎 101/102）
・報告「成績評価方法に関する検討：履修案内・講義要綱記載内容からの現状分析」（村山光義幹事）
・報告「商学部の強化プログラムについて」（種村和史 氏）
・報告「日吉設置学部共通総合教育科目の調整に向けて」（萩原眞一幹事）

13）2006 年 2 月 9 日（木）9:30 ～ 15:00
調査（来往舎 103/104）
・学生アンケート 予備ヒヤリング
（来年度実施予定の大学カリキュラムに関するアンケート調査を学生 10 名に答えてもらい、各設問に関して検討を行った。）

2006 年度

14）2006 年 4 月 3 日（月）
幹事会（来往舎　101/102）
・役割分担、2006 年度研究計画、研究スケジュールについて

15）2006 年 5 月 11 日（木）18:15 ～ 20:30
研究会
・最終報告書内容の検討
・役割分担について
・2006 年度研究計画、研究スケジュールについて

16）2006 年 6 月 10 日（木）14:00 ～ 18:00
研究会
・外国語の成績評価に関するアンケート調査について（担当：村山光義幹事）
・学部カリキュラムの比較分析について（担当：萩原眞一幹事）
・授業目標・シラバス、履修登録、セメスター制度（担当：佐藤望幹事）

17）2006年7月22日(土)10:00 ～ 翌23日(日)12:00
勉強会＋研究会（合宿）
（セミナーハウス クロス・ウェーブ、東中野）
・報告書に盛り込む内容の検討
・外国語科目の実現可能な提言について（担当：坂本光幹事）
・アメリカ調査・カリキュラム提言について（担当：石井明幹事）
・講演　表 實 氏（慶應義塾大学商学部・教授）
「慶應義塾大学自然科学教育の現状と将来
～特色ＧＰプログラムの経過と調査成果を含めて」

18）2006 年 10 月 5 日（木）18:15 ～ 20:00
研究会（来往舎 101/102）
・報告書アウトライン、ドラフトの検討

19）2006 年 11 月 9 日（木）18:15 ～ 20:00
研究会（来往舎 101/102）
・報告書ドラフトの検討

20）2006 年 12 月 16 日（土）10:00 ～ 16:00
研究会（来往舎 101/102）
・報告書ドラフトの検討

21）2007 年 1 月 12 日（金）18:15 ～ 21:00
幹事会（来往舎　応接会議室）
・報告書最終原稿集約、編集作業

22）2007 年 1 月 23 日（火）18:15 ～ 21:40
幹事会（来往舎　応接会議室）
・報告書最終原稿集約、編集作業

2．メンバー

氏名	学部	分野	担当
大場　茂	文学部	化学	
倉田　敬子	文学部	図書館･情報学	
坂本　光	文学部	英語	幹事
納富　信留	文学部	哲学	2005 年度まで
石井　明	経済学部	英語	幹事
伊藤　行雄	経済学部	独語	座長
林田　愛	経済学部	仏語	2006 年度から
岩谷　十郎	法学部	法制史	
大久保教宏	法学部	スペイン語	
木俣　章	法学部	仏語	
小屋　逸樹	法学部	英語	
鈴木　透	法学部	英語	
種村　和史	商学部	中国語	
佐藤　望	商学部	音楽	幹事・教養研究センター副所長
小町谷尚子	医学部	英語	2005 年度まで
鈴木　由紀	医学部	数学	2006 年度から
金田一真澄	理工学部	露語	座長代理
萩原　眞一	理工学部	英語	幹事・教育研究センター副所長
太田　達也	総合政策学部	独語	
村山　光義	体育研究所	体育	幹事
倉舘　健一	外国語教育研究センター	仏語	
小磯　勝人	出版会		
横山　千晶	法学部	英語	教養研究センター所長
近藤　明彦	体育研究所	体育	教養研究センター副所長
岩波　敦子	理工学部	独語	教養研究センター副所長
田上　竜也	商学部	仏語	教養研究センター副所長 (2005年度まで)
中島　陽子	文学部	生物学	教養研究センター副所長 (2006年9月から)

慶應義塾大学教養研究センター基盤研究報告書

慶應義塾大学の教育カリキュラム研究──改革への処方箋──

2007年3月30日発行
編集・発行　慶應義塾大学教養研究センター
代表者　横山千晶

〒223－8521　横浜市港北区日吉4－1－1
TEL　045－563－1111（代表）
Email　lib－arts@ml.hc.keio.ac.jp
http://www.hc.keio.ac.jp/lib－arts/

©2007 Keio Research Center for the Liberal Arts
著作権者の許可なしに複製・転載を禁じます。